

第4章 調査結果の分析

第4章 調査結果の分析

1 住み心地と生活の満足度

(1) 居住年数

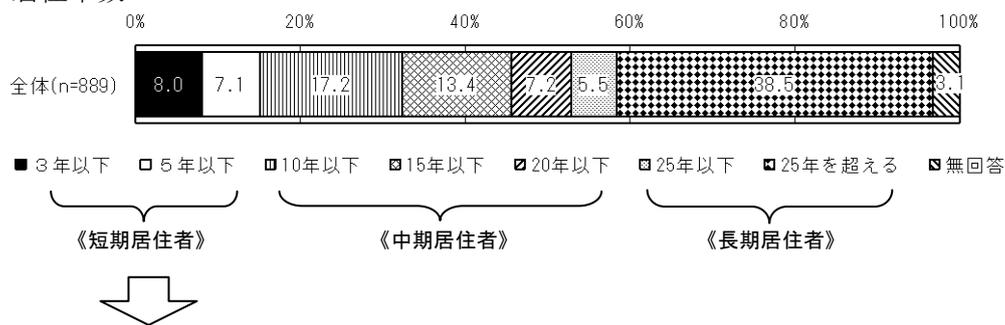
居住年数が20年を超える《長期居住者》が4割半ばを占めている。

《短期居住者》の前住地で最も高いのは「23区以外の都内」で約4割。

問1. 府中市に住んで何年くらいになりますか。次の中から1つだけ選んでください。

(n=889)

図1-1 居住年数



(問1で「1」か「2」をお答えの方に)

問1-1. 府中市に住む前はどちらに住んでいましたか。次の中から1つだけ選んでください。(n=134)

図1-2 前住地

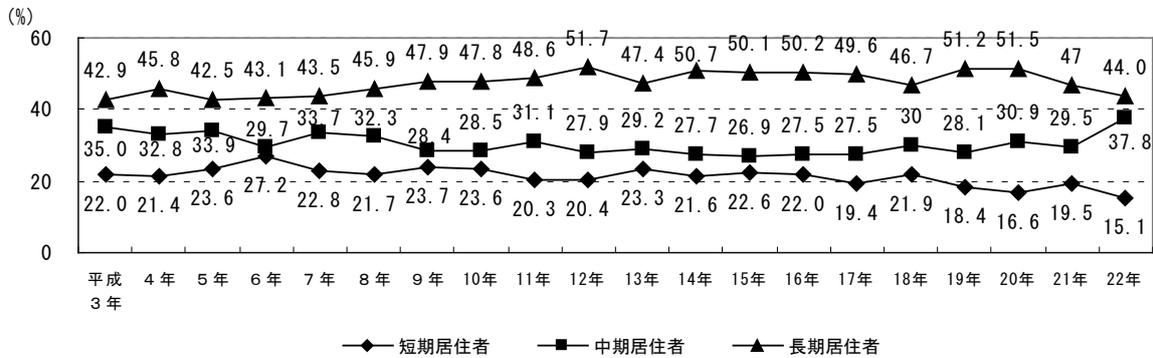


居住年数は「25年を超える」(38.5%)、「10年以下」(17.2%)の順に高くなっている。「3年以下」及び「5年以下」を《短期居住者》、「10年以下」「15年以下」及び「20年以下」を《中期居住者》、「25年以下」及び「25年を超える」を《長期居住者》とすると、《長期居住者》が4割半ばを占め最も高くなっている。〔図1-1〕

《短期居住者》の前住地は、「23区以外の都内」(38.1%)、次いで「神奈川・千葉・埼玉」(27.6%)が高くなっている。この上位2項目を前年度の結果と比較すると、順序は同じであり「23区以外の都内」は減少、「神奈川・千葉・埼玉」は大きく増加している。〔図1-2〕

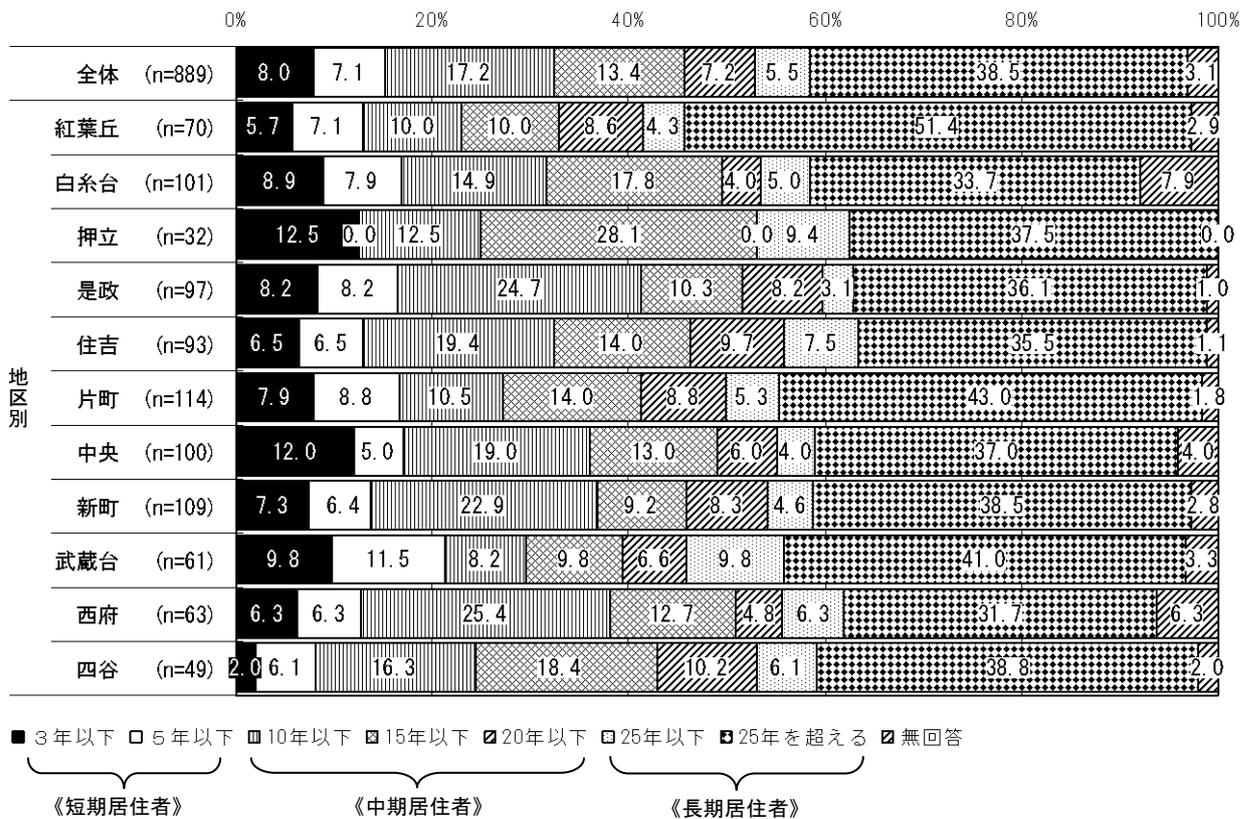
前年度の結果と比較すると、《長期居住者》と《短期居住者》が減少、《中期居住者》が増加と
なっている。長期的な傾向を見ると、《長期居住者》、《中期居住者》はやや増加しているのに対
して、《短期居住者》は減少している。〔図 1-3〕

図 1-3 居住年数／年度別



地区別でみると、《長期居住者》は「紅葉丘」が最も高く、次いで「武蔵台」「片町」の順とな
っている。《短期居住者》は「武蔵台」「中央」の順で高く、《中期居住者》は「四谷」が最も高
くなっている。(図 1-4)

図 1-4 居住年数／地区別

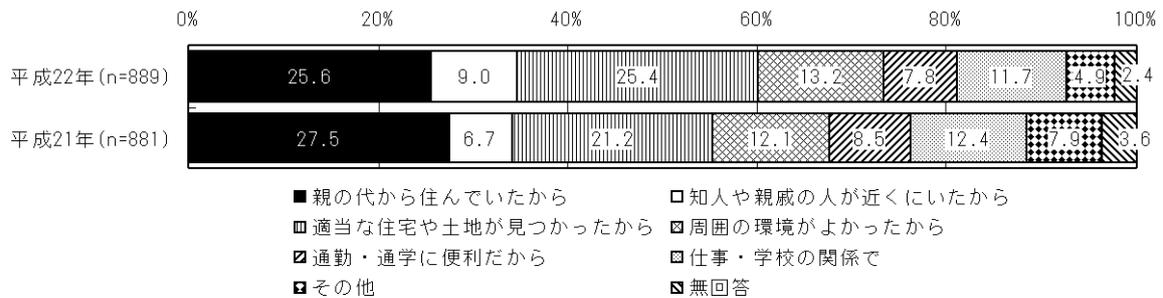


(2) 府中市に住んでいる理由

「親の代から住んでいたから」、「適当な住宅や土地が見つかったから」が順に高くなっている。

問2. 府中市にお住まいになっている最も大きな理由は何でしょうか。次の中から1つだけ選んでください。(n=889)

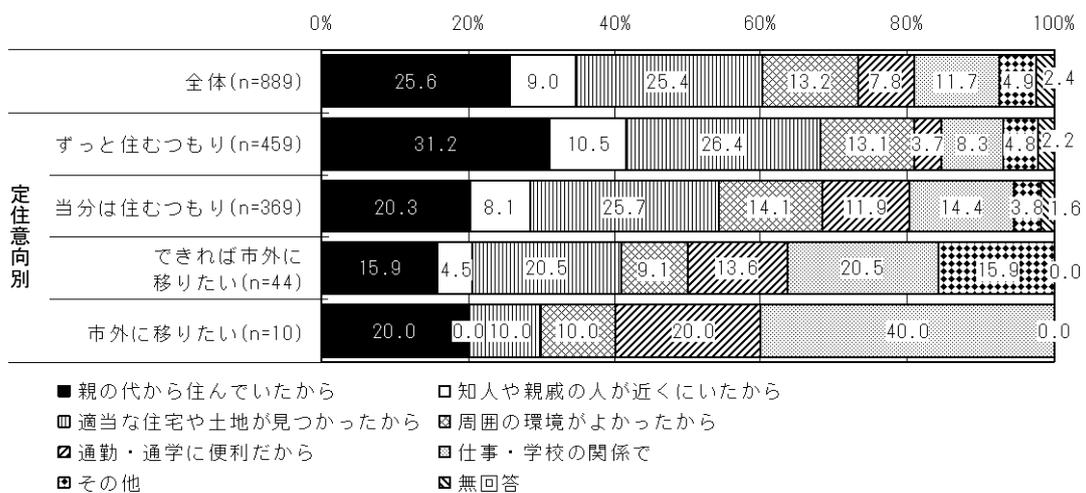
図 1-5 府中市に住んでいる理由／年度別



府中市に住んでいる理由としては、「親の代から住んでいたから」(25.6%)、「適当な住宅や土地が見つかったから」(25.4%)の順に高くなっている。前年度の結果と比較すると、上位2項目までの順位が同じとなっている。また、「適当な住宅や土地が見つかったから」「知人や親戚の人が近くにいたから」「周囲の環境がよかったから」が増加し、「親の代から住んでいたから」「通勤・通学に便利だから」「仕事・学校の関係で」が減少している。〔図 1-5〕

『問6 定住意向』の回答別でみると、「全体」と同様に、「ずっと住むつもり」では「親の代から住んでいたから」「適当な住宅や土地が見つかったから」の順に高くなっている。「当分は住むつもり」「できれば市外に移りたい」では「適当な住宅や土地が見つかったから」が最も高くなっている。なお、母数が少ない「市外に移りたい」は参考値とする。〔図 1-6〕

図 1-6 府中市に住んでいる理由／定住意向別

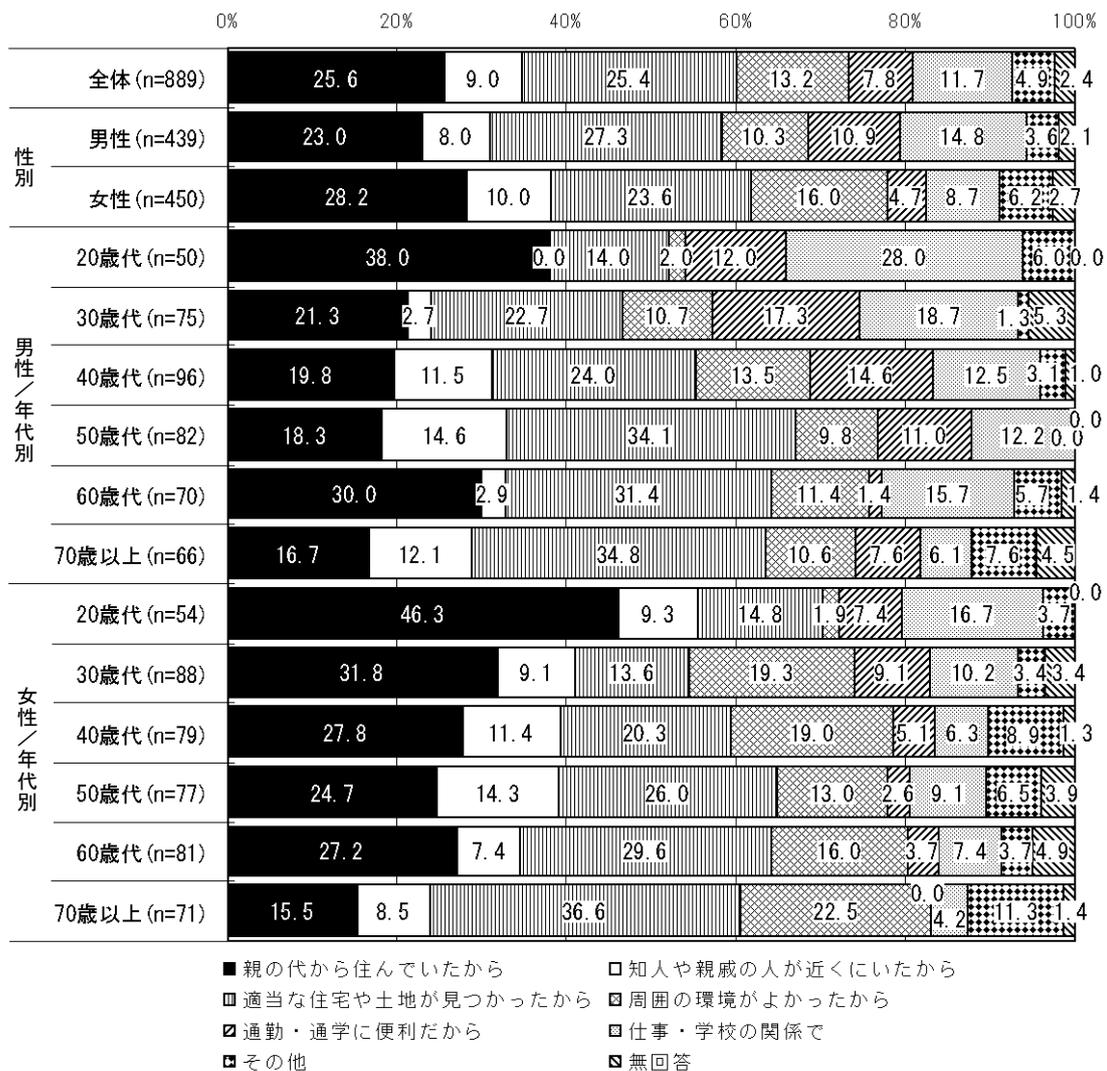


性別でみると、「男性」では「適当な住宅や土地が見つかったから」「親の代から住んでいたから」の順に高くなっており、「女性」では「親の代から住んでいたから」「適当な住宅や土地が見つかったから」の順に高くなっている。3番目に高い項目をみると、「男性」は「仕事・学校の関係で」であるのに対して、「女性」は「周囲の環境がよかったから」となっている。

年代別でみると、「男性」の「20歳代」、「女性」の「20歳代」から「40歳代」では「親の代から住んでいたから」が最も高いのに対して、「男性」の「30歳代」から「70歳以上」、「女性」の「50歳代」から「70歳以上」では「適当な住宅や土地が見つかったから」が最も高くなっている。

また、「周囲の環境がよかったから」は「女性」の「30歳代」と「70歳以上」において2番目に高くなっている。「仕事・学校の関係で」は「男性」の「20歳代」、「女性」の「20歳代」で2番目に高くなっている。「通勤・通学に便利だから」は「男性」の「40歳代」で3番目に高くなっている。〔図1-7〕

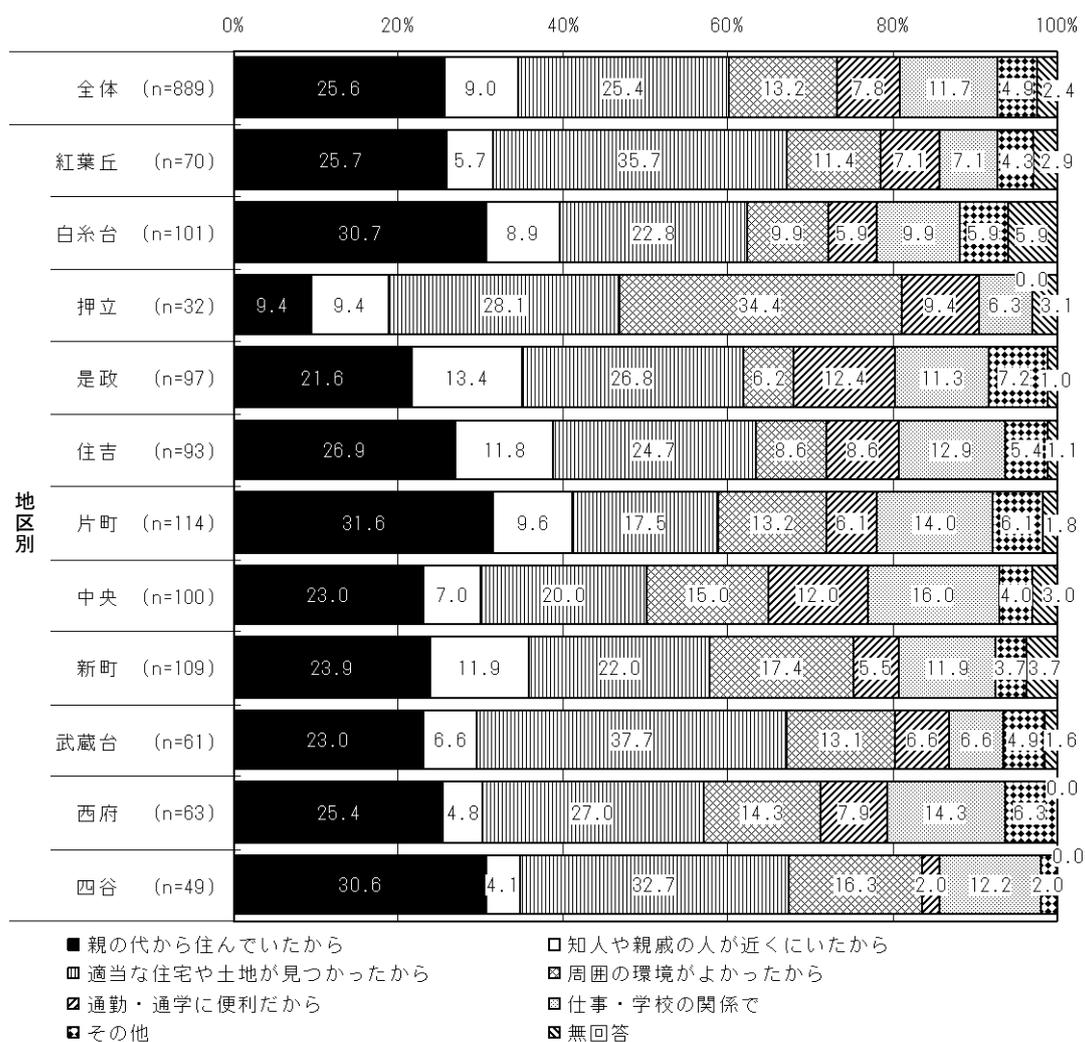
図1-7 府中市に住んでいる理由／性・年代別



地区別でみると、「全体」と同様に「親の代から住んでいたから」が最も高い地区は「白糸台」「住吉」「片町」「中央」「新町」で、半数近くを占めているが、「紅葉丘」「是政」「武蔵台」「西府」「四谷」では「適当な住宅や土地が見つかったから」が最も高くなっている。

「周囲の環境がよかったから」は「押立」で最も高くなっている。〔図 1-8〕

図 1-8 府中市に住んでいる理由／地区別

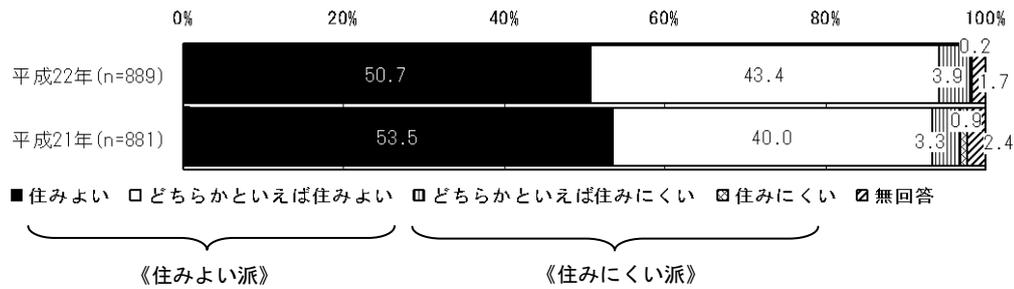


(3) 府中市の住み心地

《住みよい派》は9割半ばを占め、圧倒的多数。

問3. 府中市は住みよいところだとお感じになりますか。それとも住みにくいところだとお感じになりますか。次の中から1つだけ選んでください。(n=889)

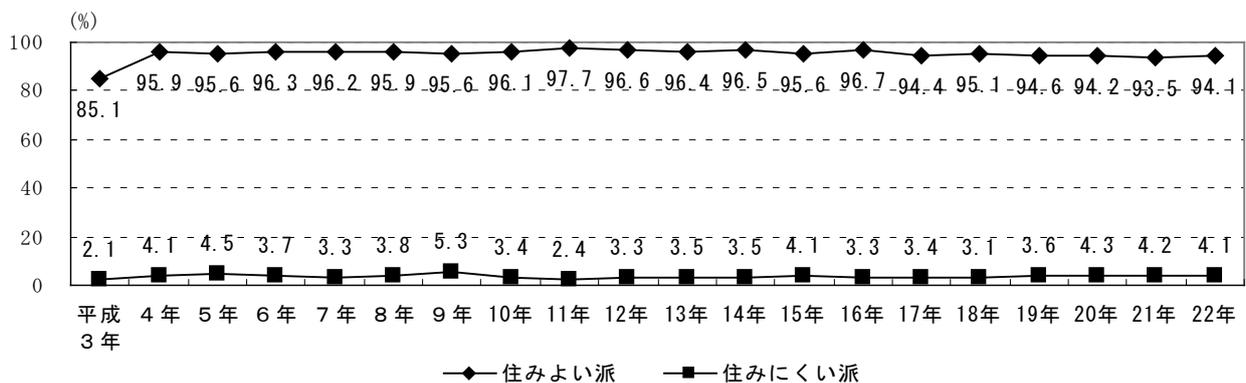
図 1-9 府中市の住み心地



住み心地は「住みよい」(50.7%)、「どちらかといえば住みよい」(43.4%)の順に高く、これらをあわせた《住みよい派》は9割を超える。これに対して「住みにくい」(0.2%)、「どちらかといえば住みにくい」(3.9%)をあわせた《住みにくい派》は1割にも満たない。〔図 1-9〕

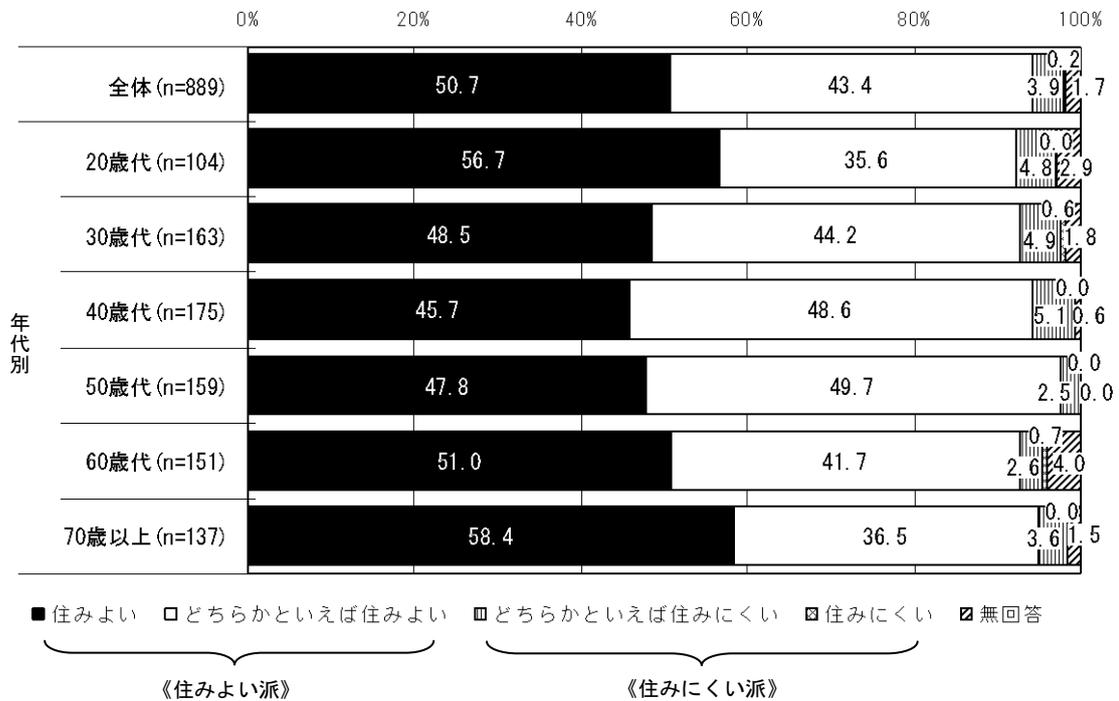
前年度と比較すると、《住みよい派》《住みにくい派》ともにほぼ横ばいとなっている。《住みよい派》は平成4年度以降9割台を維持している。〔図 1-10〕

図 1-10 府中市の住み心地／年度別



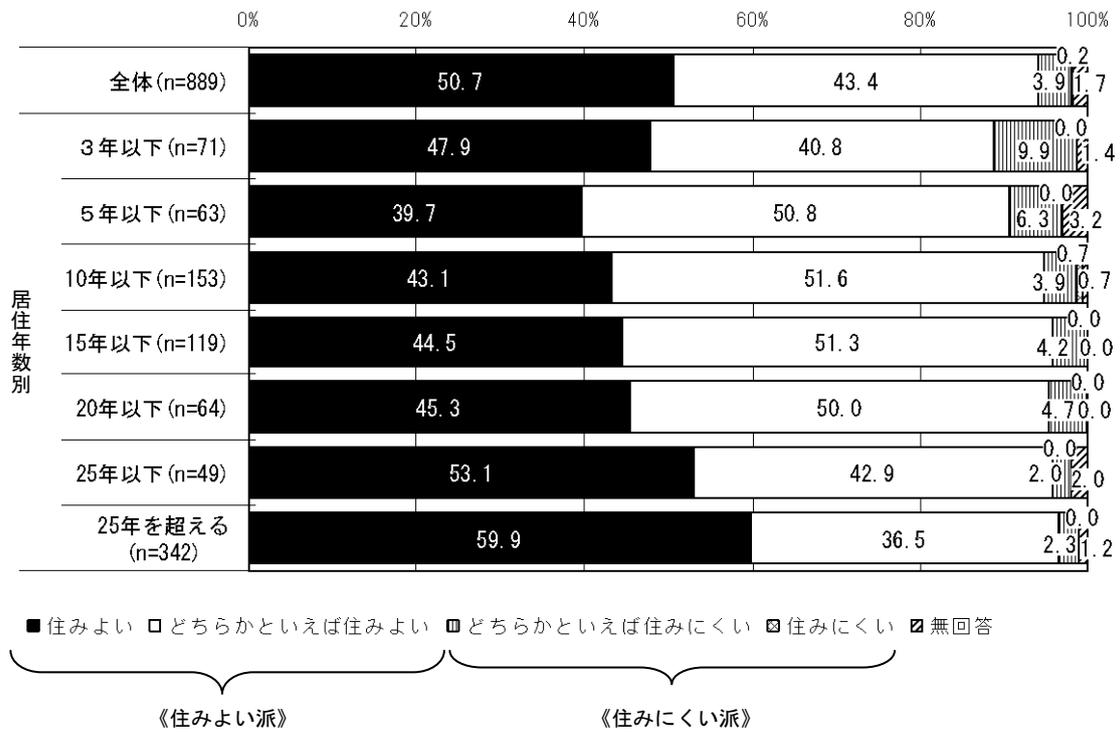
年代別でみると、すべての年代で《住みよい派》が9割を超えている。中でも「住みよい」の割合が高いのは「20歳代」と「70歳以上」である。〔図 1-11〕

図 1-11 府中市の住み心地／年代別



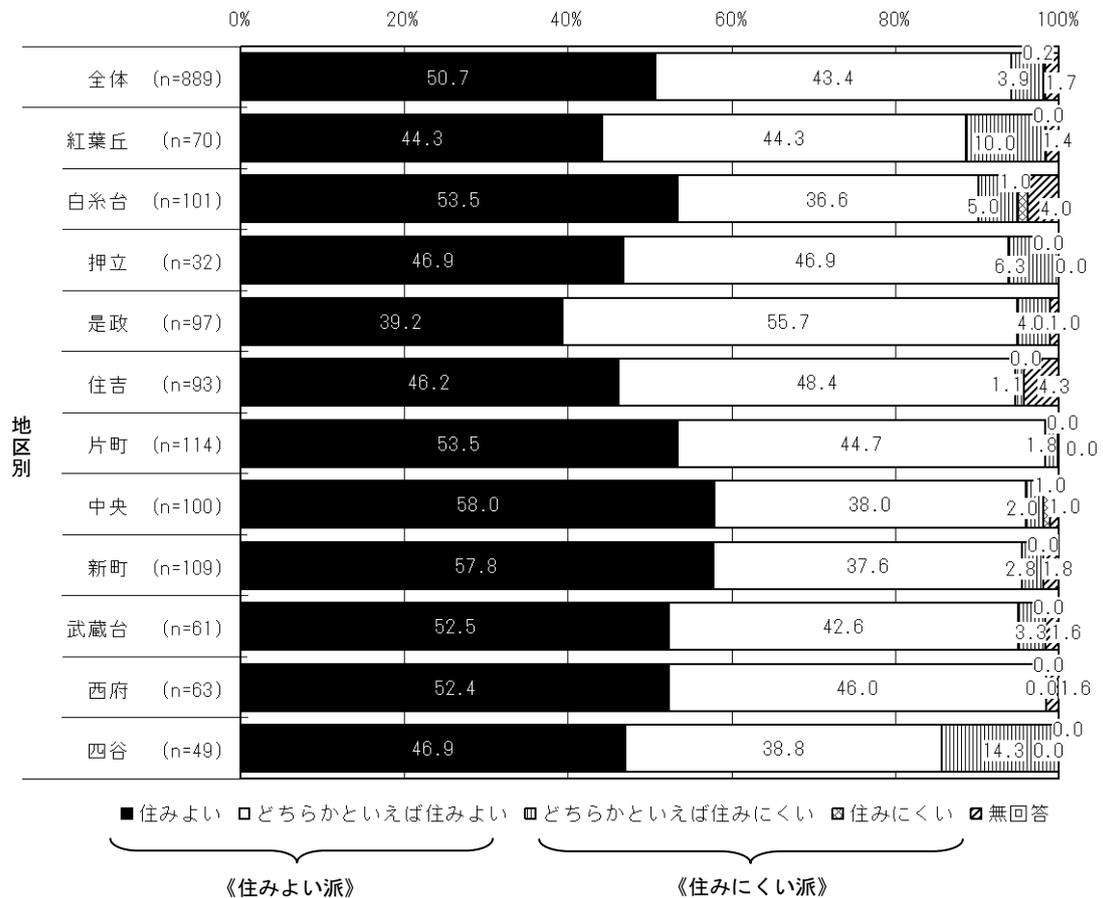
居住年数別でみると、「3年以下」以外のすべての居住年数で《住みよい派》が9割を超えている。「25年を超える」「25年以下」の順に「住みよい」が最も高くなっており、いずれも5割を超えている。〔図 1-12〕

図 1-12 府中市の住み心地／居住年数別



地区別でみると、「紅葉丘」「四谷」を除く地区で《住みよい派》が9割を超えている。「住みよい」の割合でみると、「紅葉丘」「押立」「是政」「住吉」「四谷」を除くすべての地区で5割を超えており、最も高いのは「中央」で6割近くを占めている。《住みにくい派》の割合は「四谷」「紅葉丘」「押立」の順に高くなっている。〔図 1-13〕

図 1-13 府中市の住み心地／地区別

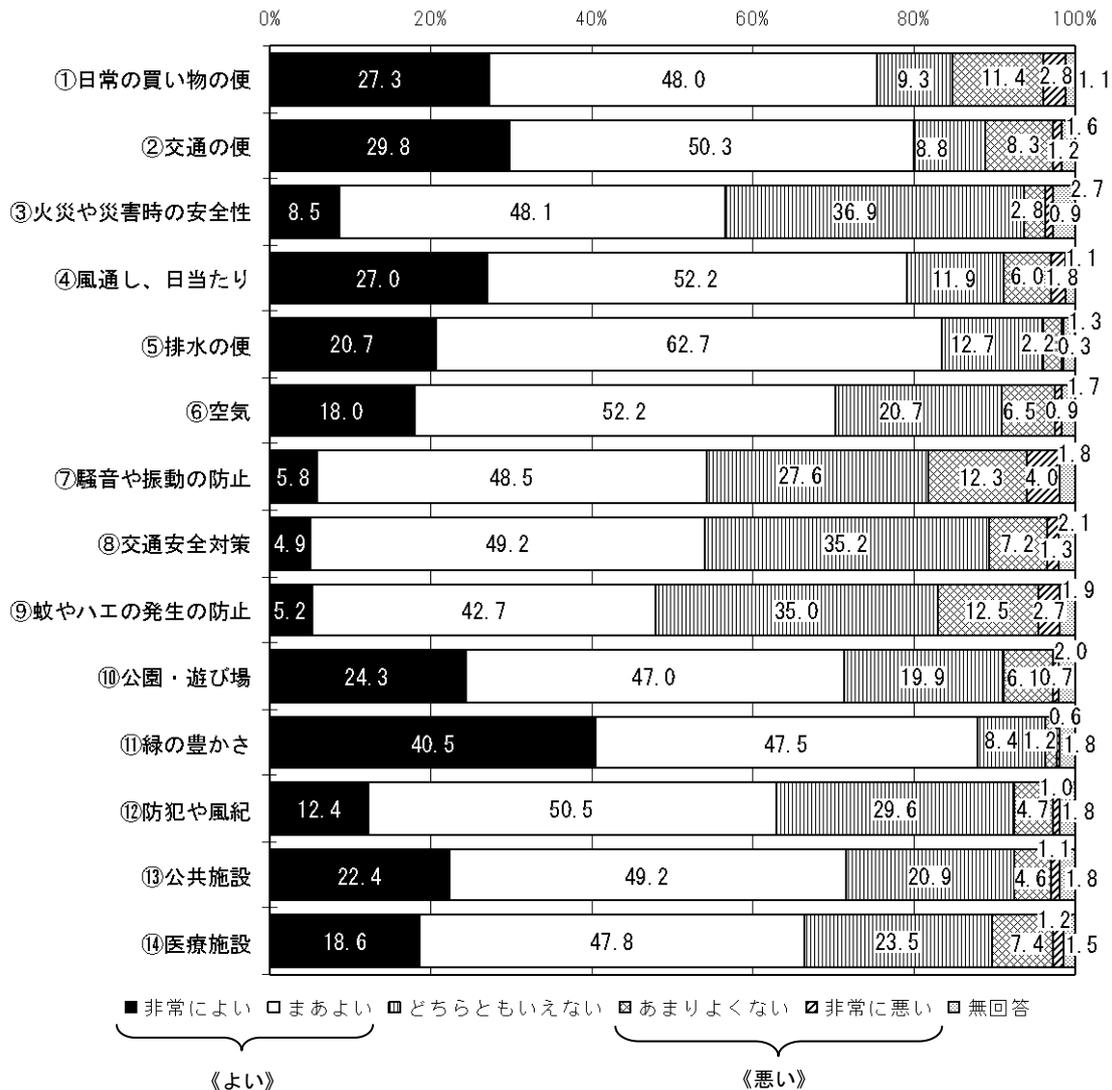


(4) 住まいの環境

《よい》は「緑の豊かさ」、《悪い》は「騒音や振動の防止」で割合が最も高くなっている。

問4. 身近なお住まい環境についておうかがいします。これから読みあげることがらについて、あなたの率直な感想をお聞かせください。次にあげる各項目について、それぞれ1つだけ選んでください。(n=889)

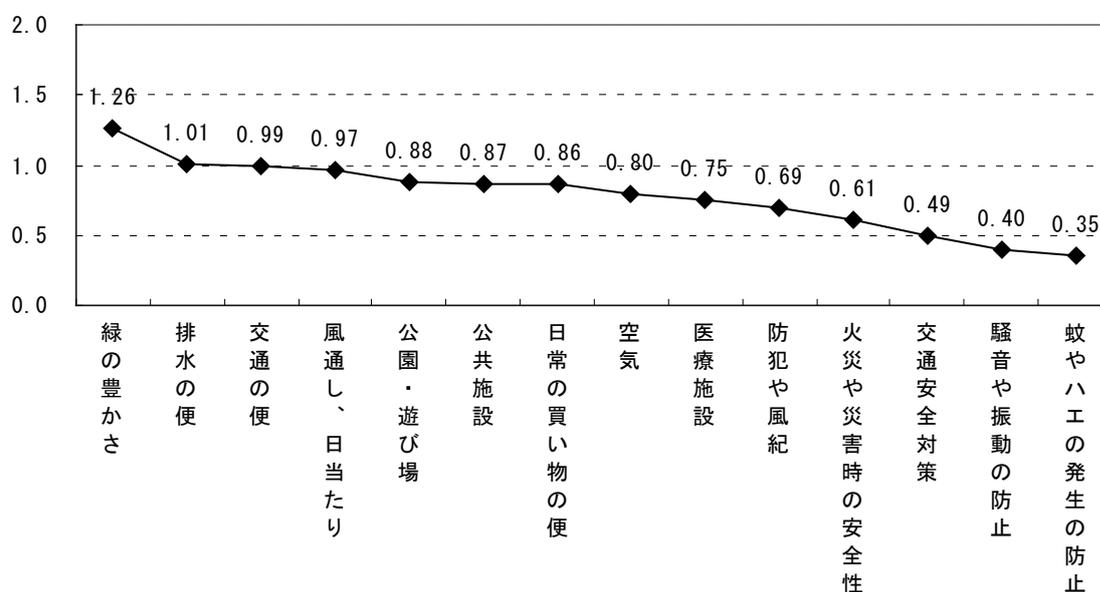
図 1-14 住まいの環境



住まいの環境に関する評価をみると、「非常によい」は「緑の豊かさ」(40.5%)「交通の便」(29.8%)の順に高くなっている。一方、「非常に悪い」は「騒音や振動の防止」(4.0%)「日常の買い物の便」(2.8%)の順に高くなっている。「非常によい」及び「まあよい」をあわせた《よい》と、「非常に悪い」及び「あまりよくない」をあわせた《悪い》でみると、それぞれ割合が最も高いのは《よい》が「緑の豊かさ」(88.0%)、《悪い》が「騒音や振動の防止」(16.3%)となっている。〔図 1-14〕

加重平均値※による評価点を算出しその平均でみると、最も高いのは「緑の豊かさ」であり、次いで「排水の便」が高くなっている。逆に低いのは順に「蚊やハエの発生の防止」、「騒音や振動の防止」、「交通安全対策」となっている。〔図 1-15〕

図 1-15 住まいの環境／平均評価



※加重平均値による数量化

下式にあるように、評価にそれぞれ点数を与え、評価点を算出する方法。

算出方法

$$\text{評価点} = \frac{\begin{aligned} & \text{「非常によい」の回答数} \times 2 \text{点} \\ & + \text{「まあよい」の回答数} \times 1 \text{点} \\ & + \text{「あまりよくない」の回答数} \times \blacktriangle 1 \text{点} \\ & + \text{「非常に悪い」の回答数} \times \blacktriangle 2 \text{点} \end{aligned}}{\text{回答者数}}$$

この算出方法では、評価点は+2.00点～▲2.00点の間に分布し、中間点の0.00点を境に、+2.00点に近いほど評価は高く、逆に▲2.00点に近いほど評価は低いことになる。

各項目の地区別の平均評価点は下表のようになっている。〔表 1-1、図 1-16〕

表 1-1 住まいの環境／地区別平均評価

項目	市平均	最高	最低
日常の買い物の便	0.86	片町(1.30)	紅葉丘(-0.09)
交通の便	0.99	片町(1.36)	紅葉丘(0.31)
火災や災害時の安全性	0.61	中央(0.77)	西府(0.52)
風通し、日当たり	0.97	四谷(1.18)	武蔵台(0.72)
排水の便	1.01	新町(1.14)	住吉(0.91)
空気	0.80	四谷(1.41)	中央(0.56) 西府(0.56)
騒音や振動の防止	0.40	四谷(0.73)	押立(0.03)
交通安全対策	0.49	片町(0.68)	紅葉丘(0.30)
蚊やハエの発生の防止	0.35	四谷(0.61)	紅葉丘(0.10)
公園・遊び場	0.88	是政(1.08)	四谷(0.67)
緑の豊かさ	1.26	四谷(1.43)	武蔵台(1.03)
防犯や風紀	0.69	四谷(0.98)	紅葉丘(0.43)
公共施設	0.87	中央(1.12)	四谷(0.55)
医療施設	0.75	武蔵台(1.02)	紅葉丘(0.31)

図 1-16① 住まいの環境／地区別平均評価

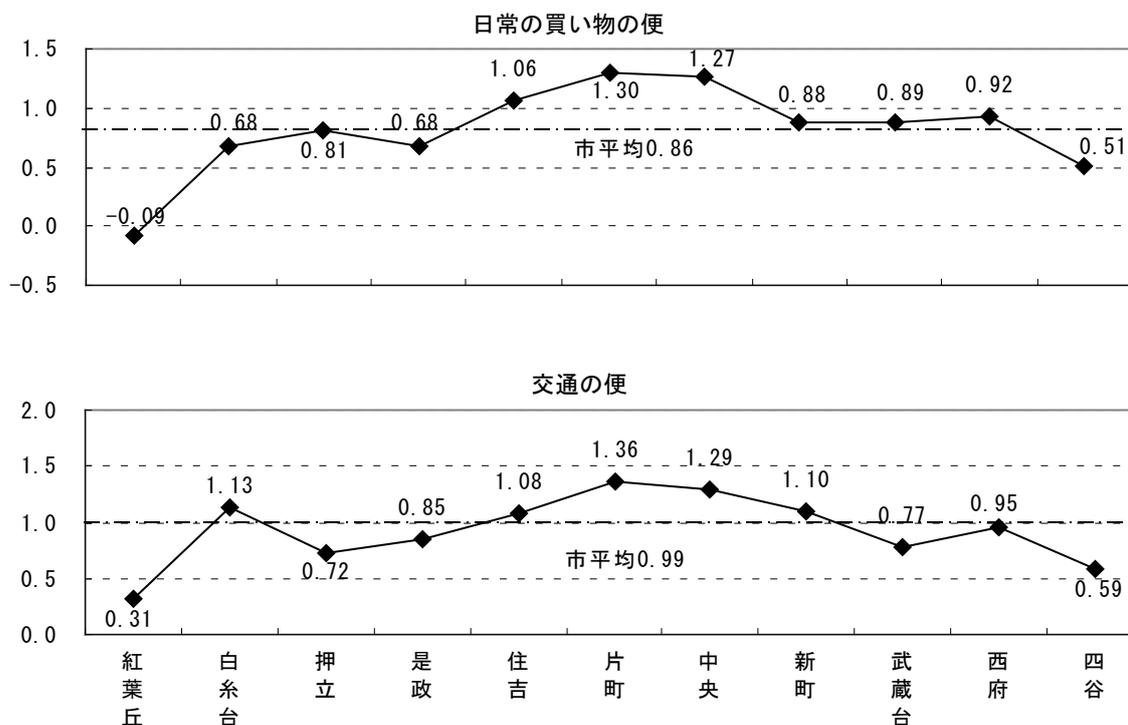


図 1-16② 住まいの環境／地区別平均評価

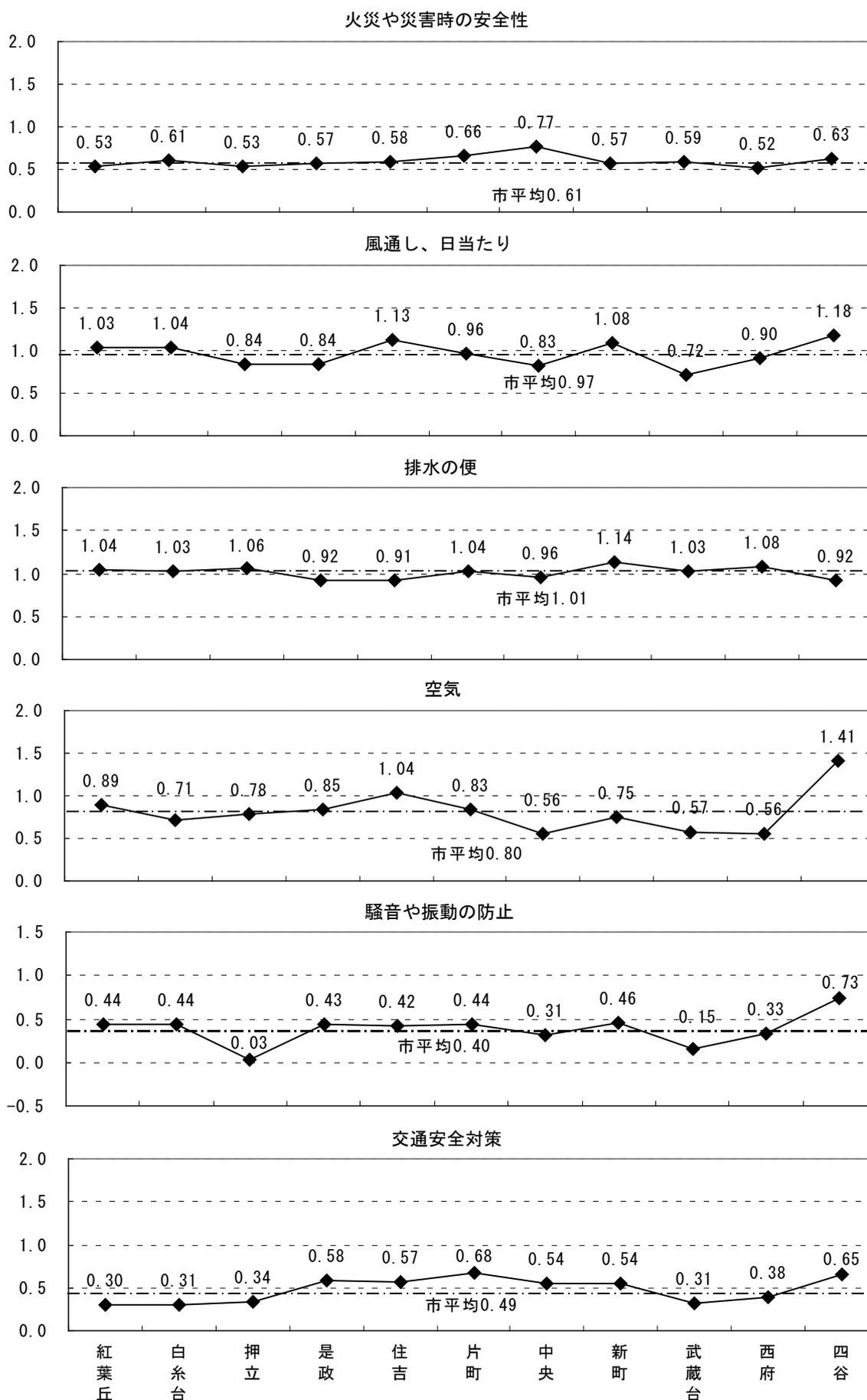
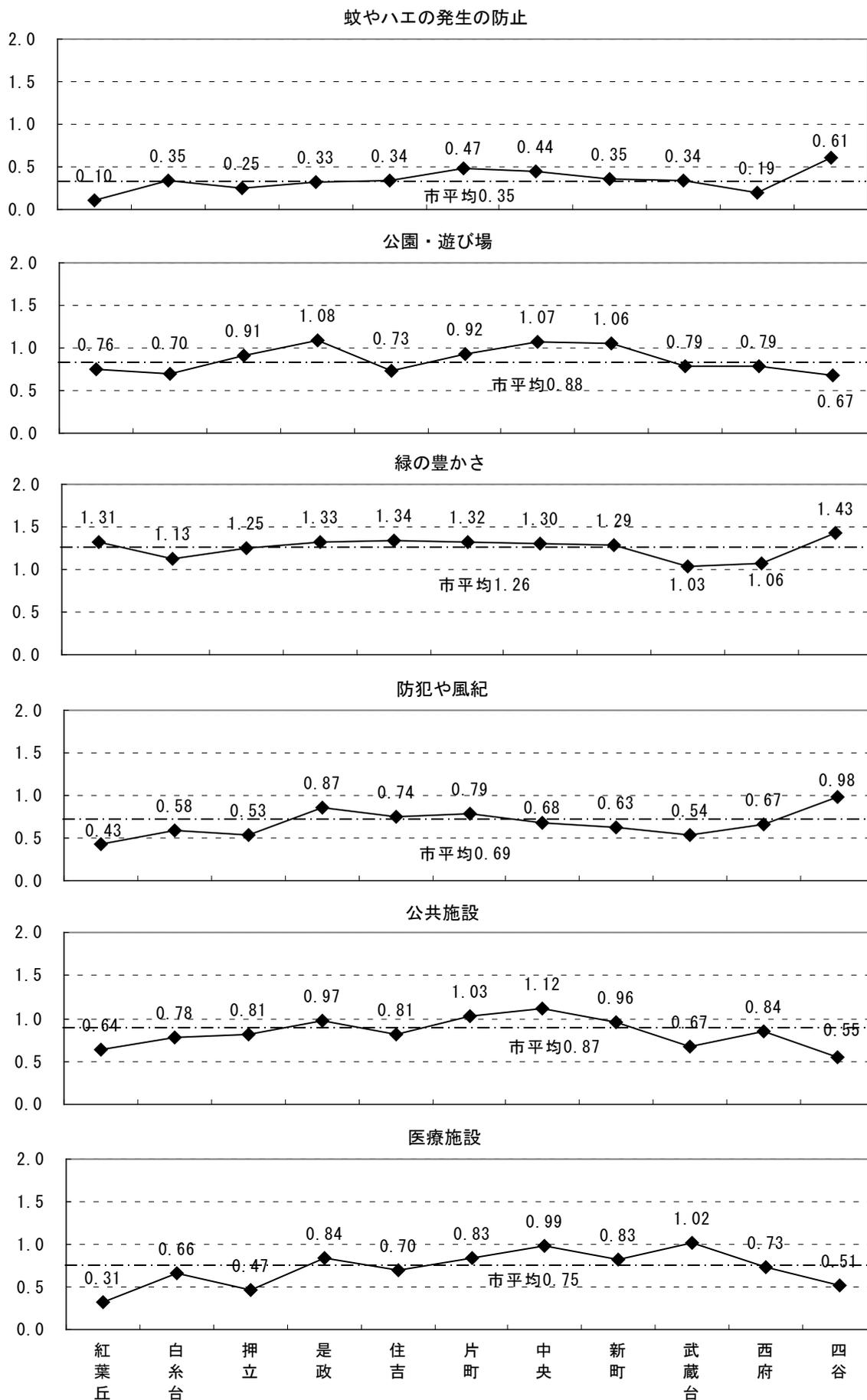


図 1-16③ 住まいの環境／地区別平均評価

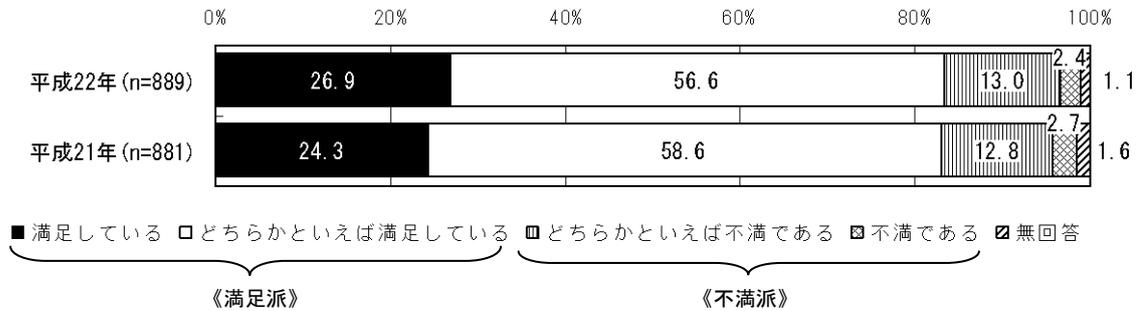


(5) 生活の満足度

《満足派》が8割半ばを占め、前年度よりやや増加している。

問5. 現在の生活にどの程度満足していらっしゃいますか。次の中から1つだけ選んでください。
(n=889)

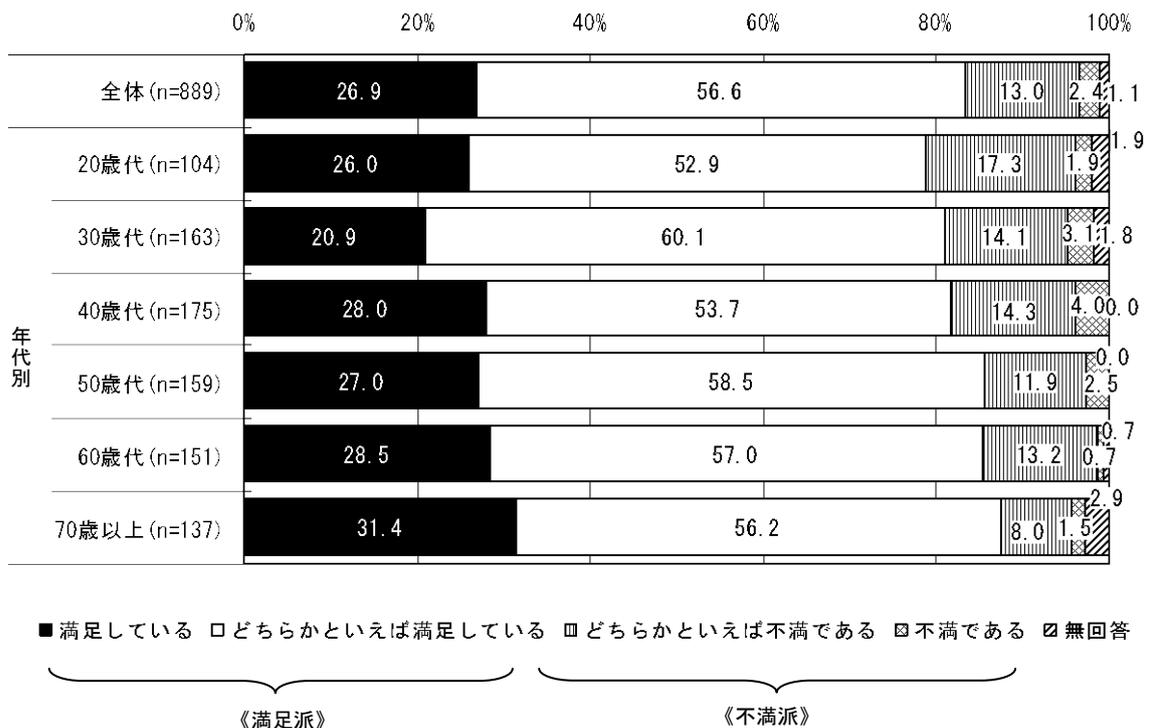
図 1-17 生活の満足度



生活の満足度では、「どちらかといえば満足している」(56.6%)、「満足している」(26.9%)の順に高く、これらをあわせた《満足派》は8割半ばを占めている。一方、「不満である」(2.4%)「どちらかといえば不満である」(13.0%)をあわせた《不満派》は前年度より減少している。〔図 1-17〕

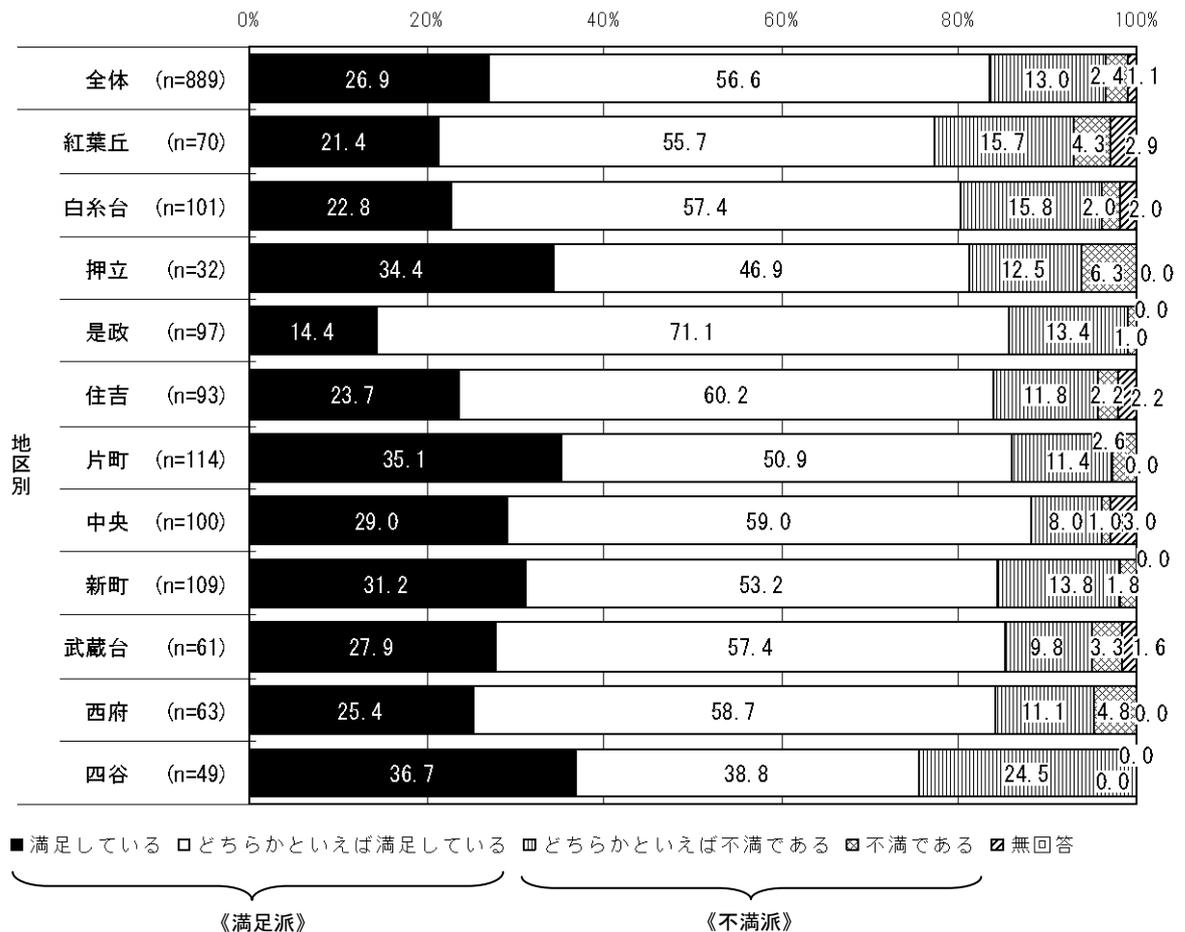
年代別でみると、《満足派》が最も高いのは「70歳以上」、《不満派》が最も高いのは「20歳代」である。〔図 1-18〕

図 1-18 生活の満足度／年代別



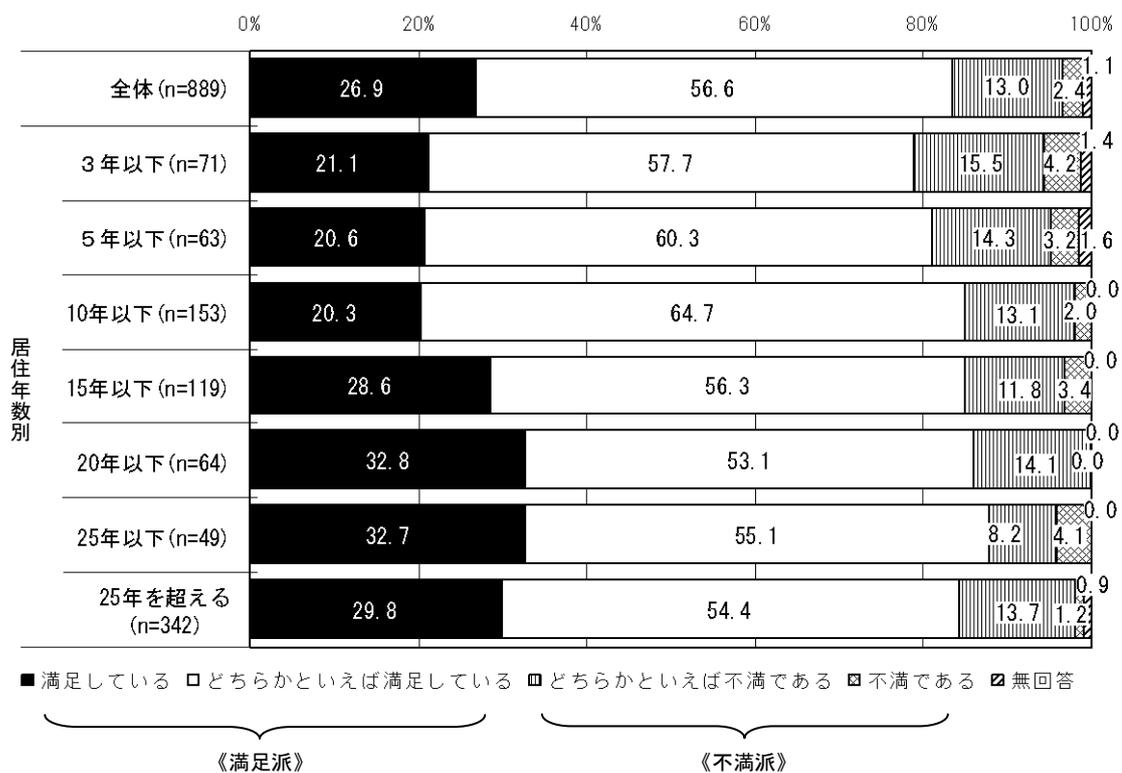
地区別では、《満足派》は「紅葉丘」「四谷」を除く地区で8割を超えており、最も高い割合を占めているのは「中央」となっている。「満足している」が最も高いのは「四谷」となっている。一方「不満である」の割合が最も高いのは「押立」となっており、《不満派》でみると「四谷」が最も高くなっている。〔図 1-19〕

図 1-19 生活の満足度／地区別



居住年数別でみると、「満足派」は「3年以下」を除くすべての項目で8割を超えており、「25年以下」で最も高くなっている。「満足している」は「20年以下」で最も高く、「25年以下」が2番目に高くなっている。「不満である」は「3年以下」で最も高くなっており、「不満派」で見ても「3年以下」が最も高くなっている。〔図 1-20〕

図 1-20 生活の満足度／居住年数別

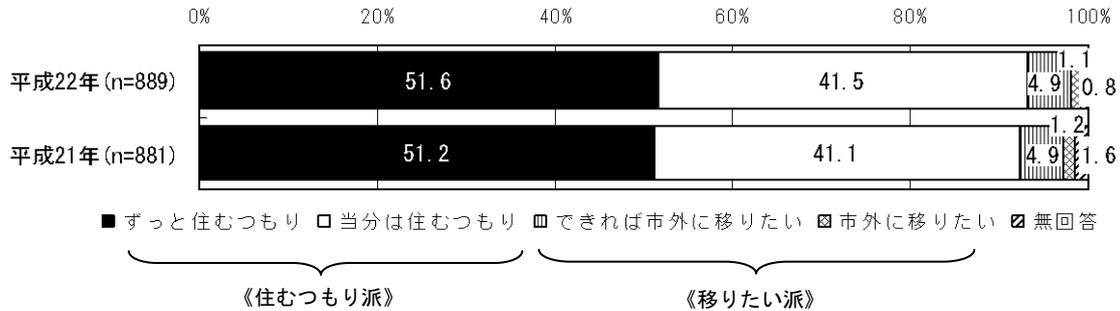


(6) 定住意向

5割を超える「ずっと住むつもり」を含めた《住むつもり派》が9割半ばを占めている。

問6. 今後も府中市に住み続けたいと思っていますか。それともそうは思っていませんか。次の中から1つだけ選んでください。(n=889)

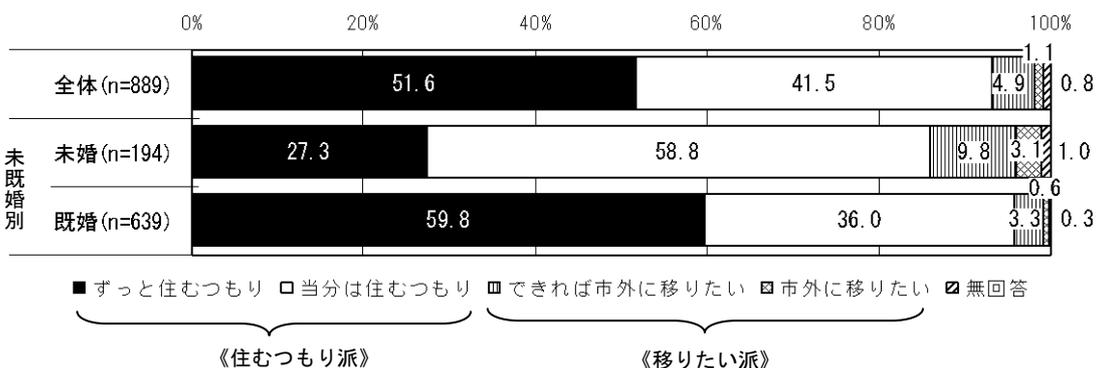
図 1-21 定住意向



定住意向は、「ずっと住むつもり」(51.6%)、「当分は住むつもり」(41.5%)の順に高く、これらをあわせた《住むつもり派》が9割以上を占めている。これに対して「市外に移りたい」(1.1%)、「できれば市外に移りたい」(4.9%)からなる《移りたい派》は1割未満となっており、前年度と比較すると若干減少している。[図 1-21]

未既婚別でみると、「既婚」では全体と同様に「ずっと住むつもり」が最も高くなっているのに対して、「未婚」では「当分は住むつもり」が最も高く、「ずっと住むつもり」は3割程度となっている。[図 1-22]

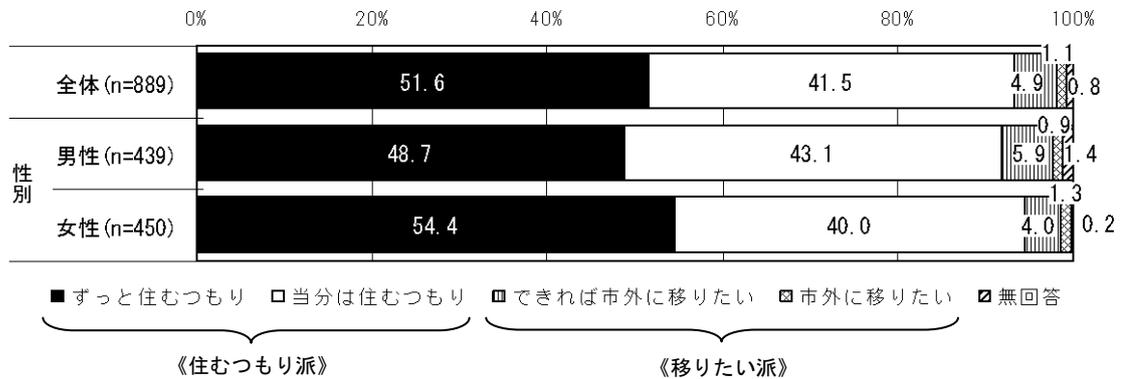
図 1-22 定住意向／未既婚別



性別でみると、「ずっと住むつもり」は「女性」が「男性」より高く、5割半ばを占めている。

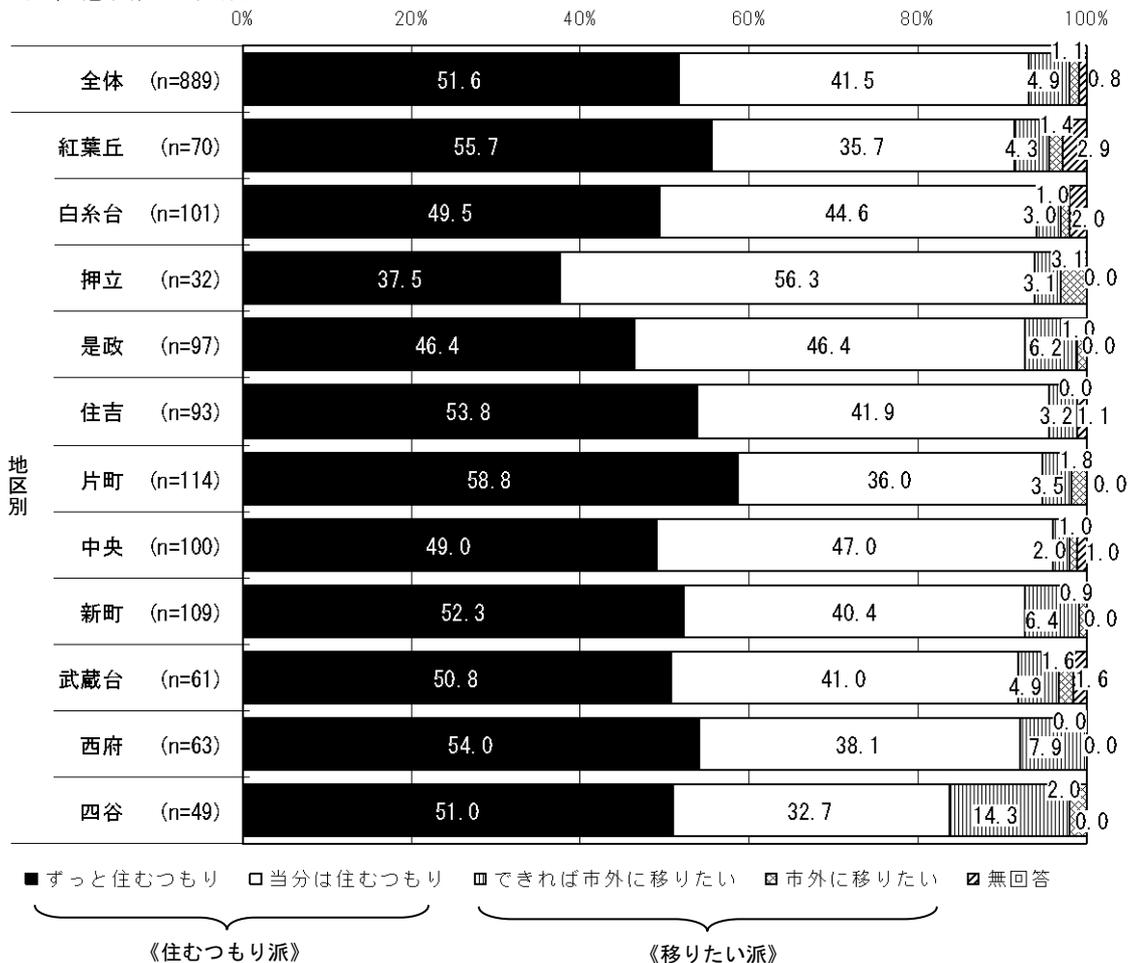
[図 1-23]

図 1-23 定住意向／性別



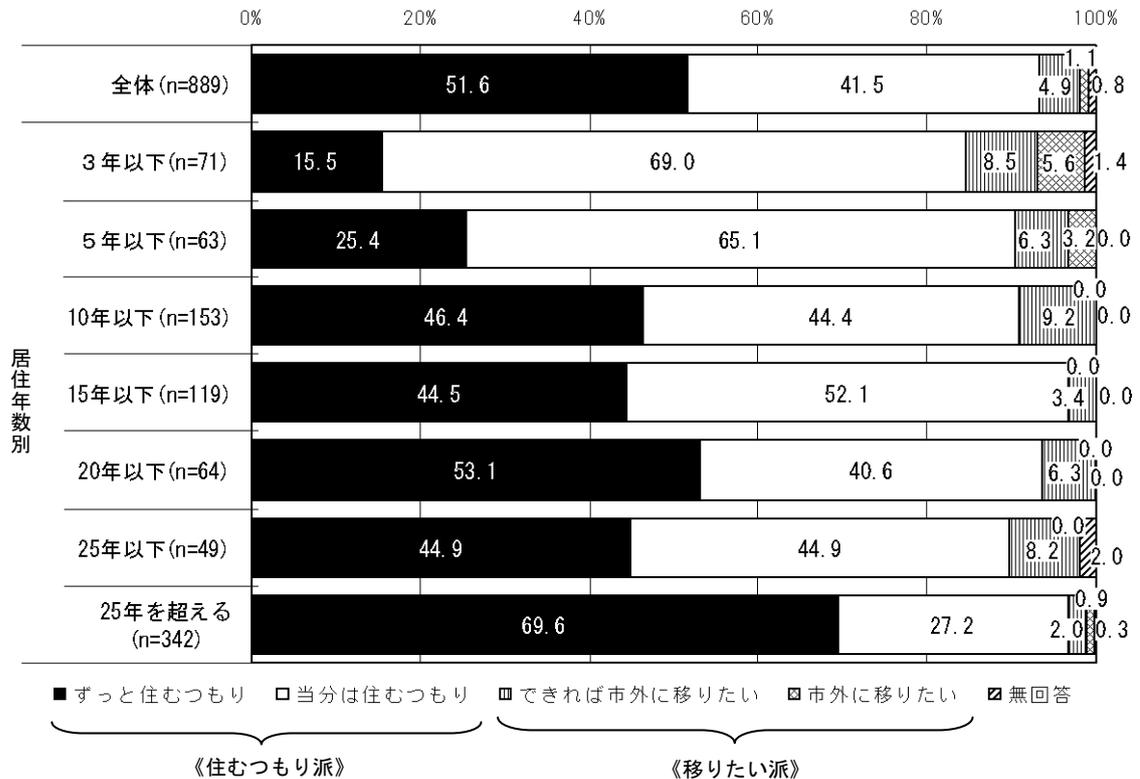
地区別でみると、すべての地区で《住むつもり派》が高く、「四谷」を除くすべての地区で9割以上を占めている。《移りたい派》が最も高いのは「四谷」、次いで「西府」「新町」の順となっている。[図 1-24]

図 1-24 定住意向／地区別



居住年数別でみると、《住むつもり派》は「3年以下」を除くすべての居住年数で9割前後となっている。「ずっと住むつもり」は居住年数が長くなるに従って高くなる傾向にあり、「25年を超える」では7割近くを占めている。《移りたい派》は「3年以下」で最も高く1割半ばを占めている。〔図1-25〕

図1-25 定住意向／居住年数別



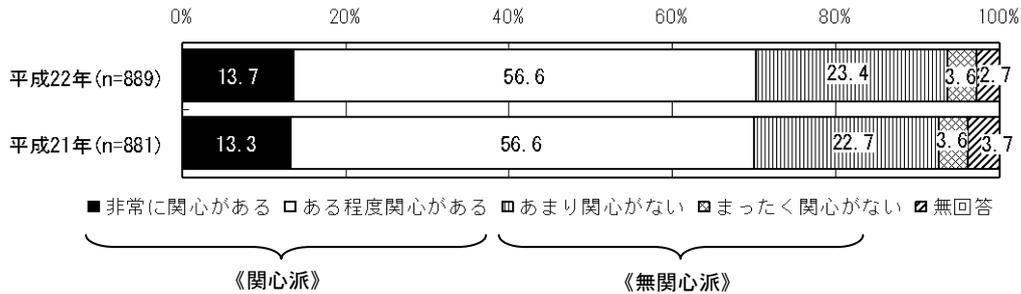
2 市政に対する関心度と市への要望

(1) 市政に対する関心度とその理由

7割近くが《関心派》であり、前年度にくらべて増加している。

問7. あなたは府中市の市政にどの程度関心をお持ちになっていますか。次の中から1つだけ選んでください。(n=889)

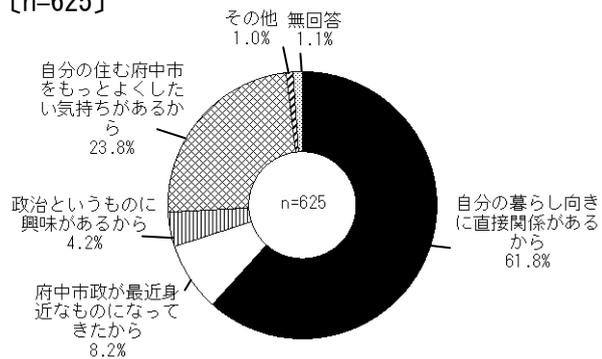
図2-1 市政に対する関心度



(問7で「1」か「2」をお答えの方に)

問7-1 市政に関心を持たれる理由は、どのような気持ちからですか。次の中から1つだけ選んでください。[n=625]

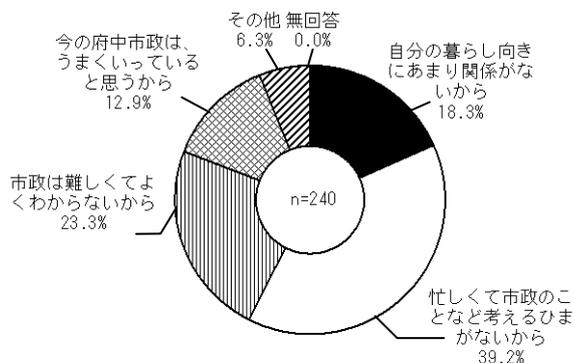
図2-2 市政に関心がある理由



(問7で「3」か「4」をお答えの方に)

問7-2 市政に関心がない理由は、どのようなことでしょうか。次の中から1つだけ選んでください。[n=240]

図2-3 市政に関心がない理由



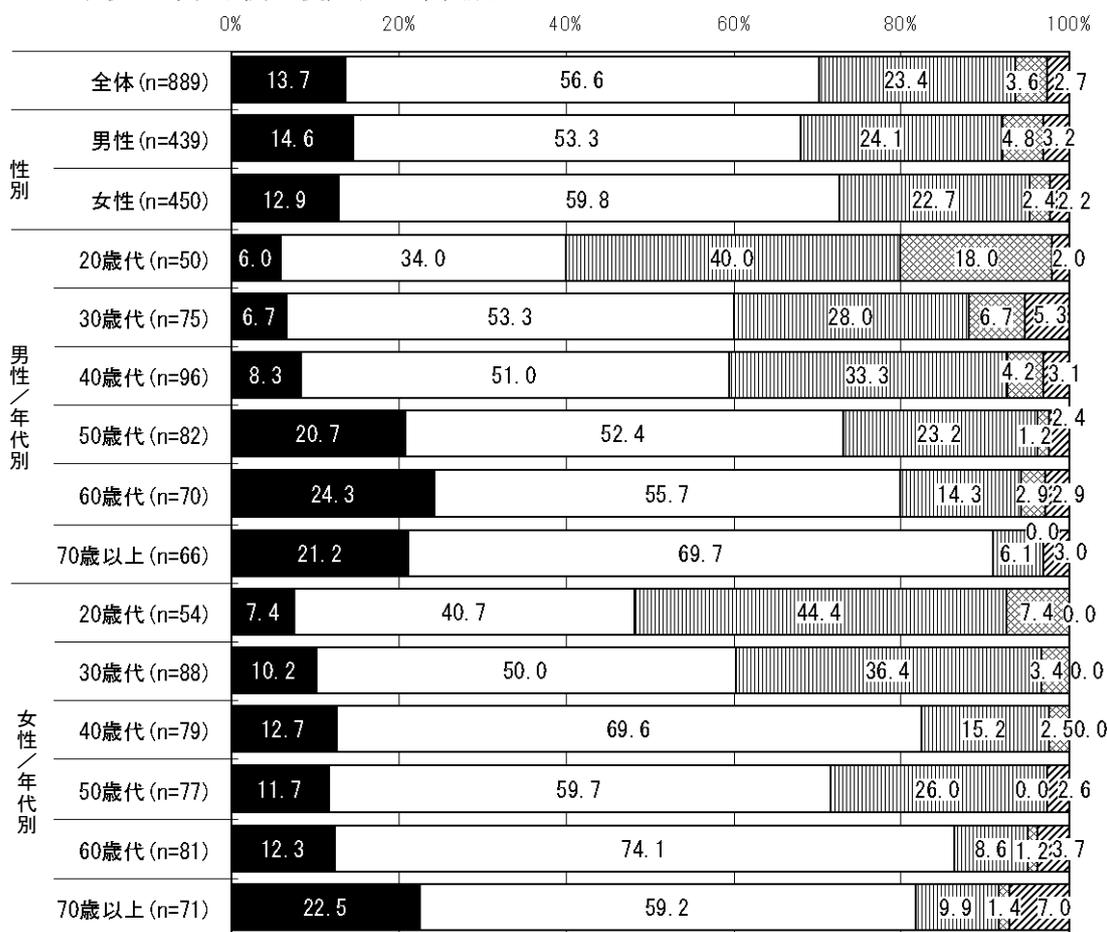
市政に対する関心度は、「ある程度関心がある」(56.6%)、「あまり関心がない」(23.4%)の順に割合が高くなっている。「ある程度関心がある」と「非常に関心がある」(13.7%)をあわせた《関心派》でみると7割以上を占めており、前年度と比較すると増加している。〔図2-1〕

「市政に関心がある」の理由は、「自分の暮らし向きに直接関係があるから」(61.8%)が最も高くなっており、「市政に関心がない」の理由は、「忙しくて市政のことなど考えるひまがないから」(39.2%)が最も高くなっている。〔図2-2、2-3〕

性別では、「男性」「女性」とともに「ある程度関心がある」「あまり関心がない」の順に高くなっている。

さらに年代別でみると、《関心派》の割合は「男性」では「70歳以上」、「女性」では「60歳代」で最も高くなっている。「非常に関心がある」の割合は「男性」では「60歳代」、「女性」では「70歳以上」で最も高くなっており、年代が上がるにつれて高くなる傾向が見られる。《無関心派》の割合は「男性」「女性」とともに「20歳代」で最も高く、5割以上となっており、「まったく関心がない」も同様に「男性」「女性」とともに「20歳代」で最も高くなっている。〔図2-4〕

図2-4 市政に対する関心度／性・年代別



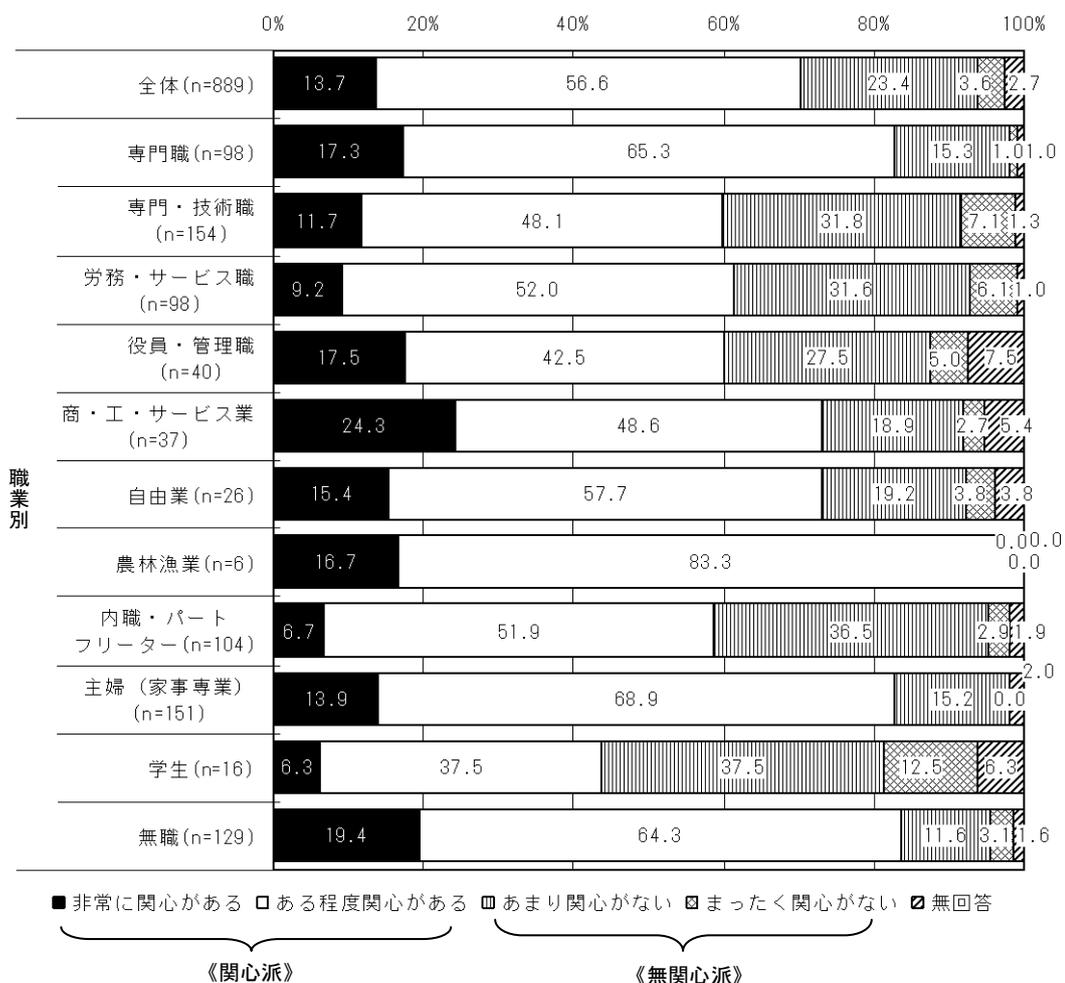
■非常に関心がある □ある程度関心がある ▣あまり関心がない ▤まったく関心がない ▥無回答

《関心派》

《無関心派》

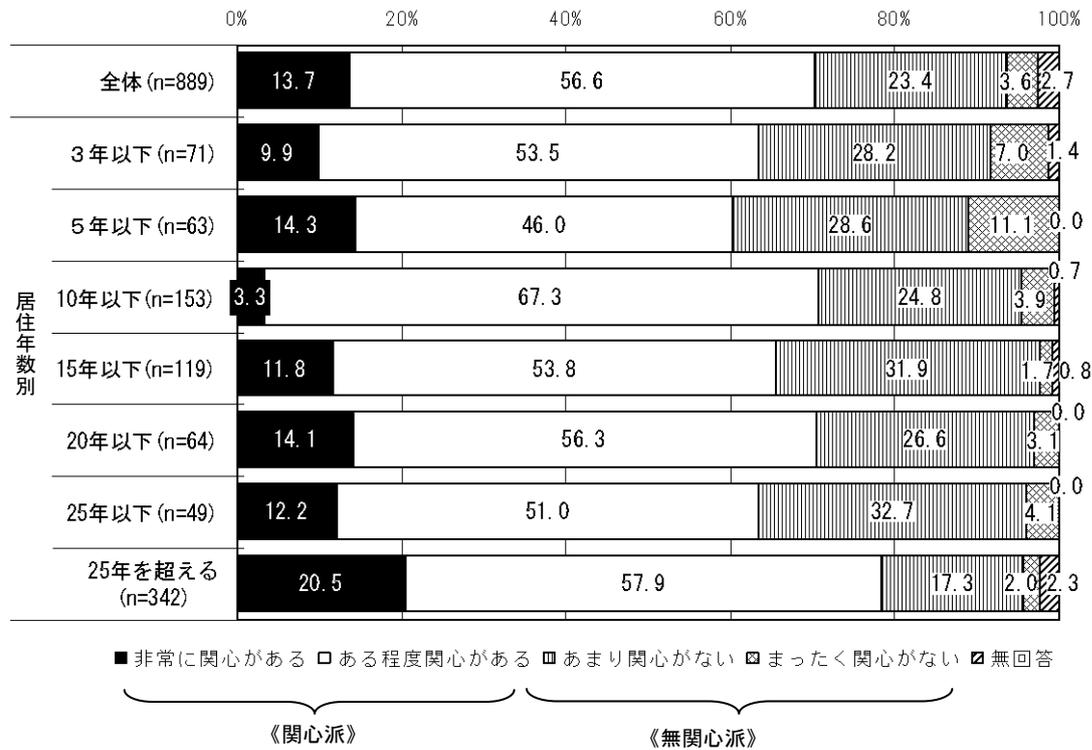
職業別でみると、《関心派》は「無職」、「主婦（家事専業）」、「専門職」の順に高くなっており、「非常に関心がある」は「商・工・サービス業」、「無職」の順に高くなっている。《無関心派》は「学生」、「内職・パート・フリーター」、「専門・技術職」の順に高くなっており、「まったく関心がない」は「学生」、「専門・技術職」の順に高くなっている。なお、母数が少ない「農林漁業」は参考値とする。〔図 2-5〕

図 2-5 市政に対する関心度／職業別



居住年数別でみると、《関心派》は「25年を超える」「10年以下」の順に高くなっており、「非常に関心がある」は「25年以下」「5年以下」の順に高くなっている。《無関心派》は「5年以下」が最も高くなっており、「まったく関心がない」も同様に「5年以下」で最も高くなっている。〔図 2-6〕

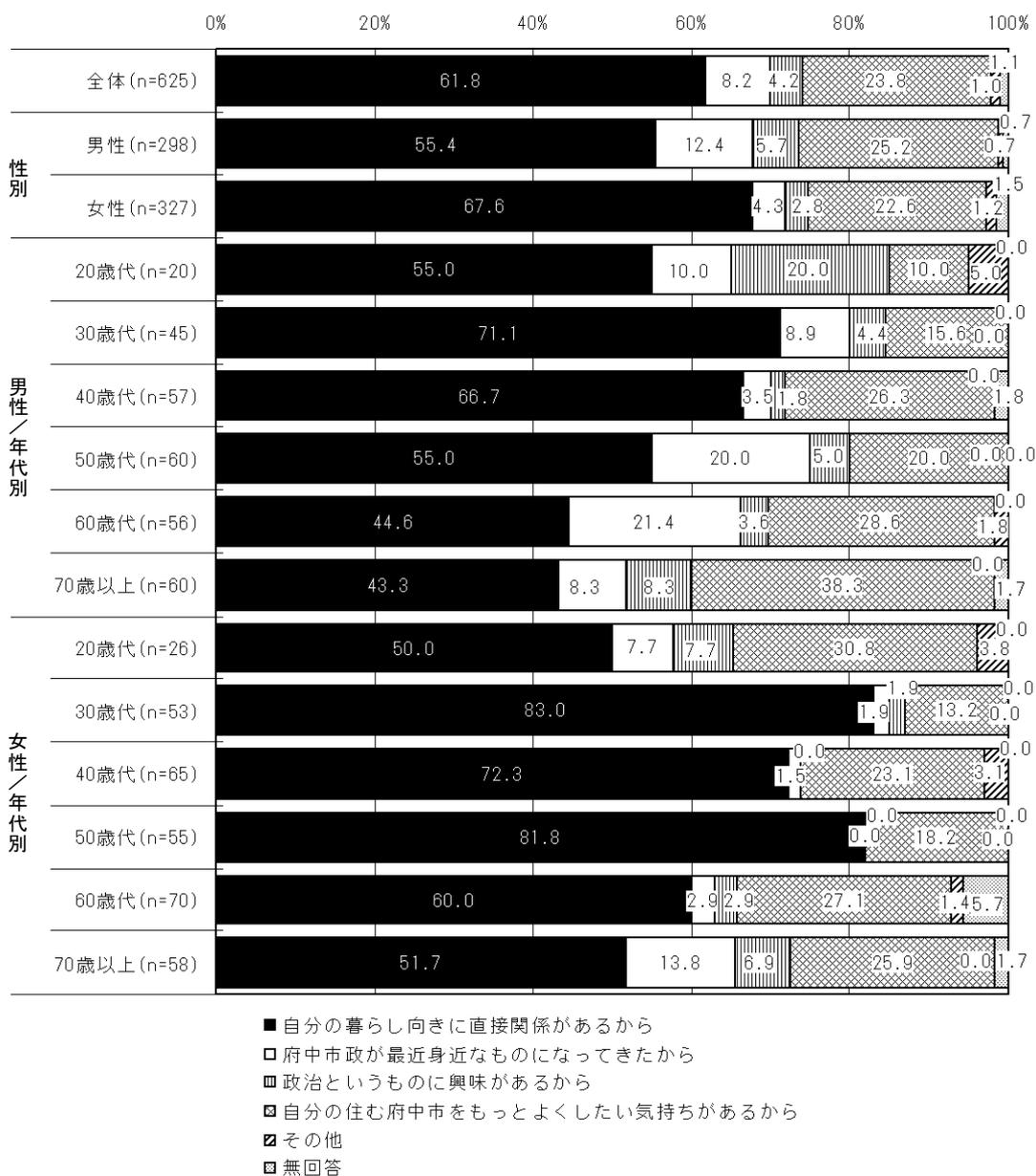
図 2-6 市政に関する関心度／居住年数別



市政に関心がある理由を性別で見ると、「男性」「女性」とともに「自分の暮らし向きに直接関係があるから」「自分の住む府中市をもっとよくしたい気持ちがあるから」の順で上位2項目となっており、「女性」ではあわせて9割以上を占めている。また、年代別にみても「男性」の「20歳代」を除くすべての年代で、「自分の暮らし向きに直接関係があるから」「自分の住む府中市をもっとよくしたい気持ちがあるから」が上位2項目となっており、順番も同様となっている。「男性」の「20歳代」では「政治というものに興味があるから」が2番目に高くなっている。

また、「府中市政が最近身近なものになってきたから」の割合は「男性」の「50歳代」「60歳代」で他の年代と比べて高く、2割以上を占めている。〔図2-7〕

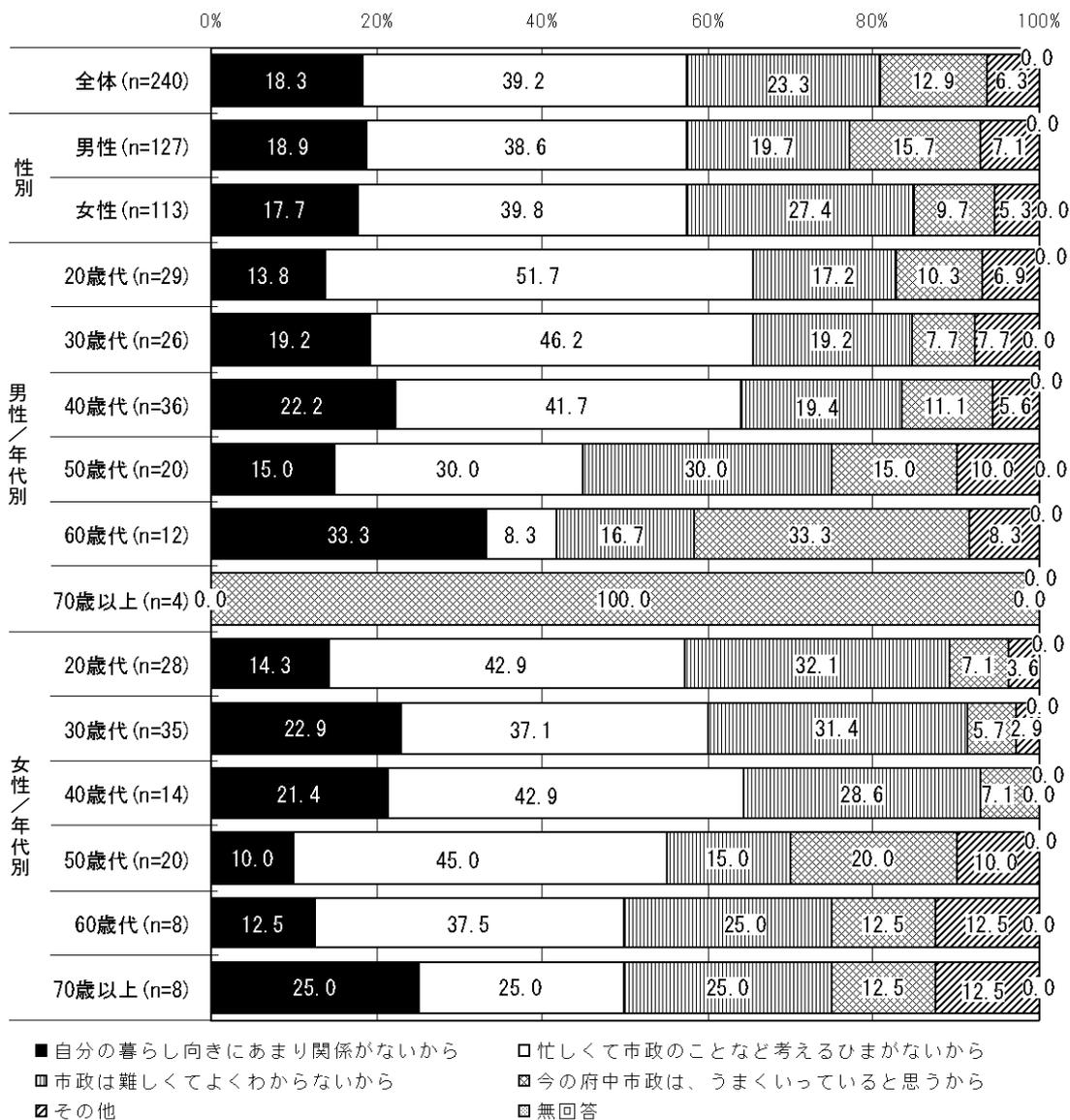
図2-7 市政に関心がある理由／性・年代別



市政に関心がない理由を性別で見ると、「男性」「女性」とともに「忙しくて市政のことなど考えるひまがないから」「市政は難しくてよくわからないから」の順で上位2項目となっている。

年代別で見ると、「忙しくて市政のことなど考えるひまがないから」は、「男性」の「20歳代」で最も高く、5割以上を占めている。「自分の暮らし向きにあまり関係がないから」は「男性」の「60歳代」で最も高く、3割以上を占めている。「市政は難しくてよくわからないから」は「女性」の「20歳代」「30歳代」、「男性」の「50歳代」の順に高く、それぞれ3割以上を占めている。また、「今の府中市政は、うまくいっていると思うから」は「男性」の「60歳以上」、「女性」の「50歳代」の順に高くなっている。なお、母数が少ない「男性」の「70歳以上」は参考値とする。〔図2-8〕

図2-8 市政に関心がない理由／性・年代別

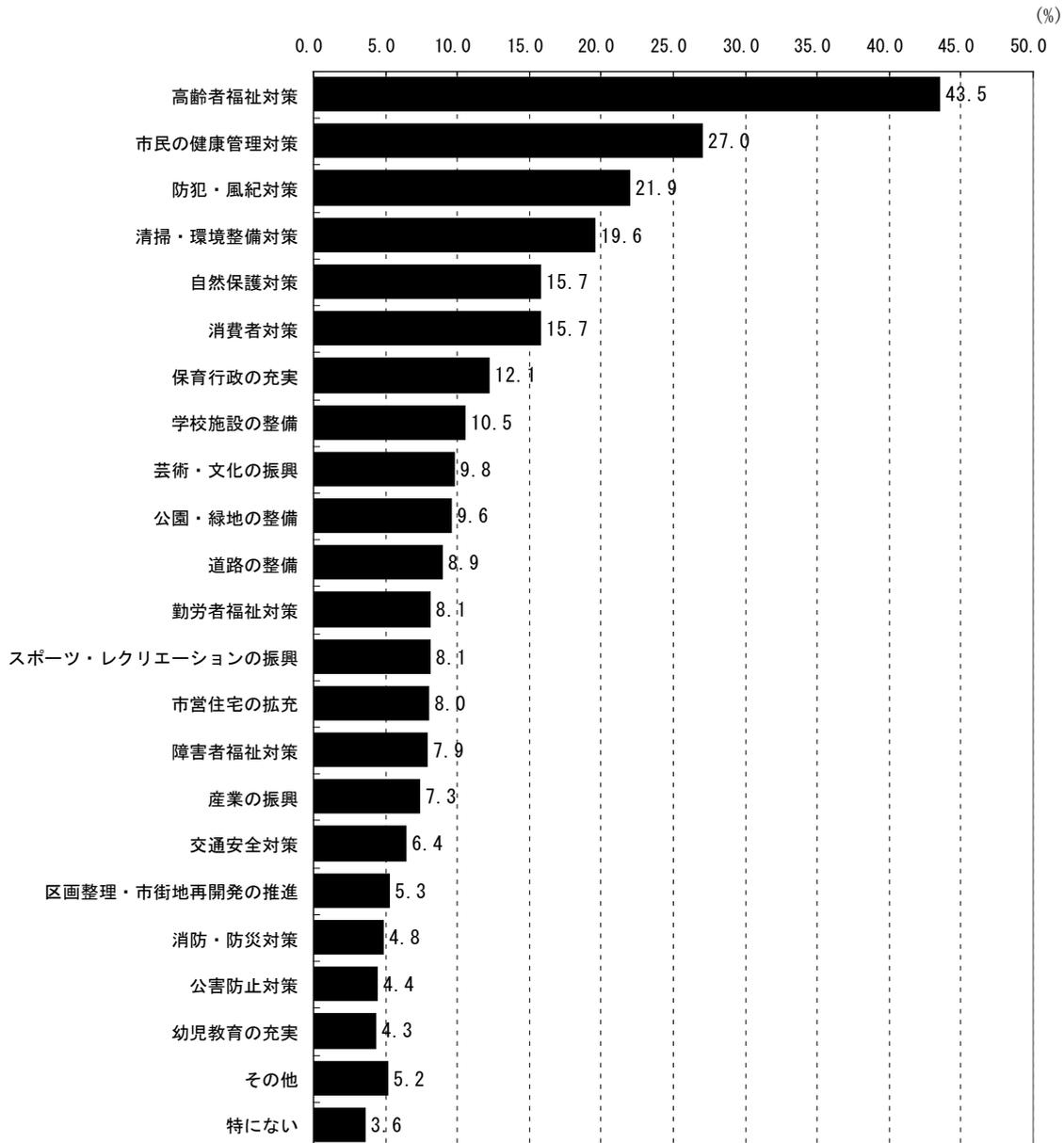


(2) 市に望む施策

「高齢者福祉対策」が4割半ばを占め、最も高くなっている。

問8. 府中市に対して、これから特に力を入れてほしいと思うことを、次の中から3つまで選んでください。(n=889)

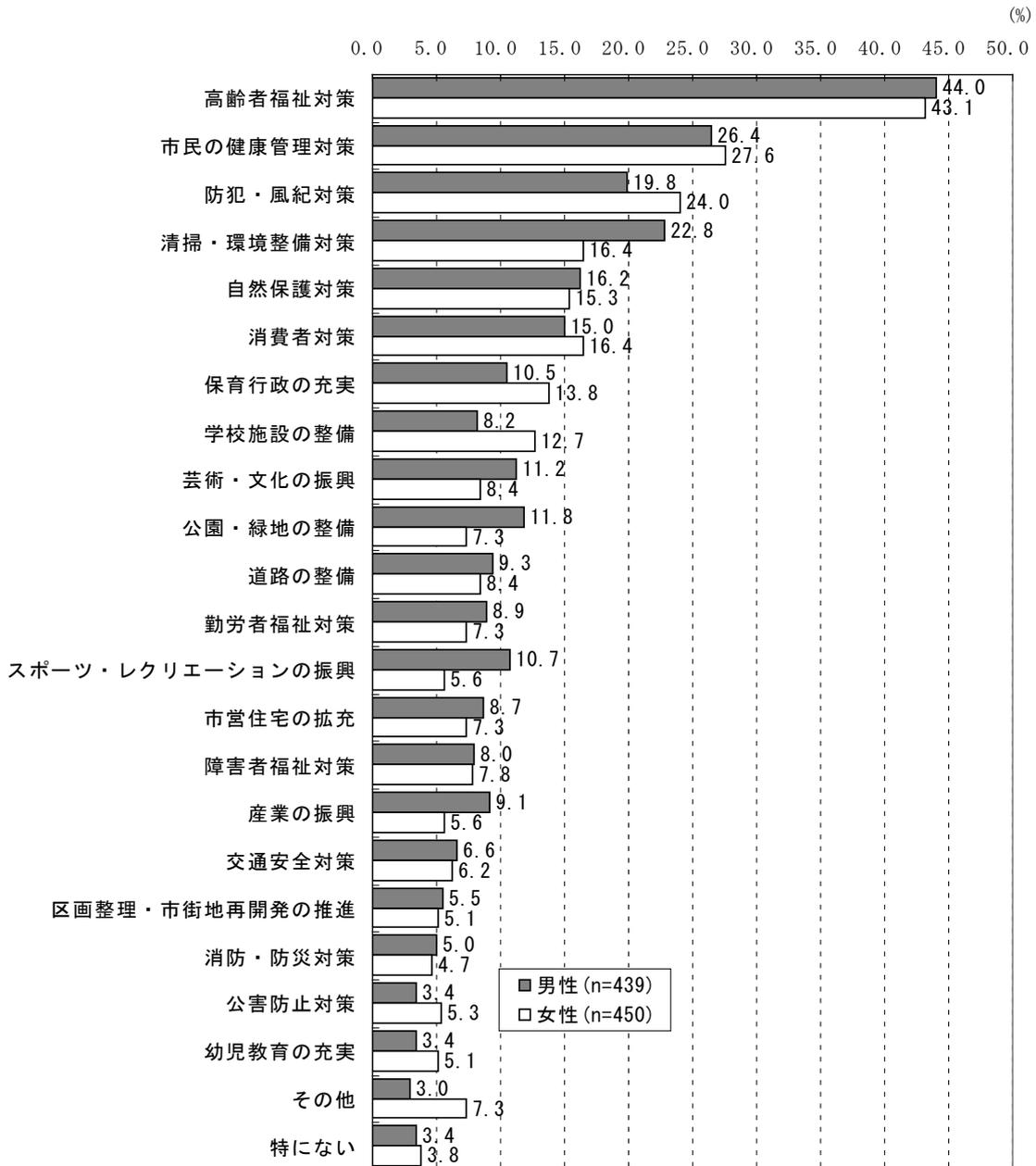
図2-9 市に望む施策(複数回答)



市への要望は、「高齢者福祉対策」(43.5%)が最も高く、次いで「市民の健康管理対策」(27.0%)「防犯・風紀対策」(21.9%)の順となっており、これらの項目の次には「清掃・環境整備対策」(19.6%)「自然保護対策」(15.7%)「消費者対策」(15.7%)が順に高くなっている。〔図2-9〕

性別でみると、「高齢者福祉対策」「市民の健康管理対策」「防犯・風紀対策」「清掃・環境整備対策」「自然保護対策」「消費者対策」の上位6項目の順序は「男性」では「清掃・環境整備対策」が3番目に高くなっており、「女性」では「消費者対策」が「清掃・環境整備対策」と並んで4番目に高くなっている。7番目以降の項目は、「男性」では「公園・緑地の整備」「芸術・文化の振興」の順となっている。これに対して、「女性」では「保育行政の充実」「学校施設の整備」の順となっている。〔図2-10〕

図2-10 市に望む施策／性別(複数回答)



上位5項目について平成13年度からの順位変動を見ると、今年度1位の「高齢者福祉対策」は、平成17年度以外は常に1位となっている。「市民の健康管理対策」は昨年まで5年連続で4位となっていたが2位に上昇している。3位の「防犯・風紀対策」は17年度から新たに加えられ、常に上位となっている。4位の「清掃・環境整備対策」もほぼ毎年上位5項目に含まれている。「自然保護対策」は4年ぶりで5位となっている。〔表2-1〕

表2-1 市に望む施策(上位5項目)／年度別

	n	1位	2位	3位	4位	5位
平成22年	889	高齢者福祉対策 43.5%	市民の健康管理対策 27.0%	防犯・風紀対策 21.9%	清掃・環境整備対策 19.6%	自然保護対策／ 消費者対策 15.7%
21年	881	高齢者福祉対策 42.0%	防犯・風紀対策 27.0%	清掃・環境整備対策 26.6%	市民の健康管理対策 20.0%	消費者対策 16.1%
20年	889	高齢者福祉対策 42.2%	防犯・風紀対策 30.6%	清掃・環境整備対策 25.8%	市民の健康管理対策 18.3%	消費者対策 15.3%
19年	892	高齢者福祉対策 41.8%	清掃・環境整備対策 32.0%	防犯・風紀対策 31.8%	市民の健康管理対策 16.1%	消費者対策 12.4%
18年	882	高齢者福祉対策 42.7%	防犯・風紀対策 34.5%	清掃・環境整備対策 17.6%	市民の健康管理対策 14.5%	自然保護対策 13.5%
17年	851	防犯・風紀対策 42.1%	高齢者福祉対策 38.1%	清掃・環境整備対策 17.3%	市民の健康管理対策 15.7%	道路の整備 13.2%
16年	876	高齢者福祉対策 38.5%	市民の健康管理対策 20.1%	清掃・環境整備対策 18.0%	自然保護対策 17.6%	交通安全対策 16.1%
15年	848	高齢者福祉対策 42.2%	市民の健康管理対策 20.8%	清掃・環境整備対策 16.3%	道路の整備／交通安全対策 15.9%	
14年	870	高齢者福祉対策 40.0%	清掃・環境整備対策 19.3%	自然保護対策 17.4%	市民の健康管理対策／交通安全対策 17.2%	
13年	896	高齢者福祉対策 40.3%	清掃・環境整備対策 21.1%	市民の健康管理対策 18.4%	自然保護対策／交通安全対策 14.1%	

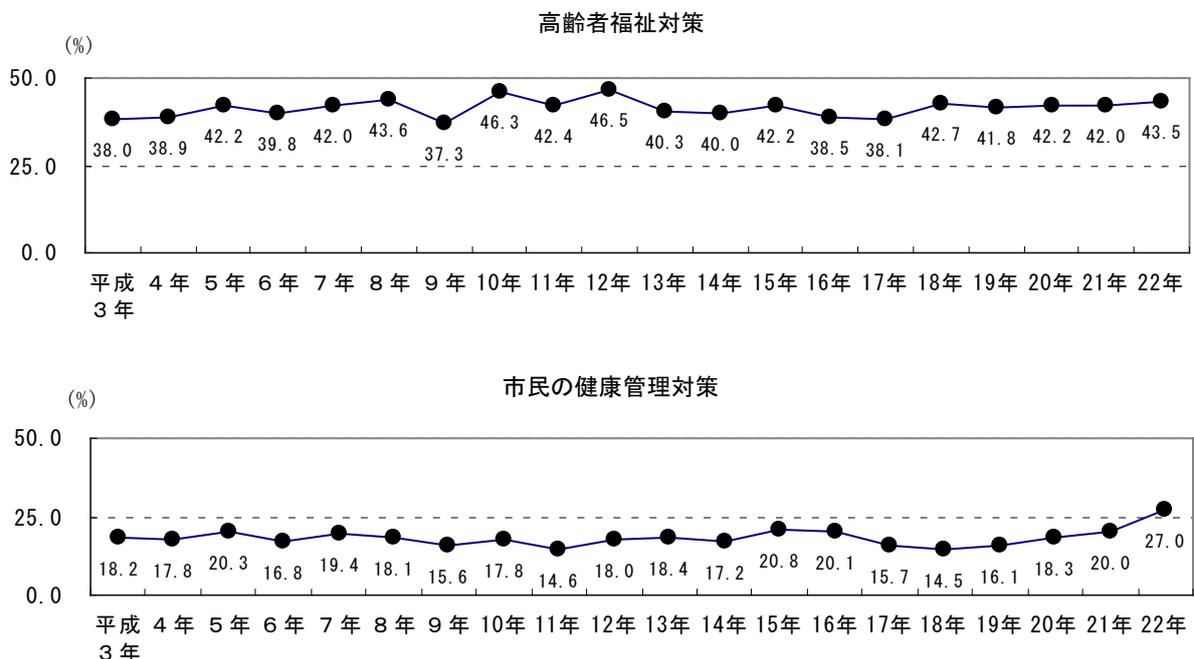
以下、各施策について年度別の推移をみる。

「高齢者福祉対策」は平成18年度以降横ばいの傾向にあり、4割を超える高い割合を占めている。

「市民の健康管理対策」は、平成18年度以降4年連続で増加しており、昨年度に比べて増加率が大きくなっている。

〔図2-11①〕

図2-11① 市に望む施策／年度別



「防犯・風紀対策」は、平成17年度以降5年連続で減少している。

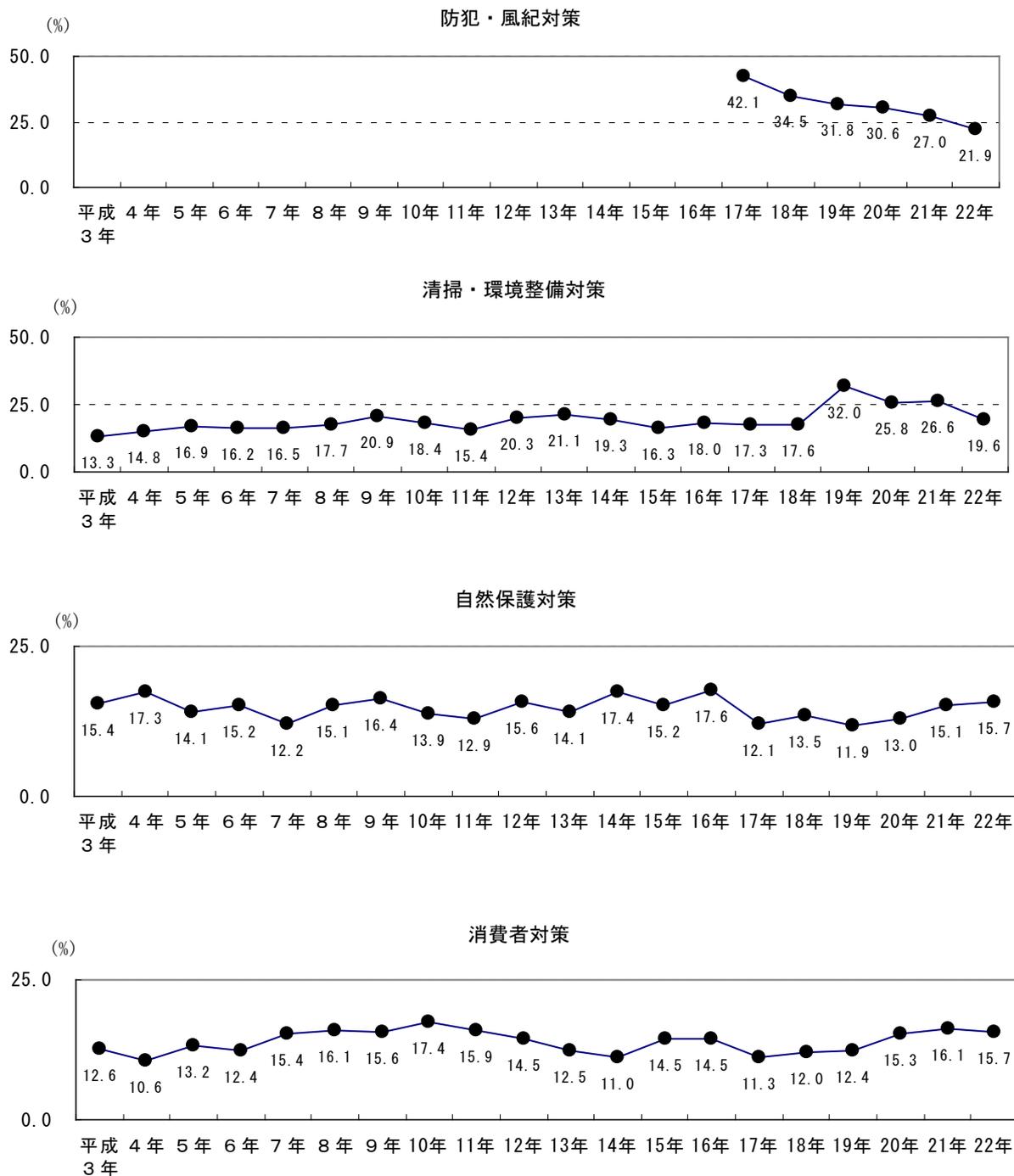
「清掃・環境整備対策」は、前年度増加したが、今回は減少している。

「自然保護対策」は、平成19年度以降3年連続で増加している。

「消費者対策」は、平成19年度以降増加していたが、今回は減少に転じている。

[図2-11②]

図2-11② 市に望む施策／年度別



「保育行政の充実」は、前年度減少したが、今回は増加しており、平成16年度以降横ばいの傾向にある。

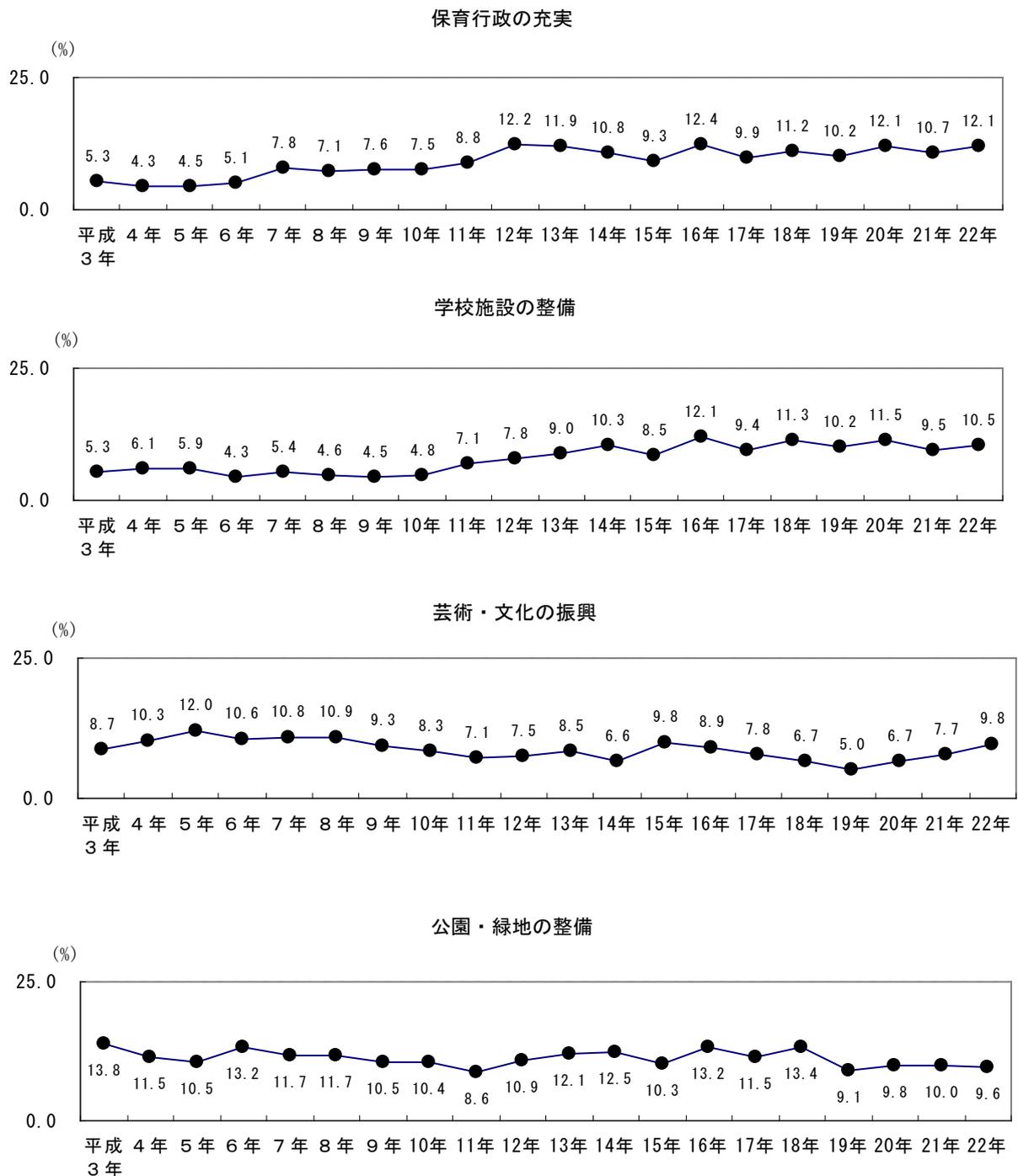
「学校施設の整備」は、前年度減少したが、今回は増加している。

「芸術・文化の振興」は、平成19年度以降、3年連続で増加している。

「公園・緑地の整備」は、前年度増加したが、今回は減少しており、平成19年度以降横ばいの傾向にある。

〔図2-11③〕

図2-11③ 市に望む施策／年度別



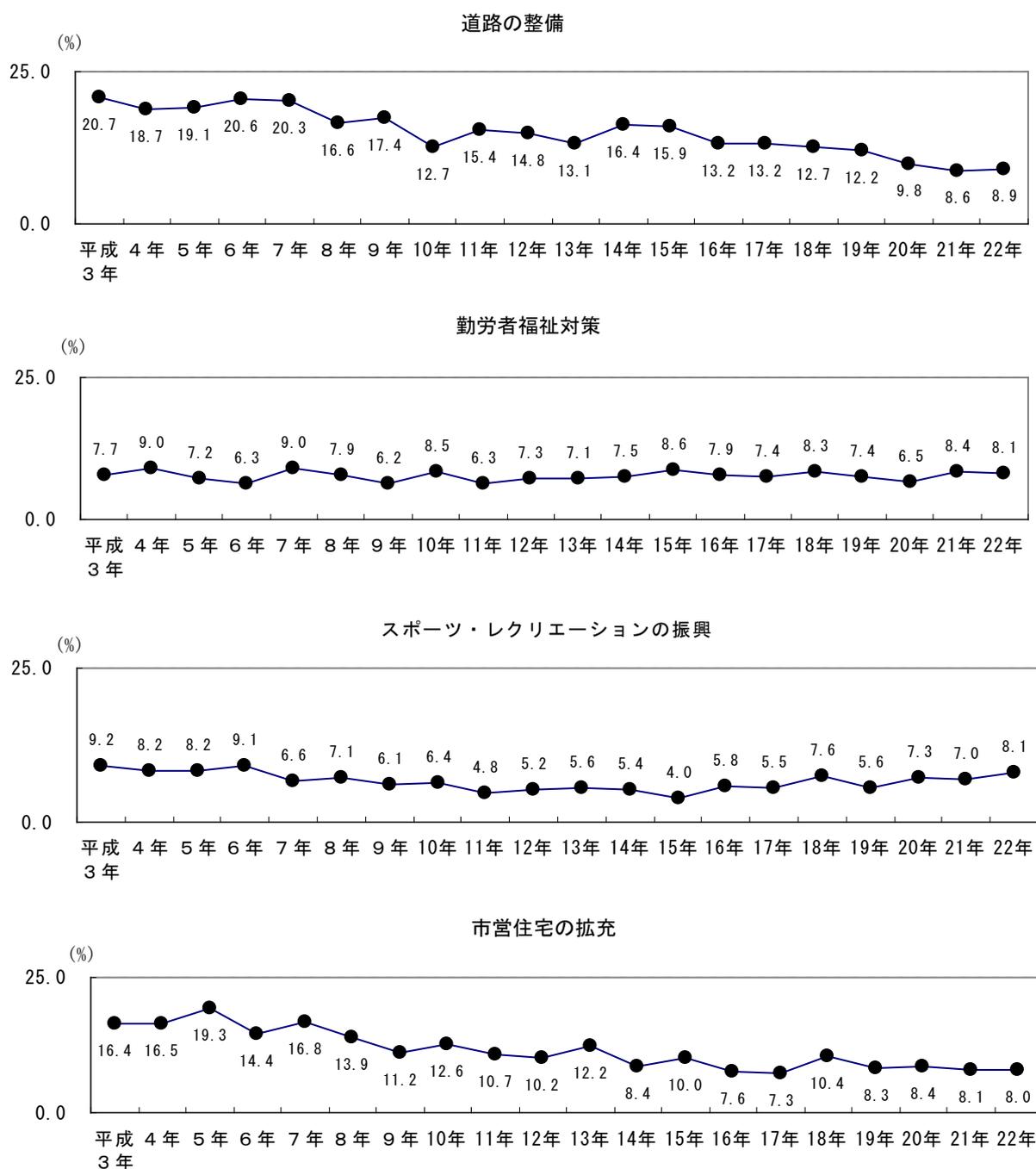
「道路の整備」は、平成14年度以降減少傾向にあり、今回は増加に転じているが、平成3年度と比べると大きく減少している。

「勤労者福祉対策」は、前年度増加したが、今回は減少している。

「スポーツ・レクリエーションの振興」は、前年度減少したが、今回は増加している。

「市営住宅の拡充」は、平成18年度から減少傾向にあり、平成3年度と比べると大きく減少している。〔図2-11④〕

図2-11④ 市に望む施策／年度別



「障害者福祉対策」は、平成 20 年度以降 2 年連続で減少している。

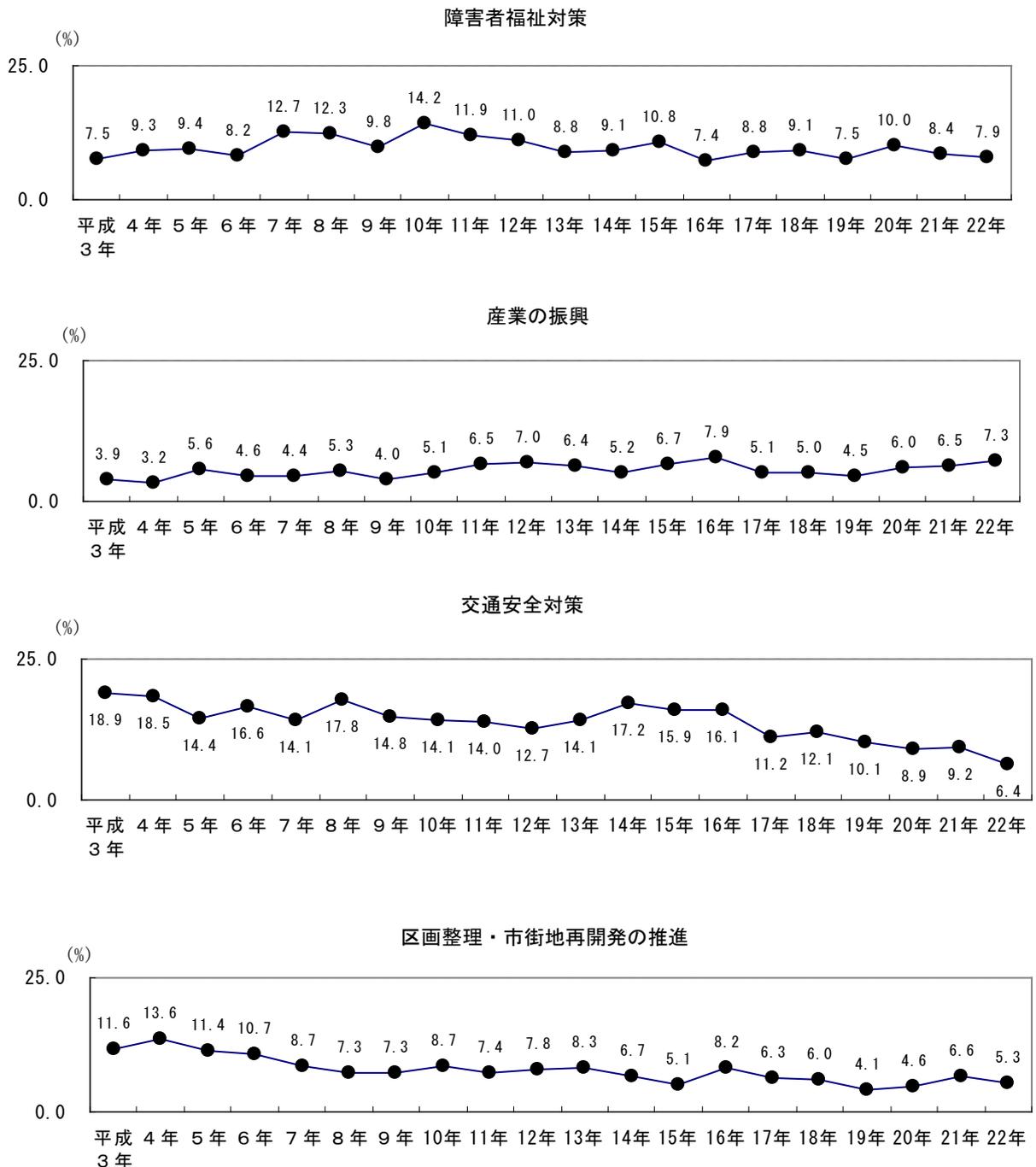
「産業の振興」は、平成 19 年度以降 3 年連続で増加している。

「交通安全対策」は、平成 14 年度以降減少傾向にあり、平成 3 年度と比べると大きく減少している。

「区画整理・市街地再開発の推進」は、前年度増加したが、今回は減少しており、平成 3 年度と比べると大きく減少している。

〔図 2-11⑤〕

図 2-11⑤ 市に望む施策／年度別



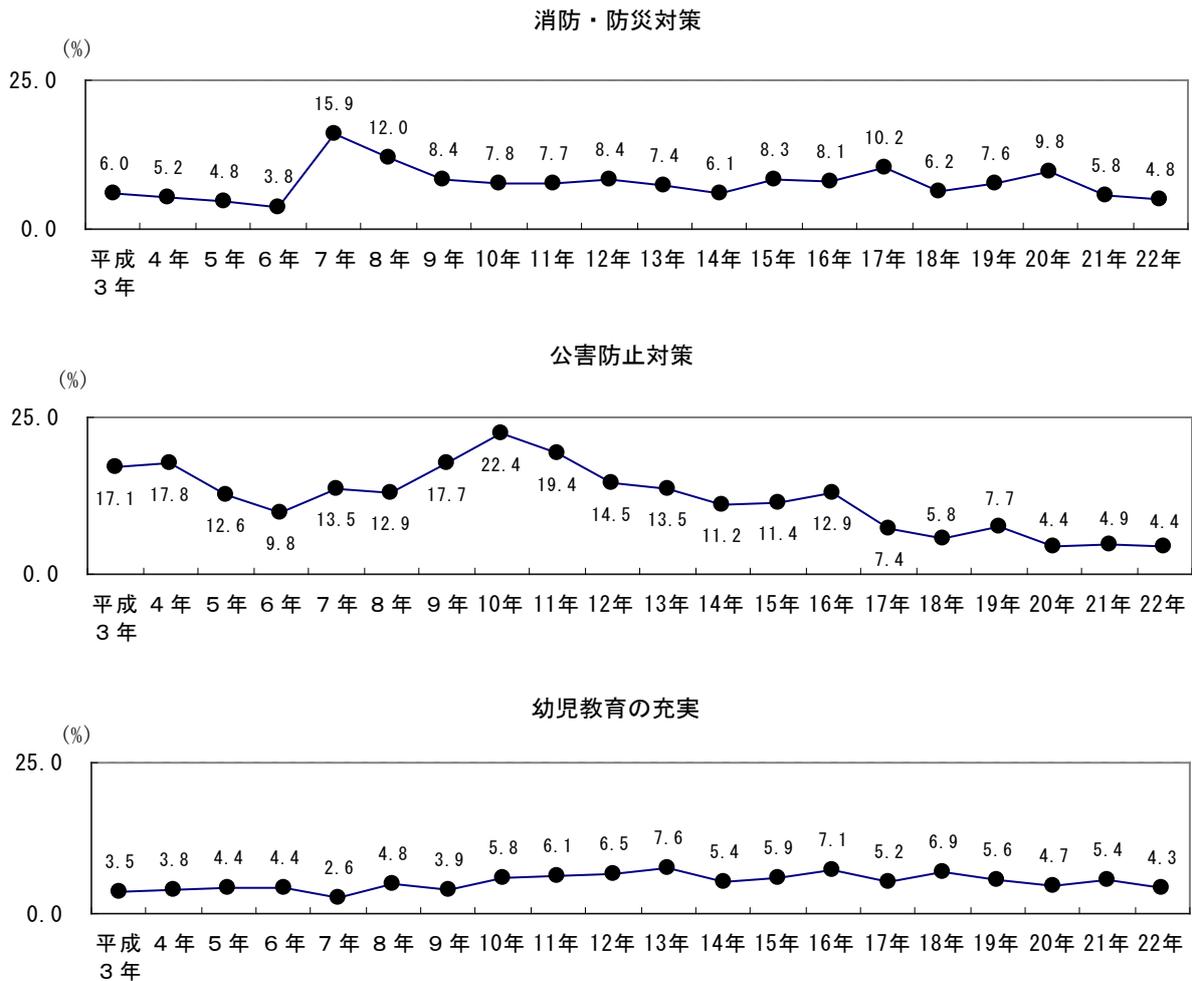
「消防・防災対策」は、平成 20 年度以降 2 年連続で減少している。

「公害防止対策」は、平成 20 年度以降横ばいの傾向にあり、平成 10 年度と比べると大きく減少している。

「幼児教育の充実」は、今回減少しているが、平成 10 年度以降ほぼ横ばいとなっている。

[図 2-11⑥]

図 2-11⑥ 市に望む施策／年度別



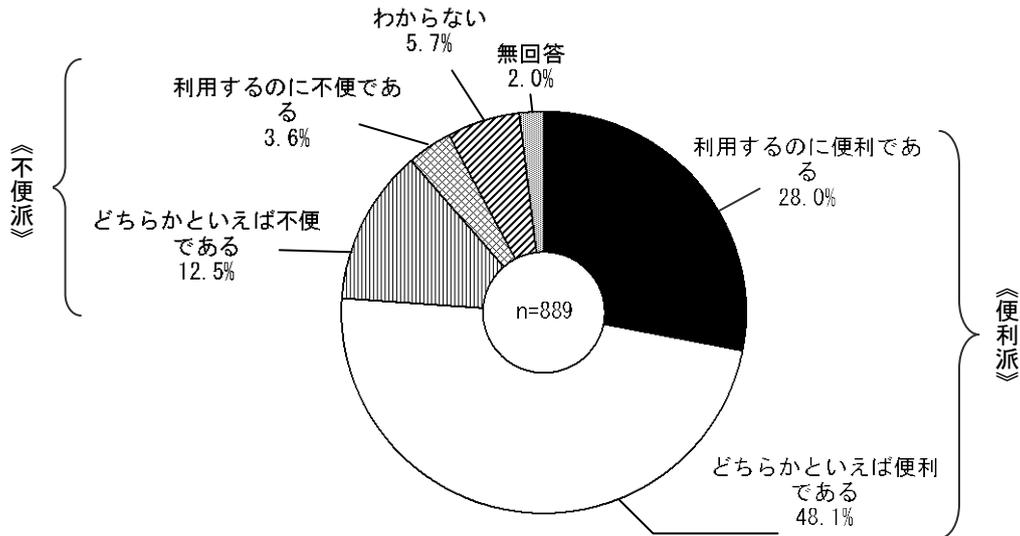
3 府中市庁舎

(1) 庁舎の立地について

5割近い「どちらかといえば便利である」を含めた《便利派》が7割半ばを占めている。

問9. 現在の市庁舎は、利用するのに便利な場所にあると思いますか。次の中から1つだけ選んでください。(n=889)

図3-1 庁舎の立地について



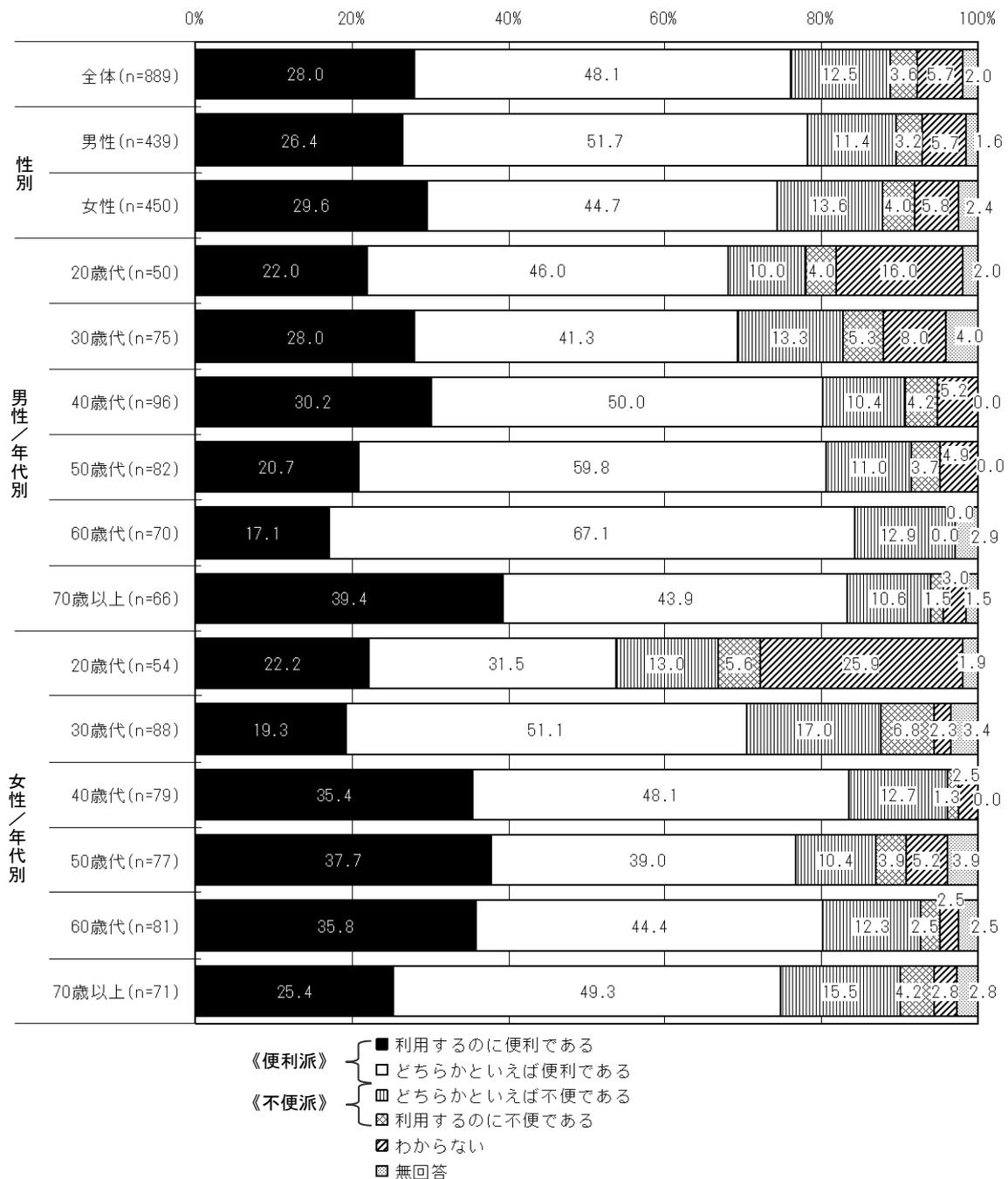
庁舎の立地については、「どちらかといえば便利である」(48.1%)が最も高く、次いで「利用するのに便利である」(28.0%)「どちらかといえば不便である」(12.5%)の順となっている。

「利用するのに便利である」と「どちらかといえば便利である」をあわせた《便利派》は76.1%を占めており、「どちらかといえば不便である」と「利用するのに不便である」をあわせた《不便派》は16.1%となっている。〔図3-1〕

性別で見ると、「男性」「女性」とともに「どちらかといえば便利である」が最も高く、《便利派》がそれぞれ7割以上を占めている。

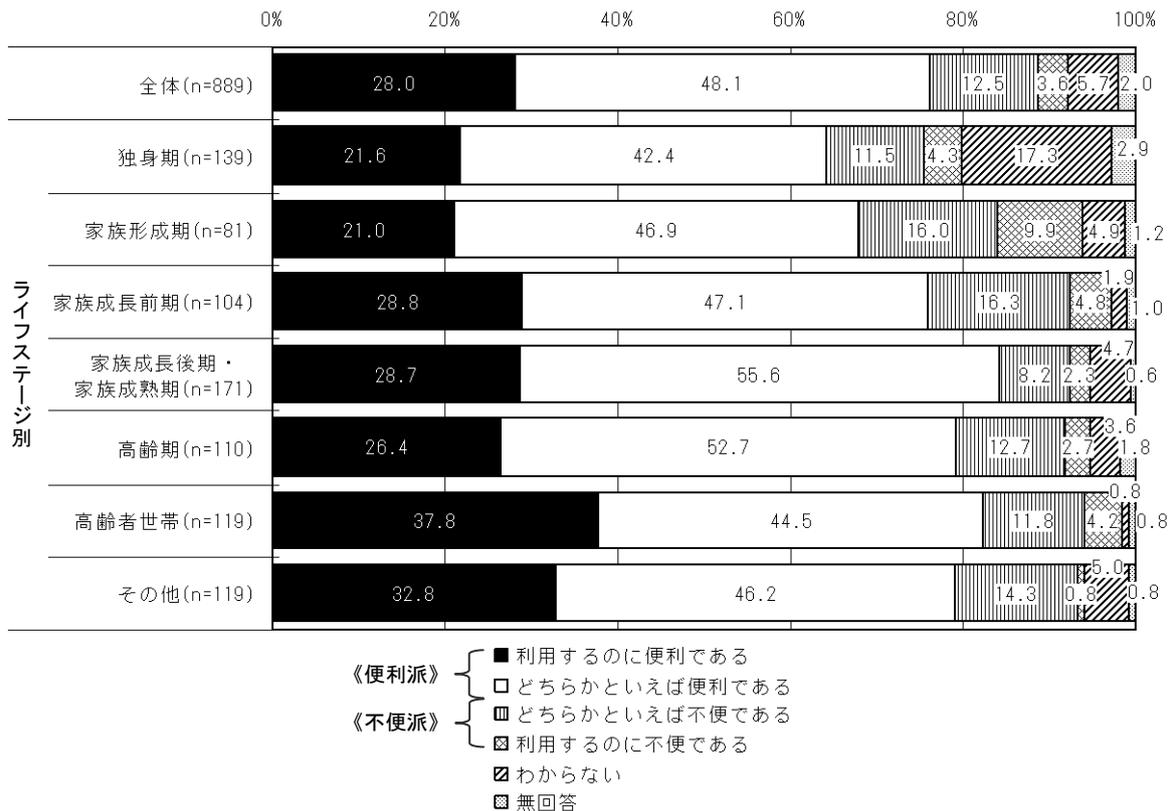
年代別で見ると、《便利派》は「男性」の「40歳代」から「70歳以上」、「女性」の「40歳代」「60歳代」で8割以上を占めており、「利用するのに便利である」は「男性」の「70歳以上」で最も高く、4割近くを占めている。一方、《不便派》は「女性」の「30歳代」で最も高く、2割半ばを占めている。[図3-2]

図3-2 庁舎の立地について／性・年代別



ライフステージ別でみると、《便利派》は「家族成長後期・家族成熟期」「高齢者世帯」の順に高く、それぞれ8割以上を占めている。「利用するのに便利である」は「高齢者世帯」で最も高くなっている。《不便派》は「家族形成期」「家族成長前期」の順に高く、それぞれ2割以上を占めており、「利用するのに不便である」は「家族形成期」で最も高くなっている。〔図3-3〕

図3-3 庁舎の立地について／ライフステージ別

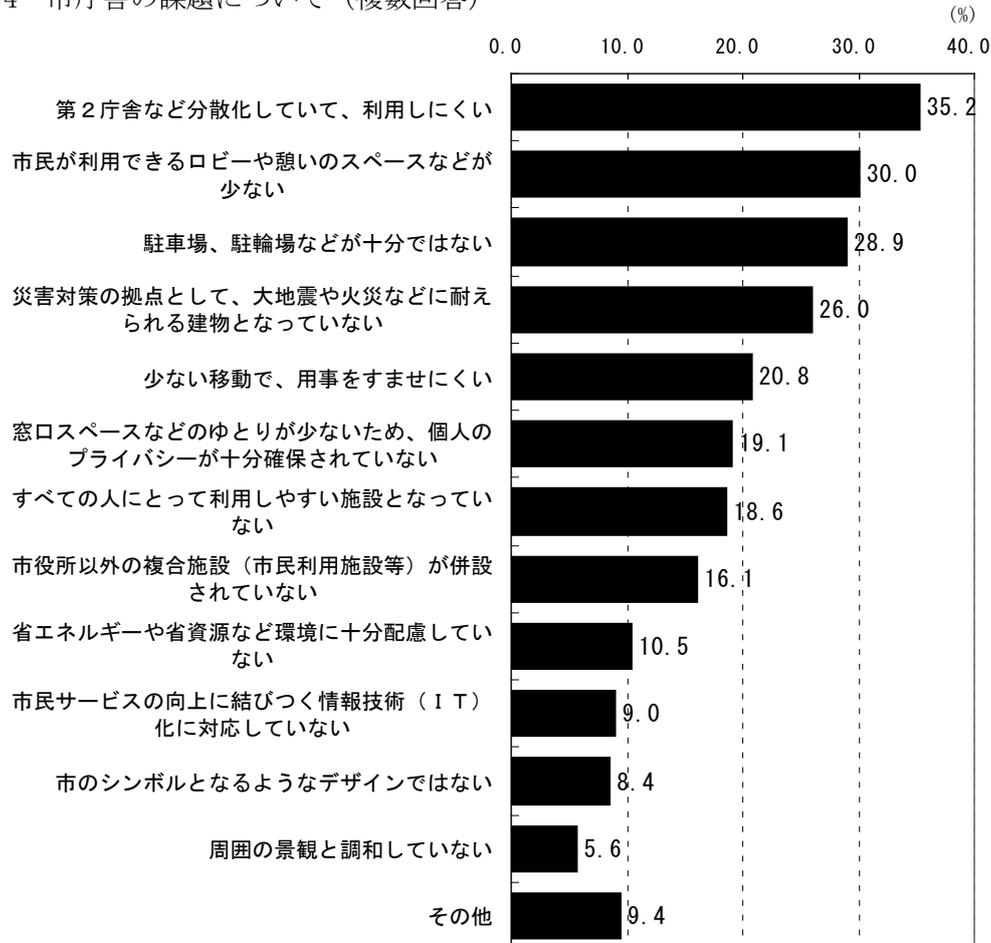


(2) 市庁舎の課題について

「第2庁舎など分散化していて、利用しにくい」が3割半ばで最も高くなっている。

問 10. あなたは、現在の市庁舎にどのような課題があると思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(n=889)

図 3-4 市庁舎の課題について (複数回答)

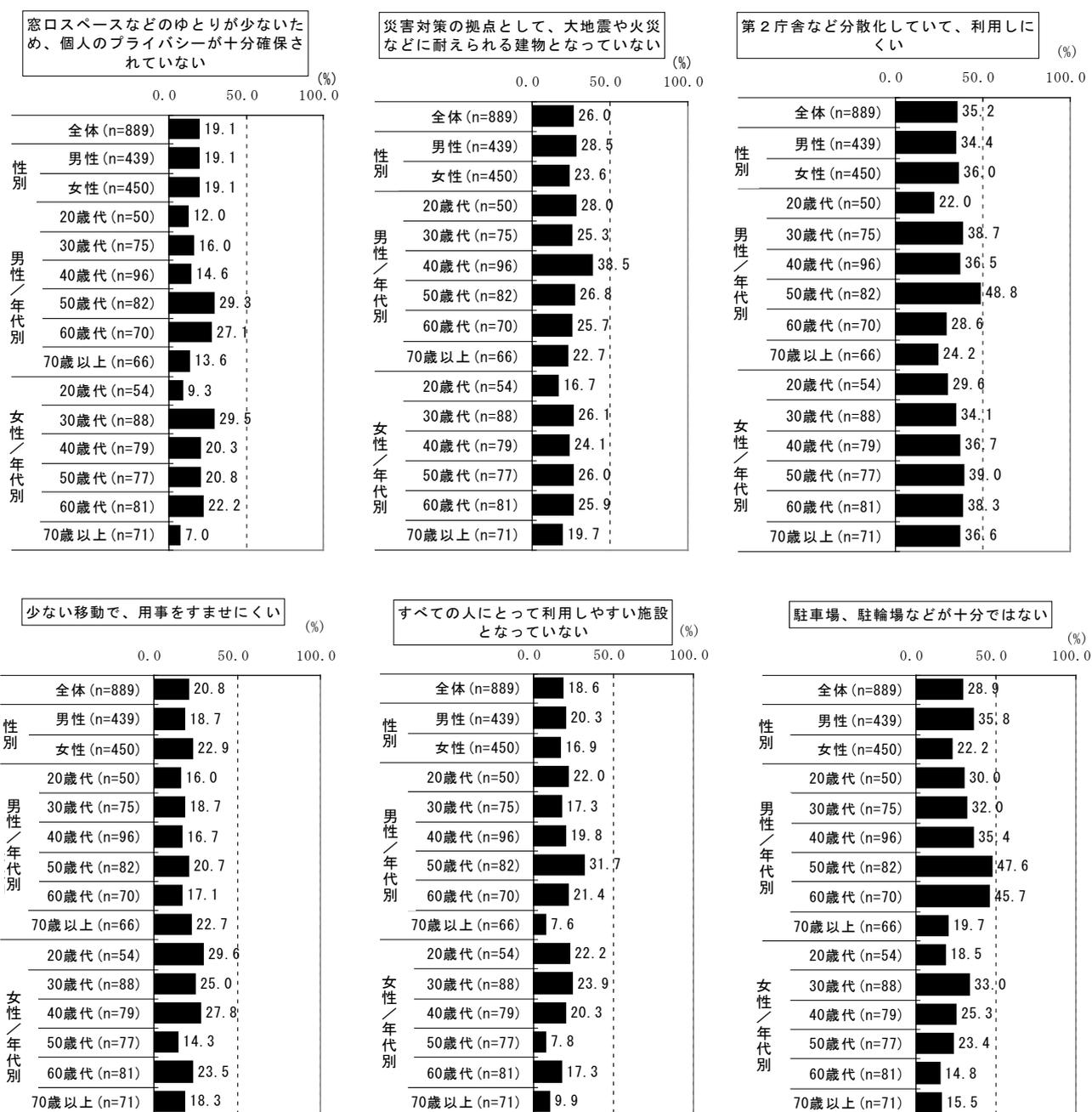


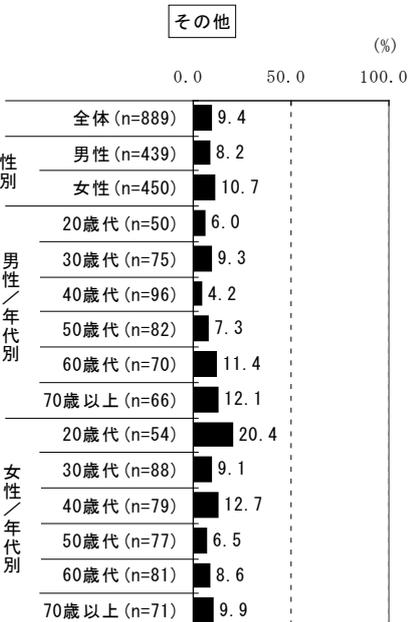
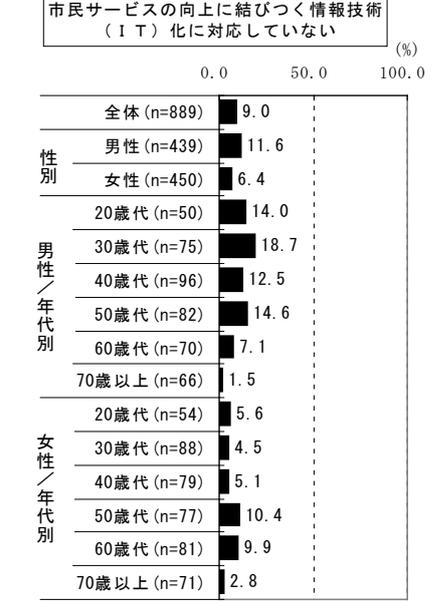
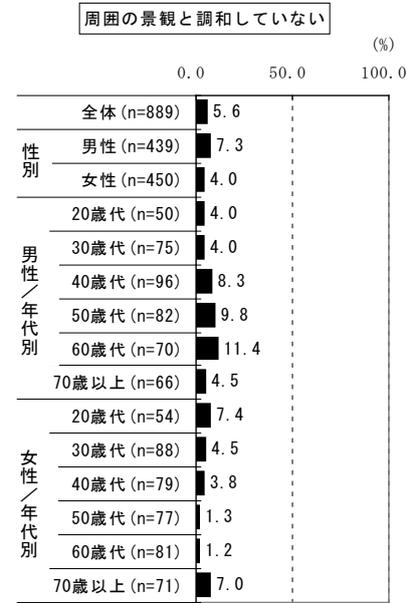
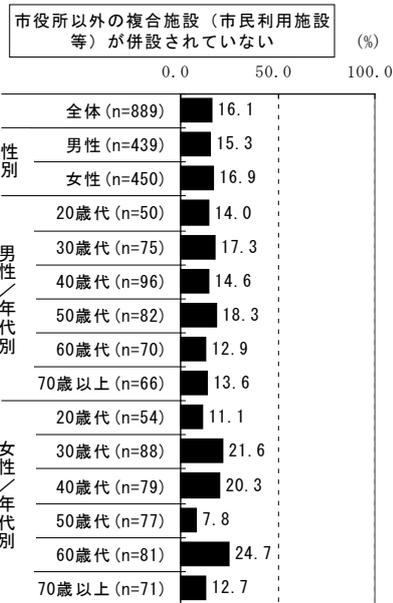
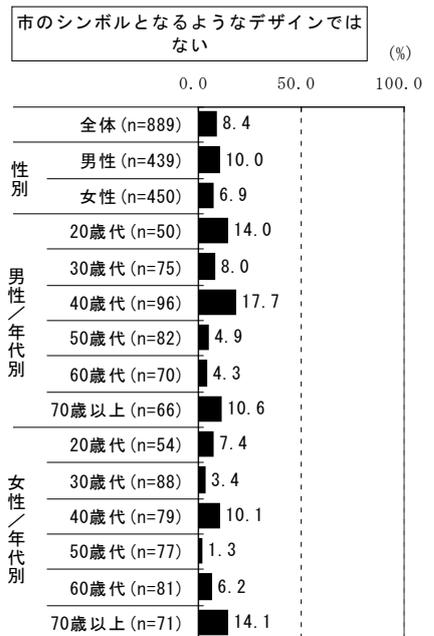
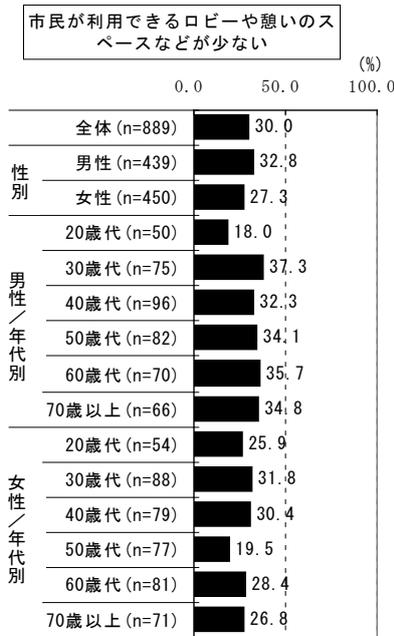
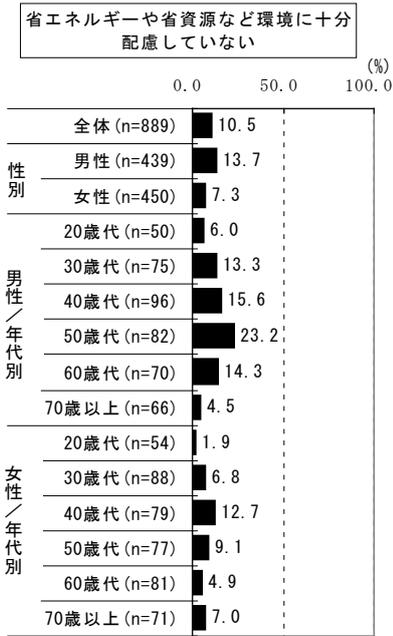
市庁舎の課題については、「第2庁舎など分散化していて、利用しにくい」(35.2%)が最も高く、次いで「市民が利用できるロビーや憩いのスペースなどが少ない」(30.0%)「駐車場、駐輪場などが十分ではない」(28.9%)の順となっている。〔図 3-4〕

性別で見ると、「男性」は「駐車場、駐輪場などが十分ではない」「第2庁舎など分散化して、利用しにくい」の順に高く、「女性」は「第2庁舎など分散化して、利用しにくい」「市民が利用できるロビーや憩いのスペースなどが少ない」の順に高くなっている。

年代別で見ると、「第2庁舎など分散化して、利用しにくい」は「男性」の「50歳代」で最も高く、約5割を占めており、「男性」の「20歳代」「60歳代」「70歳以上」「女性」の「20歳代」を除くすべての年代で3割以上を占めている。「市民が利用できるロビーや憩いのスペースなどが少ない」は「男性」の「20歳代」を除くすべての年代と「女性」の「30歳代」「40歳代」で3割以上を占めている。〔図3-5〕

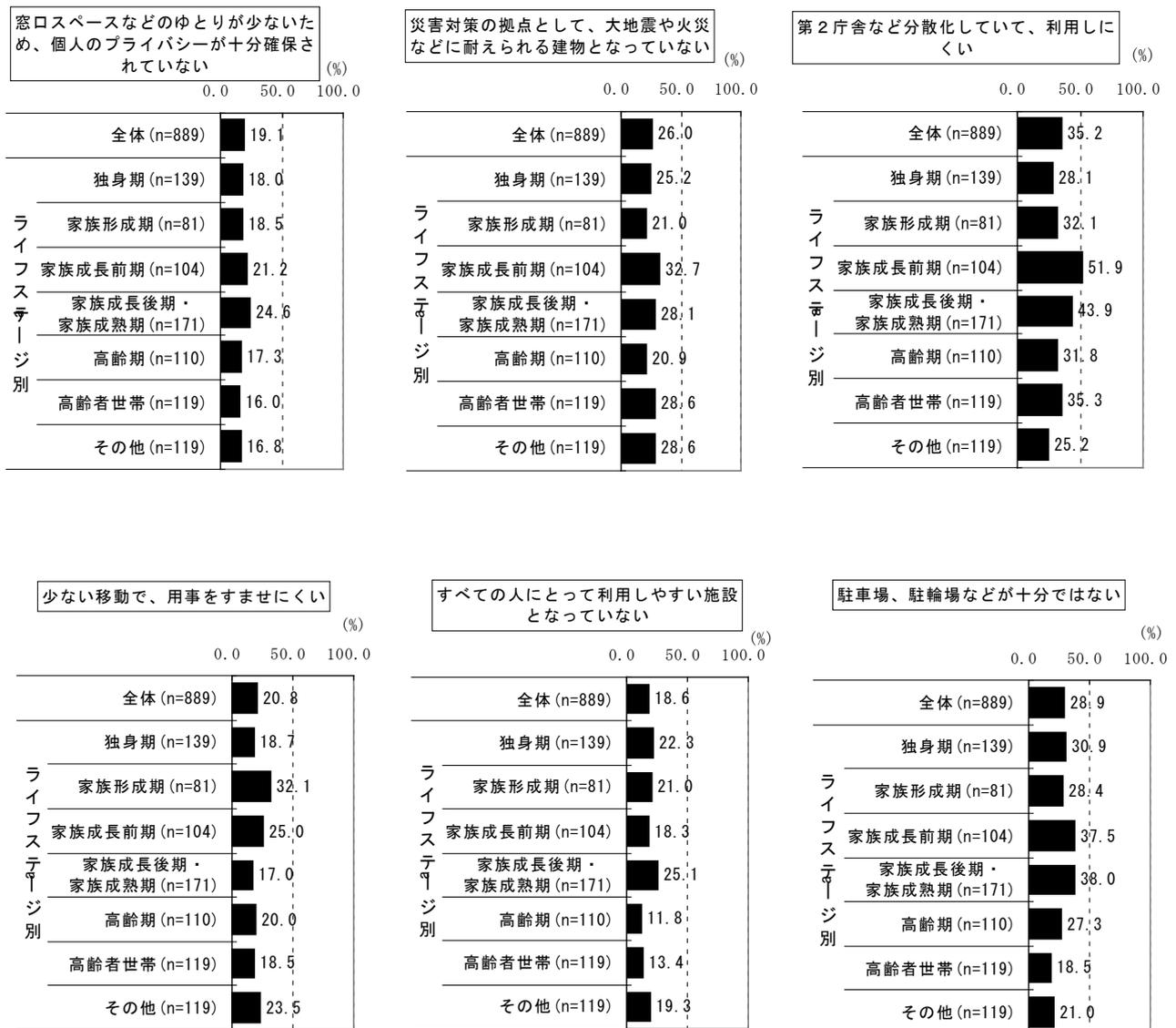
図3-5 市庁舎の課題について／性・年代別



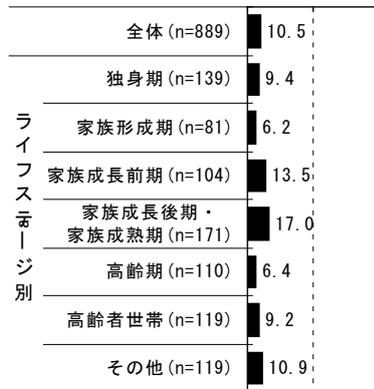


ライフステージ別でみると、「第2庁舎など分散化していて、利用しにくい」は「家族成長前期」で最も高く5割以上を占めており、次いで「家族成長後期・家族成熟期」の順となっている。「市民が利用できるロビーや憩いのスペースなどが少ない」は「家族形成期」で最も高く、3割半ばを占めており、「独身期」と「高齢者世帯」を除くすべてのライフステージで3割以上を占めている。「駐車場、駐輪場などが十分ではない」は「家族成長後期・家族成熟期」「家族成長前期」の順に高く、それぞれ約4割を占めている。〔図3-6〕

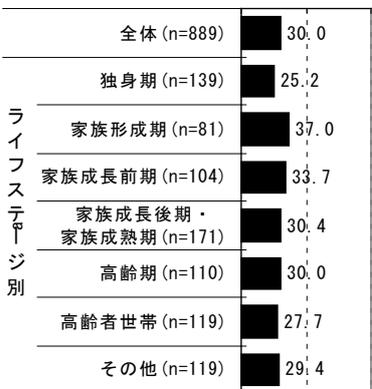
図3-6 市庁舎の課題について／ライフステージ別



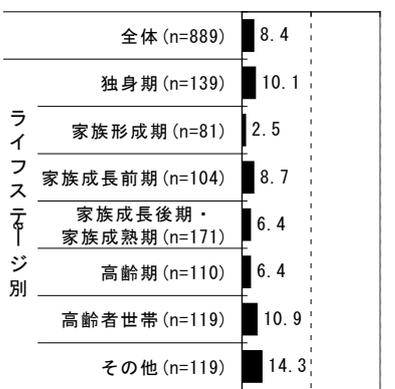
省エネルギーや省資源など環境に十分配慮していない (%)



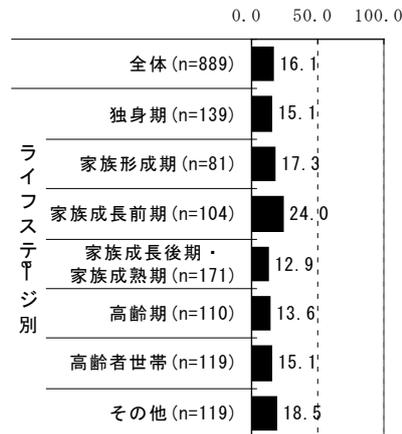
市民が利用できるロビーや憩いのスペースなどが少ない (%)



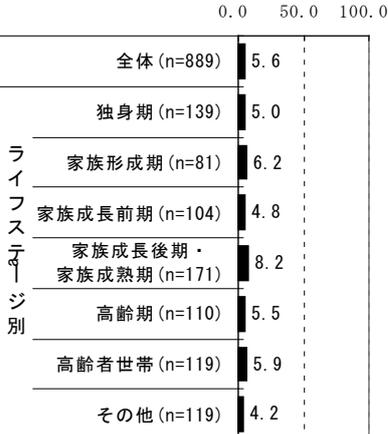
市のシンボルとなるようなデザインではない (%)



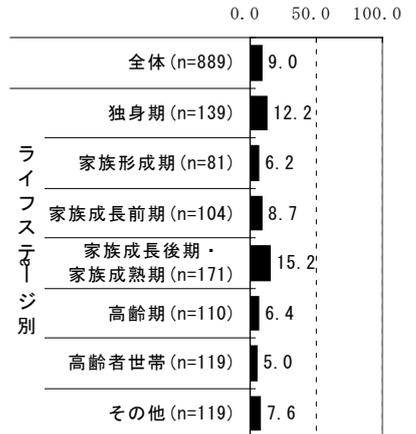
市役所以外の複合施設（市民利用施設等）が併設されていない (%)



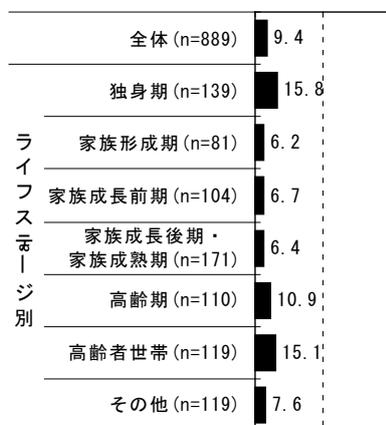
周囲の景観と調和していない (%)



市民サービスの向上に結びつく情報技術（IT）化に対応していない (%)



その他 (%)

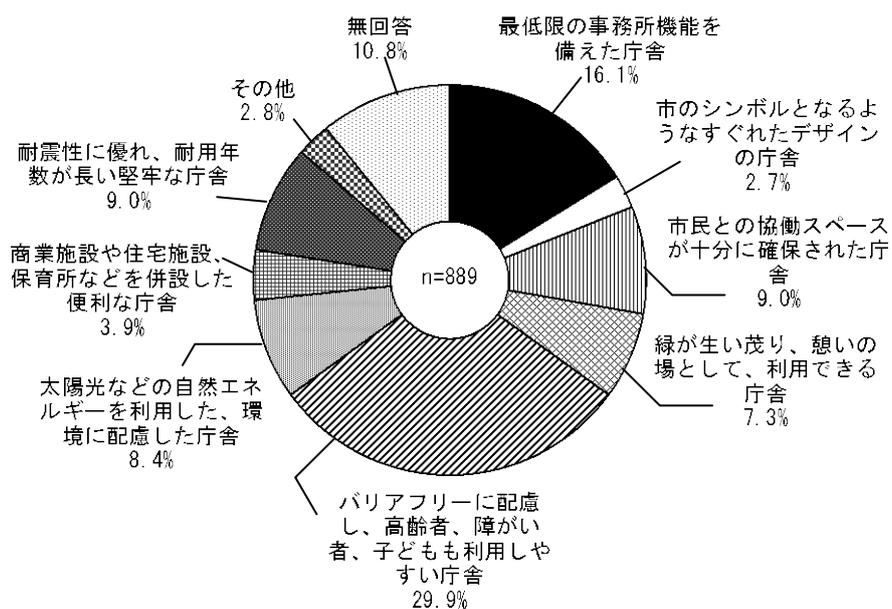


(3) 理想とする市庁舎像

「バリアフリーに配慮し、高齢者、障がい者、子どもも利用しやすい庁舎」が3割近くを占めて、最も高くなっている。

問 11. あなたは、どのような庁舎が理想だと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。(n=889)

図 3-7 理想とする市庁舎像



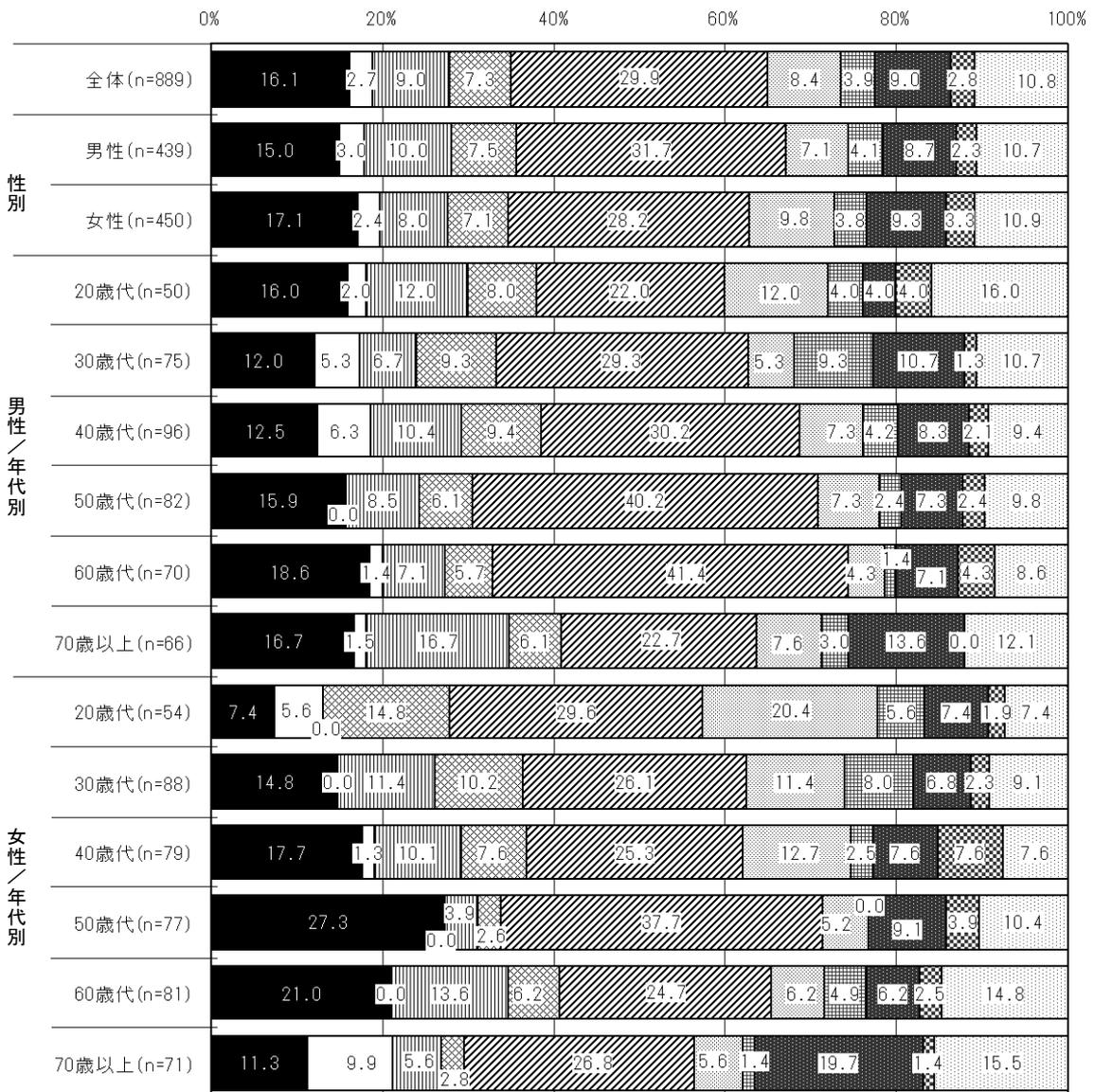
理想とする庁舎像については、「バリアフリーに配慮し、高齢者、障がい者、子どもも利用しやすい庁舎」(29.9%)が最も高く、次いで「最低限の事務所機能を備えた庁舎」(16.1%)、「市民との協働スペースが十分に確保された庁舎」(9.0%)、「耐震性に優れ、耐用年数が長い堅牢な庁舎」(9.0%)の順となっている。〔図 3-7〕

性別でみると、「男性」「女性」とともに、「バリアフリーに配慮し、高齢者、障がい者、子どもも利用しやすい庁舎」「最低限の事務所機能を備えた庁舎」の順に高くなっている。

年代別でみると、「バリアフリーに配慮し、高齢者、障がい者、子どもも利用しやすい庁舎」は「男性」の「60歳代」「50歳代」の順に高く、それぞれ4割を越えている。「最低限の事務所機能を備えた庁舎」は「女性」の「50歳代」で最も高く、2割半ばを占めている。

〔図 3-8〕

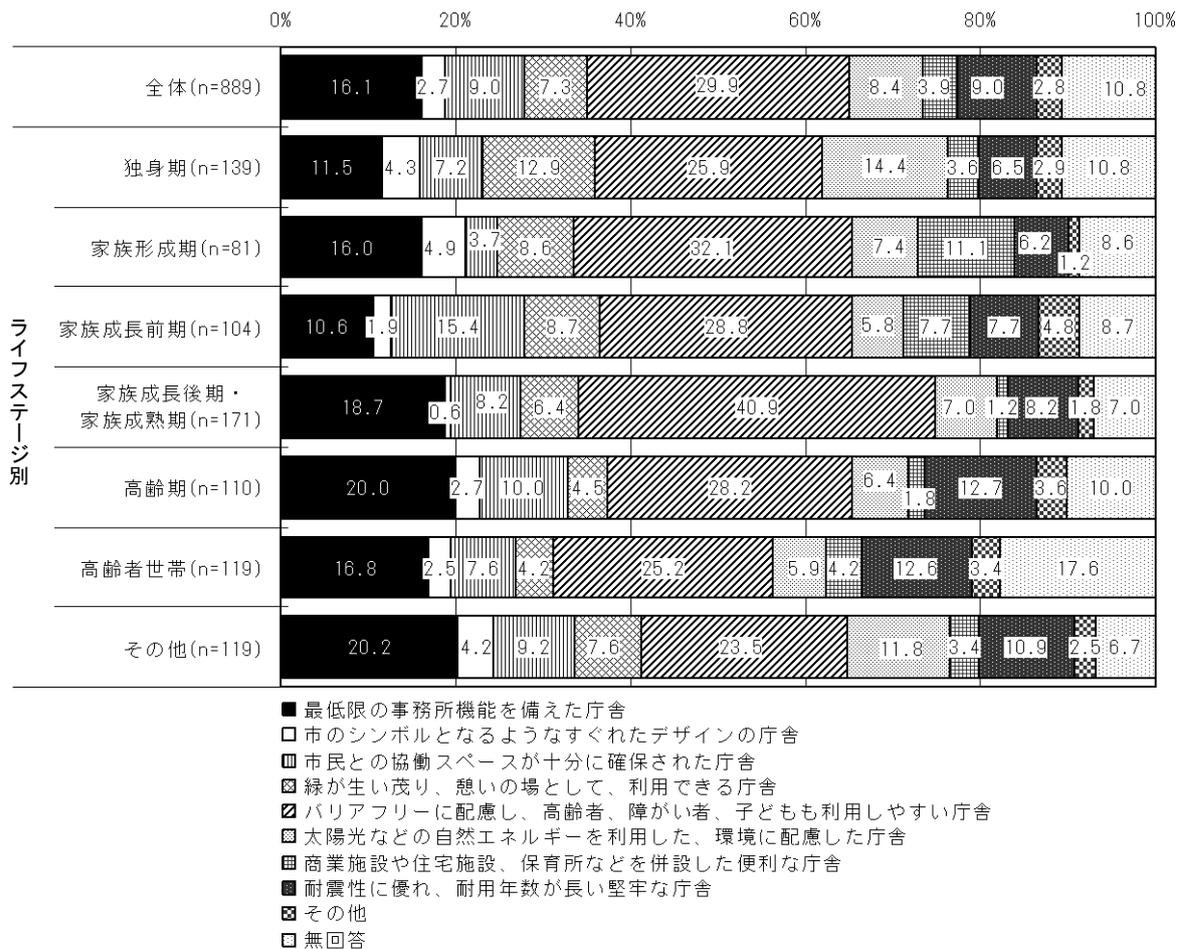
図 3-8 理想とする市庁舎像／性・年代別



- 最低限の事務所機能を備えた庁舎
- 市のシンボルとなるようなすぐれたデザインの庁舎
- ▨ 市民との協働スペースが十分に確保された庁舎
- ▩ 緑が生い茂り、憩いの場として、利用できる庁舎
- ▧ バリアフリーに配慮し、高齢者、障がい者、子どもも利用しやすい庁舎
- ▦ 太陽光などの自然エネルギーを利用した、環境に配慮した庁舎
- ▤ 商業施設や住宅施設、保育所などを併設した便利な庁舎
- ▣ 耐震性に優れ、耐用年数が高い堅牢な庁舎
- ▢ その他
- 無回答

ライフステージ別でみるとすべてのライフステージで「バリアフリーに配慮し、高齢者、障がい者、子どもも利用しやすい庁舎」が最も高く、「家族成長後期・家族成熟期」では4割以上となっている。「最低限の事務所機能を備えた庁舎」は「高齢期」で最も高く、「市民との協働スペースが十分に確保された庁舎」は「家族成長前期」で最も高くなっている。
〔図 3-9〕

図 3-9 理想とする市庁舎像／ライフステージ別



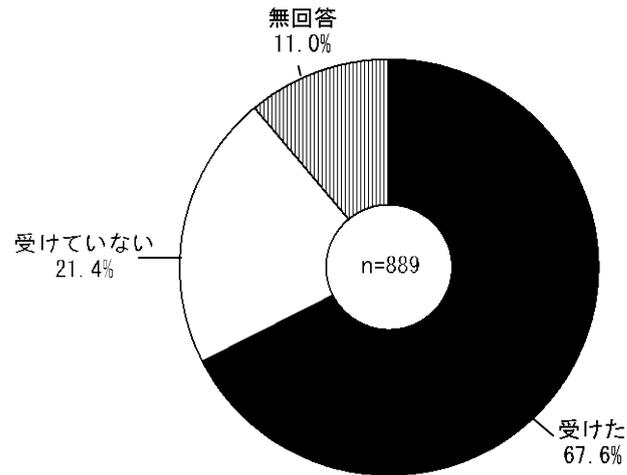
4 健康診断

(1) 過去1年の健康診断受診状況

「受けた」が7割近くを占めている。

問 12. あなたは過去1年間に、健康診断を受けましたか。次の中から1つだけ選んでください。(n=889)

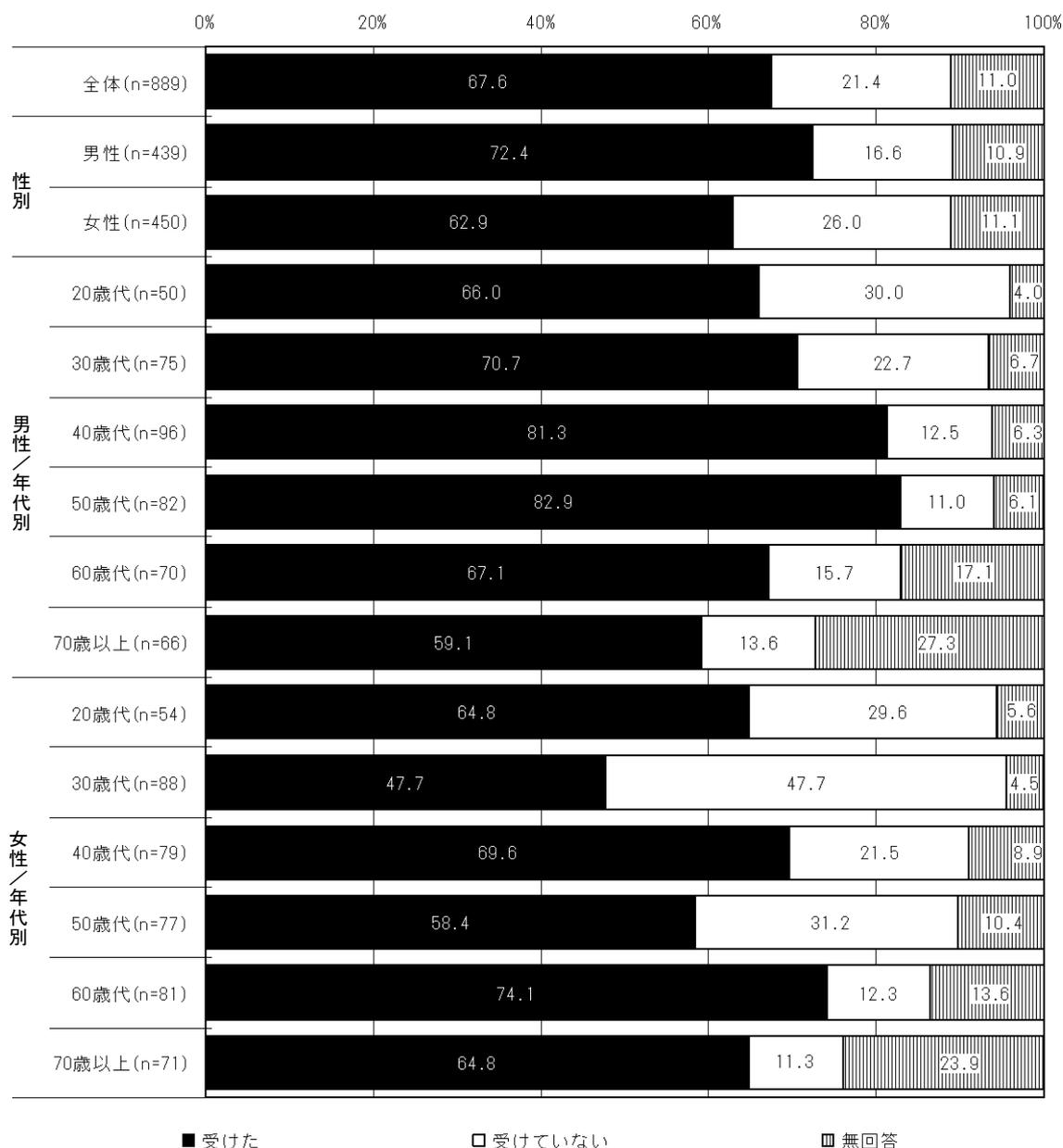
図 4-1 過去1年の健康診断受診状況



過去1年の健康診断受診状況は、「受けた」(67.6%)が「受けていない」(21.4%)を上回っている。[図 4-1]

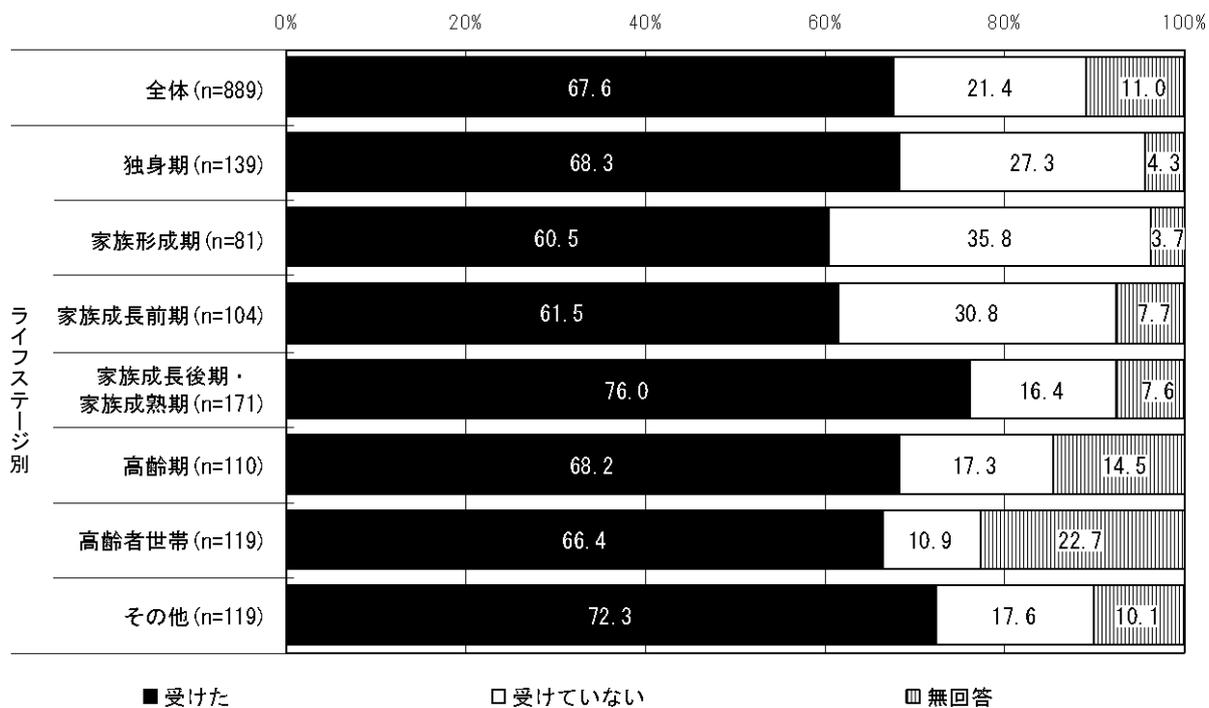
性別でみると、「受けた」は「男性」「女性」とともに「受けていない」を上回っており、「男性」が「女性」より高くなっている。年代別でみると、「受けた」は「男性」の「50 歳代」「40 歳代」の順に高く、それぞれ8割以上を占めている。「受けていない」は「女性」の「30 歳代」で最も高く、5割近くを占めており、次いで「女性」の「50 歳代」「男性」の「20 歳代」の順となっている。〔図 4-2〕

図 4-2 過去1年の健康診断受診状況／性・年代別



ライフステージ別で見ると、「受けた」は全てのライフステージで6割以上を占めており、「家族成長後期・家族成熟期」で最も高く、7割半ばを占めている。「受けていない」は「家族形成期」「家族成長前期」の順に高く、それぞれ3割以上を占めている。〔図 4-3〕

図 4-3 過去1年の健康診断受診状況／ライフステージ別



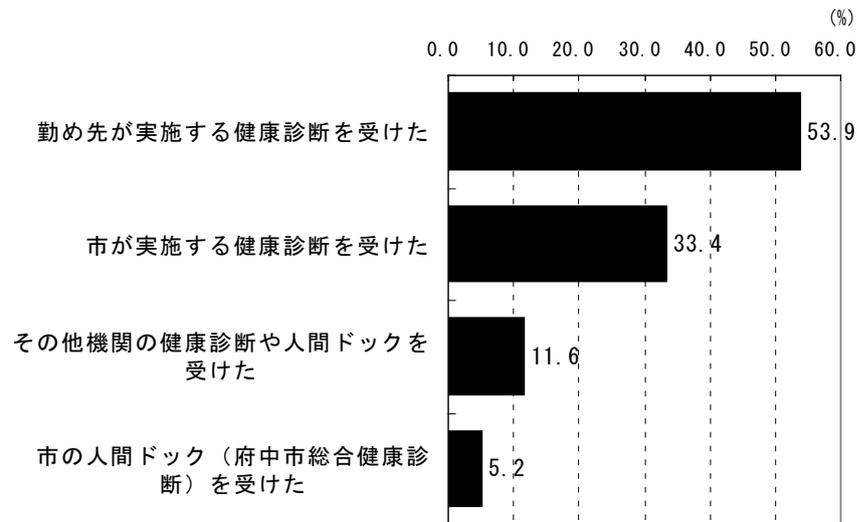
(2) 過去1年に受診した健康診断の内容

「勤め先が実施する健康診断を受けた」が最も高く、5割半ばを占めている。

〔問12で「1」とお答えの方に〕

問12-1. あなたが過去1年間に受けた健康診断について、次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(n=601)

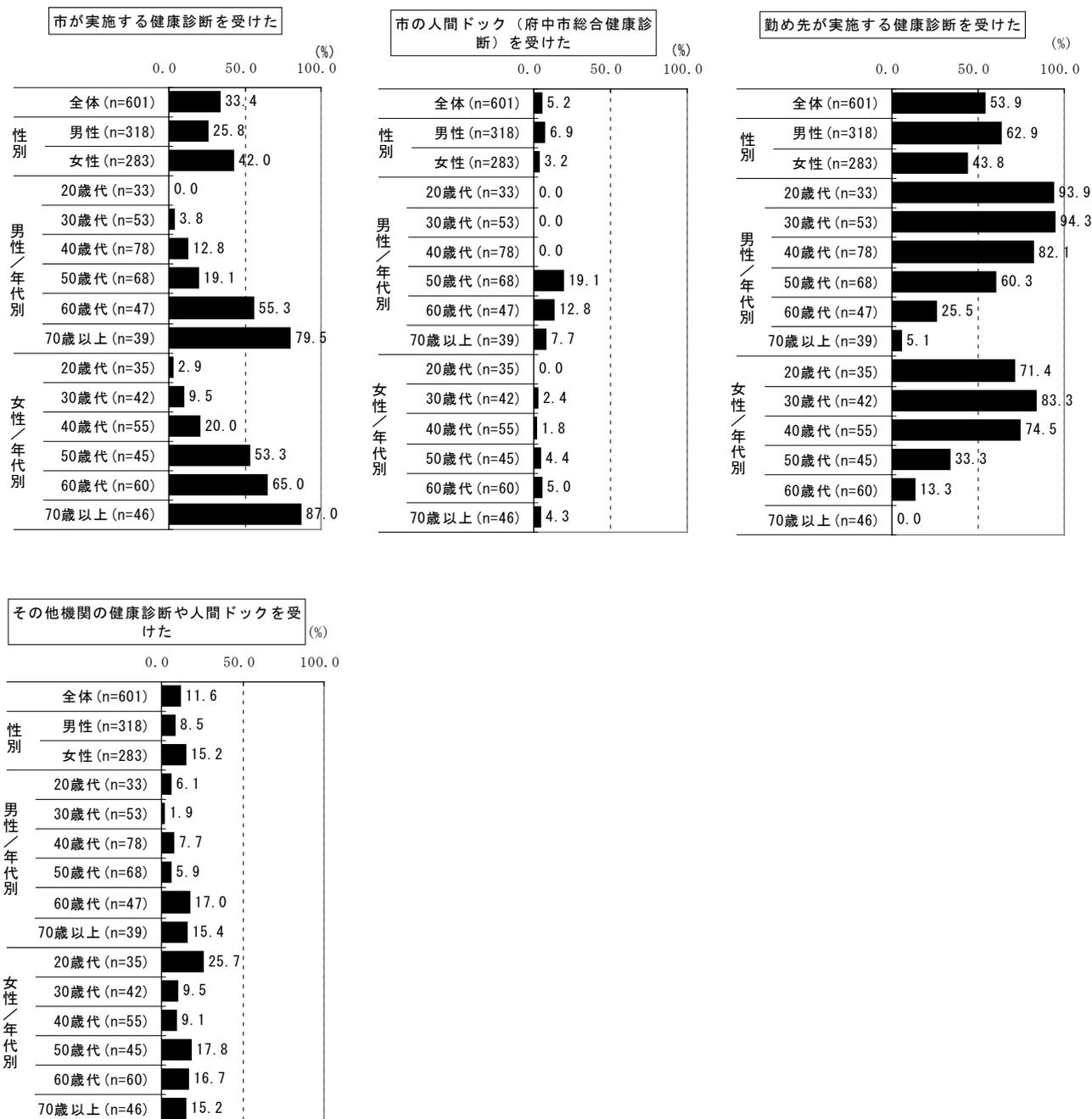
図4-4 過去1年に受診した健康診断の内容（複数回答）



過去1年に受診した健康診断の内容については、「勤め先が実施する健康診断を受けた」（53.9%）が最も高く、次いで「市が実施する健康診断を受けた」（33.4%）「その他機関の健康診断や人間ドックを受けた」（11.6%）の順となっている。〔図4-4〕

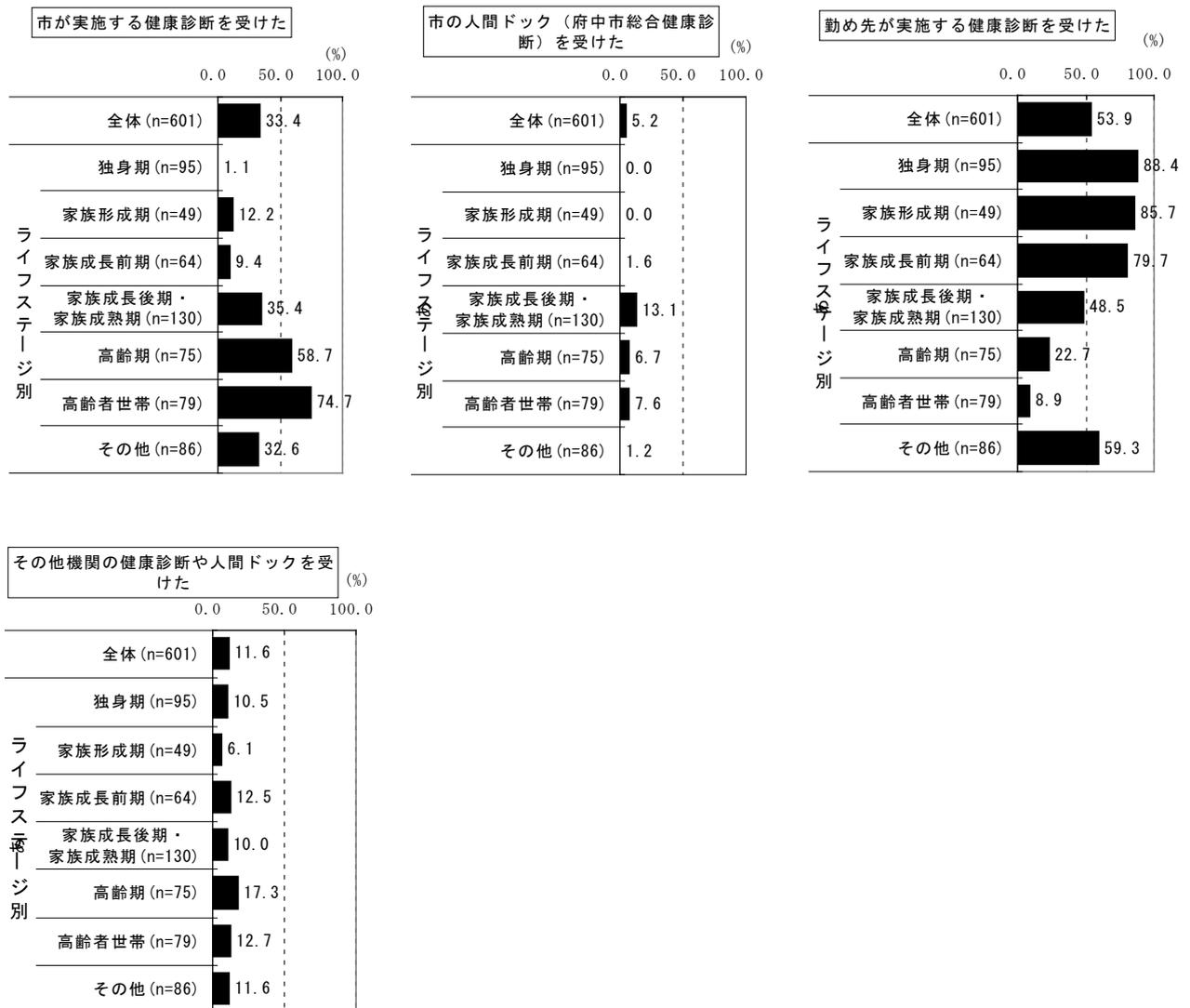
性別で見ると、「勤め先が実施する健康診断を受けた」は「男性」が「女性」より高く、6割半ばを占めており、「市が実施する健康診断を受けた」は「女性」が「男性」より高く、4割以上を占めている。年代別で見ると、「勤め先が実施する健康診断を受けた」は「男性」の「20歳代」「30歳代」で9割半ばと高く、年代が上がるにつれて低くなる傾向にある。一方、「市が実施する健康診断を受けた」は「女性」の「70歳以上」で8割半ば、「男性」の「70歳以上」で8割近くを占めており、年代が上がるにつれて高くなっている。〔図4-5〕

図4-5 過去1年に受診した健康診断の内容／性・年代別



ライフステージ別で見ると、「勤め先が実施する健康診断を受けた」は「独身期」「家族形成期」で8割以上と高くなっており、ライフステージが上がるにつれて低くなっている。「市が実施する健康診断を受けた」は「高齢者世帯」で7割半ばと最も高くなっており、ライフステージが上がるにつれて高くなっている。〔図4-6〕

図4-6 過去1年に受診した健康診断の内容／ライフステージ別



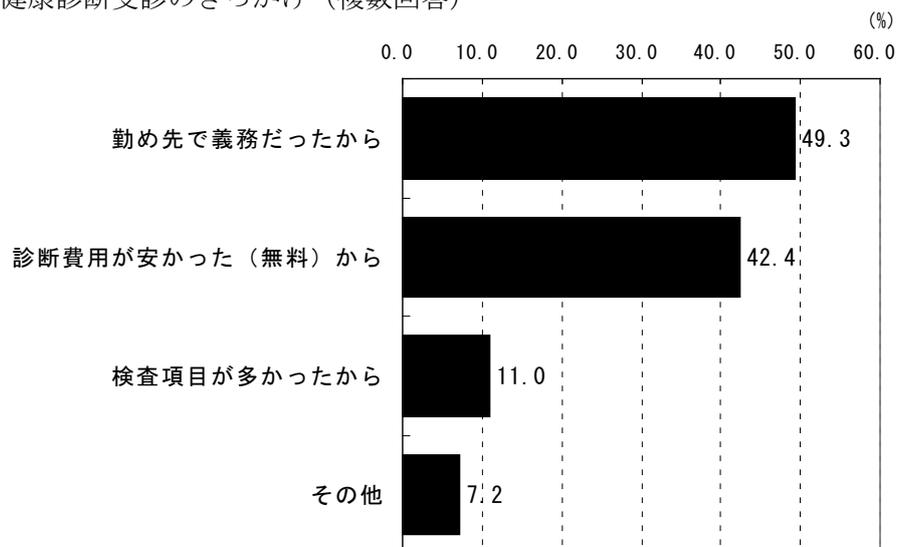
(3) 健康診断受診のきっかけ

「勤め先で義務だったから」と「診断費用が安かった（無料）から」がそれぞれ4割以上を占めている。

〔問12で「1」とお答えの方に〕

問12-2. そこで受診しようと思った理由について、次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(n=601)

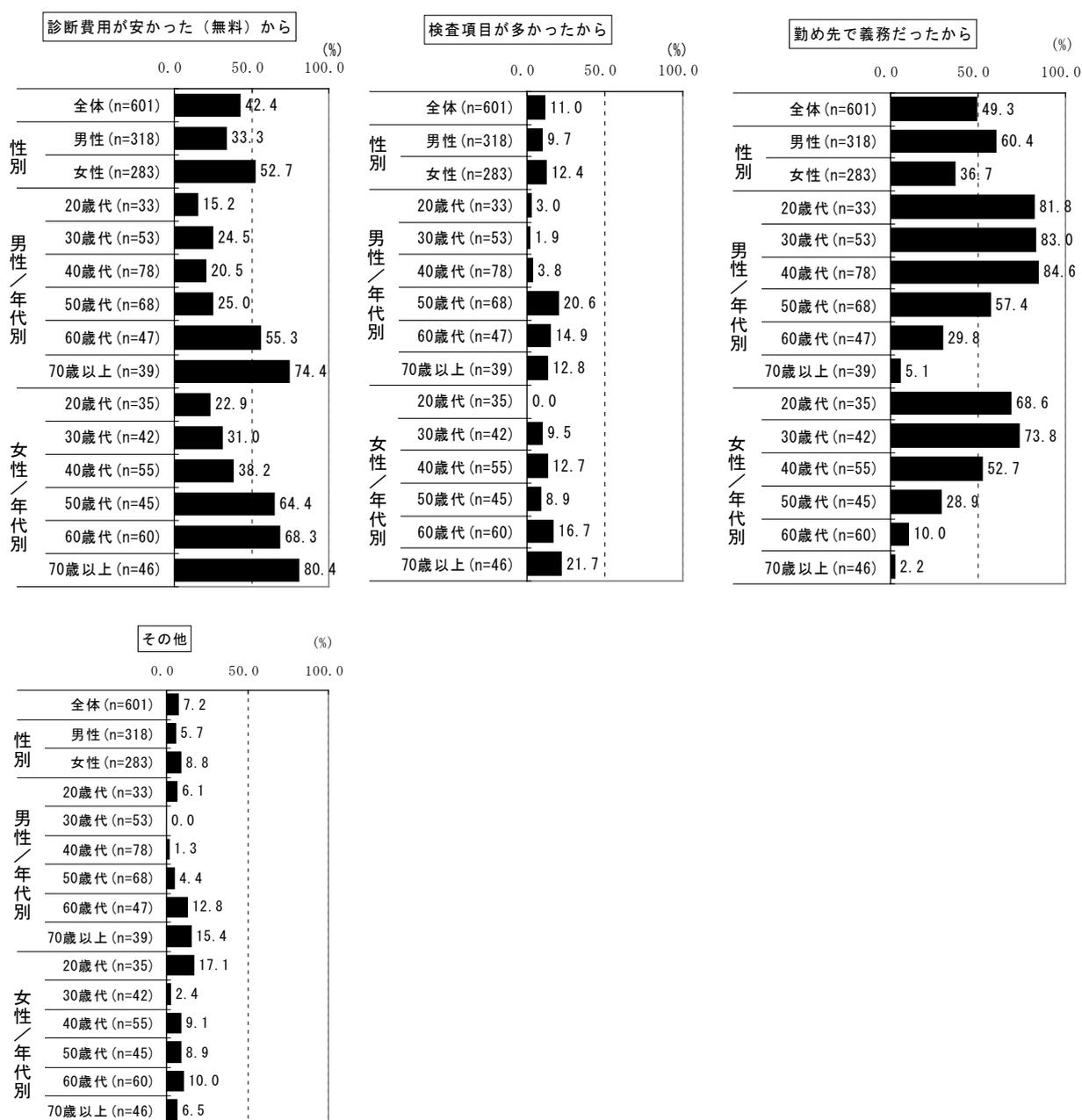
図4-7 健康診断受診のきっかけ（複数回答）



健康診断受診のきっかけについては、「勤め先で義務だったから」(49.3%)が最も高く、次いで「診断費用が安かった（無料）から」(42.4%)となっている。〔図4-7〕

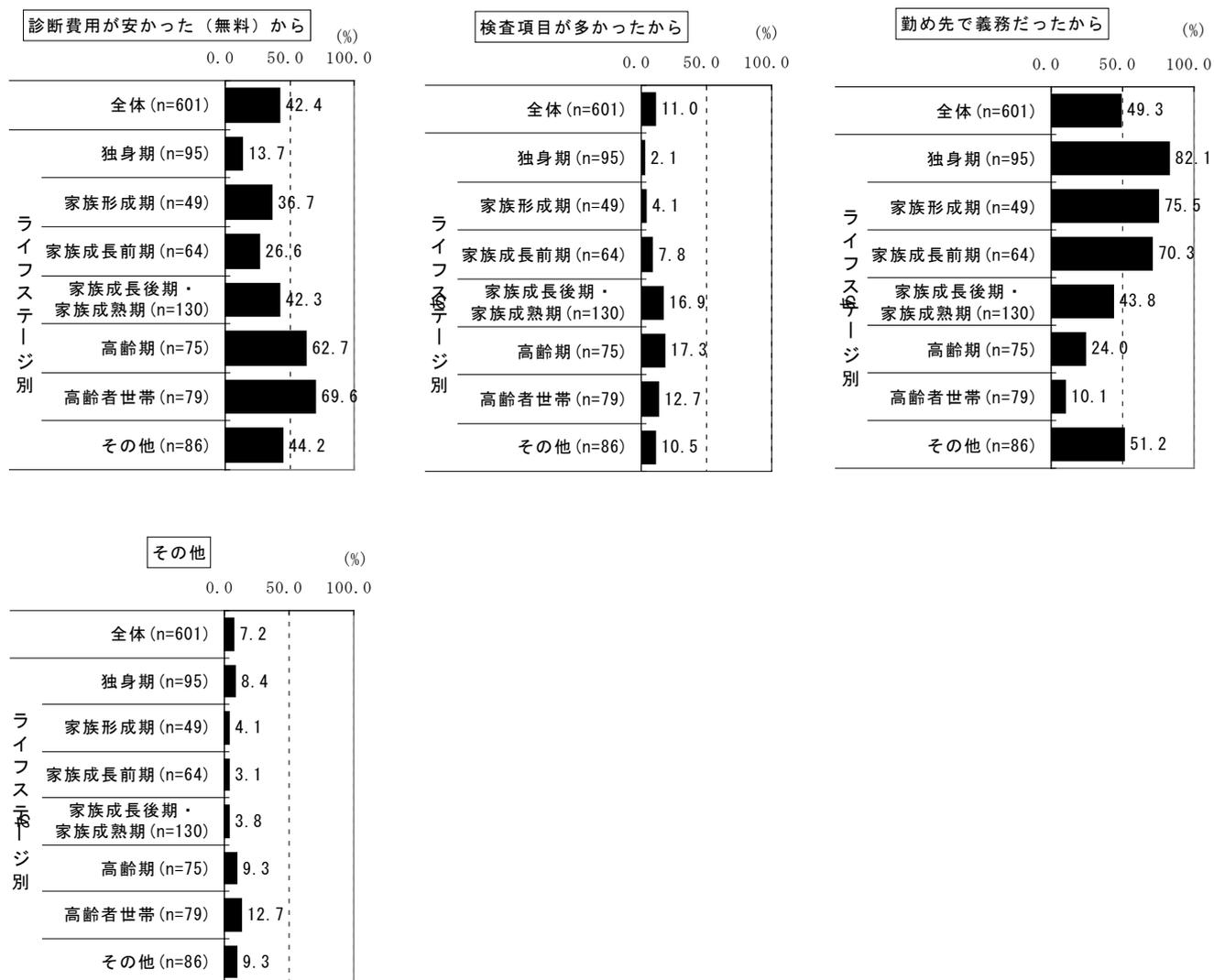
性別で見ると、「勤め先で義務だったから」は「男性」が「女性」より高く6割以上を占めており、「診断費用が安かった（無料）から」は「女性」が「男性」より高く、5割半ばを占めている。年代別で見ると、「勤め先で義務だったから」は「男性」の「20歳代」から「40歳代」で8割以上と高く、「女性」の「20歳代」「30歳代」でも約7割を占め、年代が低いほど高い傾向にある。「診断費用が安かった（無料）から」は「女性」の「70歳以上」が8割以上と最も高く、次いで「男性」の「70歳以上」が7割半ばと高くなっており、年代が上がるにつれて高くなる傾向にある。〔図4-8〕

図4-8 健康診断受診のきっかけ／性・年代別



ライフステージ別でみると、「勤め先で義務だったから」は「独身期」で8割以上と最も高く、ライフステージが低くなるにつれて高くなる傾向にある。「診断費用が安かった（無料）から」は「高齢者世帯」で約7割と最も高く、ライフステージが上がるにつれて高くなる傾向にある。〔図 4-9〕

図 4-9 健康診断受診のきっかけ／ライフステージ別



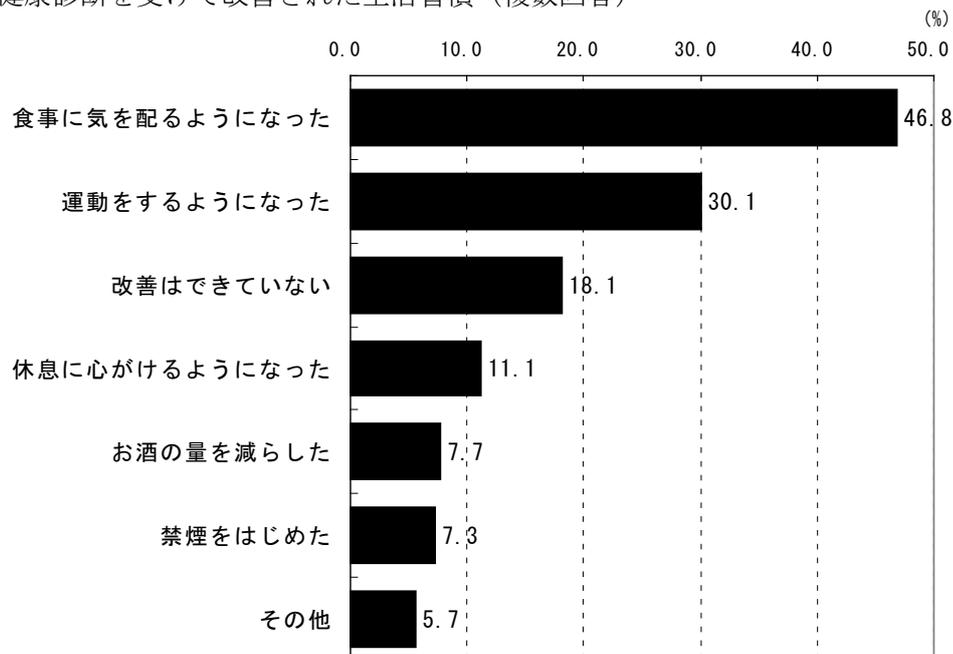
(4) 健康診断を受けて改善された生活習慣

「食事に気を配るようになった」が最も高く、4割半ばを占めている。

〔問12で「1」とお答えの方に〕

問12-3. 健康診断の結果を受けて改善された生活習慣はありますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(n=601)

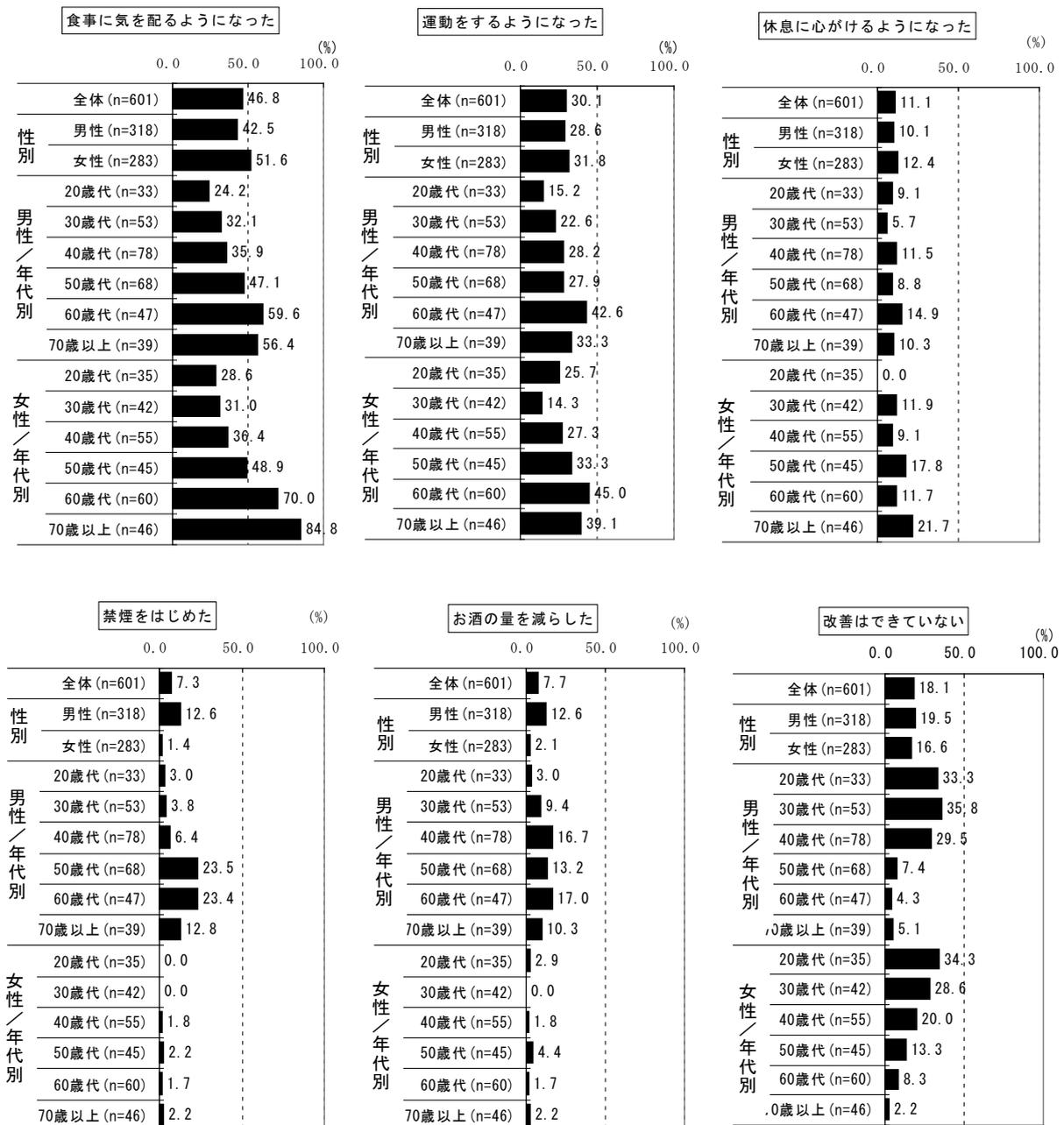
図4-10 健康診断を受けて改善された生活習慣（複数回答）



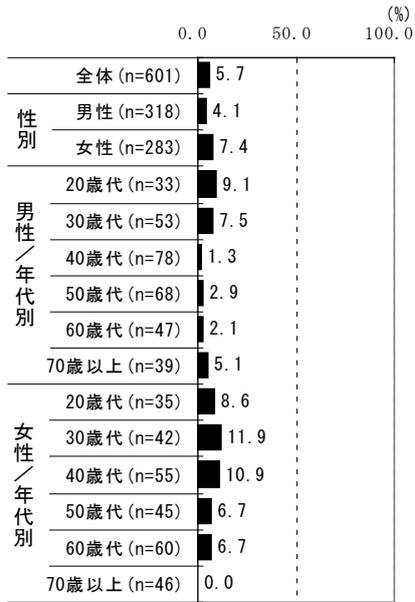
健康診断を受けて改善された生活習慣については、「食事に気を配るようになった」(46.8%)が最も高く、次いで「運動をするようになった」(30.1%)「改善はできていない」(18.1%)の順となっている。〔図4-10〕

性別で見ると、「男性」「女性」とともに「食事に気を配るようになった」「運動をするようになった」の順に高く、「禁煙をはじめた」「お酒の量を減らした」は「男性」が「女性」より高くなっている。年代別で見ると、「食事に気を配るようになった」は「女性」の「70歳以上」で8割半ばと最も高く、年代が上がるにつれて高い傾向にある。「運動をするようになった」は「男性」「女性」とともに「60歳代」で4割以上と高くなっている。「改善はできていない」は「男性」の「30歳代」で最も高く、「男性」「女性」とともに低い年代で高い傾向にある。〔図4-11〕

図4-11 健康診断を受けて改善された生活習慣／性・年代別

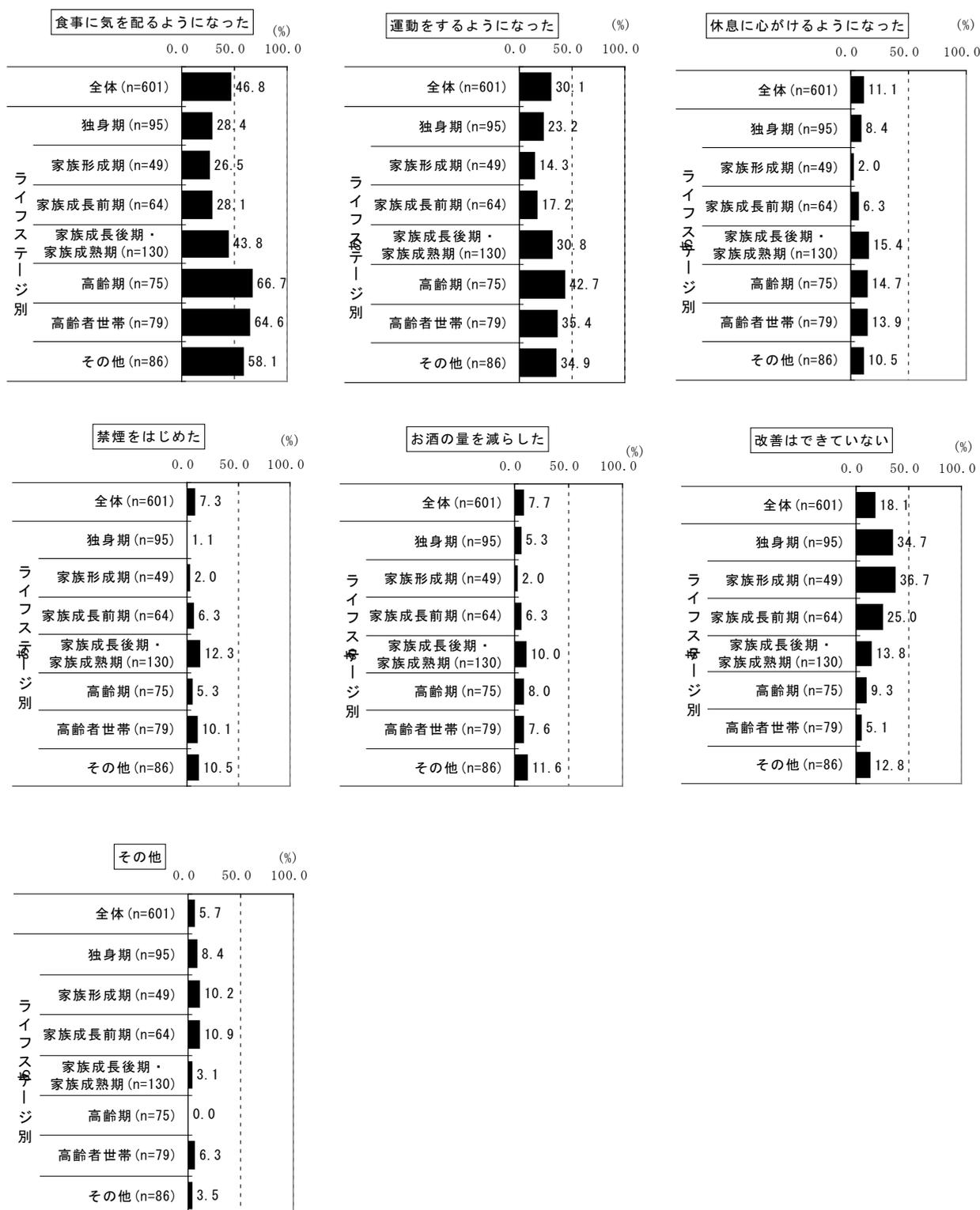


その他



ライフステージ別でみると、「食事に気を配るようになった」は「高齢期」「高齢者世帯」で6割半ば、「運動をするようになった」は「高齢期」で4割半ばと高くなっており、両項目ともにライフステージが上がるにつれて、高くなる傾向がみられる。「改善はできていない」は「家族形成期」「独身期」の順に高く、それぞれ3割半ばを占めている。〔図 4-12〕

図 4-12 健康診断を受けて改善された生活習慣／ライフステージ別



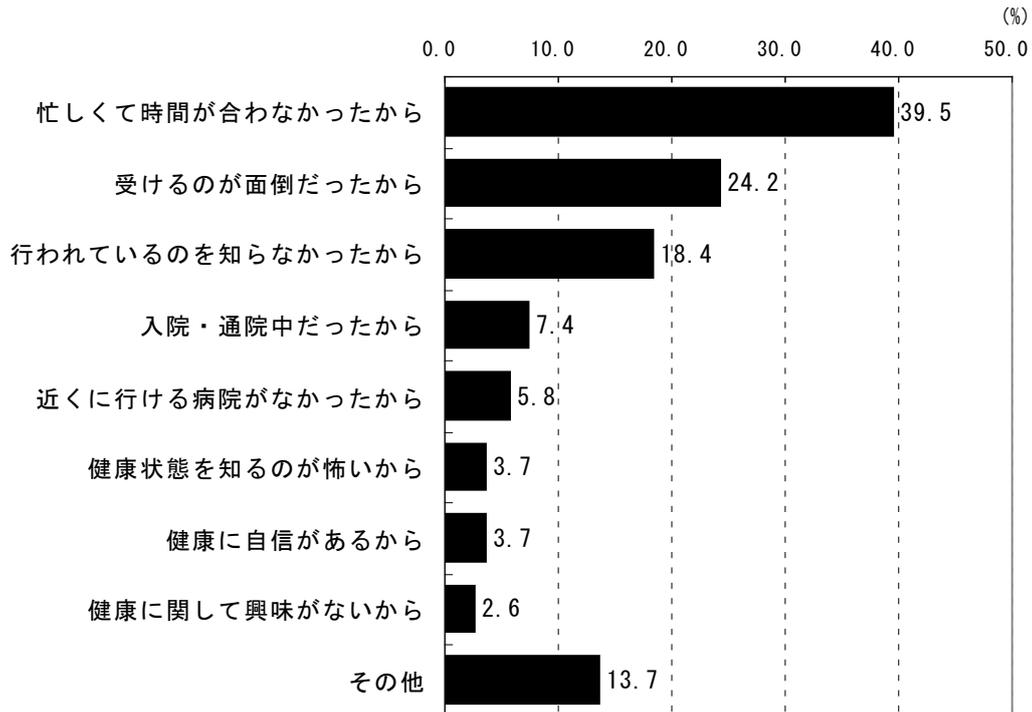
(5) 健康診断を受けなかった理由

「忙しくて時間が合わなかったから」が最も高く、4割近くを占めている。

〔問12で「2」とお答えの方に〕

問12-4. 健康診断を受けなかった理由について、次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(n=190)

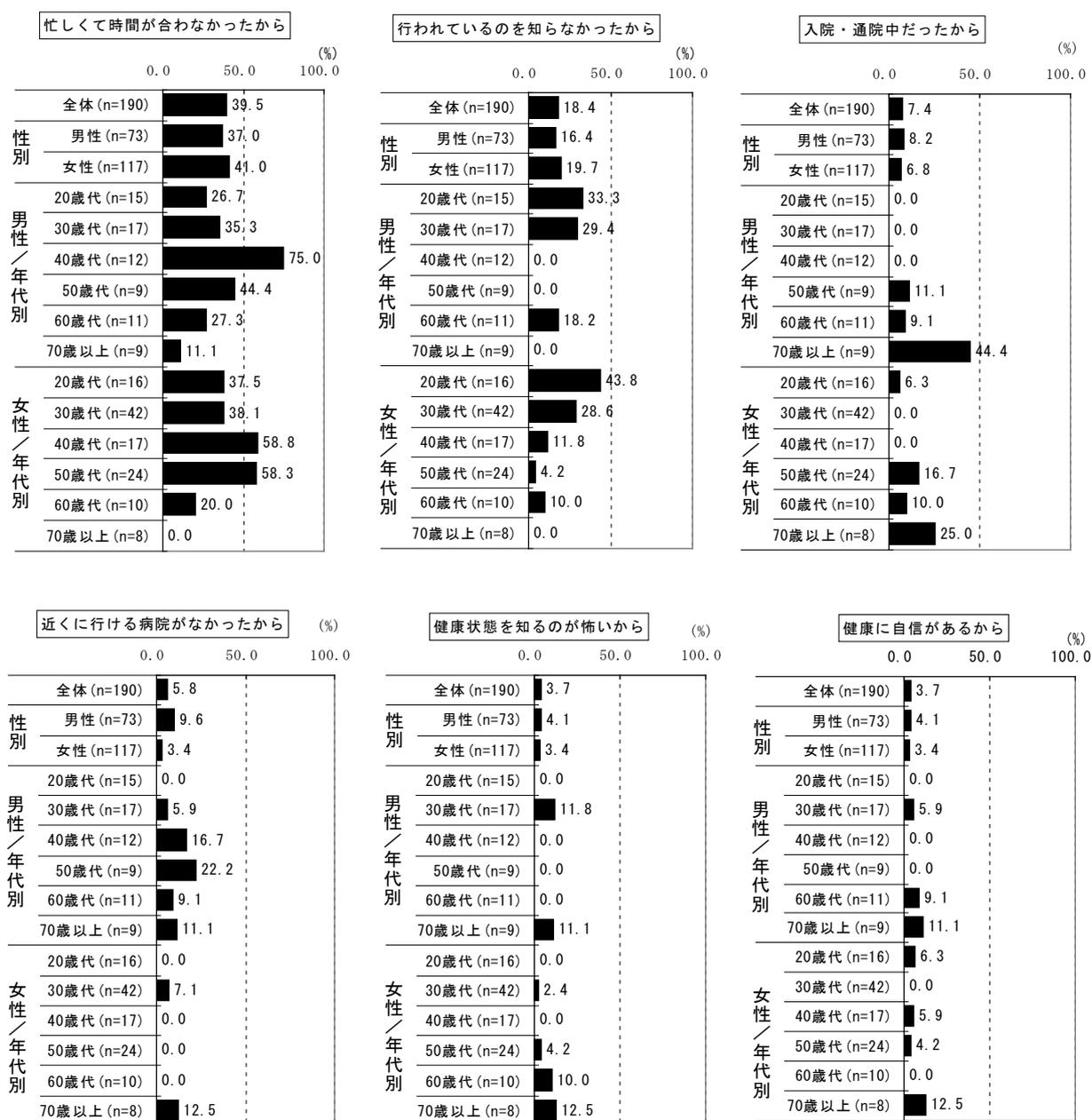
図4-13 健康診断を受けなかった理由（複数回答）



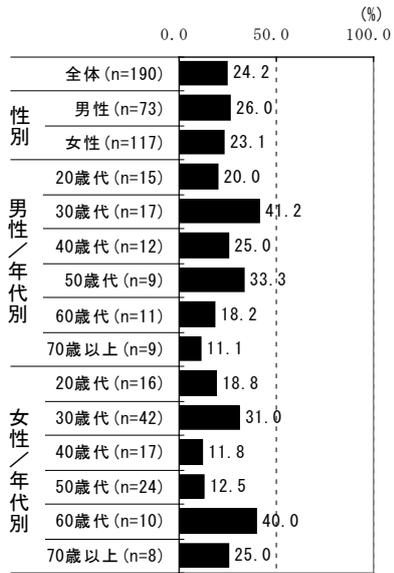
健康診断を受けなかった理由については、「忙しくて時間が合わなかったから」(39.5%)が最も高く、次いで「受けるのが面倒だったから」(24.2%)「行われているのを知らなかったから」(18.4%)の順となっている。〔図4-13〕

性別で見ると、「男性」「女性」とともに、「忙しくて時間が合わなかったから」「受けるのが面倒だったから」の順に高くなっている。年代別で見ると、「忙しくて時間が合わなかったから」は「男性」の「40歳代」で7割半ばと最も高く、「男性」「女性」とともに「40歳代」と「50歳代」で高くなっている。「受けるのが面倒だったから」は「男性」の「30歳代」と「女性」の「60歳代」で4割以上と高くなっている。「行われているのを知らなかったから」は「男性」「女性」とともに「20歳代」と「30歳代」で高くなっている。〔図4-14〕

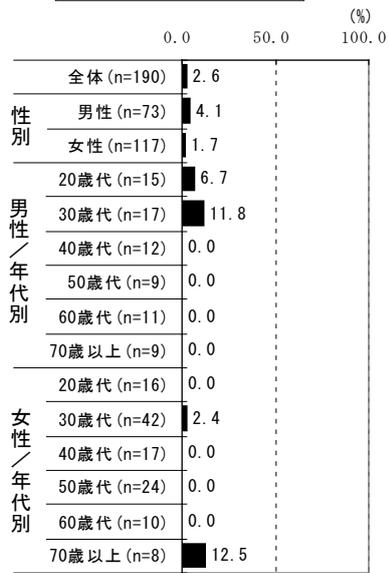
図4-14 健康診断を受けなかった理由／性・年代別



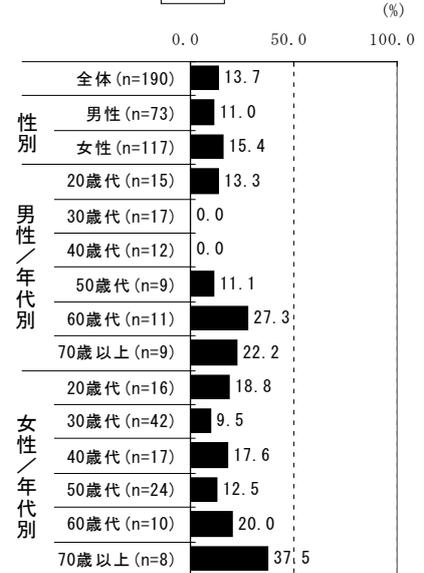
受けるのが面倒だったから



健康に関して興味が無いから

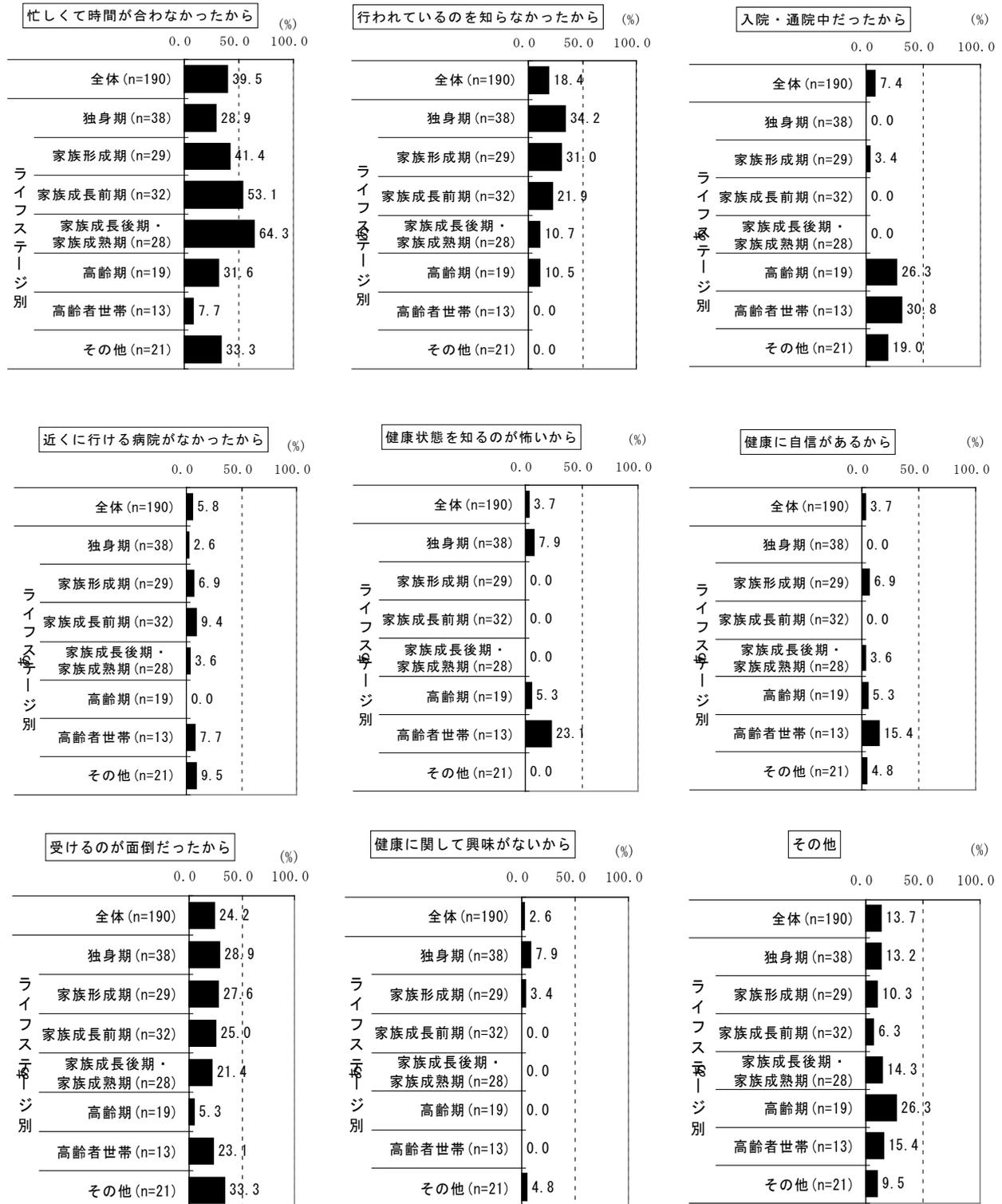


その他



ライフステージ別でみると、「忙しくて時間が合わなかったから」は「家族成長後期・家族成熟期」で6割半ばと最も高くなっている。「受けるのが面倒だったから」は「高齢期」を除くすべてのライフステージで2割以上を占めている。「行われているのを知らなかったから」は「独身期」で3割半ばと最も高く、ライフステージが上がるにつれて低くなっている。〔図 4-15〕

図 4-15 健康診断を受けなかった理由／ライフステージ別



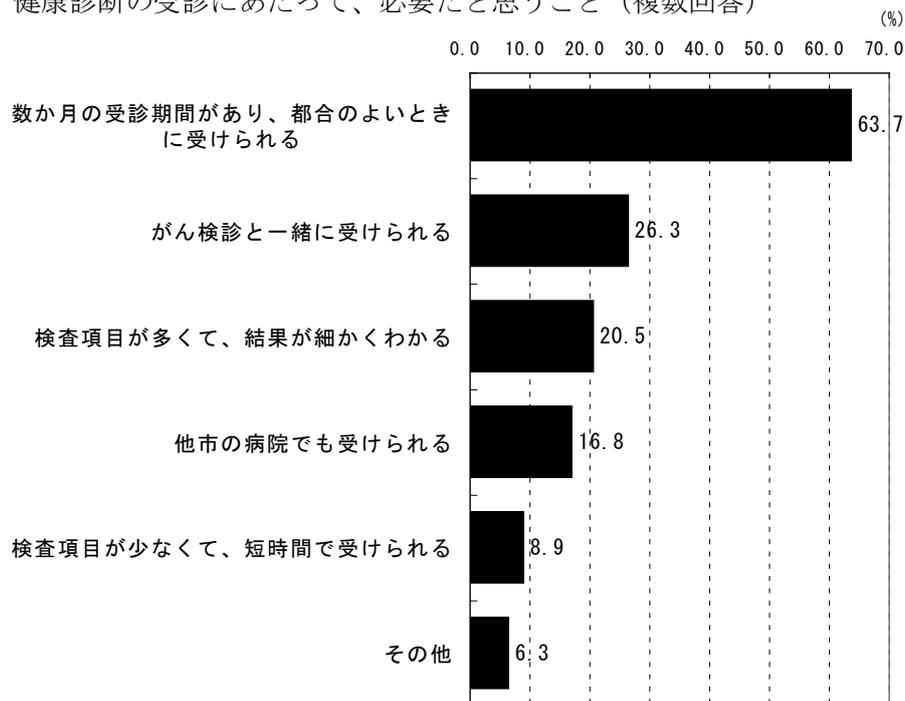
(6) 健康診断の受診にあたって、必要だと思うこと

「数か月の受診期間があり、都合のよいときに受けられる」が最も高く、6割半ばを占めている。

〔問 12 で「2」とお答えの方に〕

問 12-5. あなたが健康診断を受けてもよいと思うために、何が**必要だ**と思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(n=190)

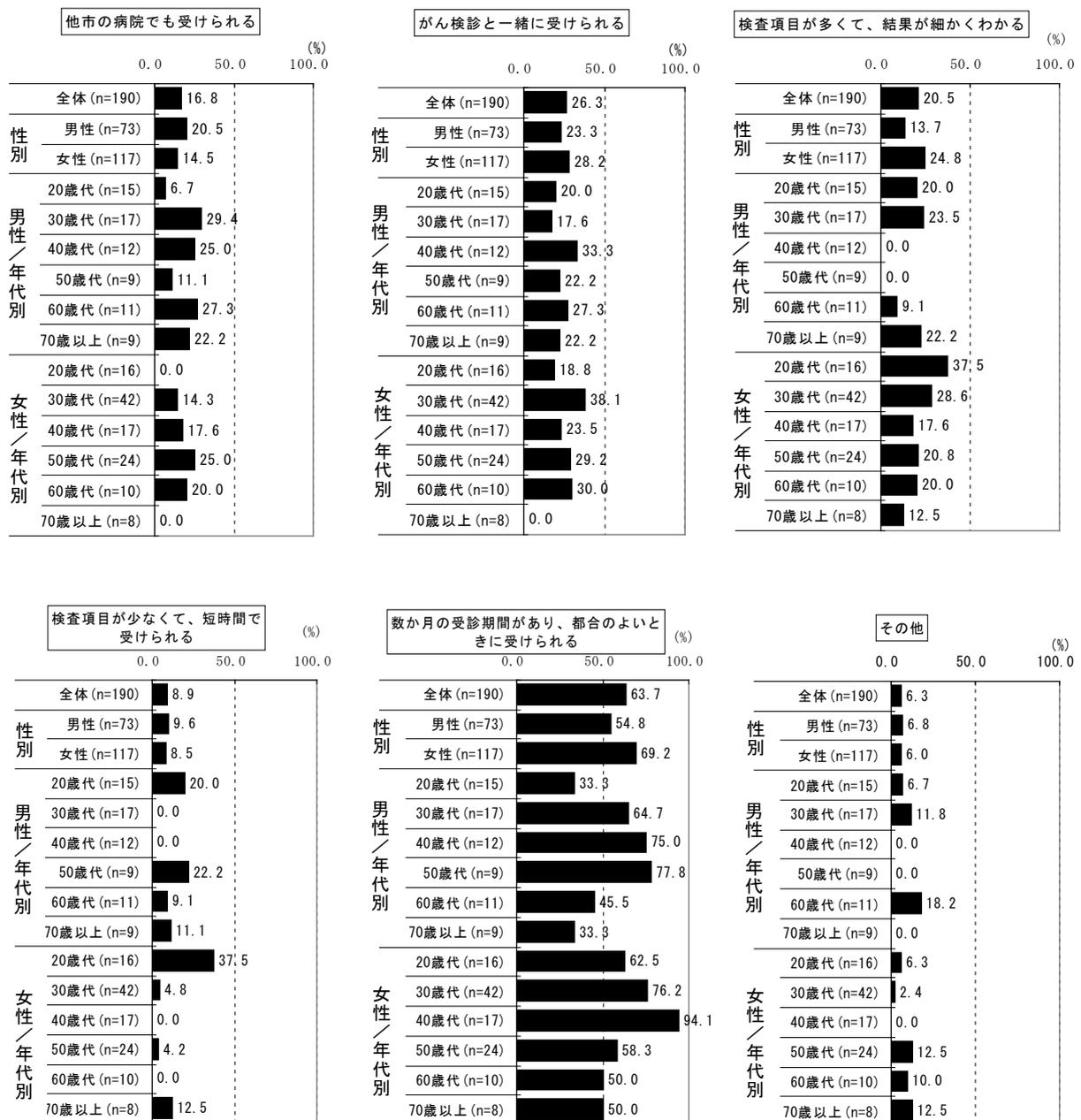
図 4-16 健康診断の受診にあたって、必要だと思うこと (複数回答)



健康診断の受診にあたって、必要だと思うことについては、「数か月の受診期間があり、都合のよいときに受けられる」(63.7%)が最も高く、次いで「がん検診と一緒に受けられる」(26.3%)「検査項目が多くて、結果が細かくわかる」(20.5%)の順となっている。〔図 4-16〕

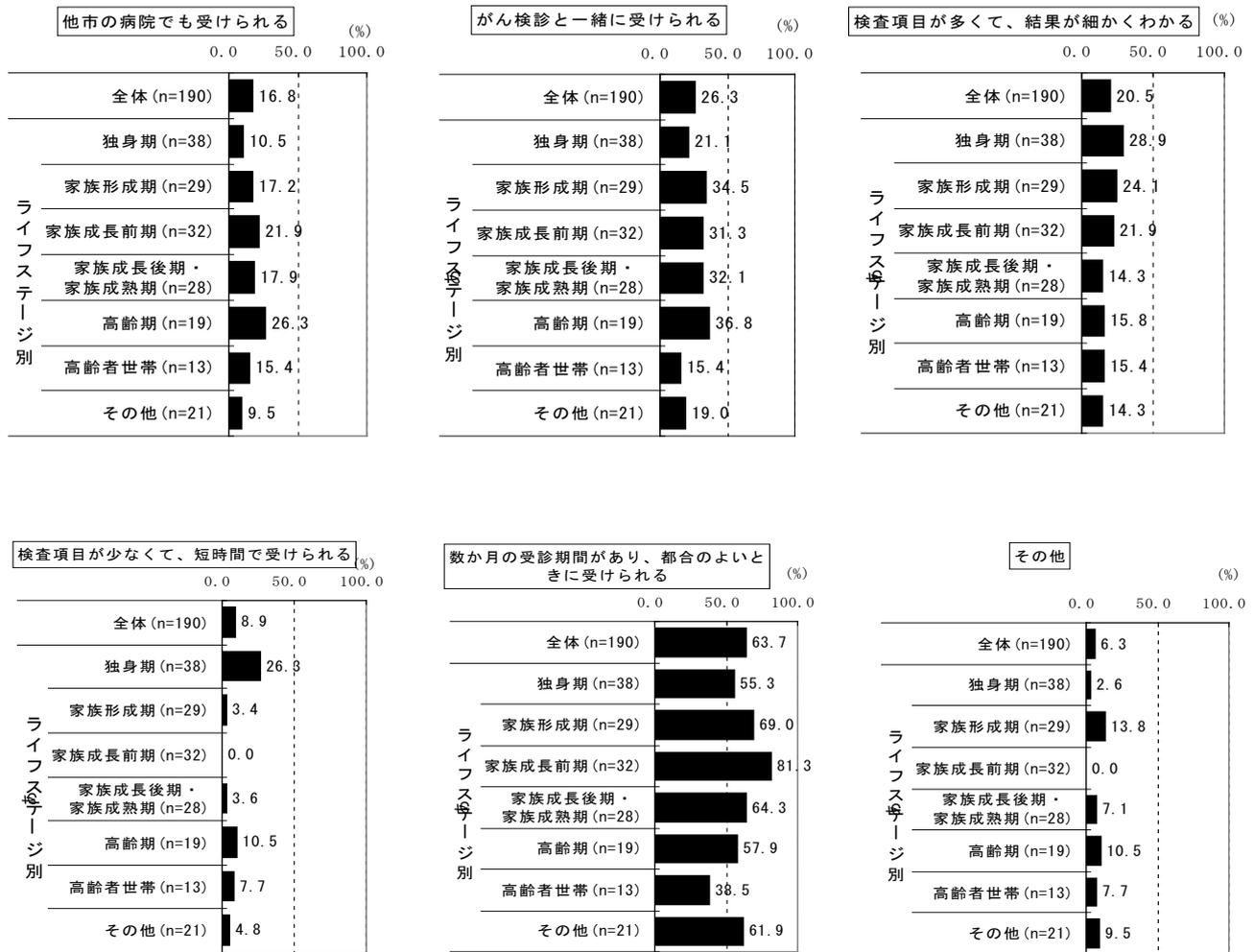
性別で見ると、「男性」「女性」とともに「数か月の受診期間があり、都合のよいときに受けられる」「がん検診と一緒に受けられる」の順に高くなっており、「数か月の受診期間があり、都合のよいときに受けられる」は「女性」が「男性」より高くなっている。年代別で見ると、「数か月の受診期間があり、都合のよいときに受けられる」は「女性」の「40歳代」で9割半ばと最も高く、「男性」の「40歳代」「50歳代」と「女性」の「30歳代」で7割以上と高くなっている。〔図4-17〕

図4-17 健康診断の受診にあたって、必要だと思うこと／性・年代別



ライフステージ別でみると、「数か月の受診期間があり、都合のよいときに受けられる」は「家族成長前期」で8割以上と最も高く、「高齢者世帯」を除くすべてのライフステージで5割以上を占めている。「がん検診と一緒に受けられる」は「家族形成期」から「高齢期」で3割以上を占めている。〔図 4-18〕

図 4-18 健康診断の受診にあたって、必要だと思うこと／ライフステージ別

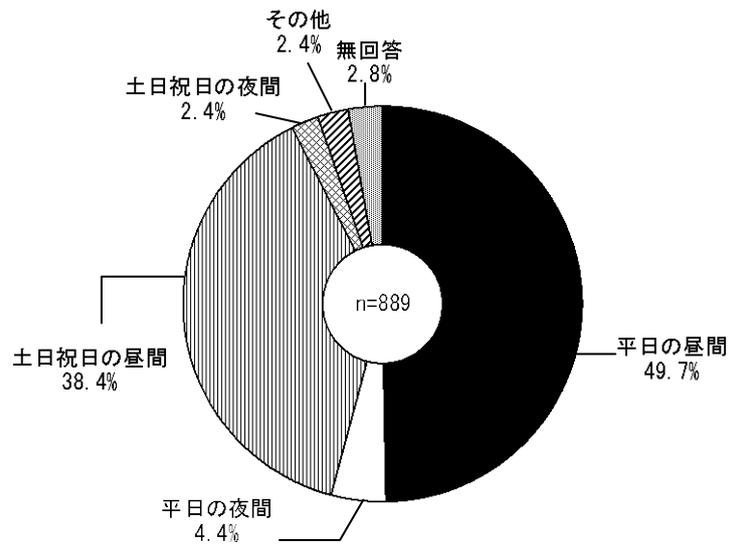


(7) 健康診断を受診しやすい日時

「平日の昼間」が最も高く、5割近くを占めており、次いで「土日祝日の昼間」が高い。

問 13. 健康診断を受診するとしたら、どの日時が最も受診しやすいですか。次の中から1つだけ選んでください。(n=889)

図 4-19 健康診断を受診しやすい日時

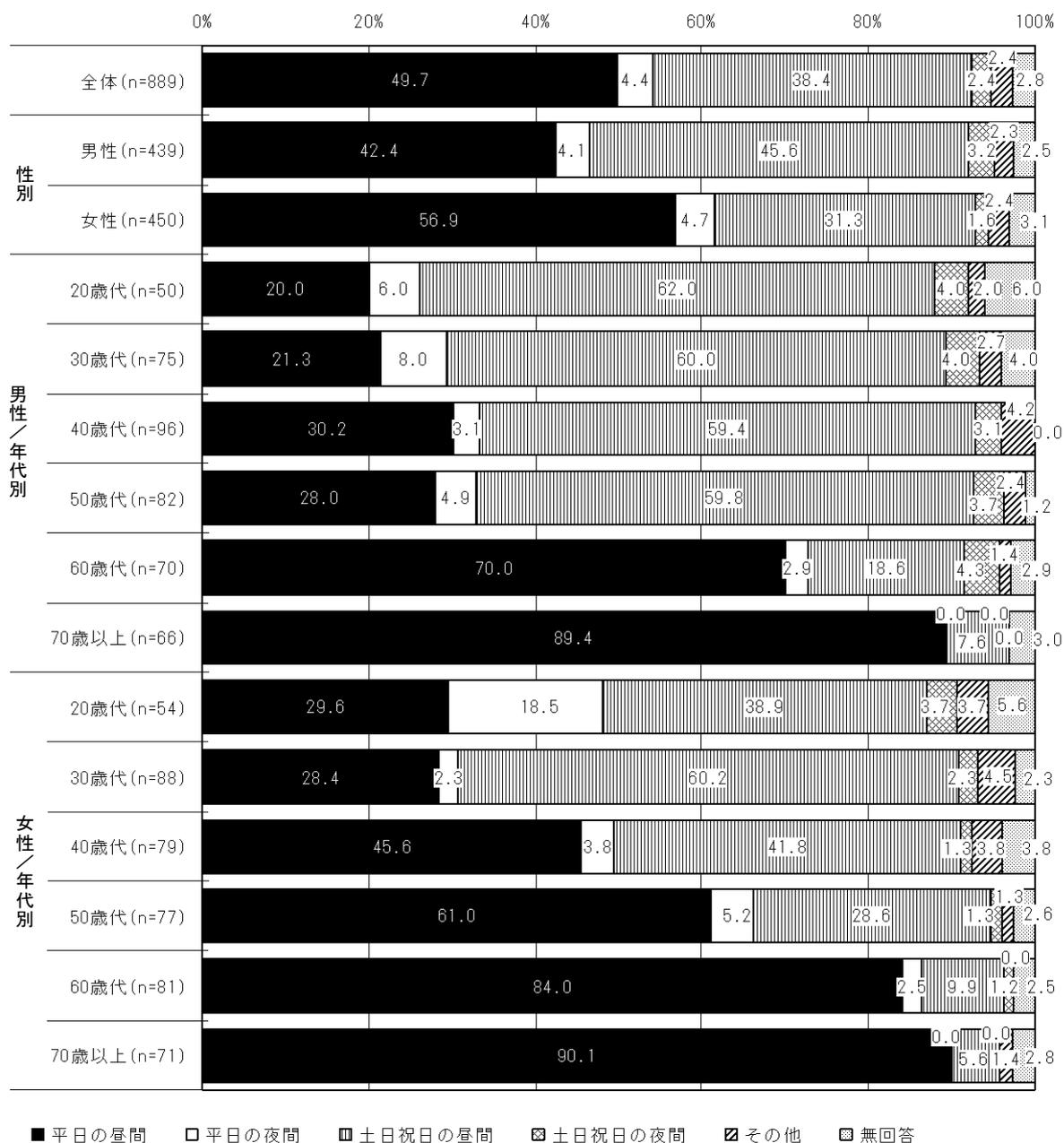


健康診断を受診しやすい日時については、「平日の昼間」(49.7%)が最も高く、次いで「土日祝日の昼間」(38.4%)となっている。〔図 4-19〕

性別で見ると、「男性」は「土日祝日の昼間」が最も高く、約半数を占めており「女性」は「平日の昼間」が最も高く、5割半ばを占めている。

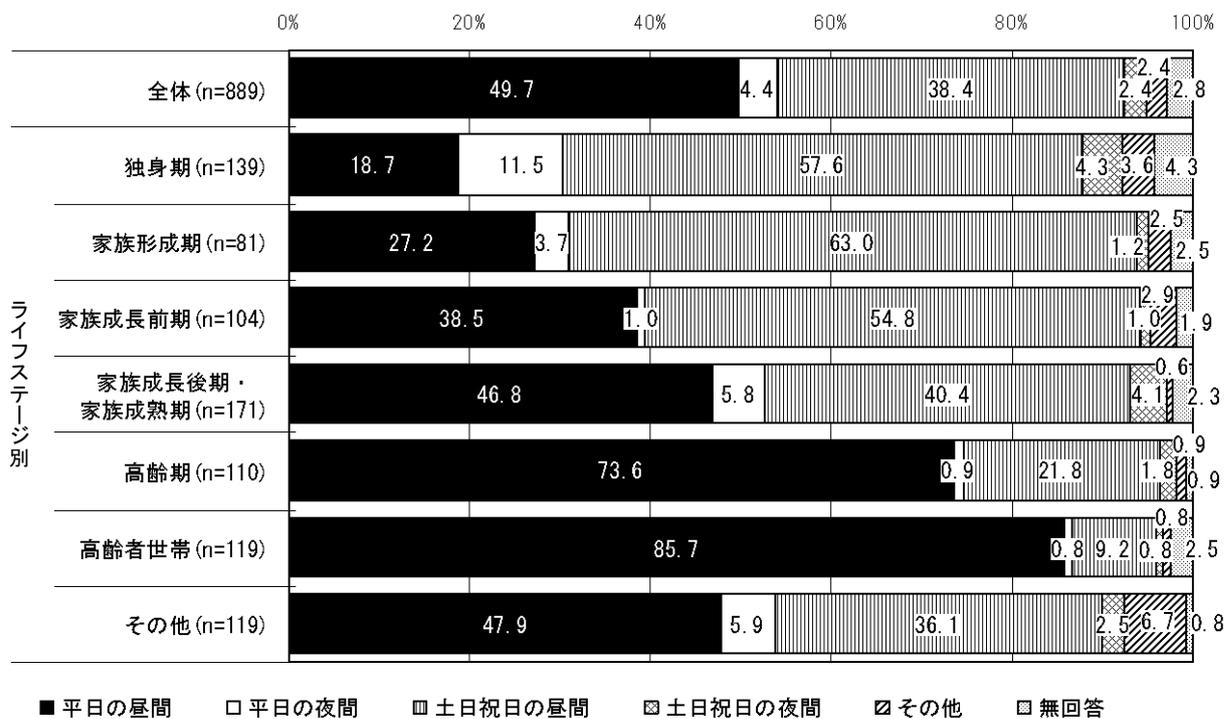
年代別で見ると、「平日の昼間」は、「男性」「女性」ともに「70歳以上」で最も高く、約9割を占めており、年代が上がるにつれて高くなる傾向にある。「土日祝日の昼間」は「男性」の「20歳代」から「50歳代」、「女性」の「30歳代」で高く、それぞれ約6割を占めている。「平日の夜間」は「女性」の「20歳代」で高く、約2割を占めている。〔図4-20〕

図4-20 健康診断を受診しやすい日時／性・年代別



ライフステージ別でみると、「平日の昼間」は、「高齢者世帯」で最も高く、8割半ばを占めており、ライフステージが上がるにつれて高くなっている。「土日祝日の昼間」は「家族形成期」で最も高く、6割半ばを占めており、ライフステージが低いほど高くなる傾向が見られる。〔図 4-21〕

図 4-21 健康診断を受診しやすい日時／ライフステージ別

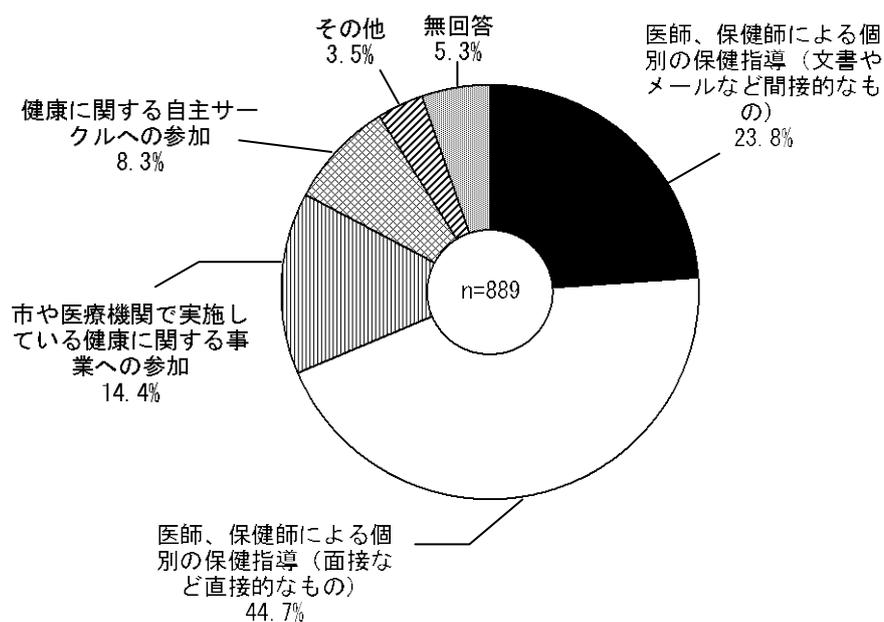


(8) 生活習慣の改善に効果的だと思うもの

「医師、保健師による個別の保健指導（面接など直接的なもの）」が最も高く、4割半ばを占めている。

問 14. 生活習慣を改善するために効果的だと思うものはなんですか。次の中から1つだけ選んでください。(n=889)

図 4-22 生活習慣の改善に効果的だと思うもの

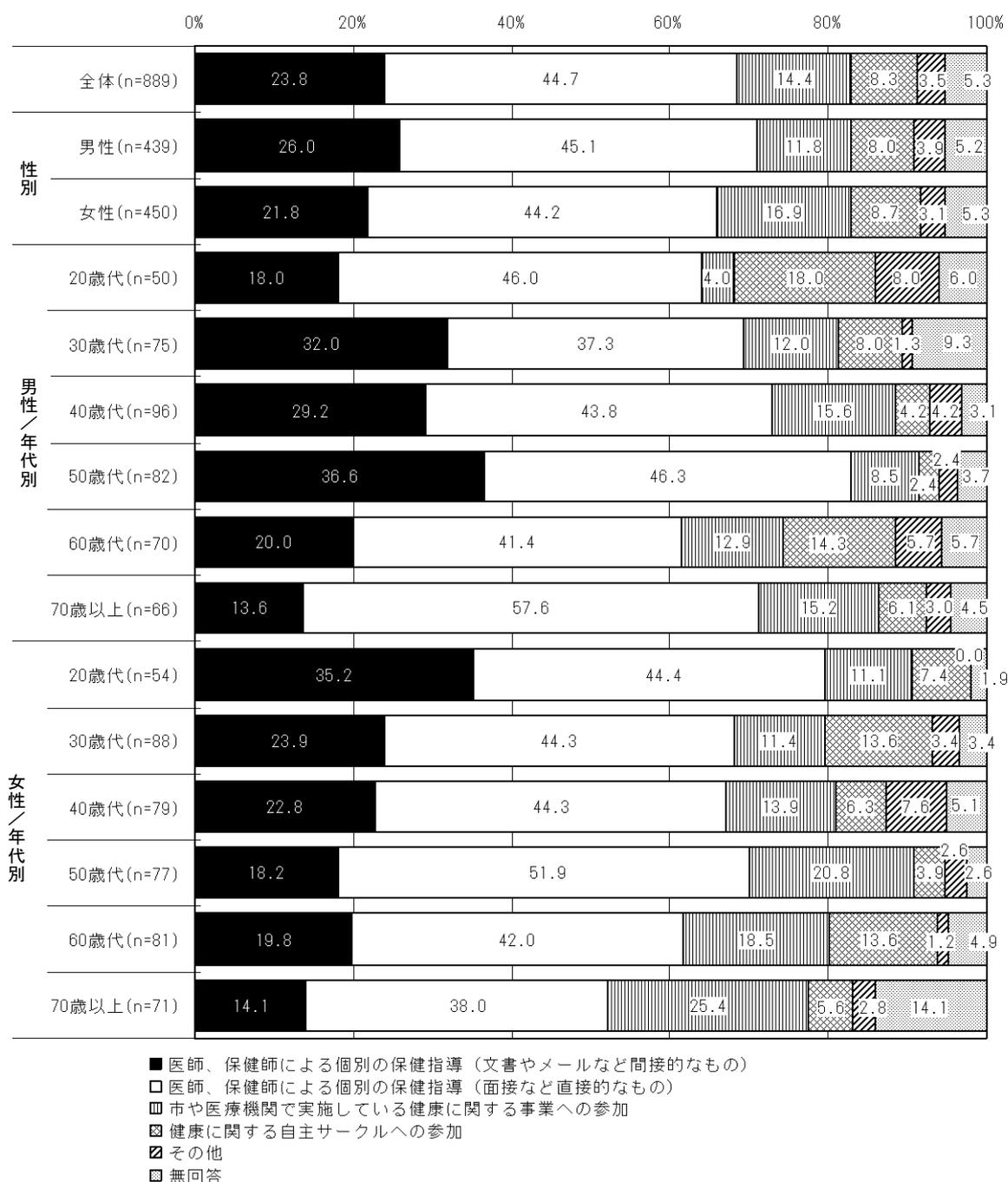


生活習慣の改善に効果的だと思うものは、「医師、保健師による個別の保健指導（面接など直接的なもの）」(44.7%)が最も高く、次いで「医師、保健師による個別の保健指導（文書やメールなど間接的なもの）」(23.8%)「市や医療機関で実施している健康に関する事業への参加」(14.4%)の順となっている。〔図 4-22〕

性別で見ると、「男性」「女性」とともに、「医師、保健師による個別の保健指導（面接など直接的なもの）」「医師、保健師による個別の保健指導（文書やメールなど間接的なもの）」の順に高くなっている。

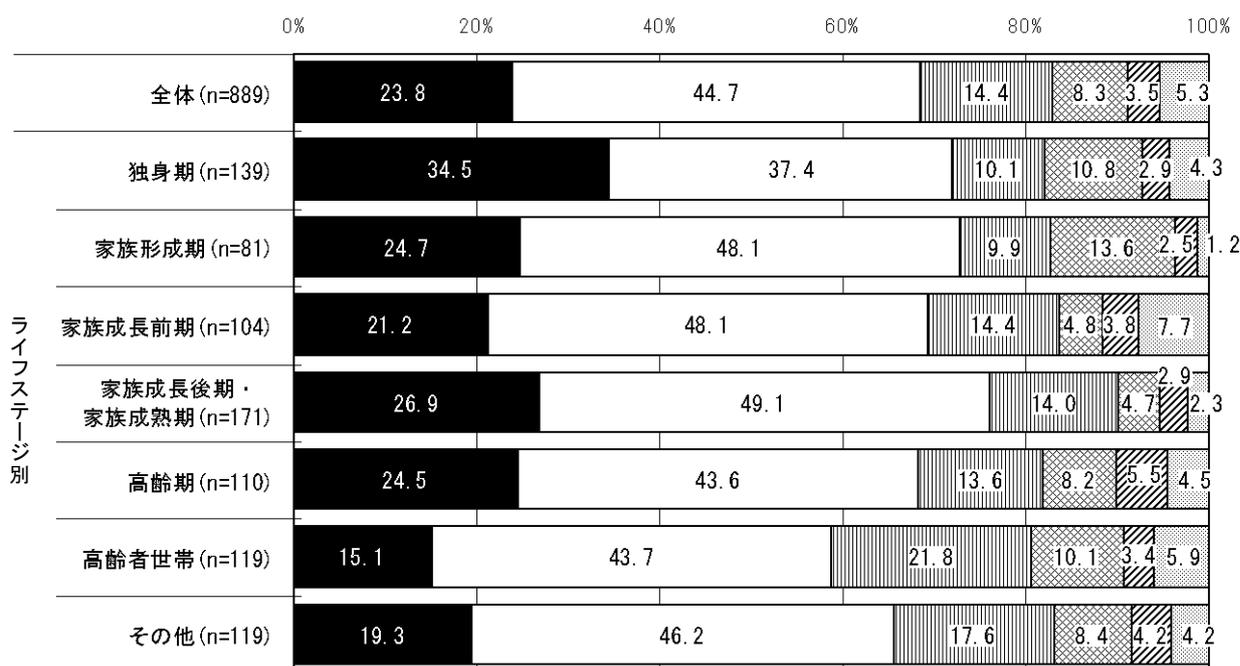
年代別で見ると、「医師、保健師による個別の保健指導（文書やメールなど間接的なもの）」は「男性」の「50歳代」で最も高く、次いで「女性」の「20歳代」、「男性」の「30歳代」の順となっている。「医師、保健師による個別の保健指導（面接など直接的なもの）」は「男性」の「70歳以上」と「女性」の「50歳代」で5割以上を占めており、「男性」の「30歳代」と「女性」の「70歳以上」を除くすべての年代で4割以上を占めている。〔図4-23〕

図4-23 生活習慣の改善に効果的だと思うもの／性・年代別



ライフステージ別でみると、「医師、保健師による個別の保健指導（面接など直接的なもの）」は、「家族成長後期・家族成熟期」で最も高く、「独身期」を除くすべてのライフステージで4割以上を占めている。「医師、保健師による個別の保健指導（文書やメールなど間接的なもの）」は、「独身期」で最も高く3割半ばを占めている。「市や医療機関で実施している健康に関する事業への参加」は「高齢者世帯」で最も高く、2割以上を占めている。〔図4-24〕

図4-24 生活習慣の改善に効果的だと思うもの／ライフステージ別



- 医師、保健師による個別の保健指導（文書やメールなど間接的なもの）
- 医師、保健師による個別の保健指導（面接など直接的なもの）
- ▨ 市や医療機関で実施している健康に関する事業への参加
- ▧ 健康に関する自主サークルへの参加
- ▤ その他
- ▦ 無回答

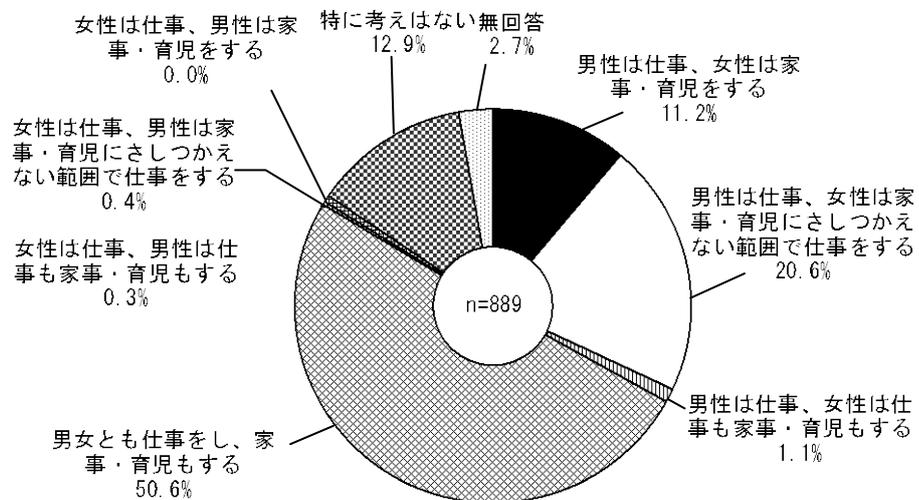
5 男女共同参画社会

(1) 家庭における男女のあり方

「男女とも仕事をし、家事・育児もする」が5割以上を占めている。

問 15. 家庭における男女のあり方は、本来どうあるべきだと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。(n=889)

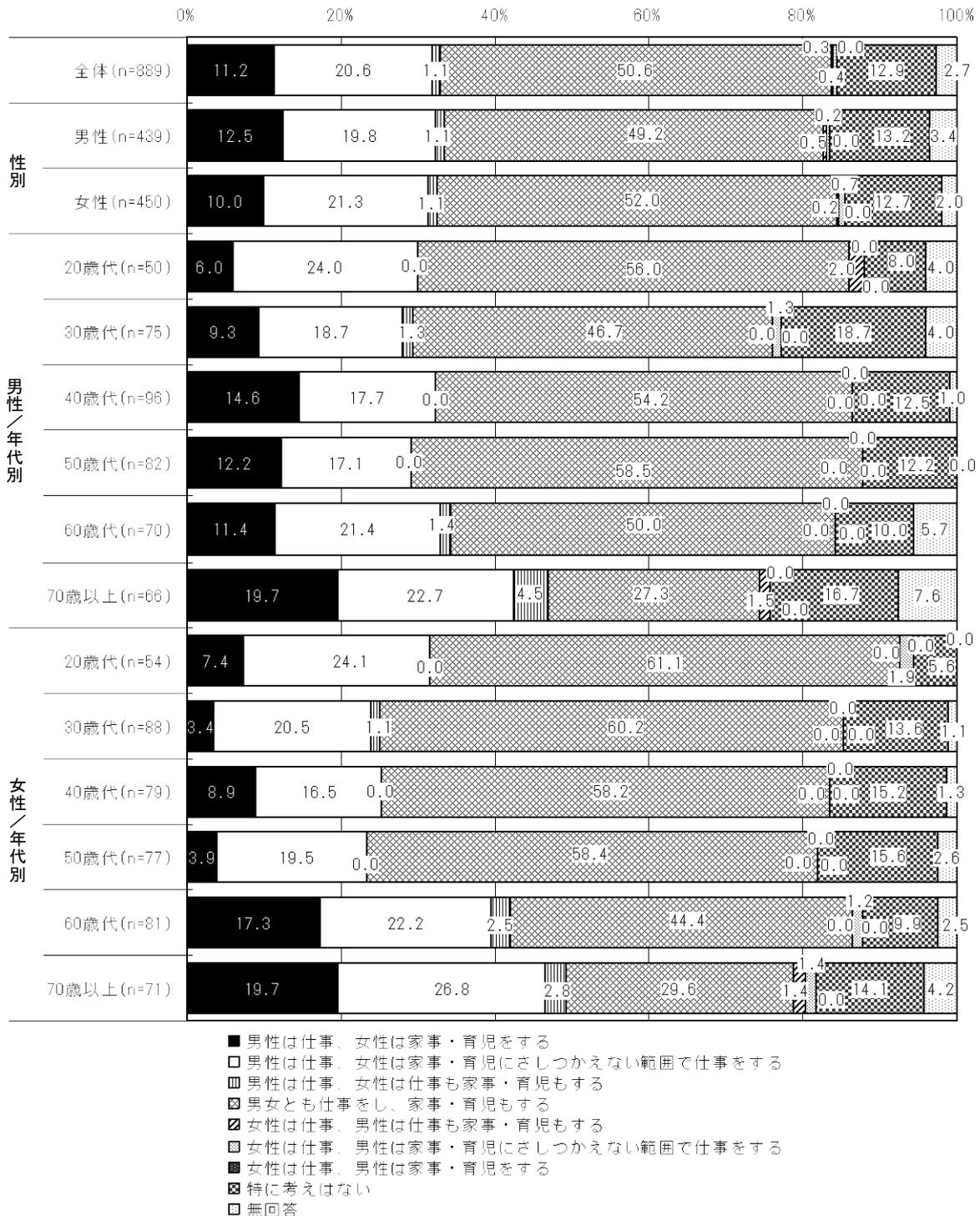
図 5-1 家庭における男女のあり方



家庭における男女のあり方については、「男女とも仕事をし、家事・育児もする」(50.6%)が最も高く、次いで「男性は仕事、女性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする」(20.6%)「特に考えはない」(12.9%)の順となっている。〔図 5-1〕

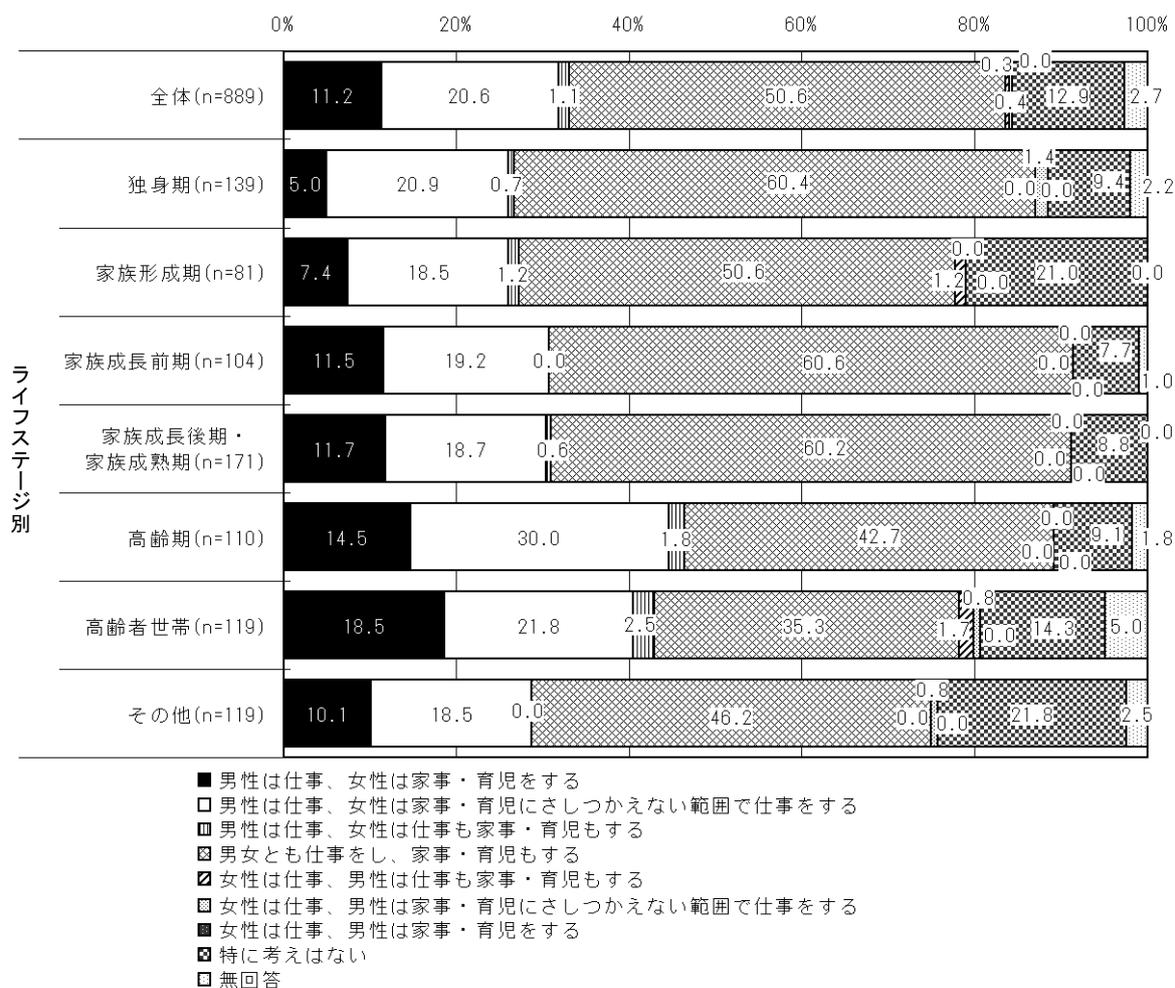
性別でみると、「男性」「女性」とともに「男女とも仕事をし、家事・育児もする」が最も高く、5割前後を占めている。「男性は仕事、女性は家事・育児をする」は「男性」が「女性」より高く、「男性は仕事、女性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする」は「女性」が「男性」より高い。年代別でみると、「男女とも仕事をし、家事・育児もする」は「女性」の「20歳代」と「30歳代」で6割以上と高く、「男性は仕事、女性は家事・育児をする」は、「男性」「女性」とともに「70歳以上」で最も高く、2割近くを占めている。〔図5-2〕

図5-2 家庭における男女のあり方／性・年代別



ライフステージ別でみると、「男女とも仕事をし、家事・育児もする」は「家族成長前期」「独身期」「家族成長後期・家族成熟期」の順に高く、6割以上を占めている。「男性は仕事、女性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする」は「高齢期」で最も高く、3割を占めている。「男性は仕事、女性は家事・育児をする」は「高齢者世帯」で最も高く、ライフステージが上がるにつれて、高くなっている。〔図 5-3〕

図 5-3 家庭における男女のあり方／ライフステージ別

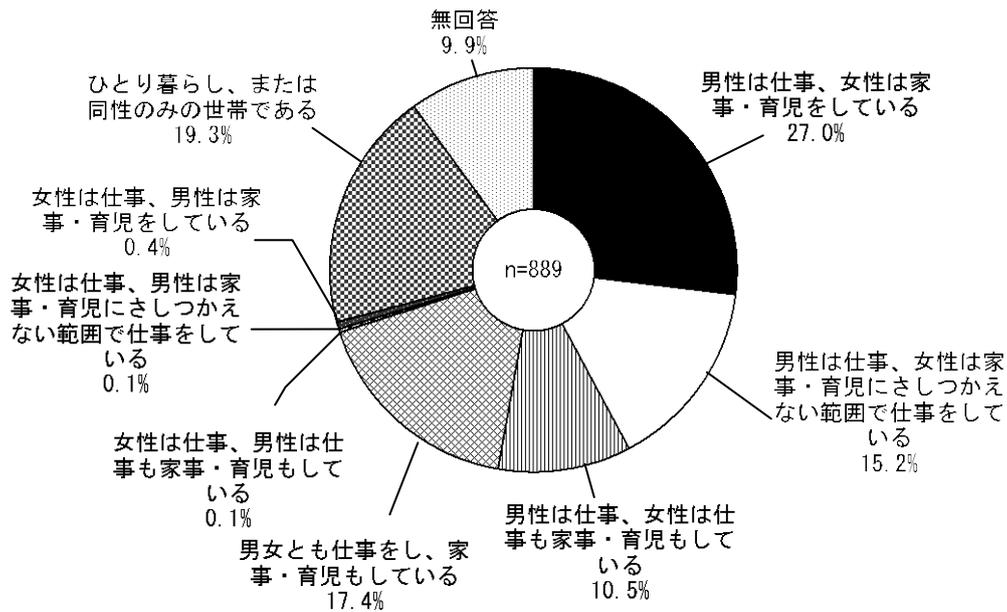


(2) あなたの家庭での男女のあり方

「男性は仕事、女性は家事・育児をしている」が最も高く、2割半ばを占めている。

問 16. 実際にあなたの家庭では、どのようになっていますか。次の中から1つだけ選んでください。(n=889)

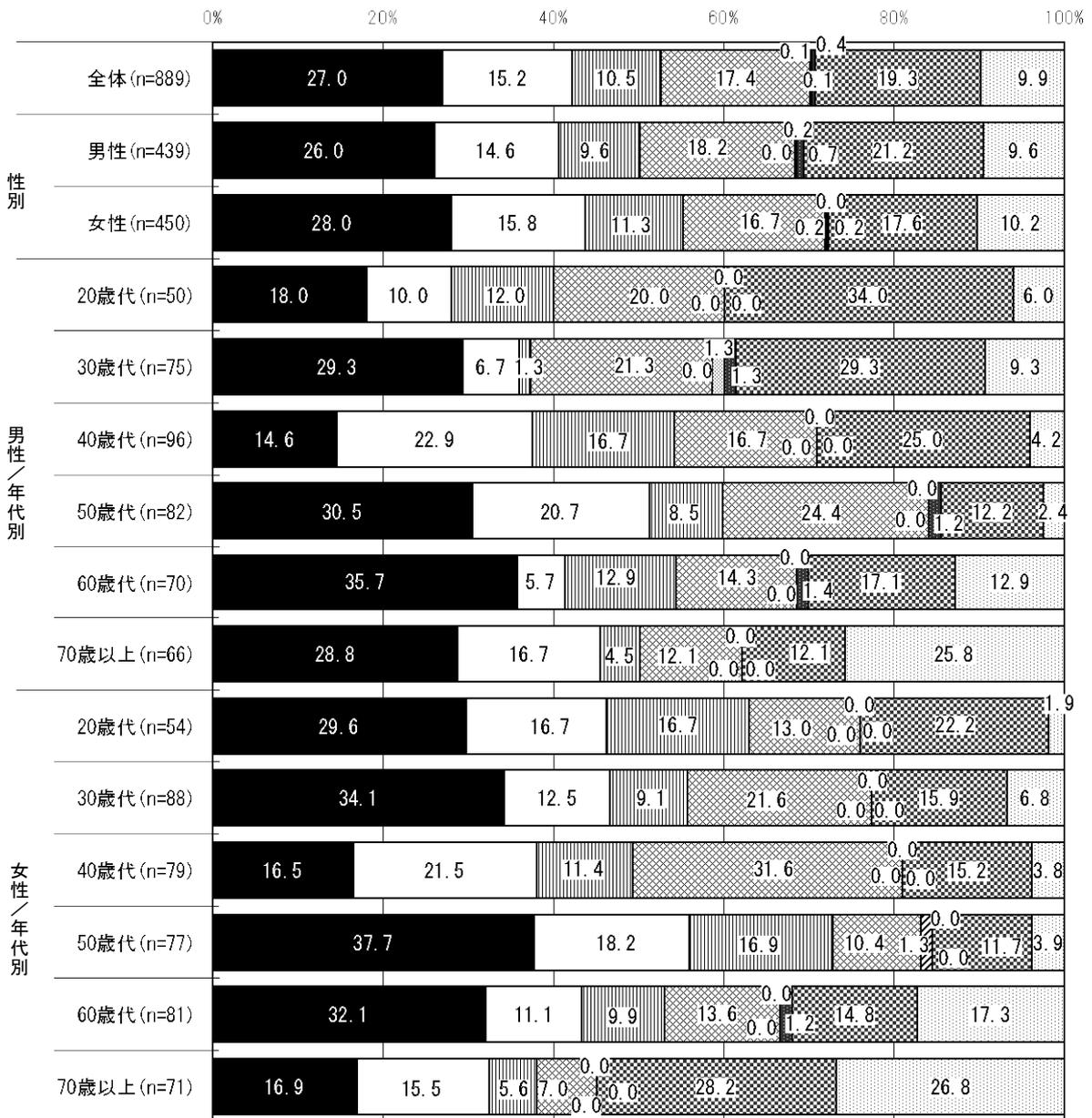
図 5-4 あなたの家庭での男女のあり方



あなたの家庭での男女のあり方は、「男性は仕事、女性は家事・育児をしている」(27.0%)が最も高く、次いで「ひとり暮らし、または同性のみの世帯である」(19.3%)「男女とも仕事をし、家事・育児もしている」(17.4%)の順となっている。〔図 5-4〕

性別でみると、「男性は仕事、女性は家事・育児をしている」は「女性」が「男性」より高く、「男女とも仕事をし、家事・育児もしている」は「男性」が「女性」より高くなっている。年代別でみると、「男性は仕事、女性は家事・育児をしている」は「女性」の「50歳代」で4割近くを占めて最も高く、次いで「男性」の「60歳代」となっており、「男性」「女性」ともに「40歳代」では、1割半ばと低くなっている。〔図5-5〕

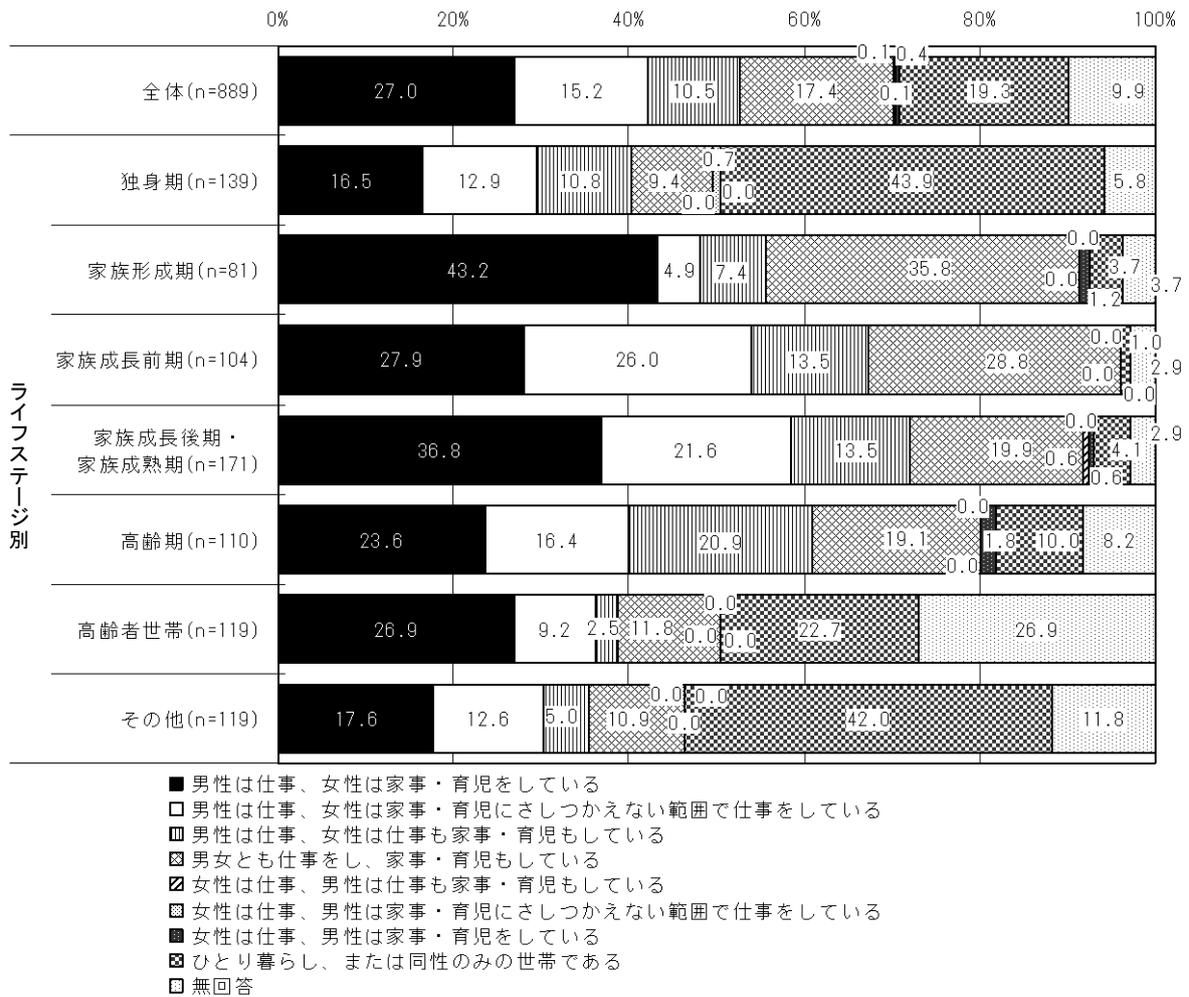
図5-5 あなたの家庭での男女のあり方／性・年代別



- 男性は仕事、女性は家事・育児をしている
- 男性は仕事、女性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をしている
- ▨ 男性は仕事、女性は仕事も家事・育児もしている
- ▩ 男女とも仕事をし、家事・育児もしている
- ▧ 女性は仕事、男性は仕事も家事・育児もしている
- ▦ 女性は仕事、男性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をしている
- 女性は仕事、男性は家事・育児をしている
- ▩ ひとり暮らし、または同性のみの世帯である
- 無回答

ライフステージ別でみると、「男性は仕事、女性は家事・育児をしている」は「家族形成期」で最も高く、4割半ばを占めている。「男女とも仕事をし、家事・育児もしている」についても「家族形成期」で最も高く、3割半ばを占めている。「男性は仕事、女性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をしている」は「家族成長前期」「家族成長後期・家族成熟期」で2割以上と高くなっている。〔図 5-6〕

図 5-6 あなたの家庭での男女のあり方／ライフステージ別

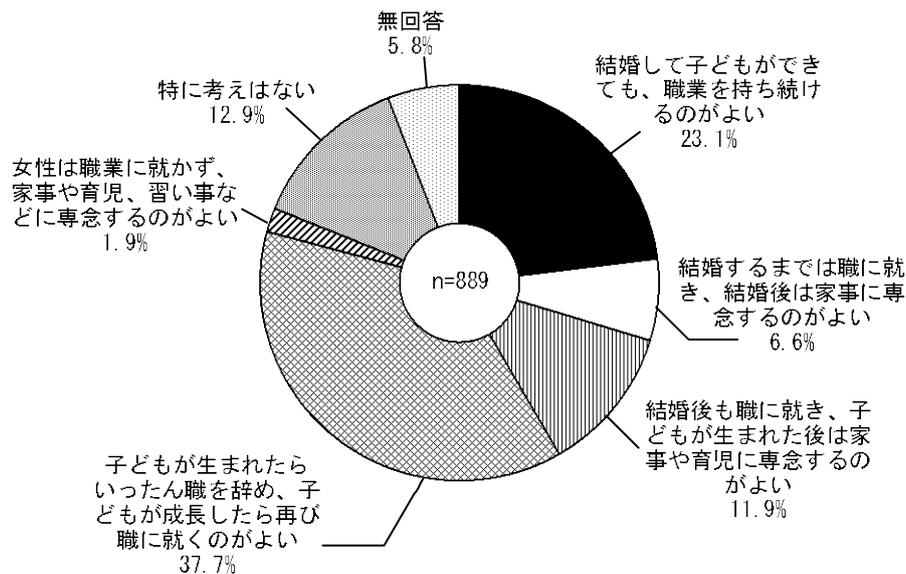


(3) 女性が職業を持つことへの考え

「子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職に就くのがよい」が最も高く、4割近くを占めている。

問 17. 女性が職業を持つことについて、あなたはどのように思いますか。次の中から1つだけ選んでください。(n=889)

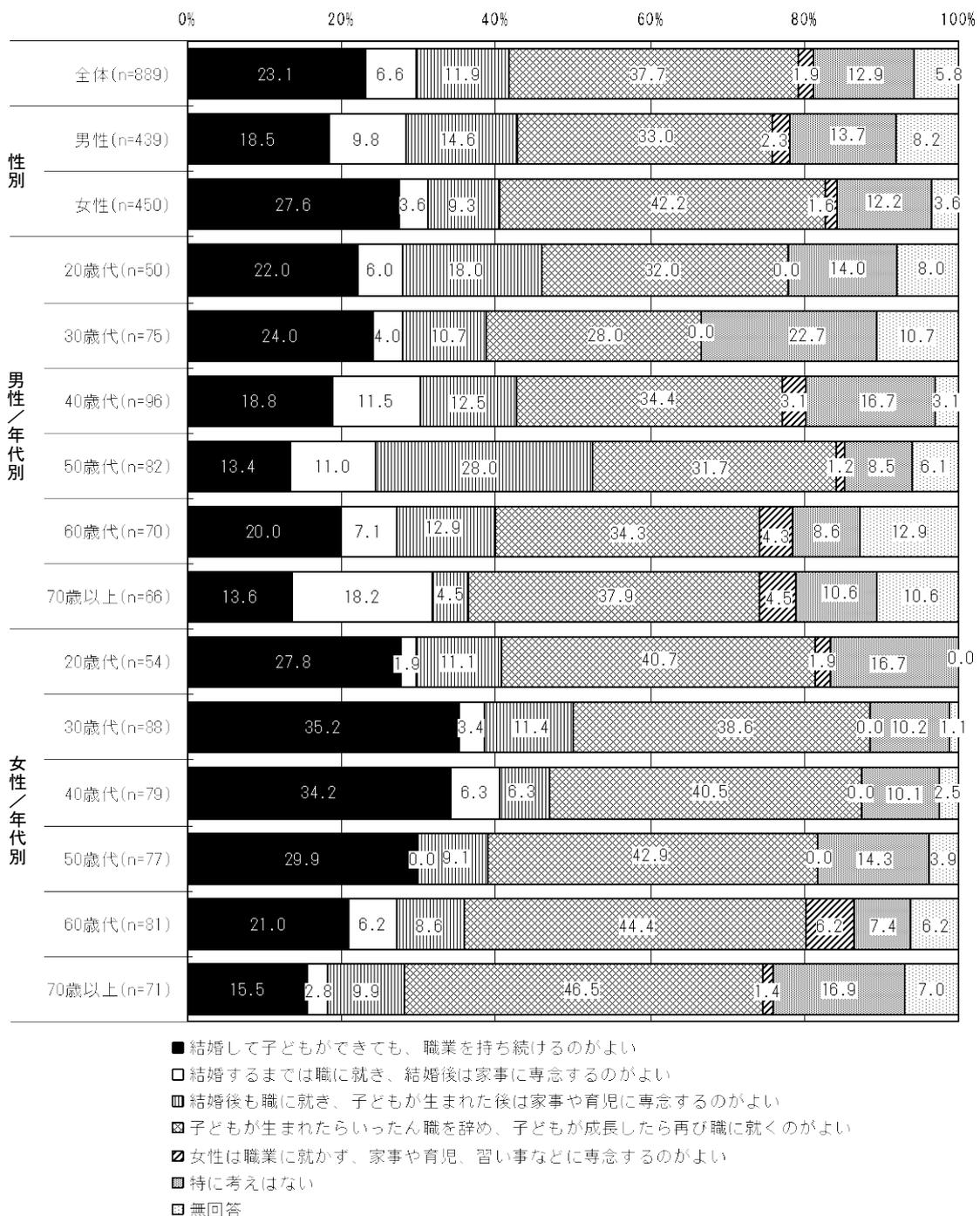
図 5-7 女性が職業を持つことへの考え



女性が職業を持つことへの考えについては、「子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職に就くのがよい」(37.7%)が最も高く、次いで「結婚して子どもができて、職業を持ち続けるのがよい」(23.1%)、「特に考えはない」(12.9%)の順となっている。〔図 5-7〕

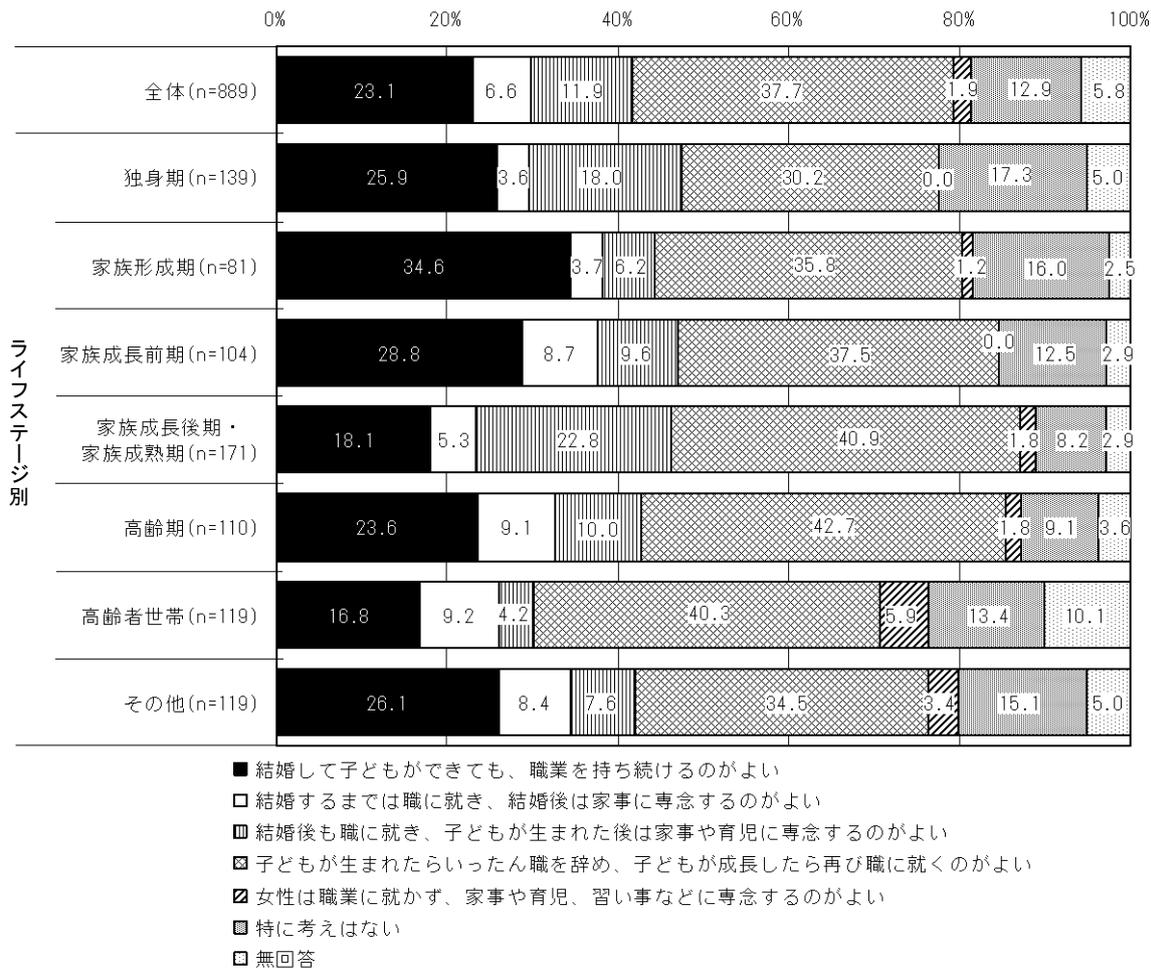
性別でみると、上位3項目のうち「子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職に就くのがよい」「結婚して子どもができて、職業を持ち続けるのがよい」は「女性」が「男性」より高く、「結婚後も職に就き、子どもが生まれた後は家事や育児に専念するのがよい」は「男性」が「女性」より高くなっている。年代別でみると、「子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職に就くのがよい」はすべての年代で最も高くなっている。「結婚して子どもができて、職業を持ち続けるのがよい」は「女性」の「30歳代」「40歳代」で3割半ばと高くなっている。〔図5-8〕

図5-8 女性が職業を持つことへの考え/性・年代別



ライフステージ別でみると、すべてのライフステージで、「子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職に就くのがよい」が最も高くなっている。「結婚して子どもができて、職業を持ち続けるのがよい」は「家族形成期」で3割半ばと最も高く、「家族成長後期・家族成熟期」「高齢者世帯」では、他のライフステージに比べて低くなっている。「結婚後も職に就き、子どもが生まれた後は家事や育児に専念するのがよい」は「家族成長後期・家族成熟期」で他のライフステージに比べて高くなっている。〔図 5-9〕

図 5-9 女性が職業を持つことへの考え／ライフステージ別

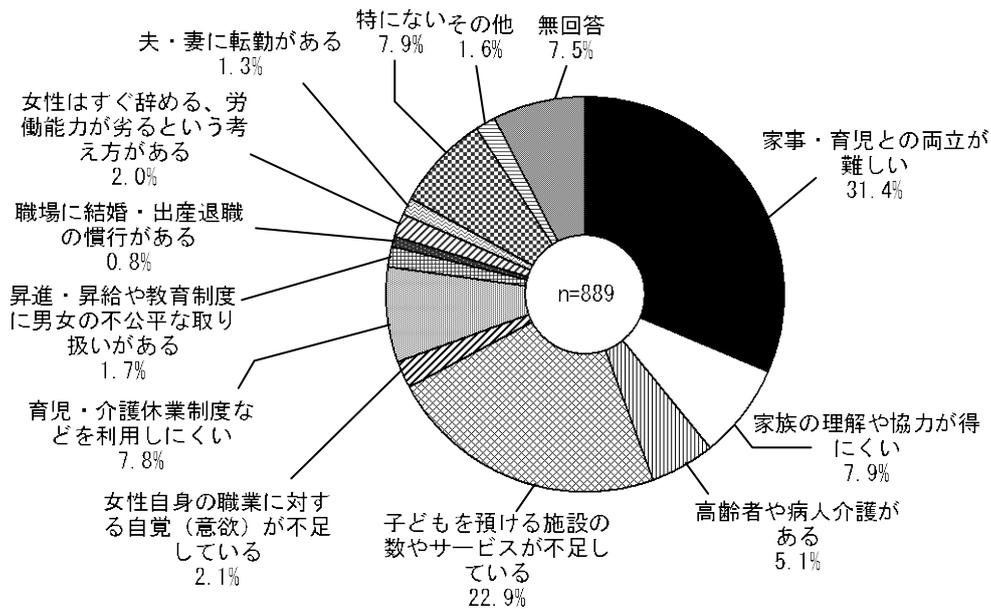


(4) 女性が職業を持ち続ける上で、障害となる事柄

「家事・育児との両立が難しい」が最も高く3割以上を占めており、次いで「子どもを預ける施設の数やサービスが不足している」が2割半ばと高くなっている。

問 18. 女性が職業を長く持ち続けていく上で、障害になっているものがありますか。
最も大きな障害と思われるものを、次の中から1つだけ選んでください。(n=889)

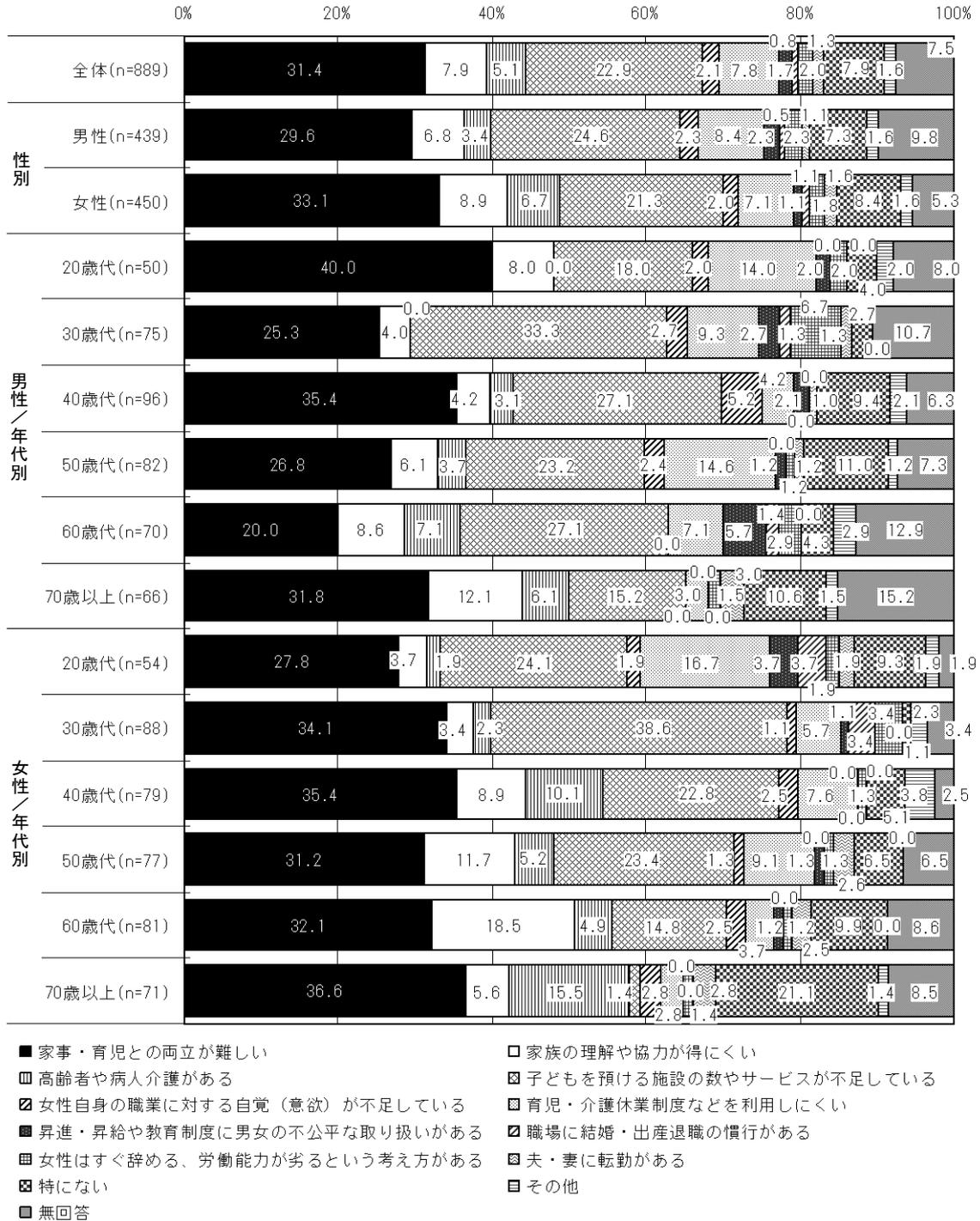
図 5-10 女性が職業を持ち続ける上で、障害となる事柄



女性が職業を持ち続ける上で、障害となる事柄については、「家事・育児との両立が難しい」(31.4%)が最も高く、次いで「子どもを預ける施設の数やサービスが不足している」(22.9%)の順となっている。〔図 5-10〕

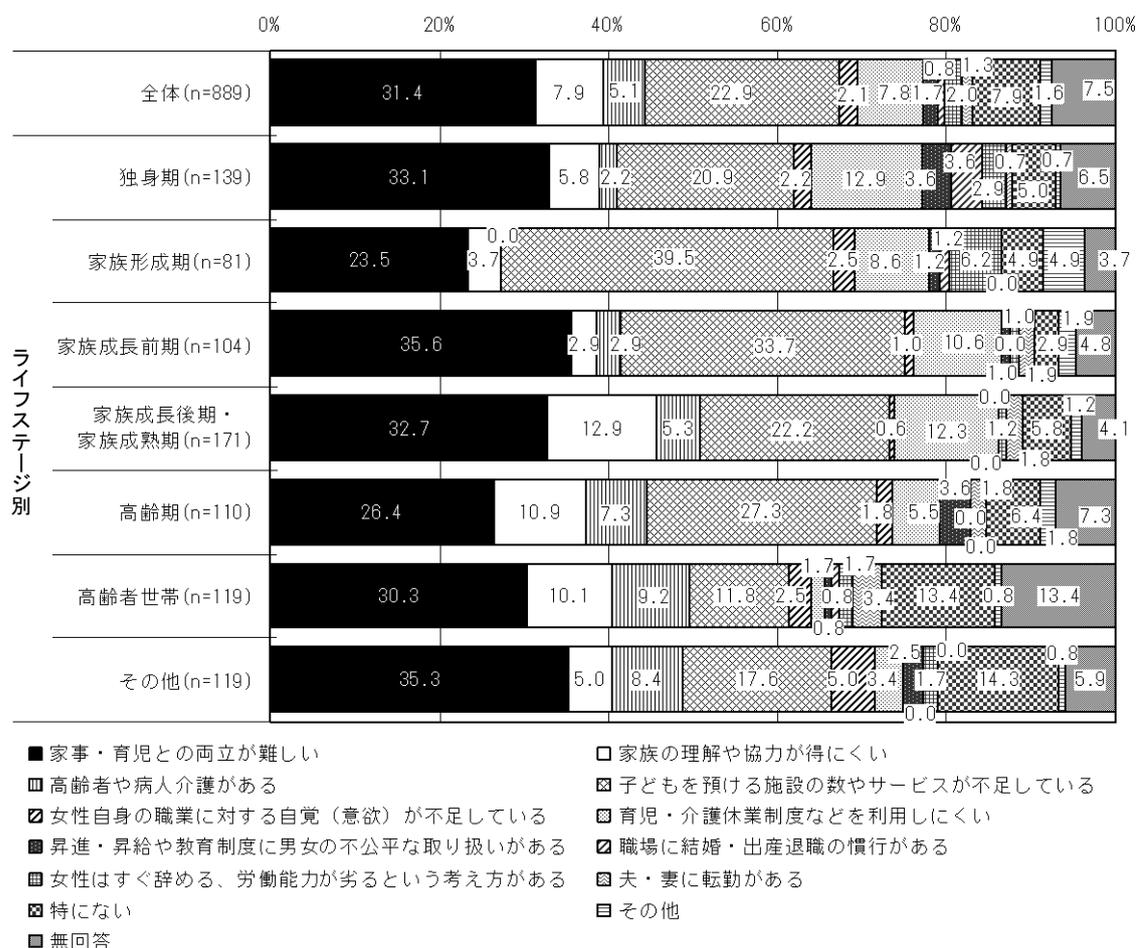
性別でみると、「子どもを預ける施設の数やサービスが不足している」は「男性」が「女性」より高く、「家事・育児との両立が難しい」は「女性」が「男性」より高くなっている。年代別でみると、「家事・育児との両立が難しい」は「男性」の「20歳代」で最も高く、4割を占めており、「女性」では「20歳代」を除くすべての年代で3割以上を占めている。「子どもを預ける施設の数やサービスが不足している」は「女性」の「30歳代」で最も高く4割近くを占めており、次いで「男性」の「30歳代」で3割半ばを占めている。〔図5-11〕

図5-11 女性が職業を持ち続ける上で、障害となる事柄について／性・年代別



ライフステージ別でみると、「家事・育児との両立が難しい」は「家族成長前期」で最も高く、3割半ばを占めている。「子どもを預ける施設の数やサービスが不足している」は「家族形成期」で最も高く、4割近くを占めており、次いで「家族成長前期」で3割半ばを占めている。〔図 5-12〕

図 5-12 女性が職業を持ち続ける上で、障害となる事柄について／ライフステージ別

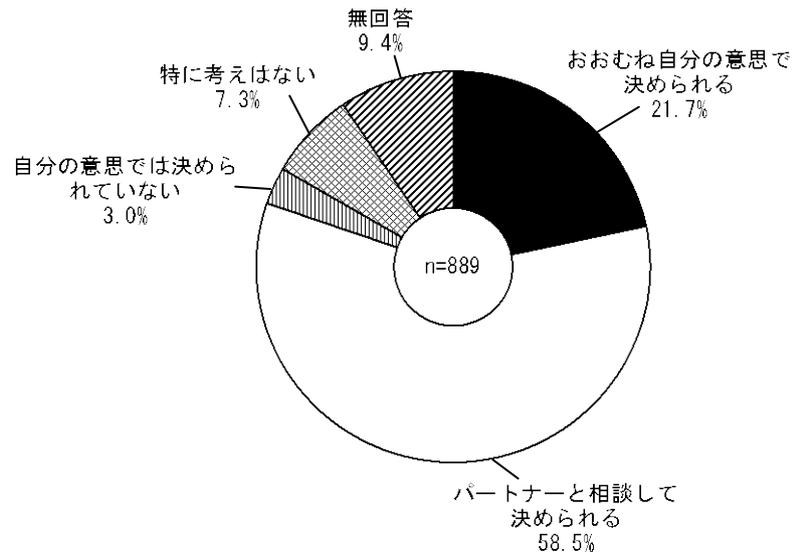


(5) 「性に関すること」の女性の決定権

「パートナーと相談して決められる」が6割近くを占め、最も高くなっている。

問 19. あなたは「女性は、妊娠・出産・中絶など性に関することを自分で決められる」と思いますか。次の中から1つだけ選んでください。(n=889)

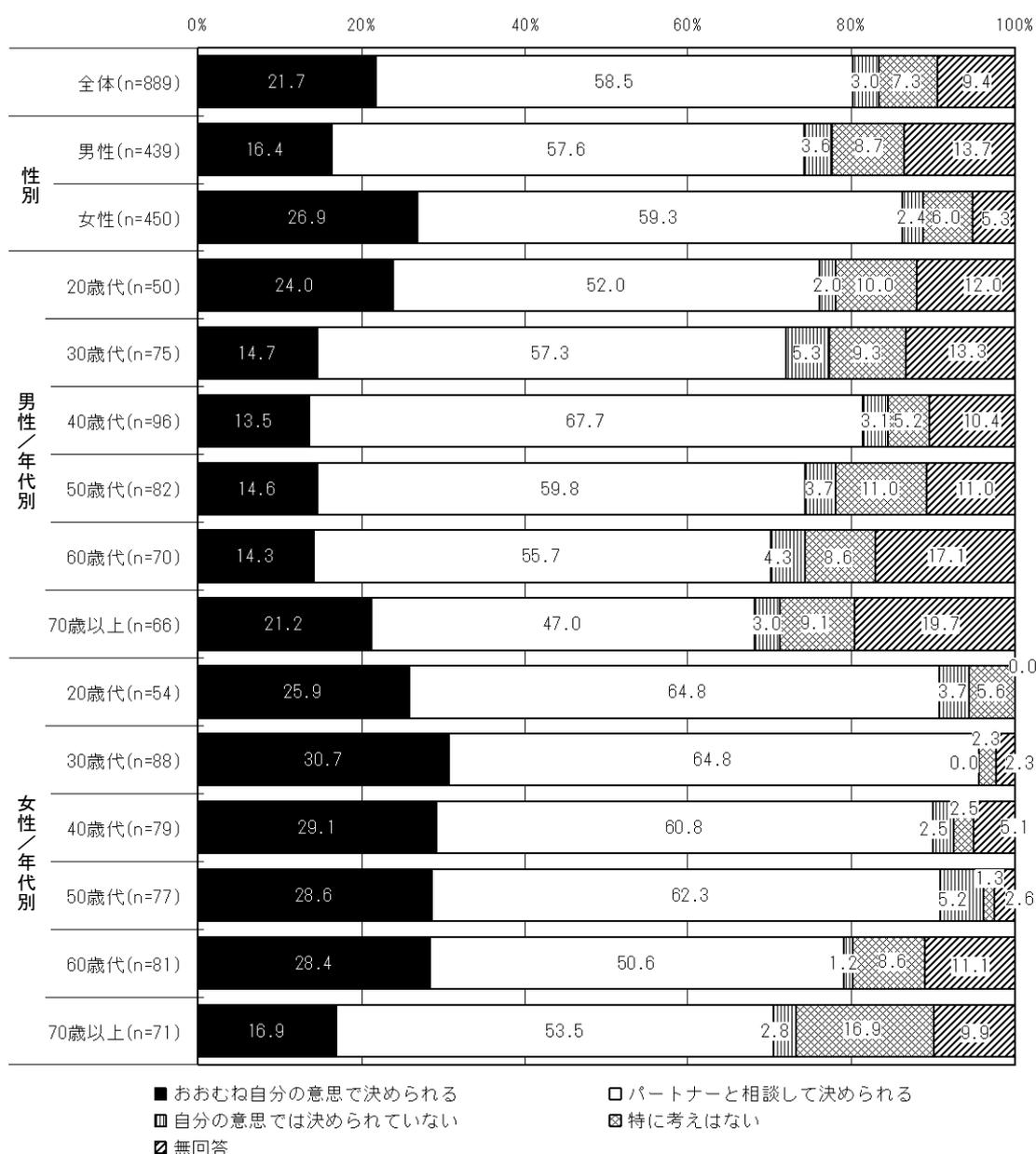
図 5-13 「性に関すること」の女性の決定権



「性に関すること」の女性の決定権については、「パートナーと相談して決められる」(58.5%)が最も高く、次いで「おおむね自分の意思で決められる」(21.7%)の順となっている。〔図 5-13〕

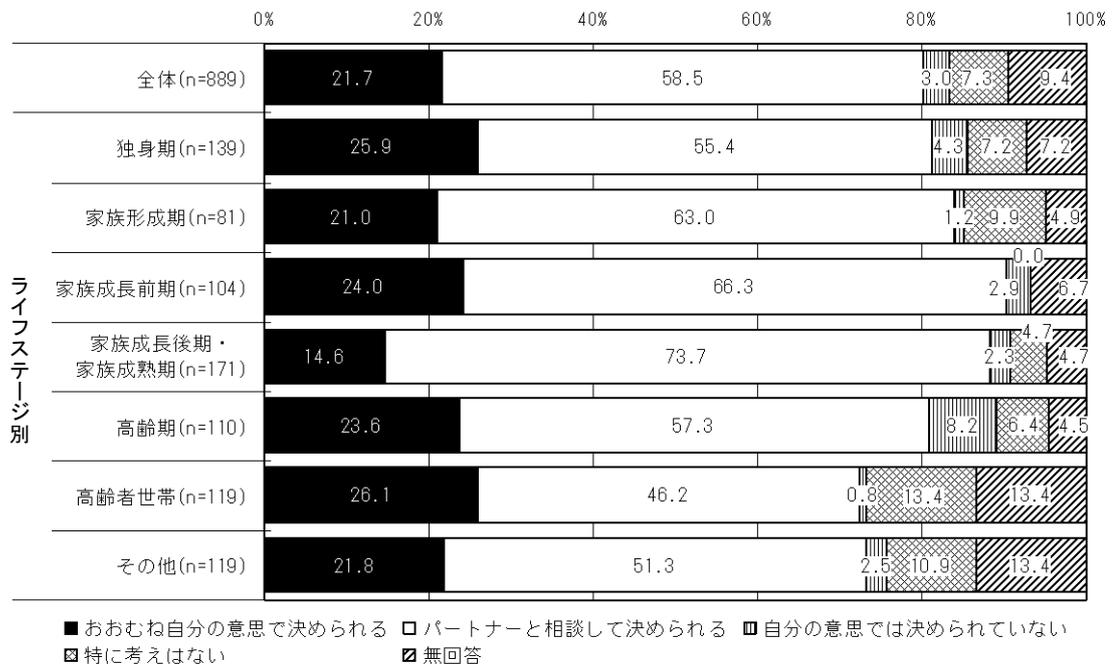
性別で見ると、「おおむね自分の意思で決められる」は「女性」が「男性」より高くなっている。年代別で見ると、「パートナーと相談して決められる」はすべての年代で最も高くなっている。「おおむね自分の意思で決められる」は「女性」では「20歳代」「70歳以上」を除くすべての年代で約3割を占めている。「自分の意思では決められていない」はすべての年代で1割未満と低くなっている。〔図 5-14〕

図 5-14 「性に関すること」の女性の決定権／性・年代別



ライフステージ別でみると、「おおむね自分の意思で決められる」は「家族成長後期・家族成熟期」を除くすべてのライフステージで2割以上を占めている。「パートナーと相談して決められる」は「家族成長後期・家族成熟期」で7割半ばと最も高くなっている。〔図 5-15〕

図 5-15 「性に関すること」の女性の決定権／ライフステージ別

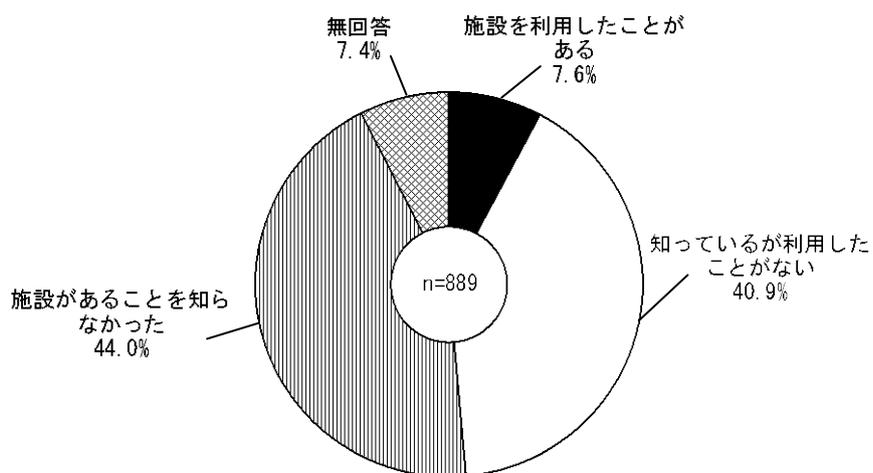


(6)「スクエア21・女性センター」の知名度

「施設があることを知らなかった」と「知っているが利用したことがない」がそれぞれ4割以上を占めている。

問 20. 府中市には、男女共同参画社会の実現に向けて、いろいろな講座や相談、資料提供などの事業をしている「スクエア21・女性センター」があります。この施設をご存じですか。次の中から1つだけ選んでください。(n=889)

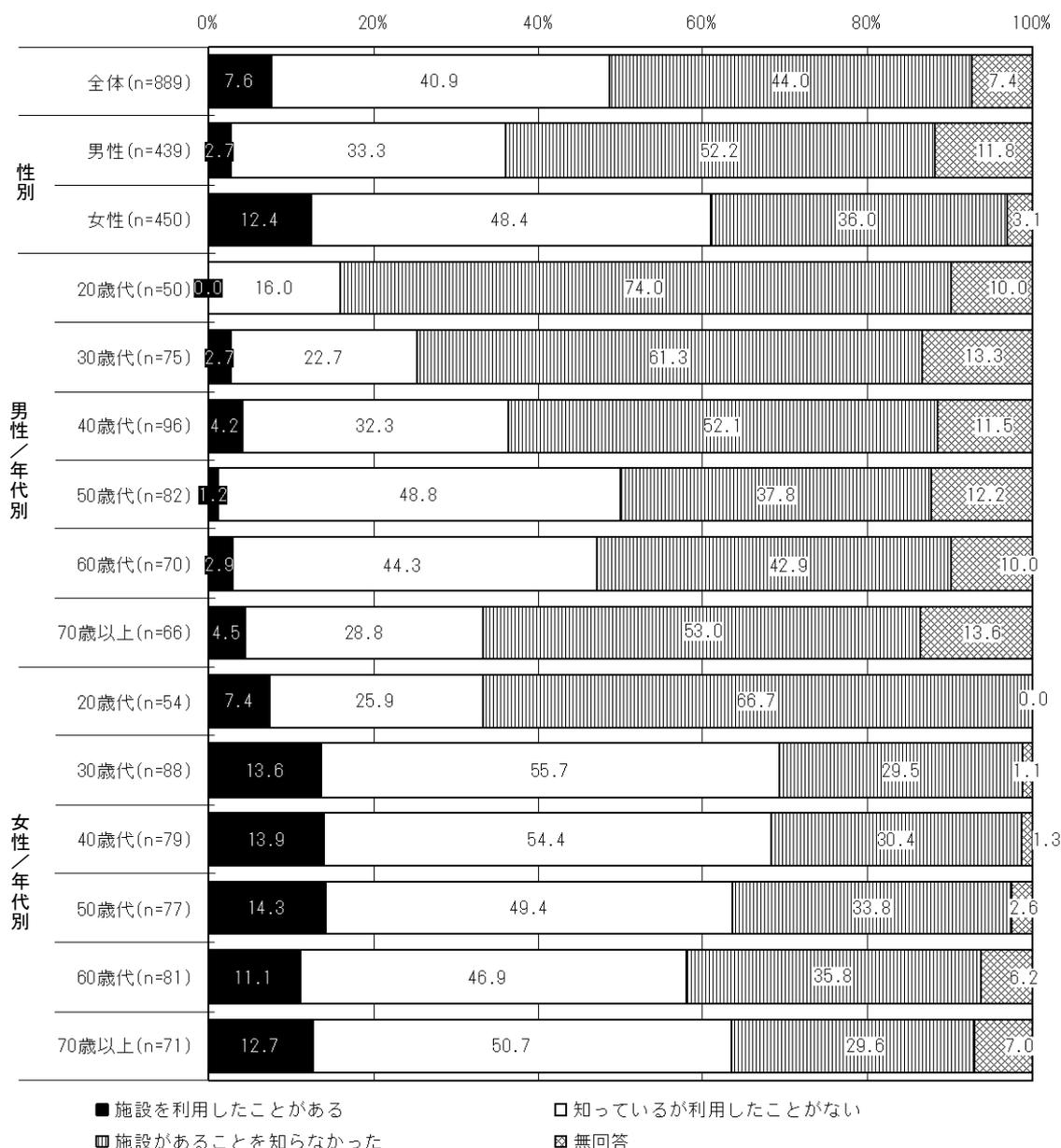
図 5-16 「スクエア21・女性センター」の知名度



「スクエア21・女性センター」の知名度は、「施設があることを知らなかった」(44.0%)が最も高く、次いで「知っているが利用したことがない」(40.9%)の順となっている。〔図5-16〕

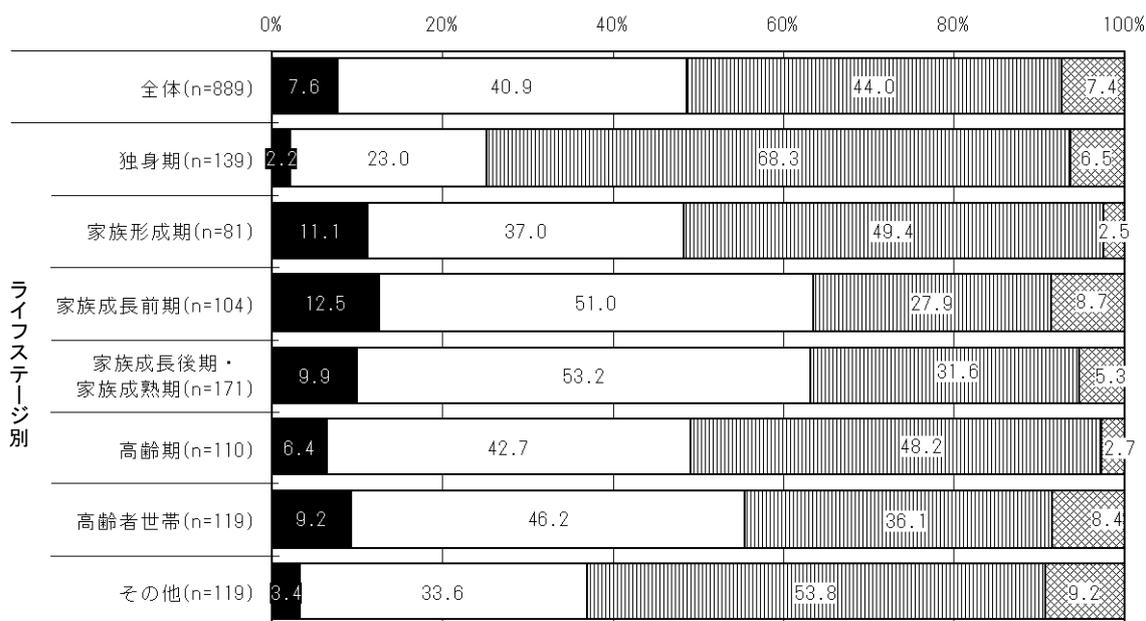
性別で見ると、「施設があることを知らなかった」は「男性」が「女性」より高く、「知っているが利用したことがない」「施設を利用したことがある」は「女性」が「男性」より高くなっている。年代別で見ると、「施設があることを知らなかった」は「男性」の「20歳代」で最も高く7割半ばを占めており、次いで「女性」の「20歳代」で6割半ばを占めている。「施設を利用したことがある」は「女性」では「20歳代」を除くすべての年代で1割以上を占めている。〔図5-17〕

図5-17 「スクエア21・女性センター」の知名度／性・年代別



ライフステージ別でみると、「施設があることを知らなかった」は「独身期」で最も高く7割近くを占めており、「家族成長前期」「家族成長後期・家族成熟期」で約3割と低くなっている。「知っているが利用したことがない」は「家族成長前期」「家族成長後期・家族成熟期」で5割以上と高くなっている。「施設を利用したことがある」は「家族成長前期」「家族形成期」の順に高く、それぞれ1割以上を占めている。〔図 5-18〕

図 5-18 「スクエア 2 1・女性センター」の知名度／ライフステージ別



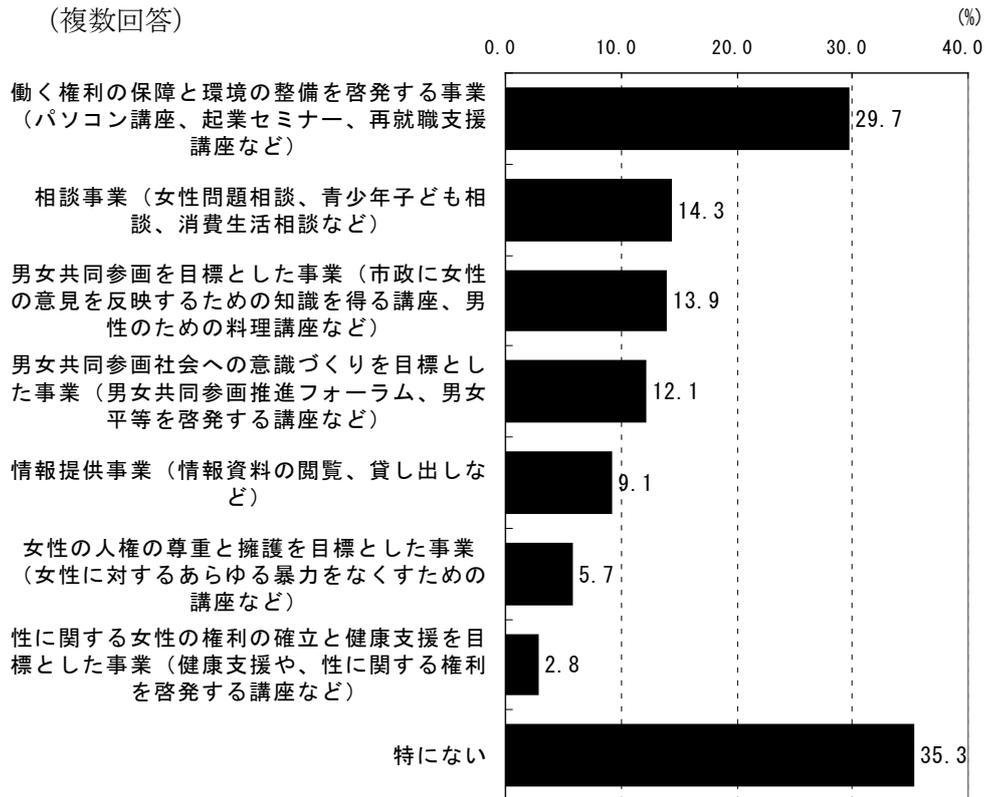
■ 施設を利用したことがある □ 知っているが利用したことがない ▨ 施設があることを知らなかった ▩ 無回答

(7)「スクエア21・女性センター」の活動で、参加・利用したいと思うもの

「働く権利の保障と環境の整備を啓発する事業（パソコン講座、起業セミナー、再就職支援講座など）」が最も高く、3割近くを占めている。

問 21. 「スクエア21・女性センター」では、いろいろな活動を行っています。次にあげる活動の中で、参加したい・利用したいと思う活動は何ですか。次の中から2つまで選んでください。(n=889)

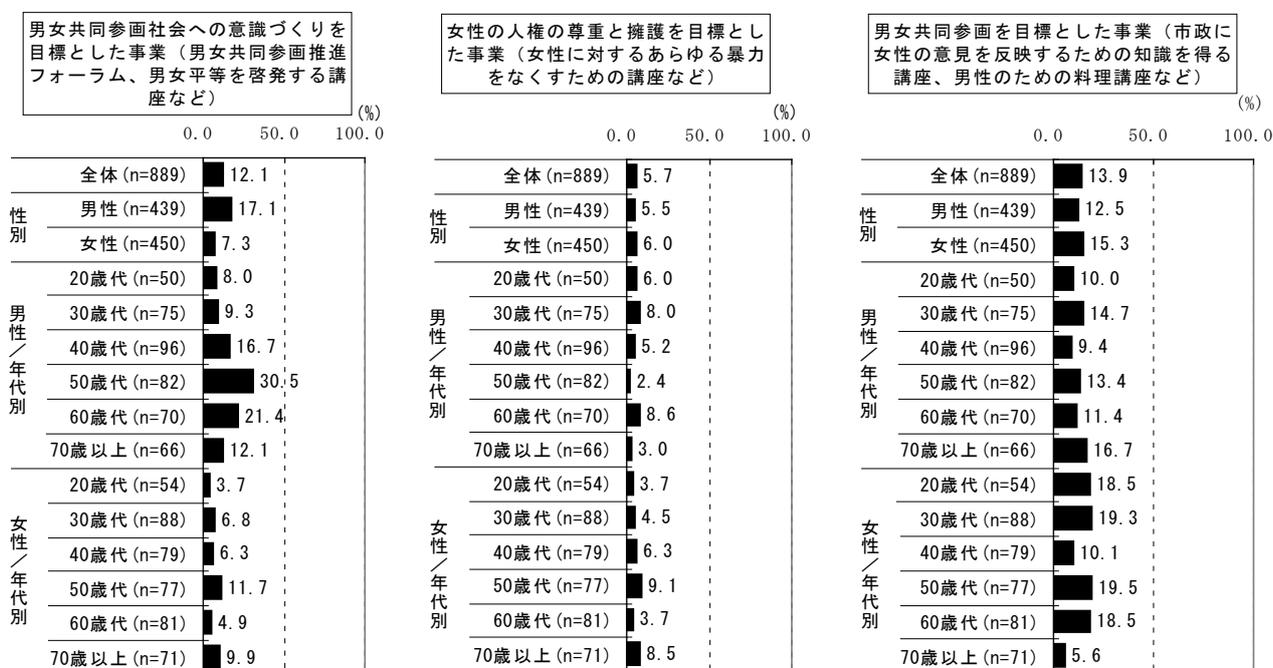
図 5-19 「スクエア21・女性センター」の活動で、参加・利用したいと思うもの
(複数回答)



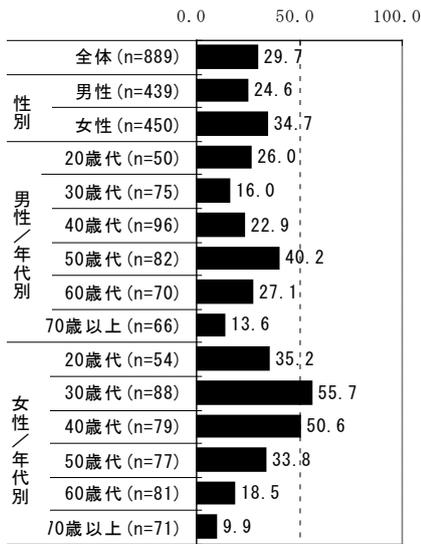
「スクエア21・女性センター」の活動で、参加・利用したいと思うものは、「働く権利の保障と環境の整備を啓発する事業（パソコン講座、起業セミナー、再就職支援講座など）」(29.7%)が最も高く、次いで「相談事業（女性問題相談、青少年子ども相談、消費生活相談など）」(14.3%)「男女共同参画を目標とした事業（市政に女性の意見を反映するための知識を得る講座、男性のための料理講座など）」(13.9%)の順となっている。〔図 5-19〕

性別でみると、「男女共同参画社会への意識づくりを目標とした事業（男女共同参画推進フォーラム、男女平等を啓発する講座など）」は「男性」が「女性」より高く、「働く権利の保障と環境の整備を啓発する事業（パソコン講座、起業セミナー、再就職支援講座など）」は「女性」が「男性」より高くなっている。年代別でみると「働く権利の保障と環境の整備を啓発する事業（パソコン講座、起業セミナー、再就職支援講座など）」は「女性」の「30歳代」「40歳代」の順に高く、それぞれ5割以上を占めており、次いで「男性」の「50歳代」で4割以上と高くなっている。「相談事業（女性問題相談、青少年子ども相談、消費生活相談など）」は「女性」の「40歳代」で最も高く3割以上を占めており、次いで「30歳代」「20歳代」の順に高くなっている。〔図 5-20〕

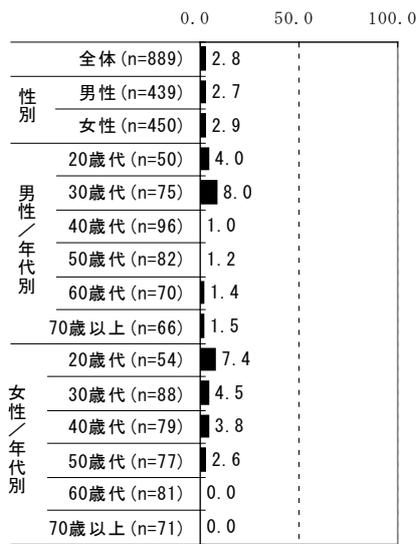
図 5-20 「スクエア 2 1・女性センター」の活動で、参加・利用したいと思うもの／性別・年代別



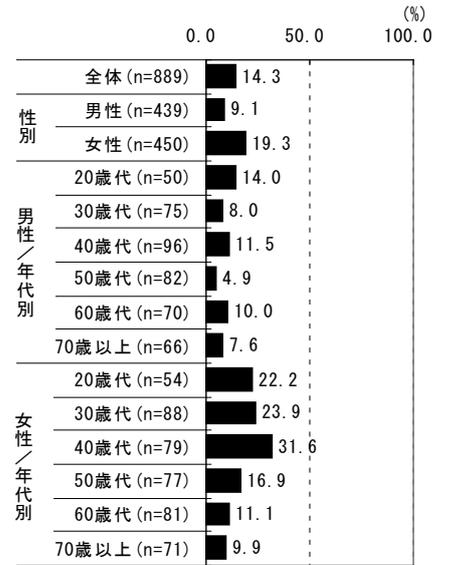
働く権利の保障と環境の整備を啓発する事業（パソコン講座、起業セミナー、再就職支援講座など）



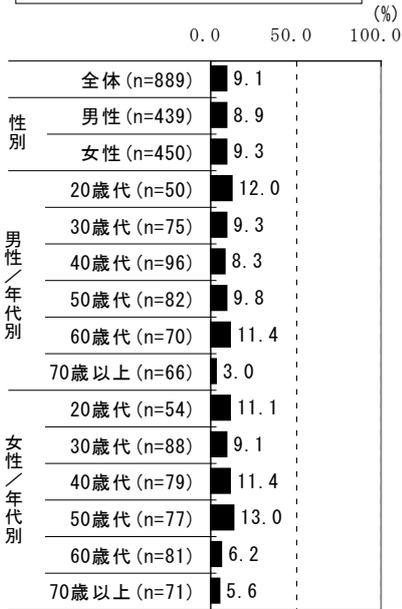
性に関する女性の権利の確立と健康支援を目標とした事業（健康支援や、性に関する権利を啓発する講座など）



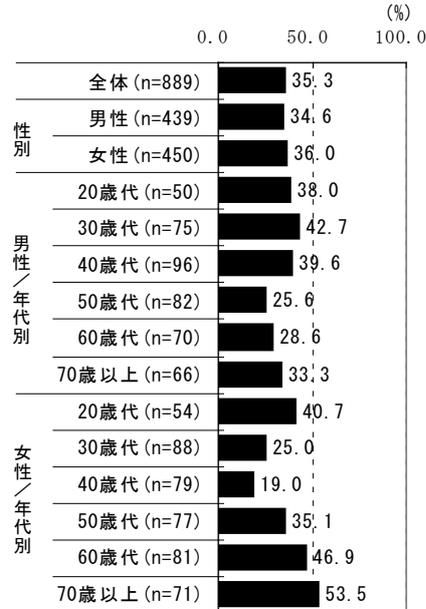
相談事業（女性問題相談、青少年子ども相談、消費生活相談など）



情報提供事業（情報資料の閲覧、貸し出しなど）

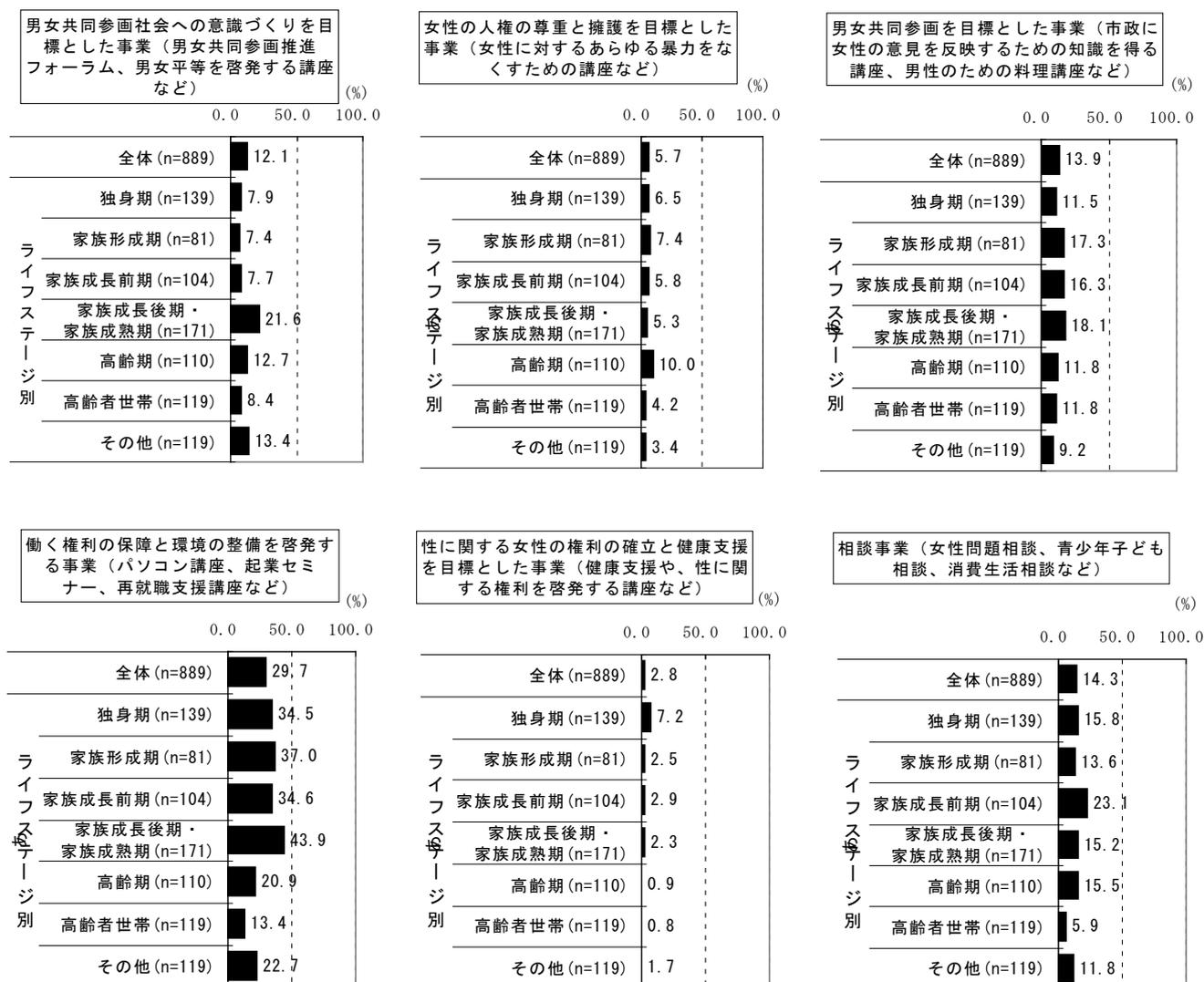


特になし

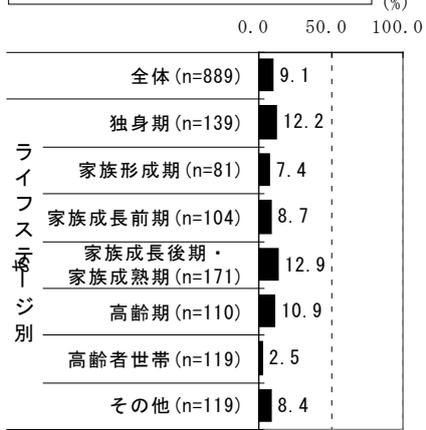


ライフステージ別でみると、「働く権利の保障と環境の整備を啓発する事業（パソコン講座、起業セミナー、再就職支援講座など）」は「家族成長後期・家族成熟期」で最も高く4割半ばを占めており、次いで「家族形成期」「家族成長前期」「独身期」の順に高く、それぞれ3割半ばを占めている。「相談事業（女性問題相談、青少年子ども相談、消費生活相談など）」は「家族成長前期」で最も高く、2割半ばを占めている。〔図 5-21〕

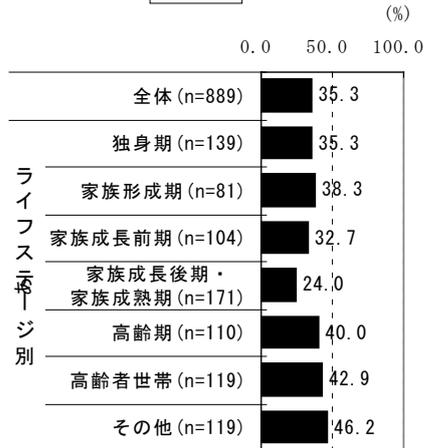
図 5-21 「スクエア 2 1・女性センター」の活動で、参加・利用したいと思うもの／ライフステージ別



情報提供事業（情報資料の閲覧、貸し出しなど）



特にない

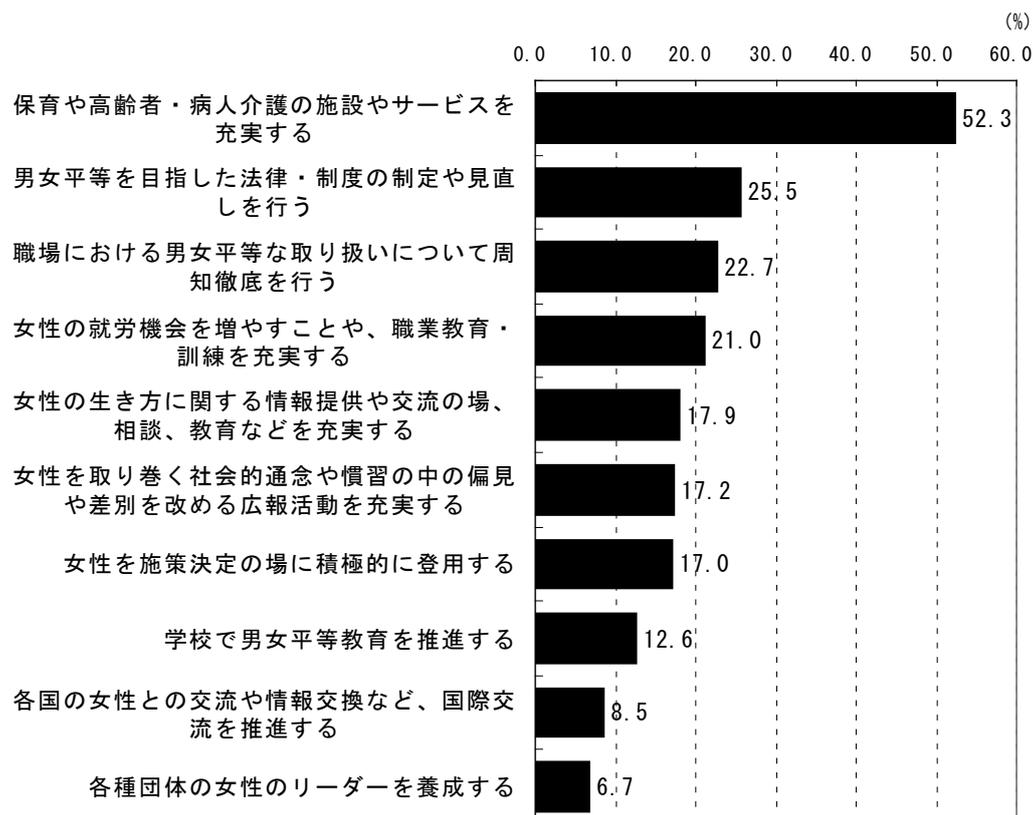


(8) 男女共同参画社会の実現のために望む事柄

「保育や高齢者・病人介護の施設やサービスを充実する」が5割以上を占め、最も高くなっている。

問 22. 男女が共に認め合い、いきいきと豊かに暮らせる社会を実現させるために、特に力を入れてほしいことは何ですか。次の中から3つまで選んでください。(n=889)

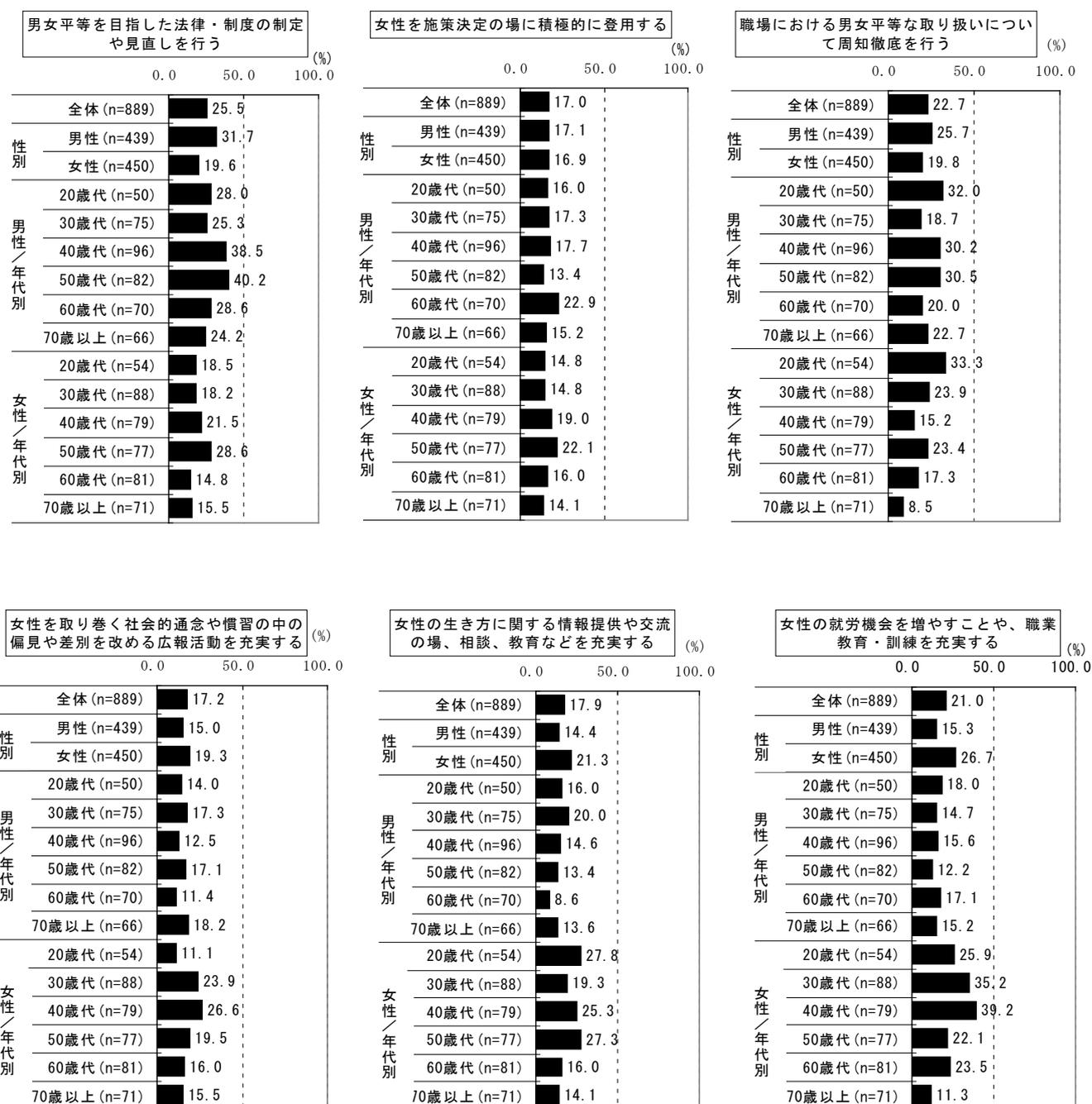
図 5-22 男女共同参画社会の実現のために望む事柄（複数回答）



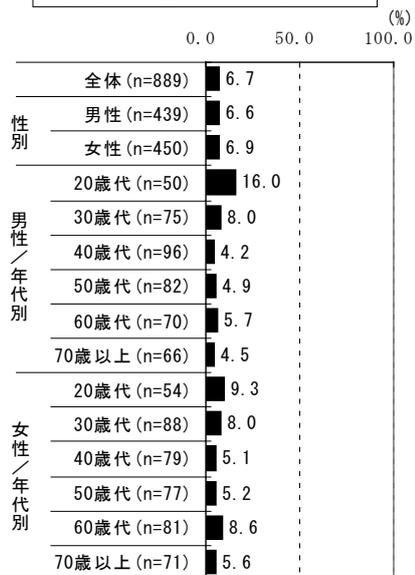
男女共同参画社会の実現のために望む事柄については、「保育や高齢者・病人介護の施設やサービスを充実する」(52.3%)が最も高く、次いで「男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う」(25.5%)「職場における男女平等な取り扱いについて周知徹底を行う」(22.7%)の順となっている。〔図 5-22〕

性別でみると、「男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う」「職場における男女平等な取り扱いについて周知徹底を行う」は「男性」が「女性」より高く、「保育や高齢者・病人介護の施設やサービスを充実する」「女性の就労機会を増やすことや、職業教育・訓練を充実する」は「女性」が「男性」より高くなっている。年代別でみると、「保育や高齢者・病人介護の施設やサービスを充実する」は「女性」の「20歳代」「30歳代」「60歳代」の順に高く、それぞれ6割半ばを占めている。「男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う」は「男性」の「50歳代」で最も高く4割以上を占めている。〔図5-23〕

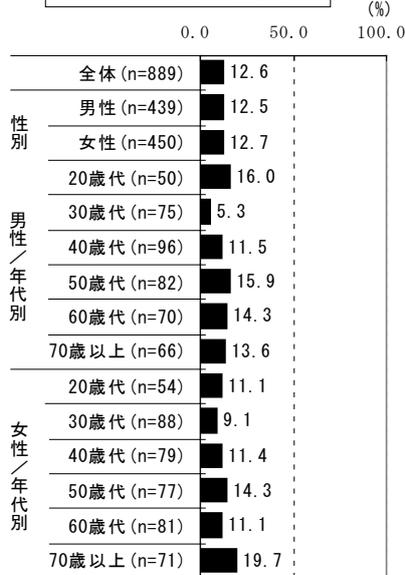
図5-23 男女共同参画社会の実現のために望む事柄／性・年代別



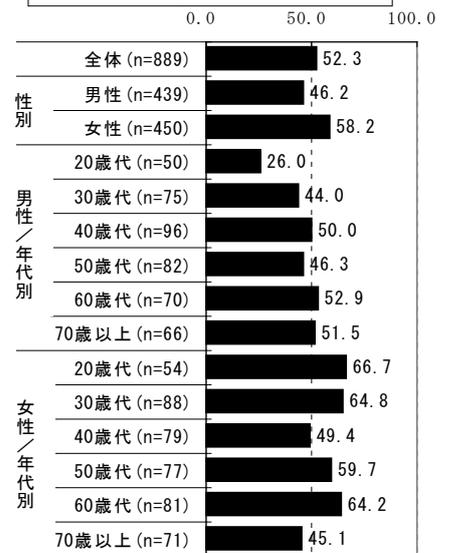
各種団体の女性のリーダーを養成する



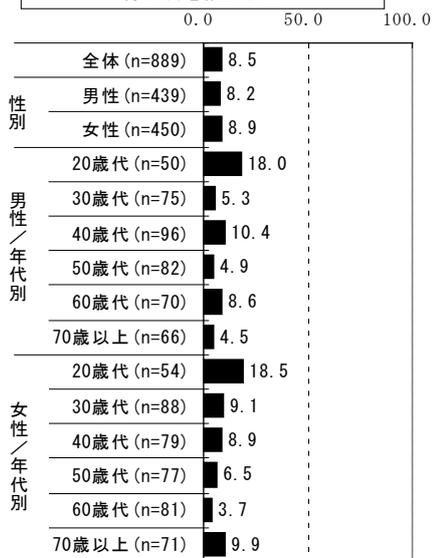
学校で男女平等教育を推進する



保育や高齢者・病人介護の施設やサービスを充実する

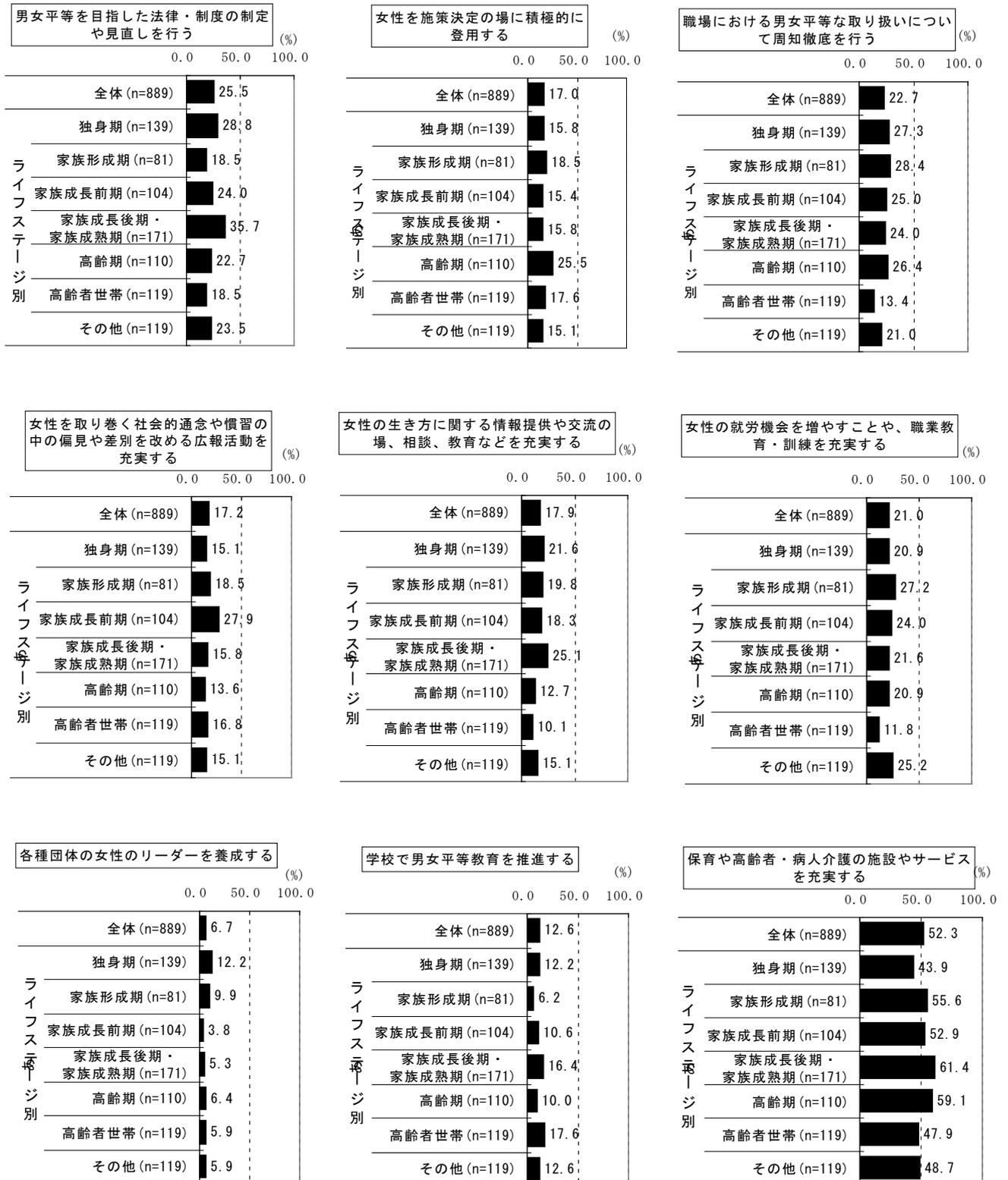


各国の女性との交流や情報交換など、国際交流を推進する

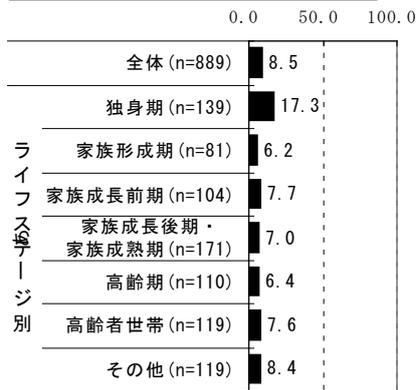


ライフステージ別でみると、「保育や高齢者・病人介護の施設やサービスを充実する」は「家族成長後期・家族成熟期」で最も高く6割以上を占めており、次いで「高齢期」「家族形成期」の順に高くなっている。「男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う」は「家族成長後期・家族成熟期」で最も高く3割半ばを占めている。〔図5-24〕

図5-24 男女共同参画社会の実現のために望む事柄／ライフステージ別



各国の女性との交流や情報交換など、国際交流を推進する (%)



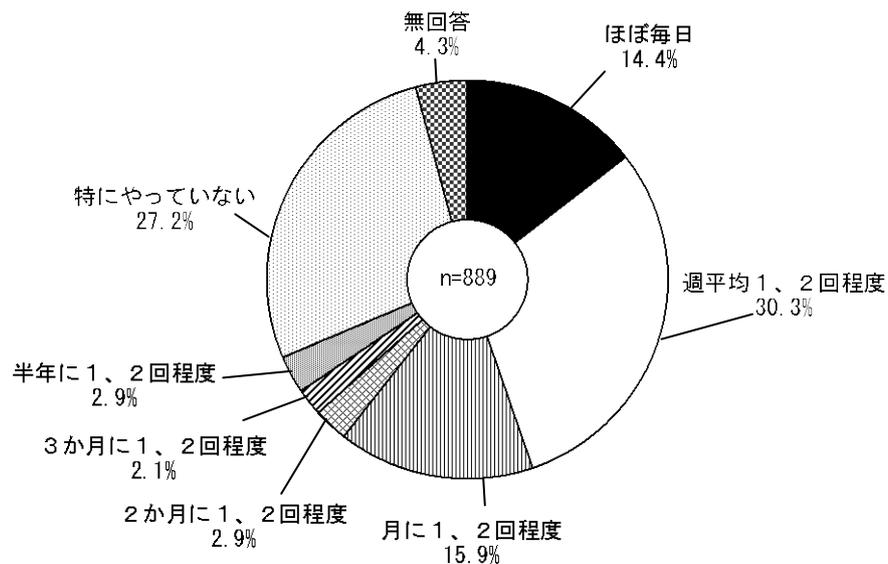
6 運動・スポーツ、市のスポーツ施設等

(1) 過去1年間に行った運動・スポーツの頻度

「週平均1、2回程度」が約3割を占めて最も高くなっている。

問 23. あなたは、過去1年間に運動・スポーツをどの程度行いましたか。ウォーキング、散歩等も含め、次の中から1つだけ選んでください。(n=889)

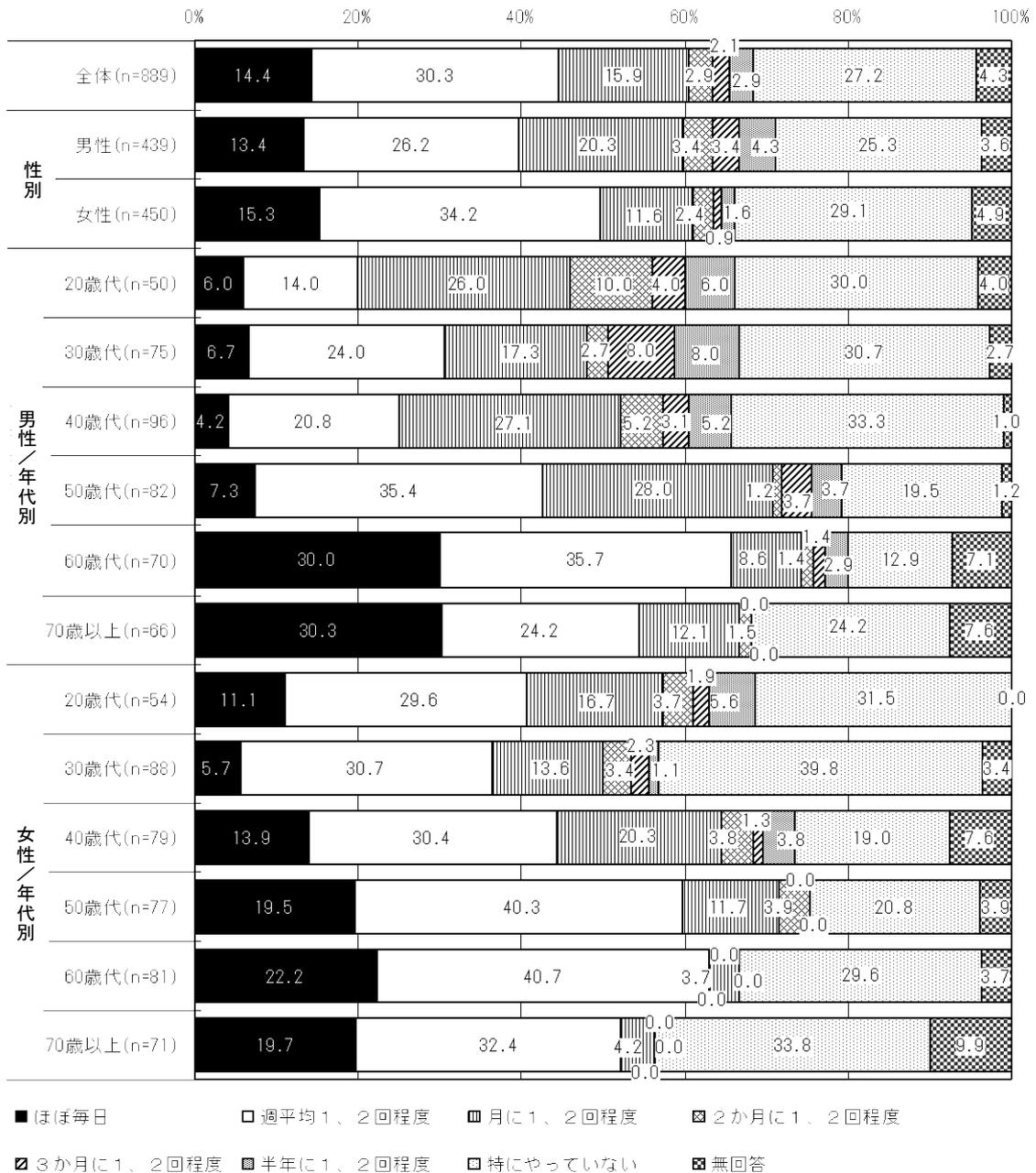
図 6-1 過去1年間に行った運動・スポーツの頻度



過去1年間に行った運動・スポーツの頻度については、「週平均1、2回程度」(30.3%)が最も高く、次いで「特にやっていない」(27.2%)「月に1、2回程度」(15.9%)「ほぼ毎日」(14.4%)の順となっている。[図 6-1]

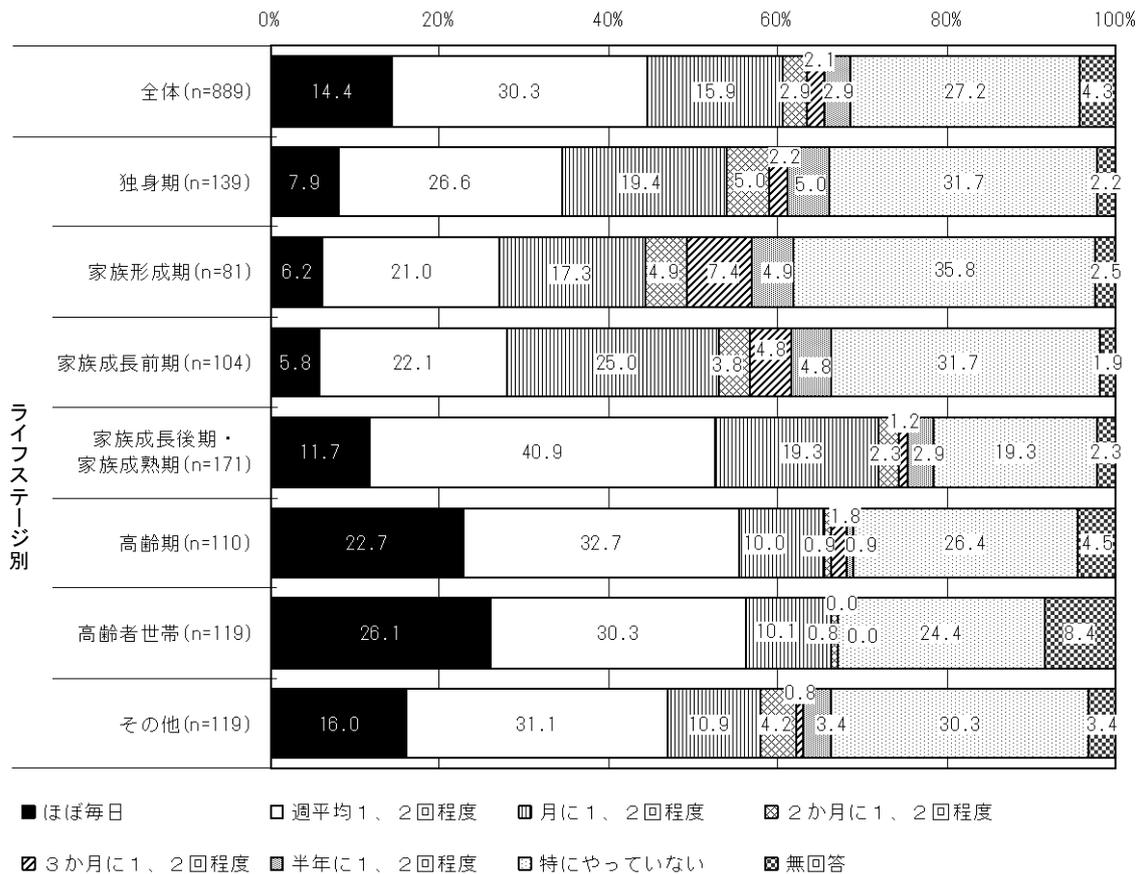
性別で見ると、「月に1、2回程度」は「男性」が「女性」より高く、「特にやっていない」「週平均1、2回程度」は「女性」が「男性」より高くなっている。年代別で見ると、「ほぼ毎日」は「男性」の「60歳代」「70歳以上」で3割以上と高く、年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。「特にやっていない」は「女性」の「30歳代」で最も高く、約4割を占めており、次いで「女性」の「70歳以上」、「男性」の「40歳代」の順となっている。〔図6-2〕

図6-2 過去1年間に行った運動・スポーツの頻度／性・年代別



ライフステージ別でみると、「ほぼ毎日」は「高齢者世帯」で最も高く2割半ばを占めており、ライフステージが上がるにつれて高くなる傾向がみられる。「週平均1、2回程度」は「家族成長後期・家族成熟期」で最も高く約4割を占めており、次いで「高齢期」「高齢者世帯」の順に高く、それぞれ3割以上を占めている。「特にやっていない」は「家族形成期」で最も高く3割半ばを占めている。〔図6-3〕

図6-3 過去1年間に行った運動・スポーツの頻度／ライフステージ別



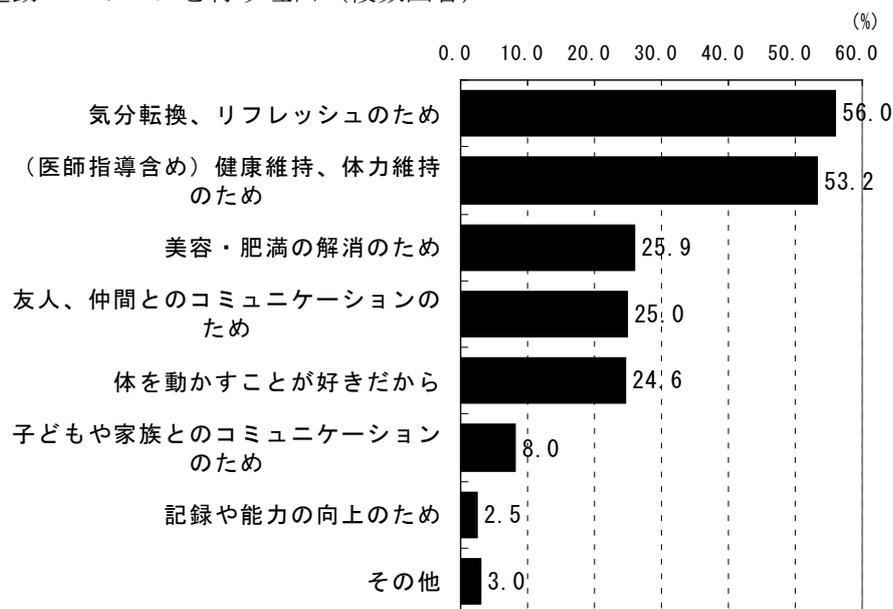
(2) 運動・スポーツを行う理由

「気分転換、リフレッシュのため」が最も高く、次いで「健康維持、体力維持のため」となっている。

〔問 23 で「1」「2」「3」「4」「5」「6」とお答えの方に〕

問 23-1. あなたが運動・スポーツを行う理由は何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(n=609)

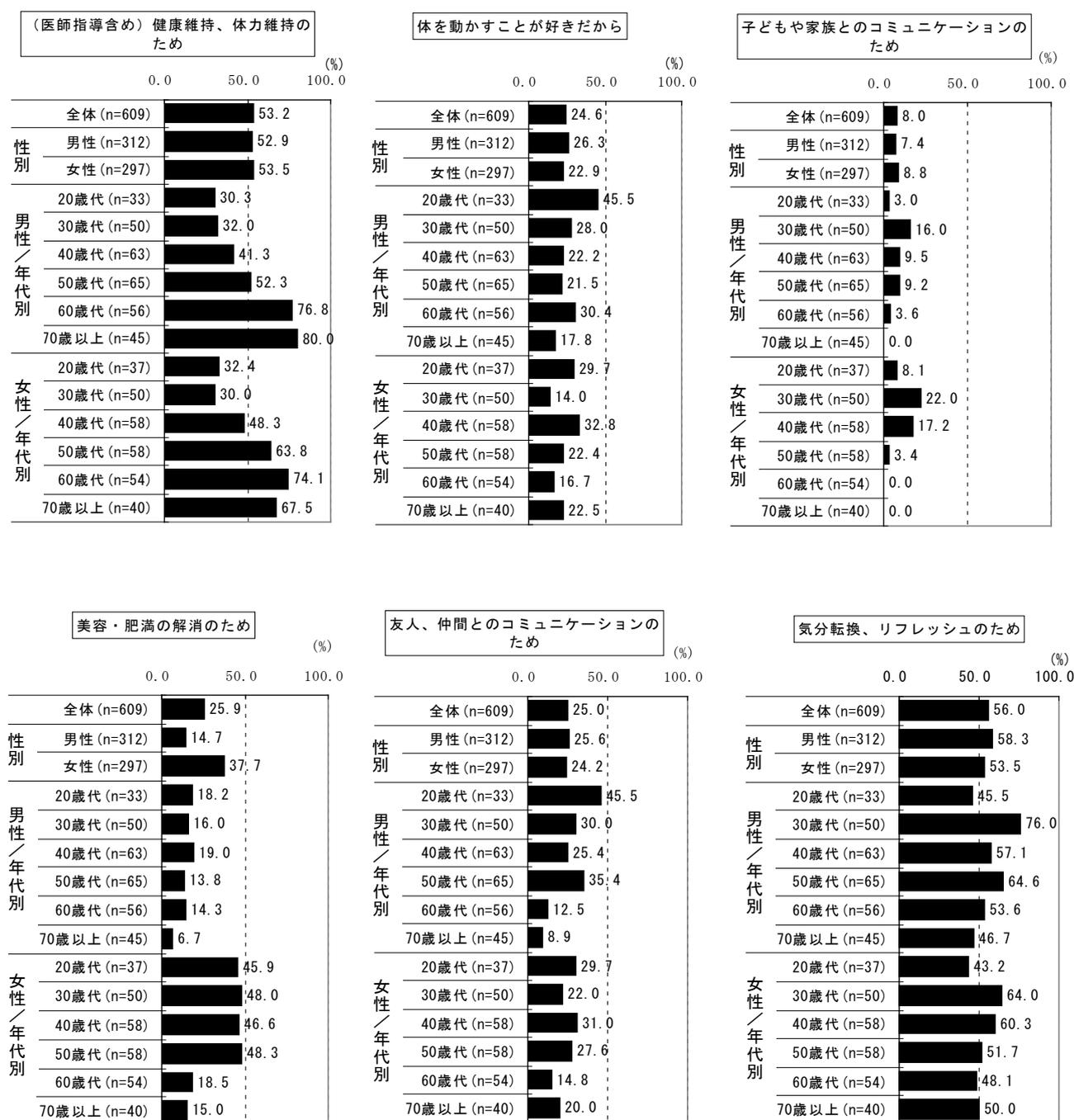
図 6-4 運動・スポーツを行う理由（複数回答）

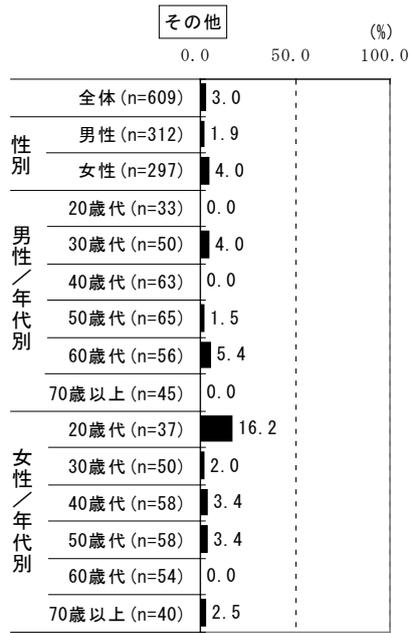
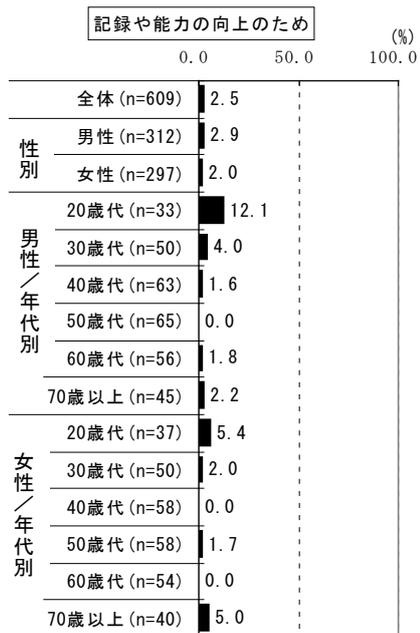


運動・スポーツを行う理由は、「気分転換、リフレッシュのため」(56.0%)が最も高く、次いで「(医師指導含め)健康維持、体力維持のため」(53.2%)「美容・肥満の解消のため」(25.9%)の順となっている。〔図 6-4〕

性別で見ると、「美容・肥満の解消のため」は「女性」が「男性」より高くなっている。年代別で見ると、「気分転換、リフレッシュのため」は「男性」の「30歳代」で最も高く7割半ばを占めており、次いで「男性」の「50歳代」、「女性」の「30歳代」「40歳代」の順に高く、それぞれ6割以上を占めている。「(医師指導含め)健康維持、体力維持のため」は「男性」の「70歳以上」で最も高く8割を占めており、年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。〔図6-5〕

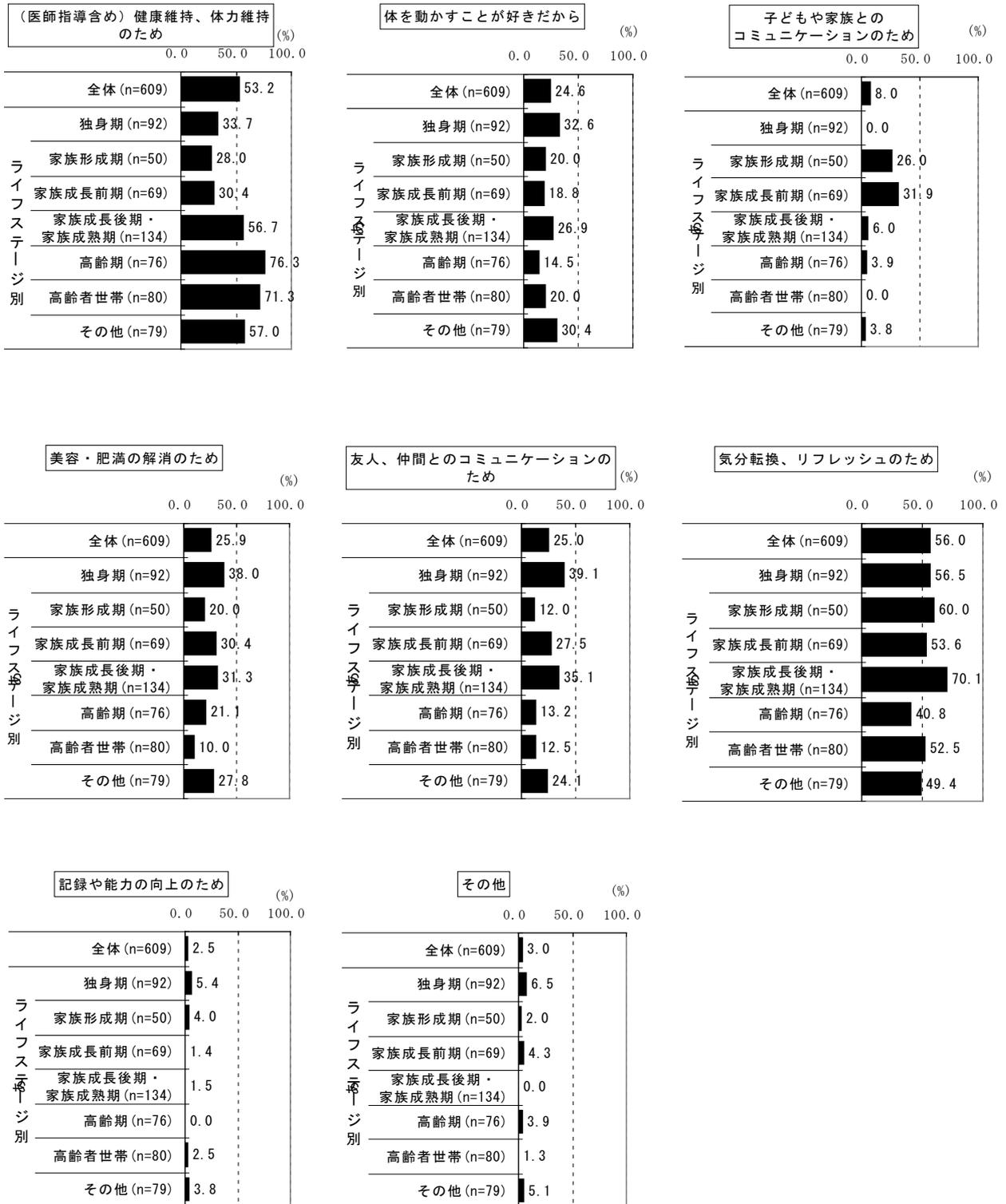
図 6-5 運動・スポーツを行う理由／性・年代別





ライフステージ別でみると、「気分転換、リフレッシュのため」は「家族成長後期・家族成熟期」で最も高く7割以上を占めている。「(医師指導含め)健康維持、体力維持のため」は「高齢期」「高齢者世帯」の順に高く、それぞれ7割以上を占めている。〔図 6-6〕

図 6-6 運動・スポーツを行う理由／ライフステージ別



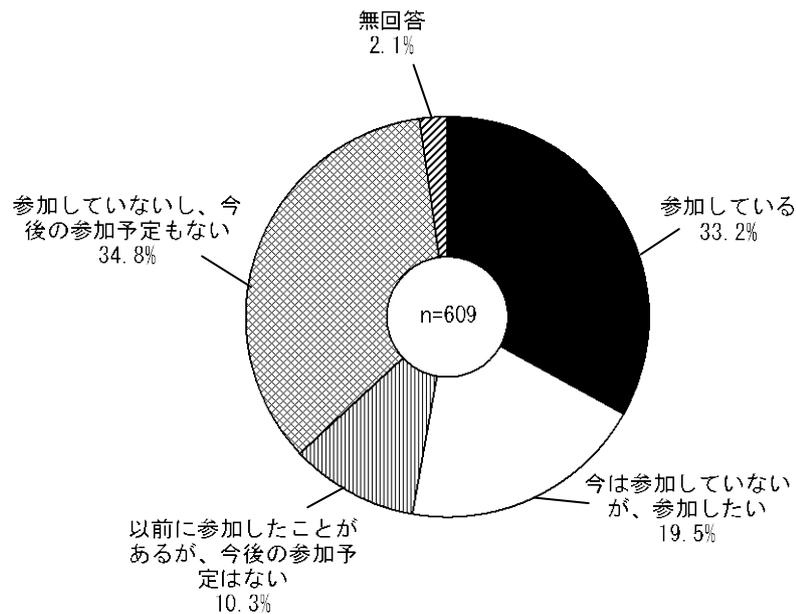
(3) 運動・スポーツのクラブや同好会への参加

「参加していないし、今後の参加予定もない」が3割半ばを占めている。

〔問 23 で「1」「2」「3」「4」「5」「6」とお答えの方に〕

問 23-2. あなたは運動・スポーツのクラブや同好会に参加していますか。次の中から1つだけ選んでください。(n=609)

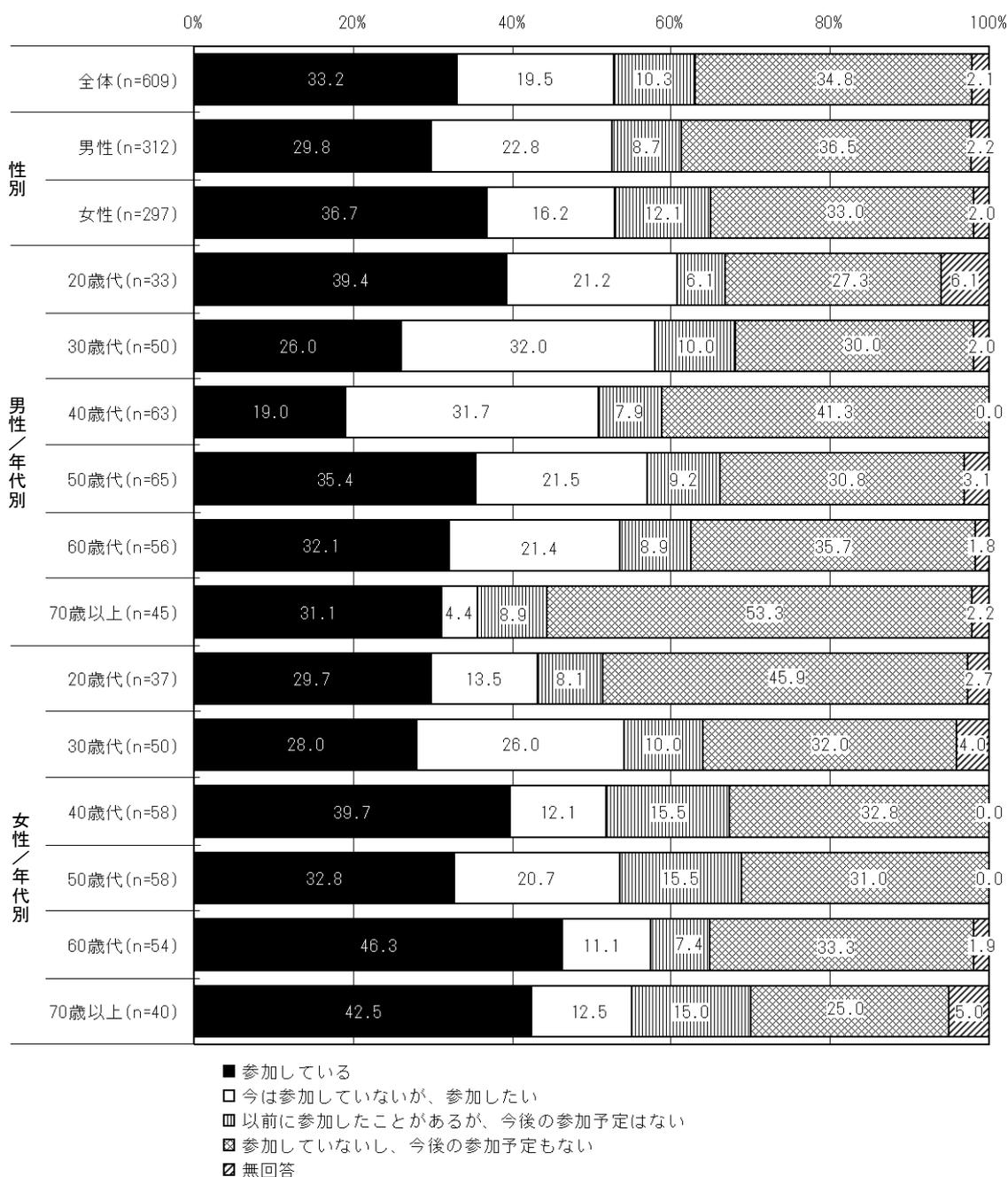
図 6-7 運動・スポーツのクラブや同好会への参加



運動・スポーツのクラブや同好会への参加は、「参加していないし、今後の参加予定もない」(34.8%)が最も高く、次いで「参加している」(33.2%)「今は参加していないが、参加したい」(19.5%)の順に高くなっている。〔図 6-7〕

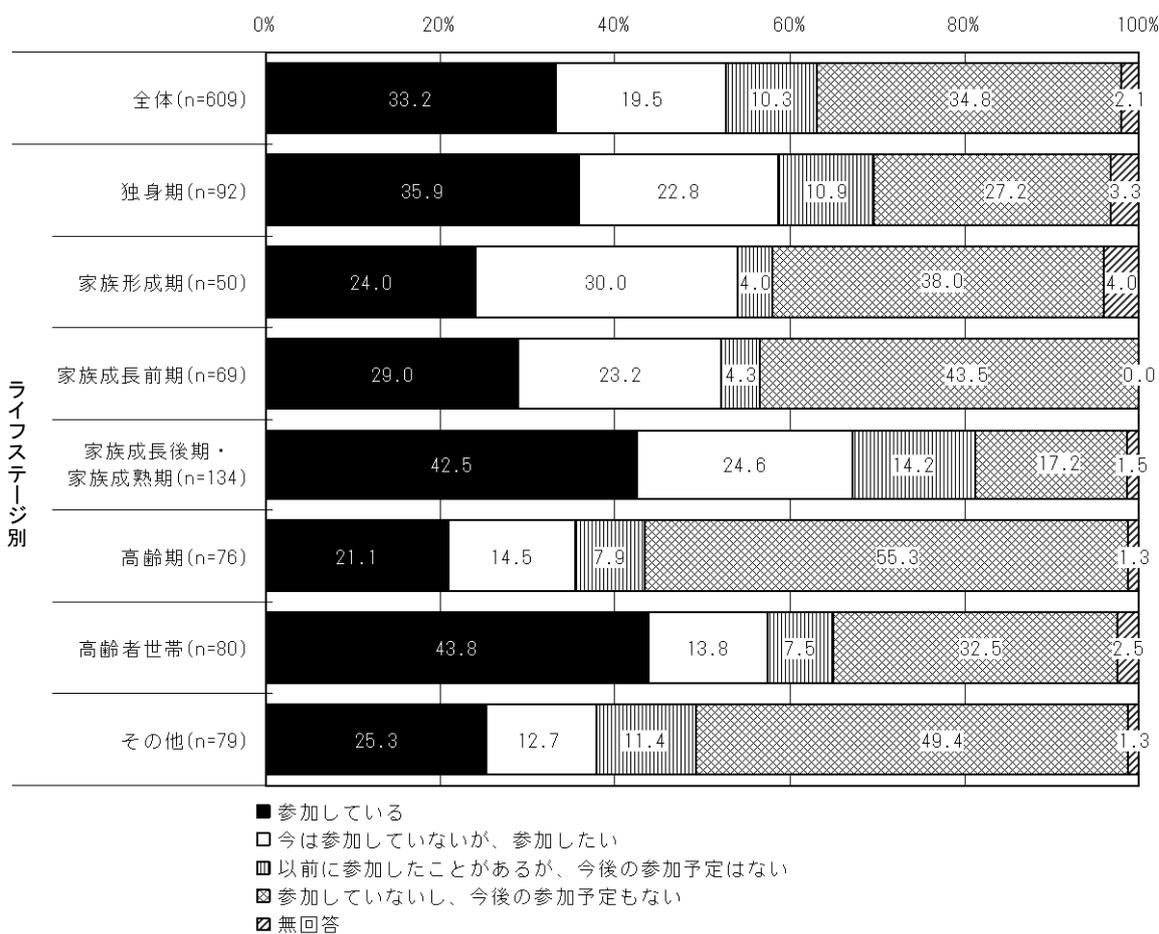
性別でみると、「今は参加していないが、参加したい」は「男性」が「女性」より高く、「参加している」は「女性」が「男性」より高くなっている。年代別でみると、「参加している」は「女性」の「60歳代」「70歳以上」の順に高く、それぞれ4割以上を占めている。「参加していないし、今後の参加予定もない」は「男性」の「70歳以上」で最も高く、次いで「女性」の「20歳代」の順となっている。〔図6-8〕

図6-8 運動・スポーツのクラブや同好会への参加／性・年代別



ライフステージ別でみると、「参加している」は「高齢者世帯」「家族成長後期・家族成熟期」の順に高く、それぞれ4割半ばを占めている。「今は参加していないが、参加したい」は「家族形成期」で最も高く3割を占めている。「参加していないし、今後の参加予定もない」は「高齢期」で最も高く5割半ばを占めている。〔図 6-9〕

図 6-9 運動・スポーツのクラブや同好会への参加／ライフステージ別



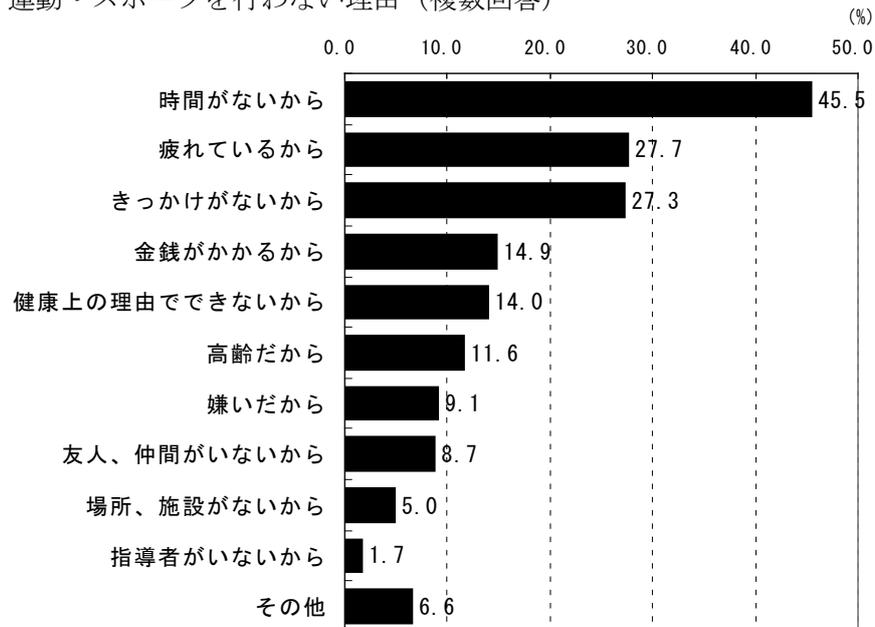
(4) 運動・スポーツを行わない理由

「時間がないから」が4割半ばを占めて最も高くなっている。

〔問 23 で「7」とお答えの方に〕

問 23-3. あなたが運動・スポーツを行わない理由は何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(n=242)

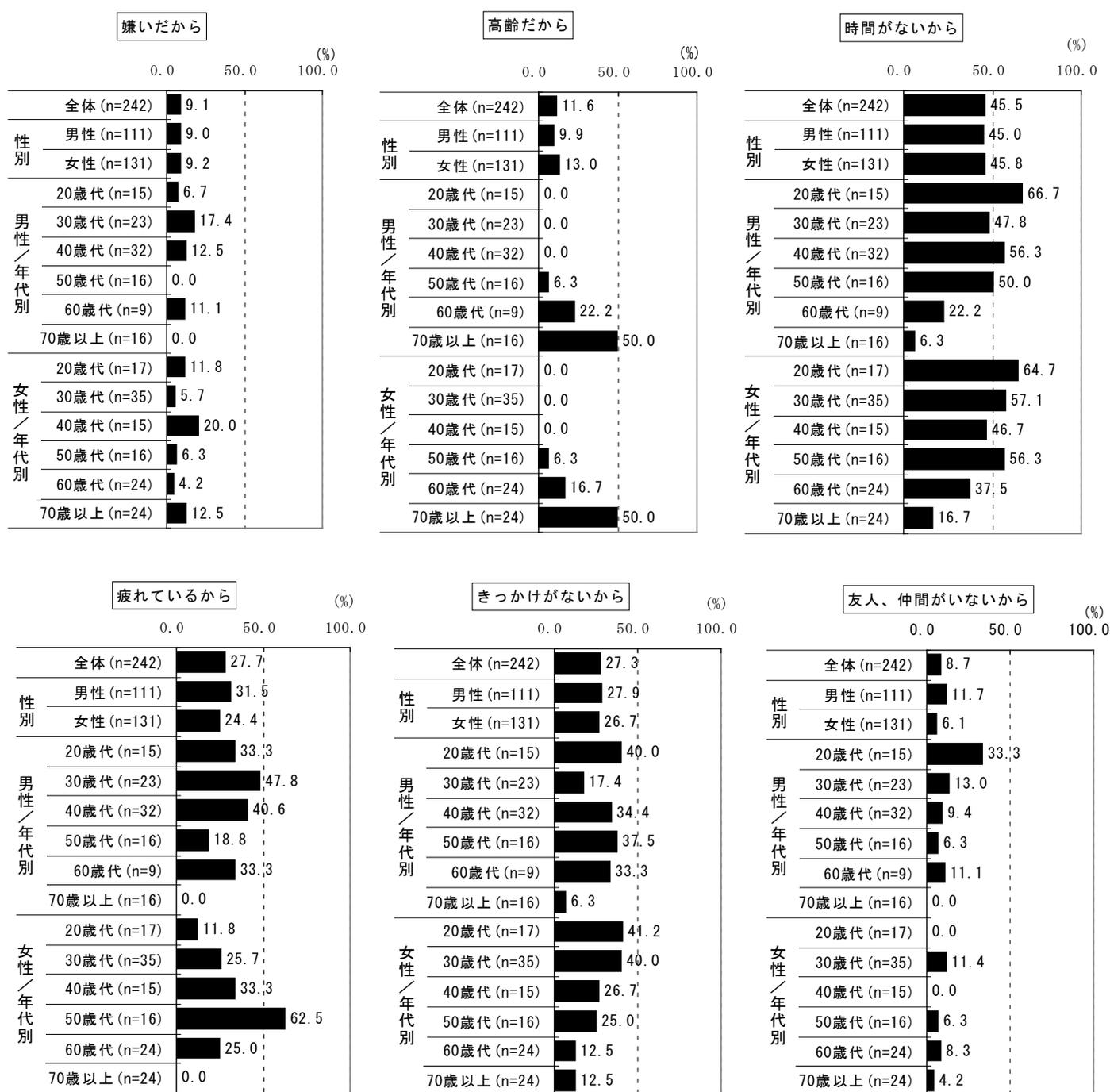
図 6-10 運動・スポーツを行わない理由 (複数回答)



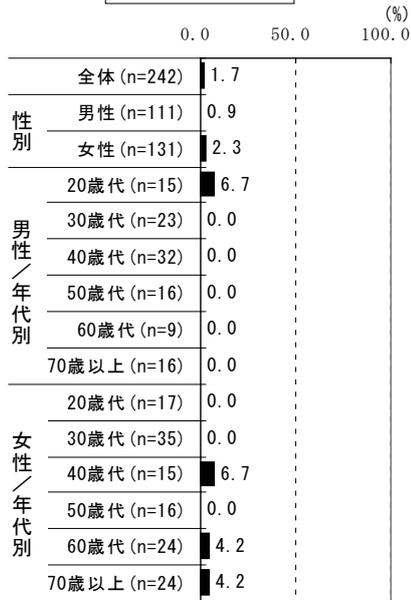
運動・スポーツを行わない理由は、「時間がないから」(45.5%)が最も高く、次いで「疲れているから」(27.7%)「きっかけがないから」(27.3%)の順となっている。〔図 6-10〕

性別でみると、「疲れているから」「金銭がかかるから」「きっかけがないから」「友人、仲間がいないから」は「男性」が「女性」より高くなっている。年代別でみると、「時間がないから」は「男性」「女性」ともに「20歳代」で最も高く6割半ばを占めており、年代が上がるにつれて低くなる傾向がみられる。「疲れているから」は「女性」の「60歳代」で最も高く6割以上を占めており、次いで「男性」の「30歳代」「40歳代」の順に高くなっている。〔図6-11〕

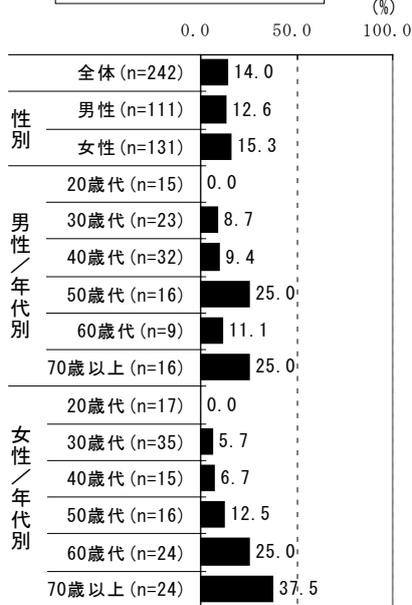
図6-11 運動・スポーツを行わない理由／性・年代別



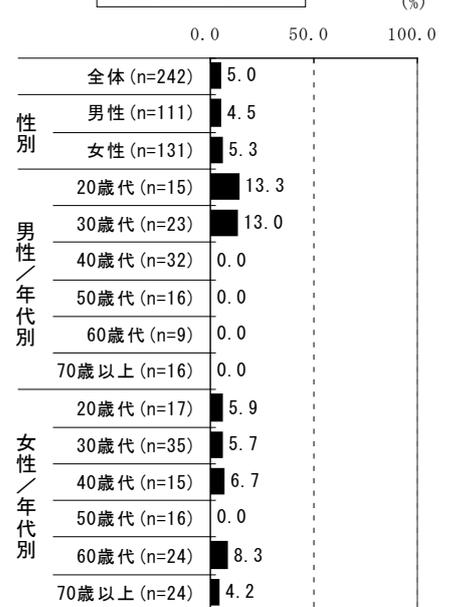
指導者がいないから



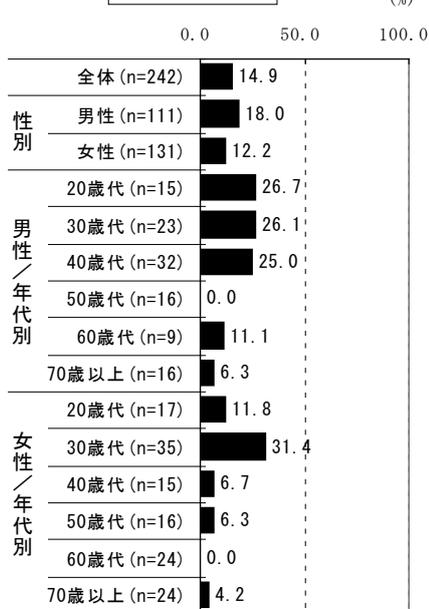
健康上の理由でできないから



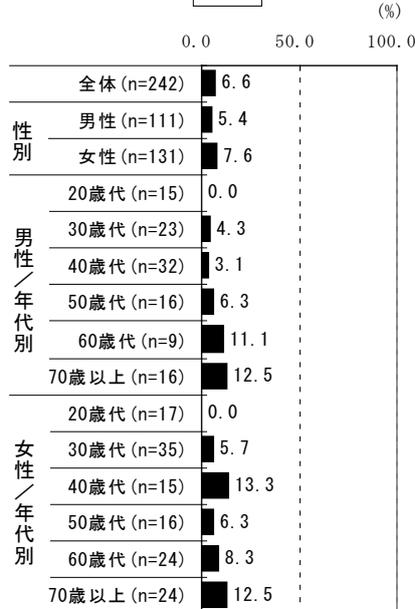
場所、施設がないから



金銭がかかるから



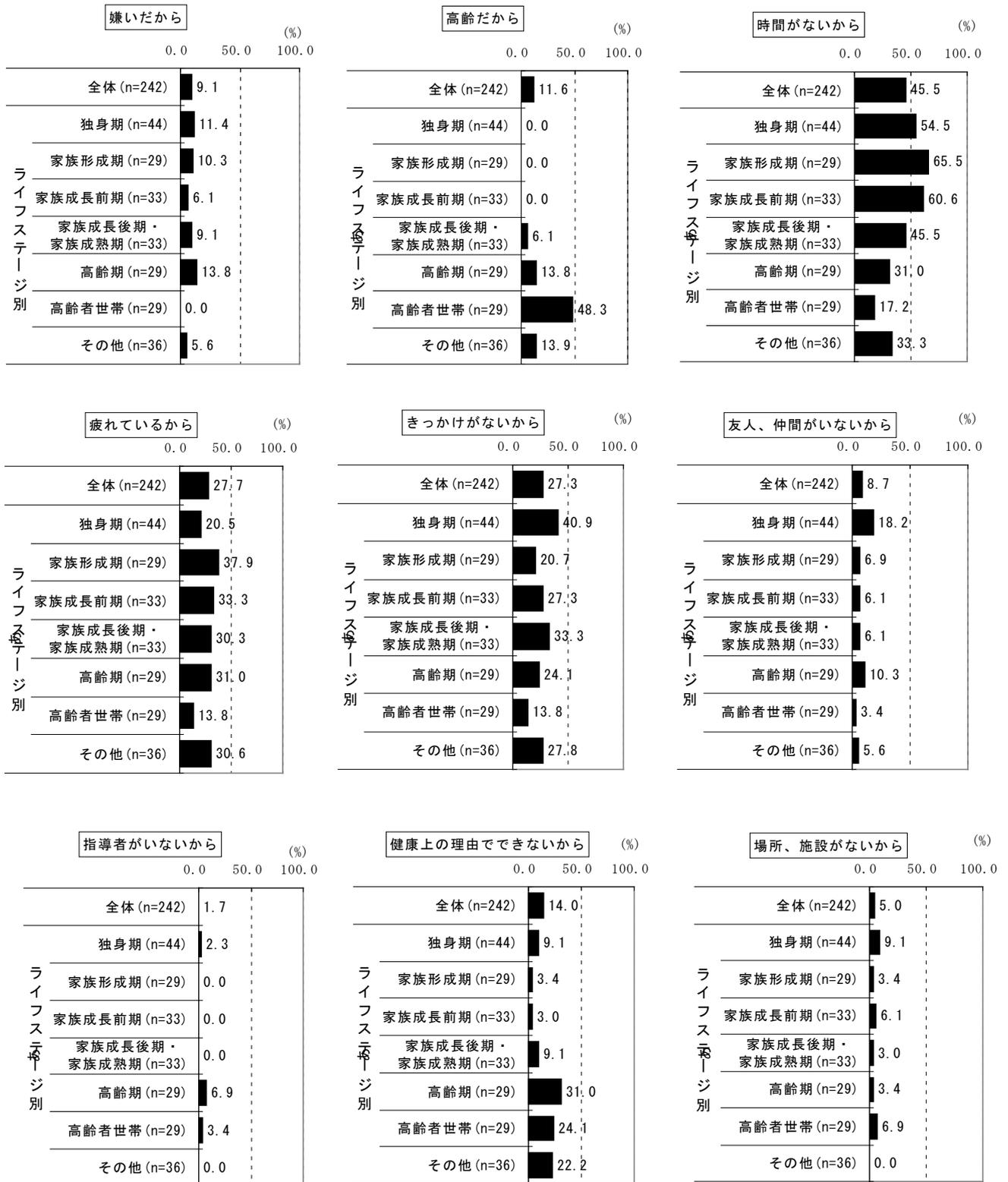
その他

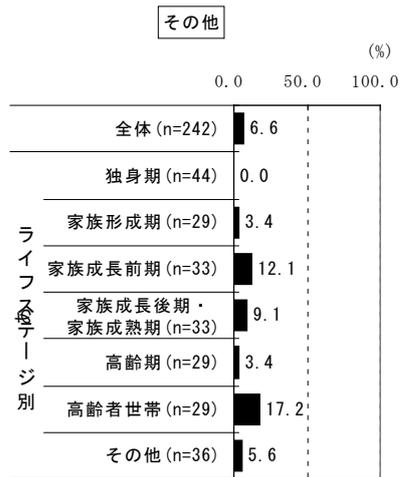
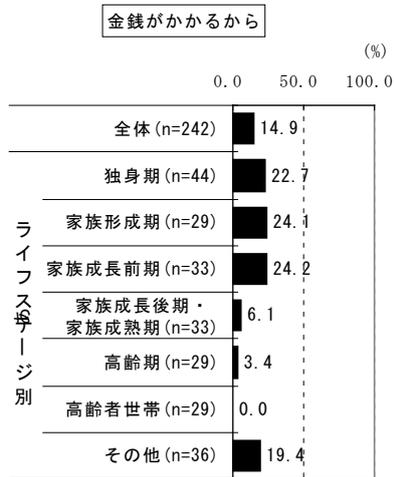


ライフステージ別でみると、「時間がないから」は「家族形成期」「家族成長前期」の順に高く、それぞれ6割以上を占めている。「疲れているから」は「家族形成期」で最も高く、約4割を占めている。「きっかけがないから」は「独身期」で高く、4割以上を占めている。

〔図 6-12〕

図 6-12 運動・スポーツを行わない理由／ライフステージ別



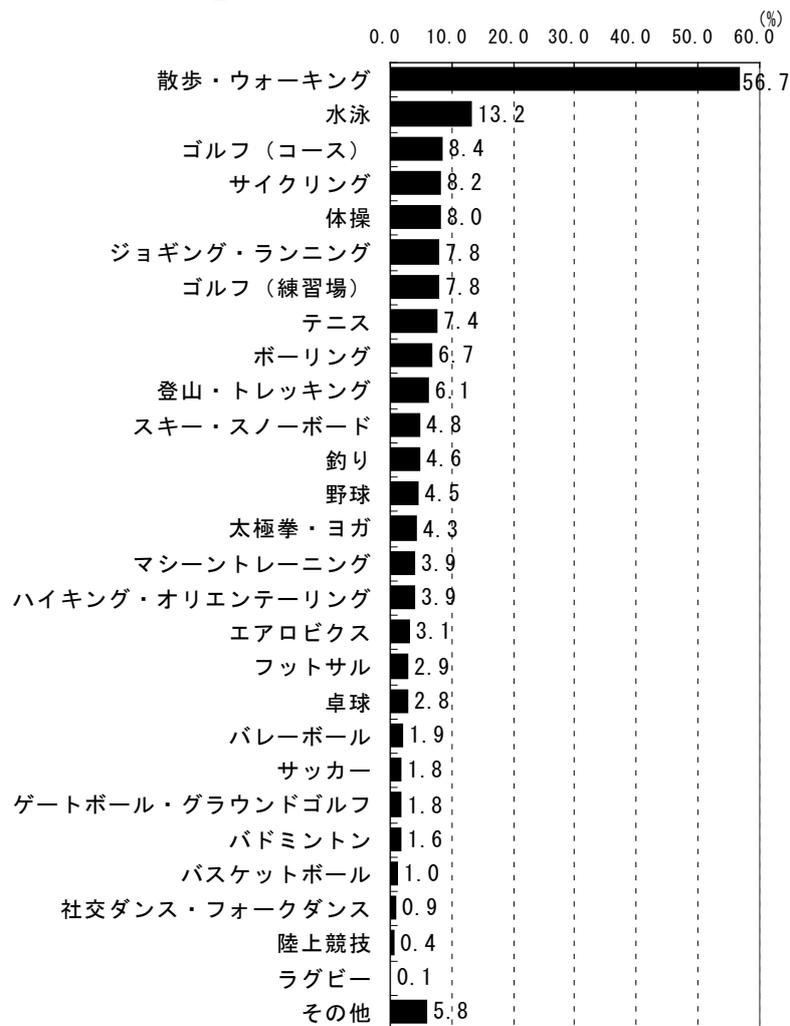


(5) 過去1年間に行った運動・スポーツ

「散歩・ウォーキング」が5割半ばを占めて最も高くなっている。

問 24. あなたが、過去1年間に行った運動・スポーツは何ですか。主なものを次の中から3つまで選んでください。(n=889)

図 6-13 過去1年間に行った運動・スポーツ

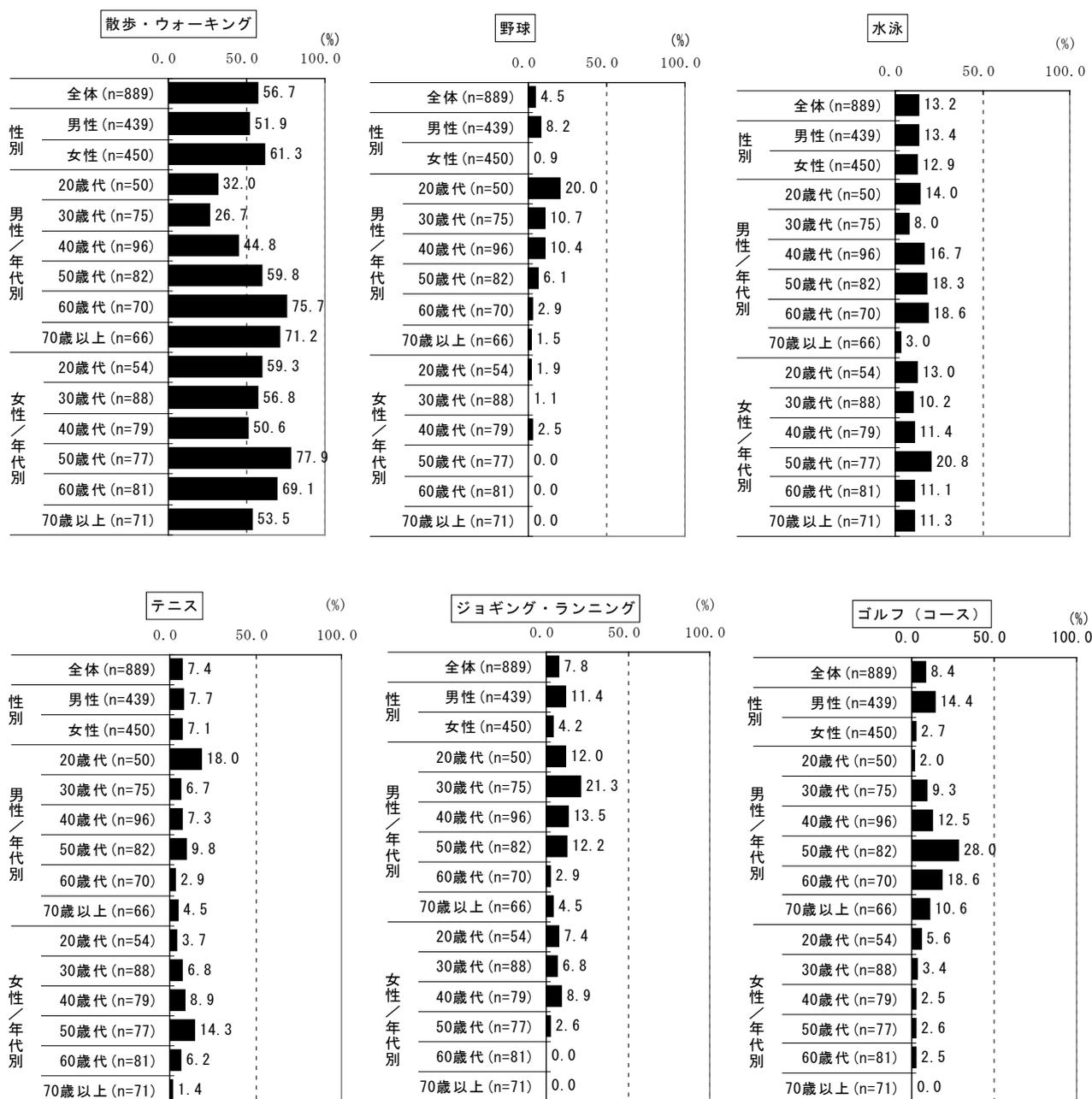


過去1年間に行った運動・スポーツは、「散歩・ウォーキング」(56.7%)が最も高く、次いで「水泳」(13.2%)「ゴルフ(コース)」(8.4%)「サイクリング」(8.2%)の順となっている。〔図 6-13〕

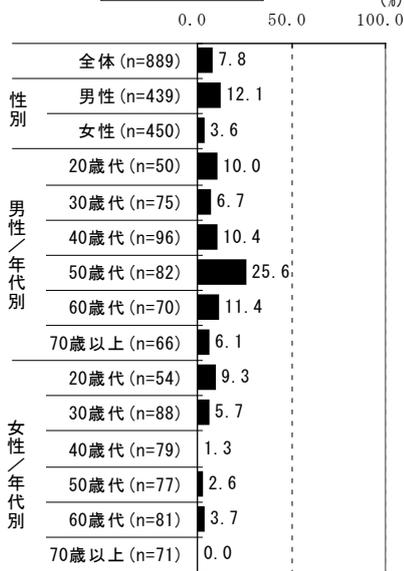
性別で見ると、「散歩・ウォーキング」は「女性」が「男性」より高くなっている。一方、「ゴルフ（コース）」は「男性」が「女性」より高くなっている。

年代別で見ると、「散歩・ウォーキング」は「女性」の「50歳代」、「男性」の「60歳代」「70歳以上」の順に高く、それぞれ7割以上を占めている。「水泳」は「女性」の「50歳代」で最も高く2割以上を占めており、「ゴルフ（コース）」は「男性」の「50歳代」で最も高く、約3割を占めている。〔図6-14〕

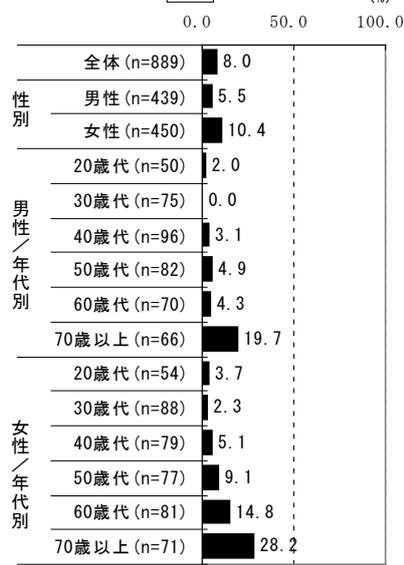
図6-14 過去1年間に行った運動・スポーツ／性・年代別



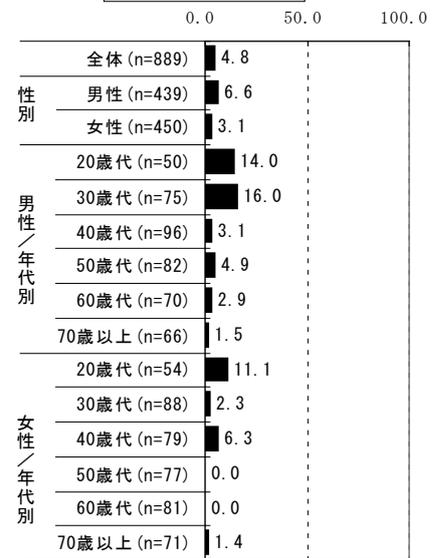
ゴルフ (練習場)



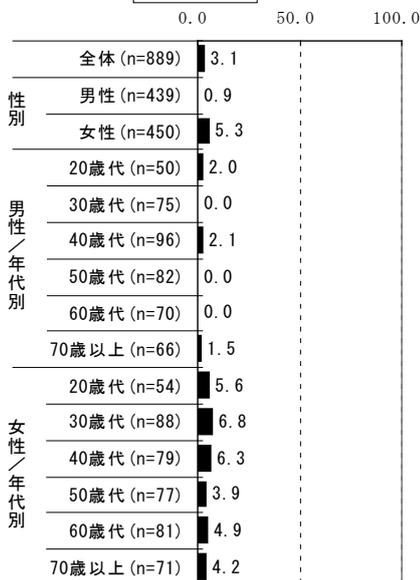
体操



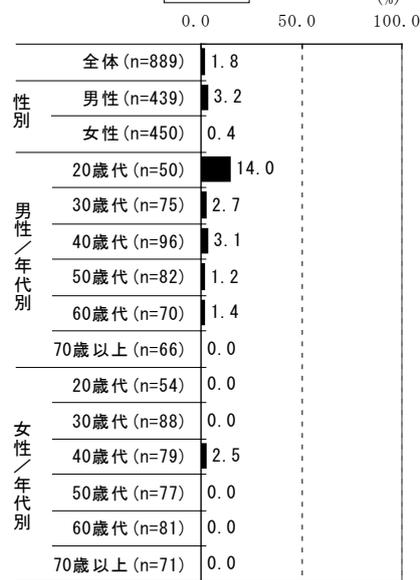
スキー・スノーボード



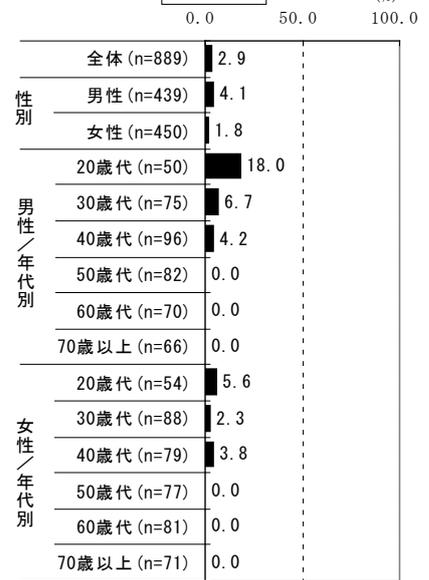
エアロビクス



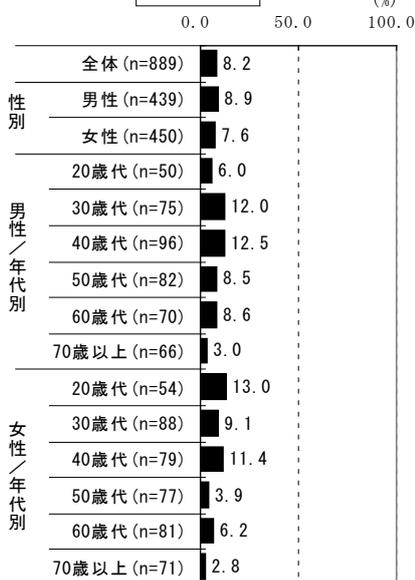
サッカー



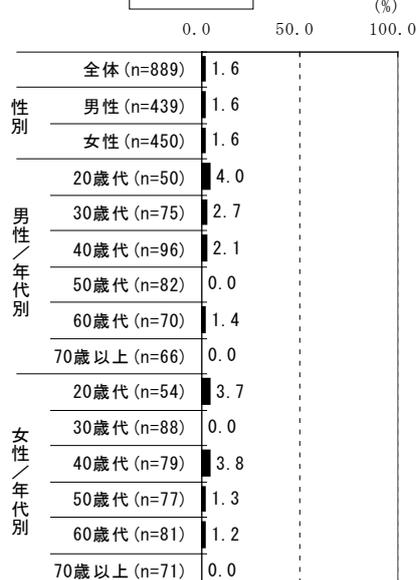
フットサル



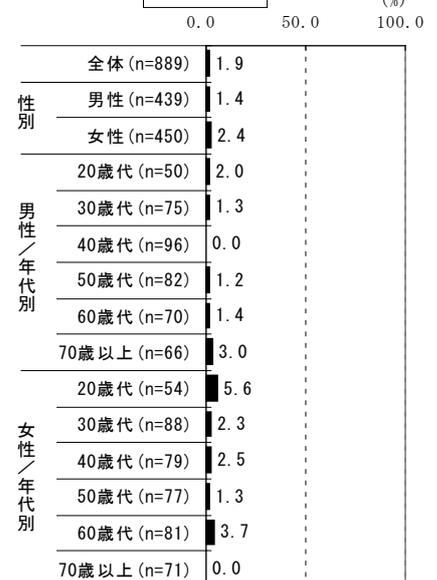
サイクリング

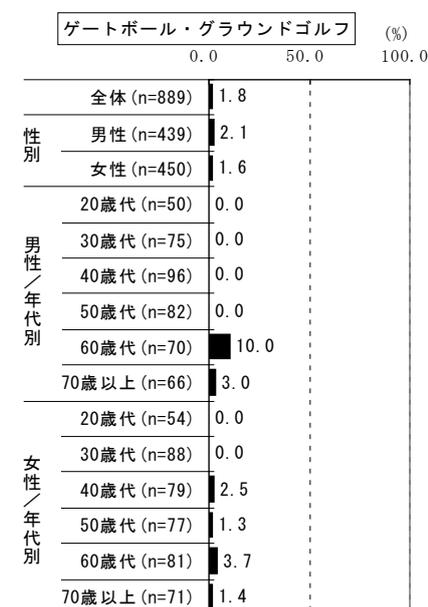
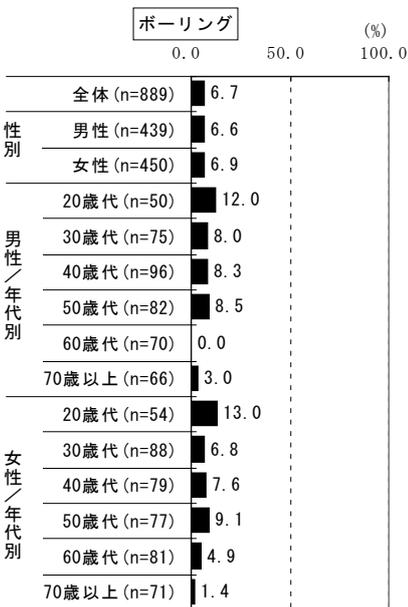
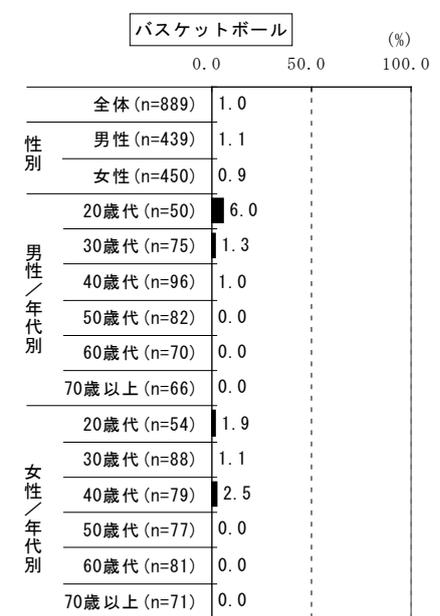
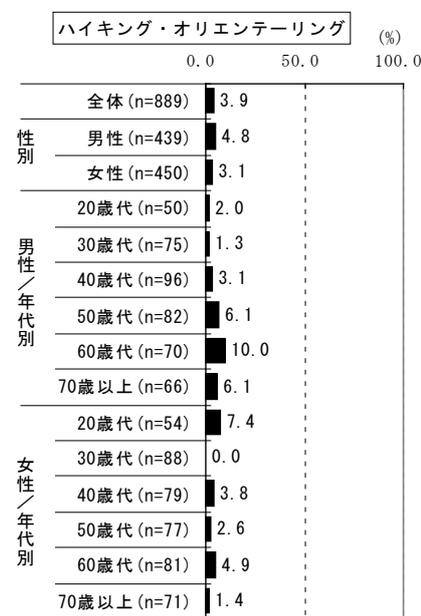
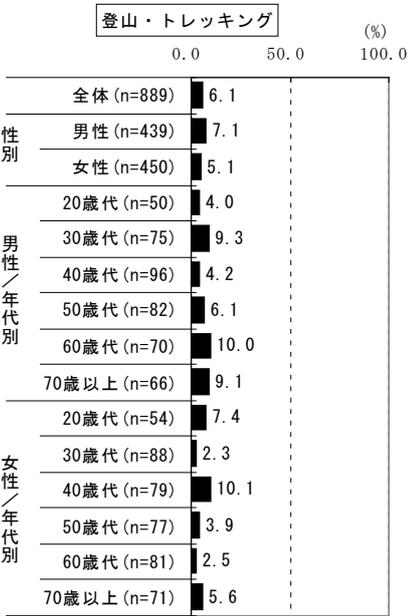
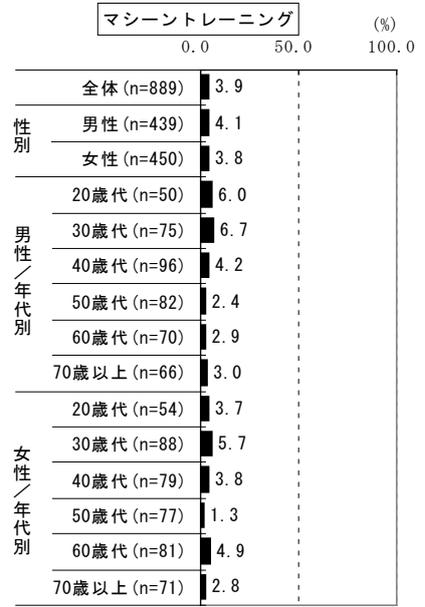
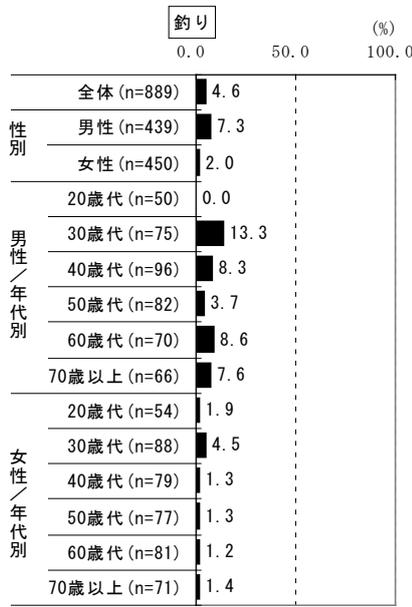
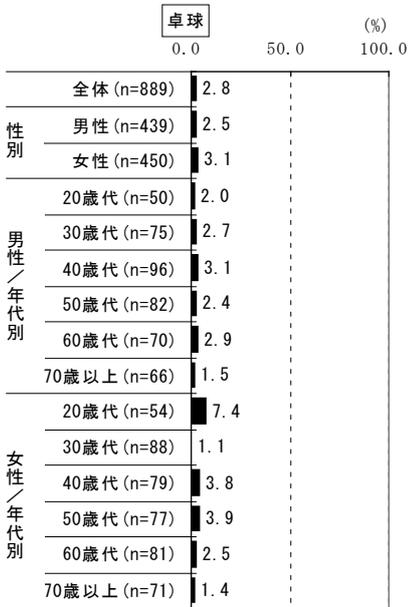


バドミントン

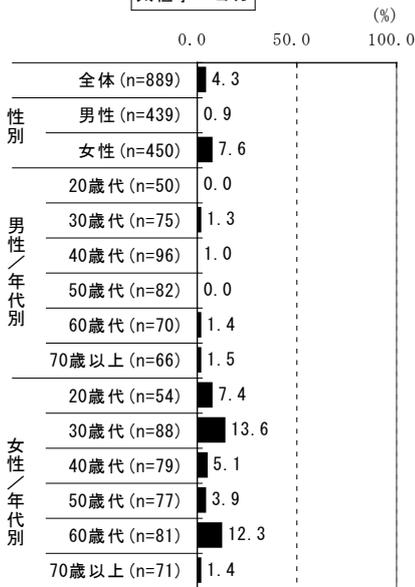


バレーボール

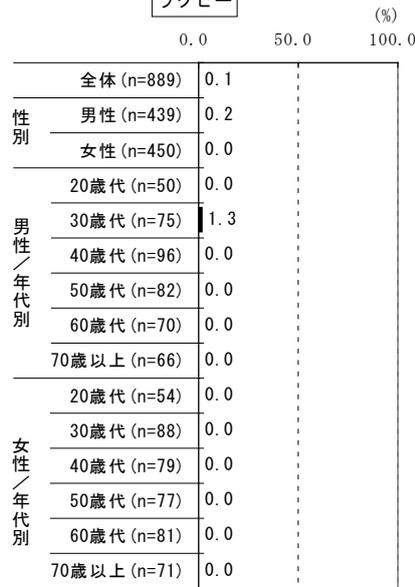




太極拳・ヨガ



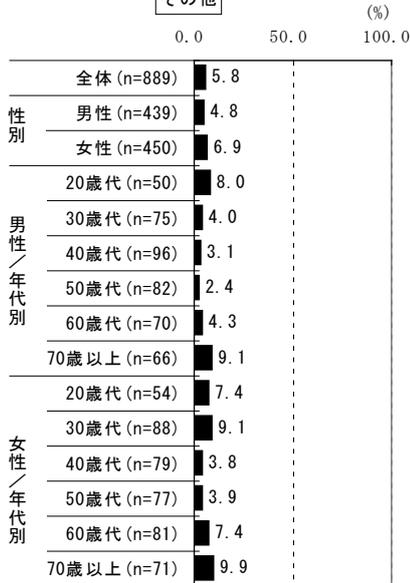
ラグビー



陸上競技

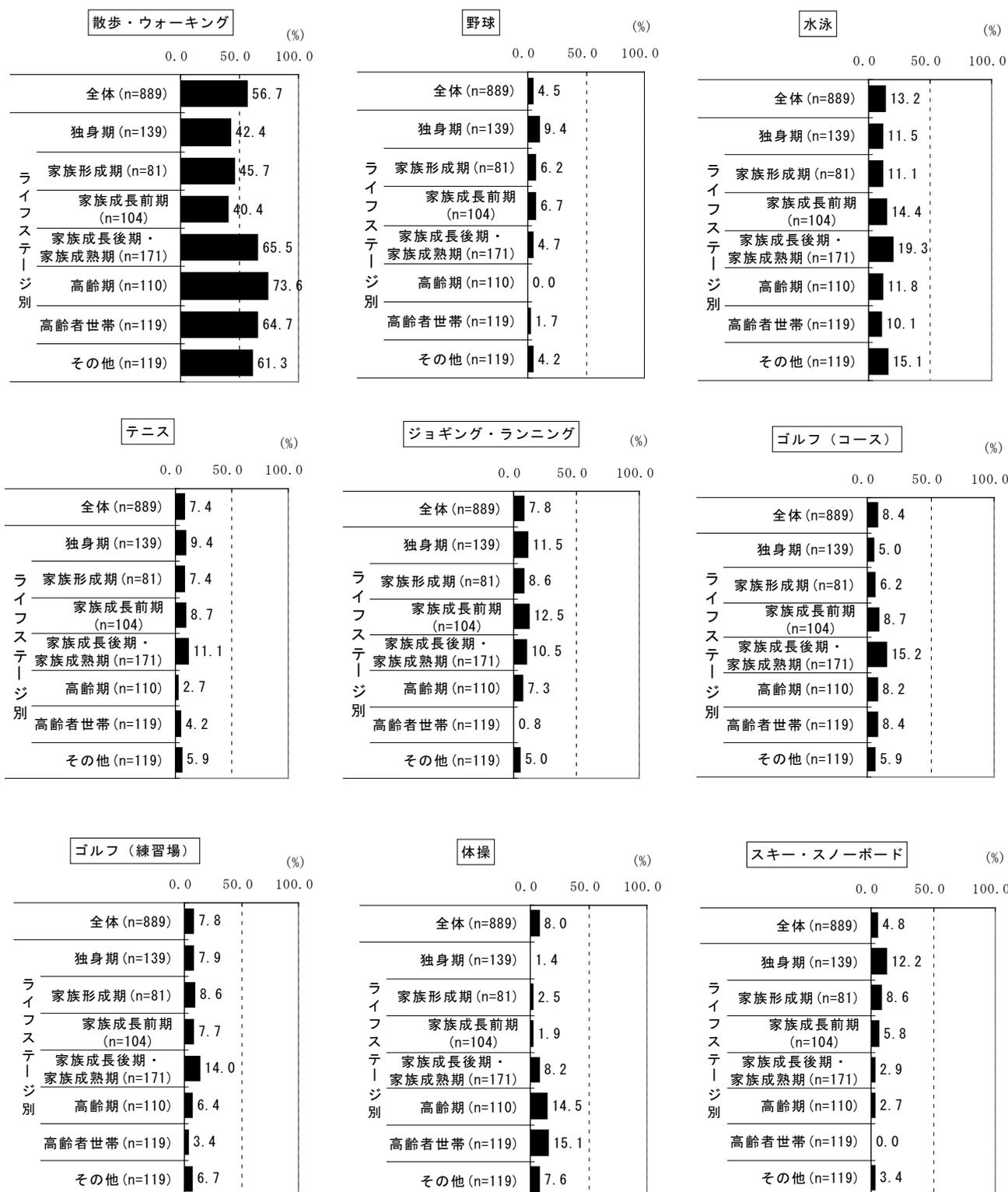


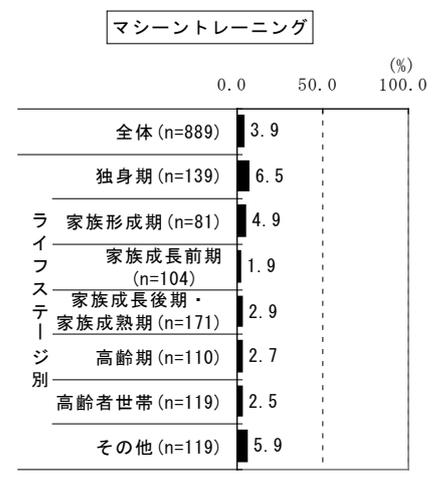
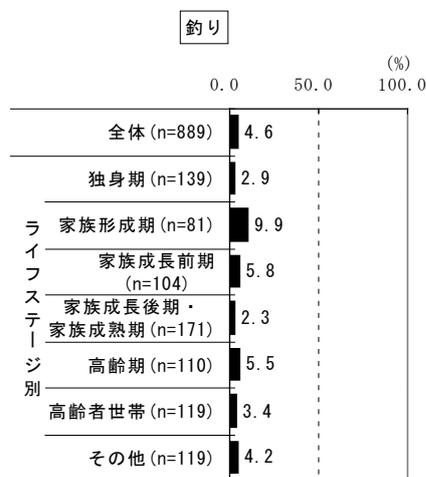
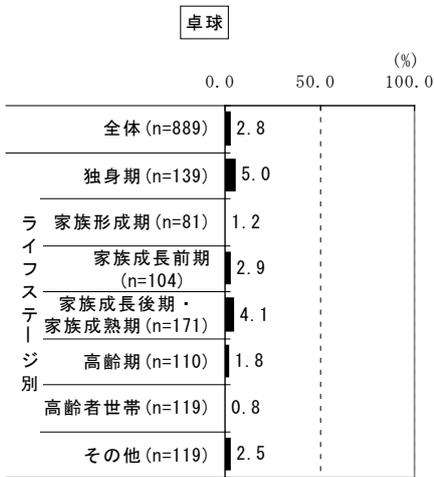
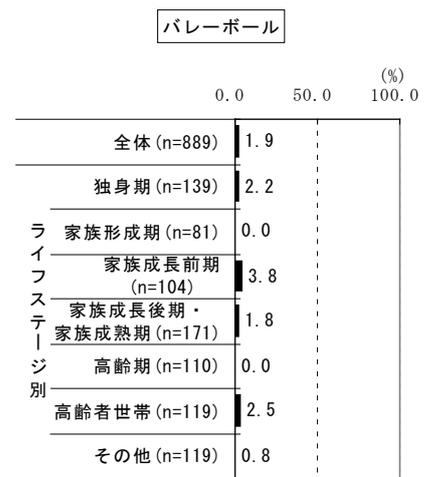
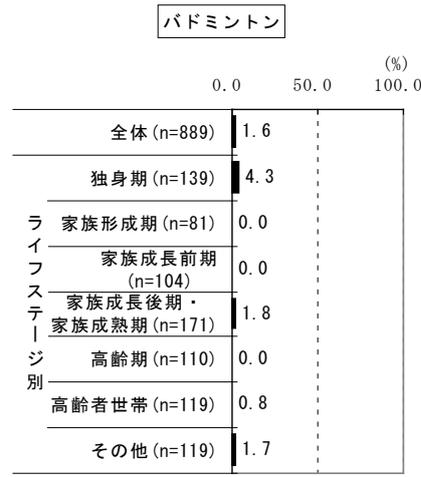
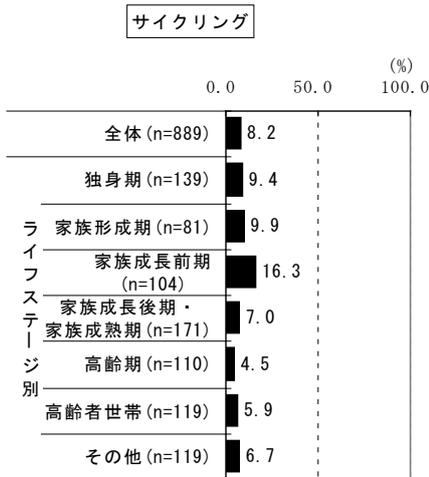
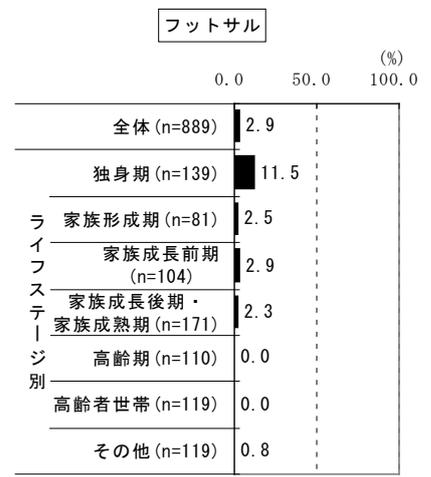
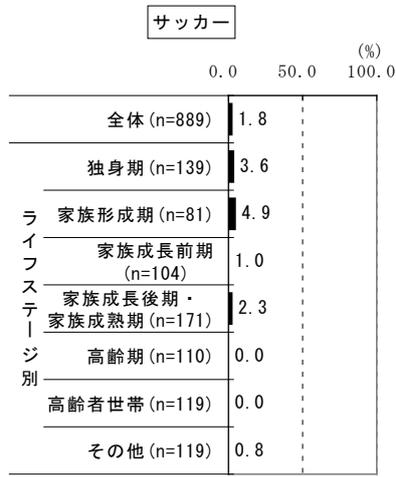
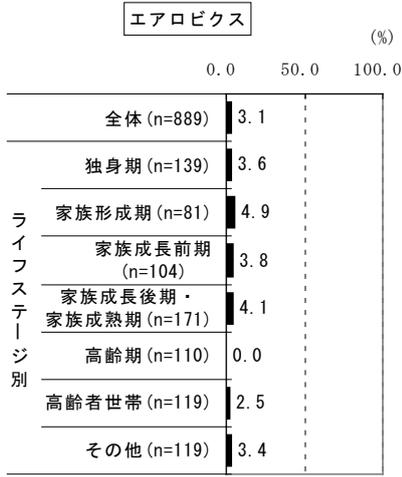
その他



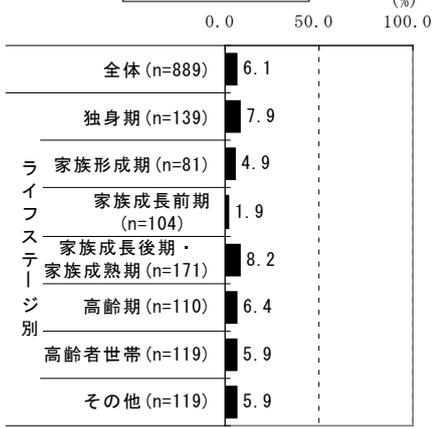
ライフステージ別でみると、「散歩・ウォーキング」は「高齢期」が最も高く、7割以上を占めている。また、すべてのライフステージで4割以上と高い割合を占めている。「水泳」は「家族成長後期・家族成熟期」で約2割と最も高く、次いで「家族成長前期」「高齢期」の順となっている。「ゴルフ（コース）」は「家族成長後期・家族成熟期」で1割半ばと最も高くなっている。〔図6-15〕

図6-15 過去1年間に行った運動・スポーツ／ライフステージ別

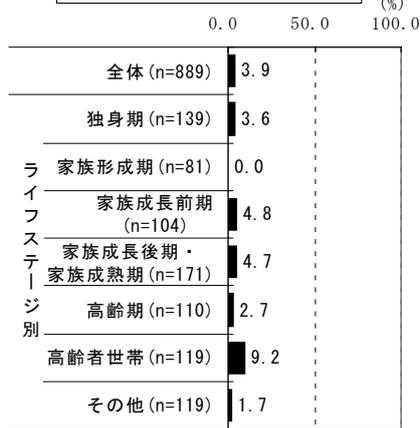




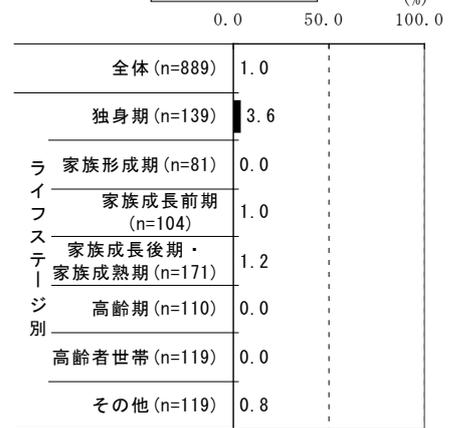
登山・トレッキング



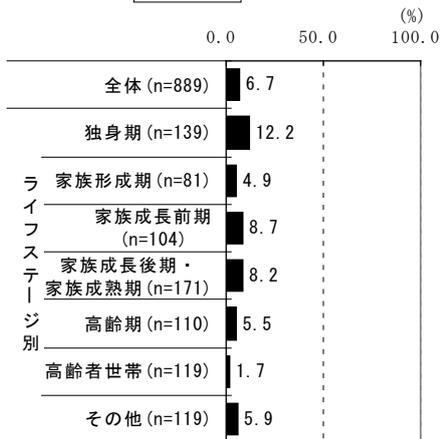
ハイキング・オリエンテーリング



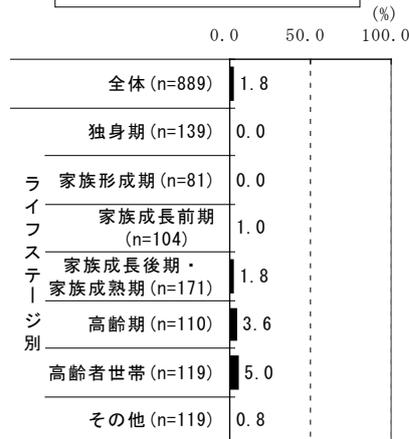
バスケットボール



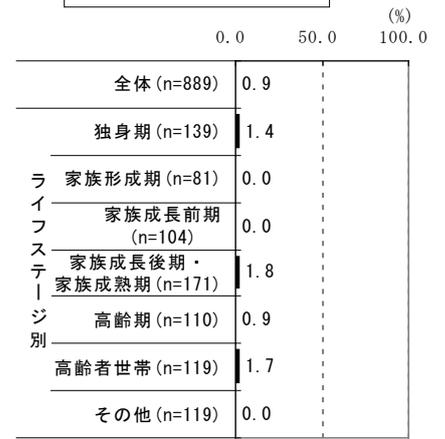
ボーリング



ゲートボール・グラウンドゴルフ



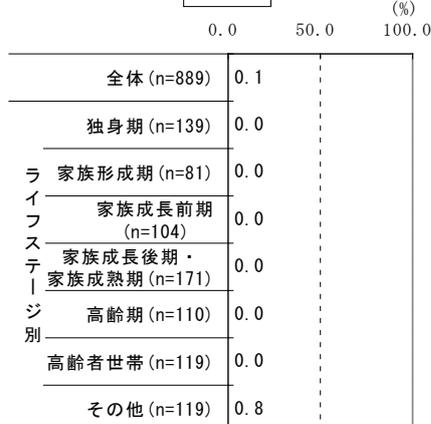
社交ダンス・フォークダンス



太極拳・ヨガ



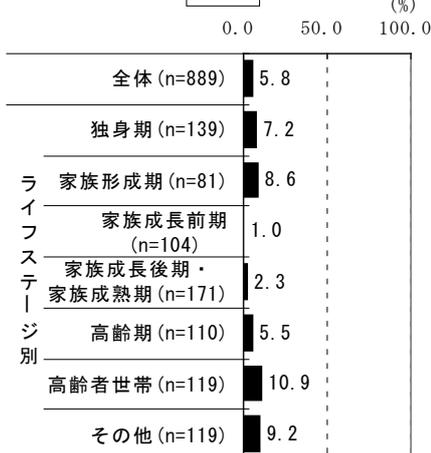
ラグビー



陸上競技



その他

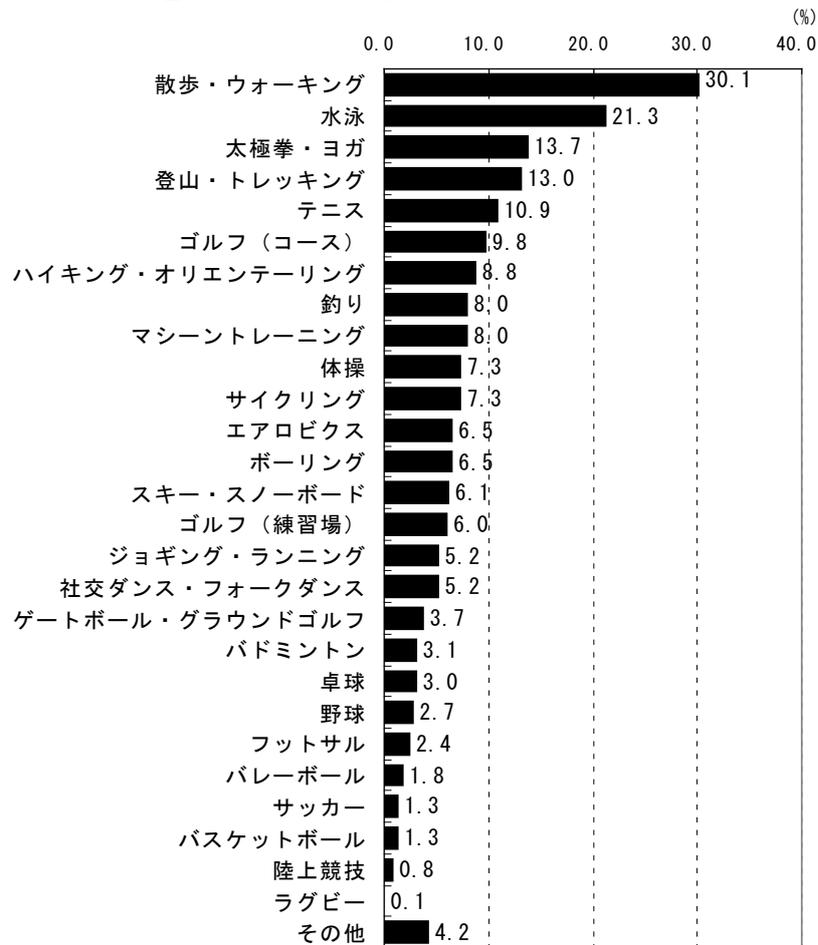


(6) 今後やってみたい運動・スポーツ

「散歩・ウォーキング」が3割以上を占めて最も高くなっている。

問 25. あなたが、今後やってみたい運動・スポーツは何ですか。次の中から3つまで選んでください。(n=889)

図 6-16 今後やってみたい運動・スポーツ (複数回答)

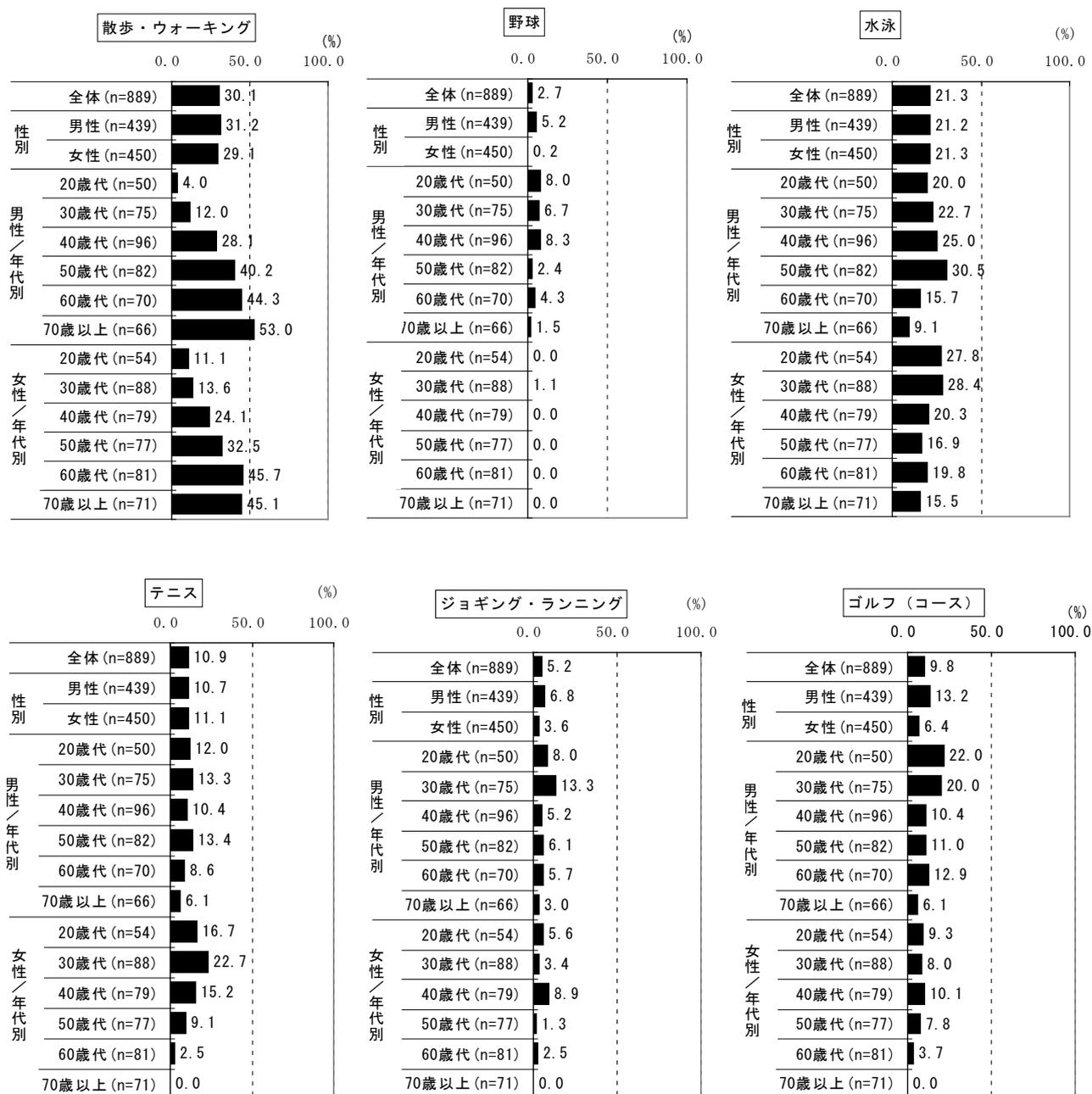


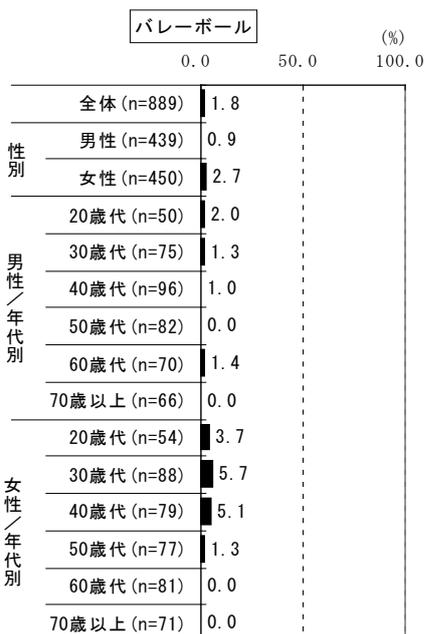
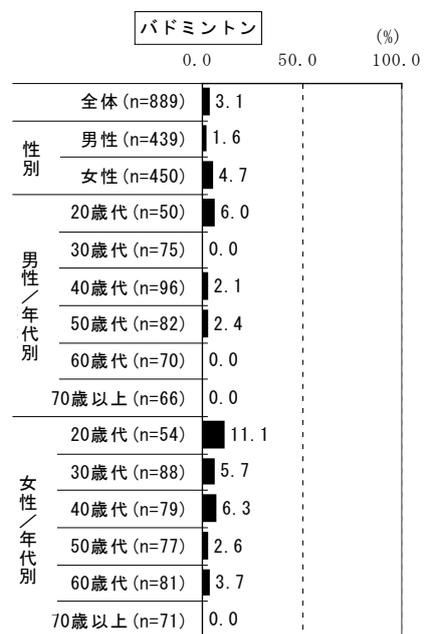
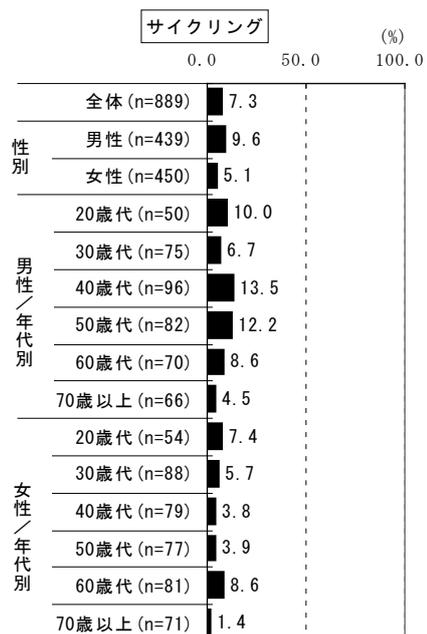
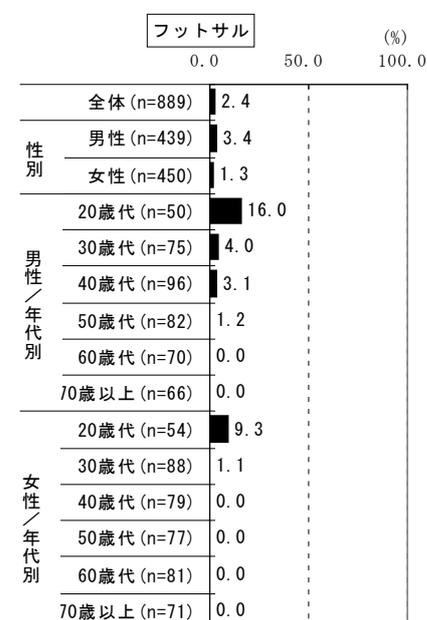
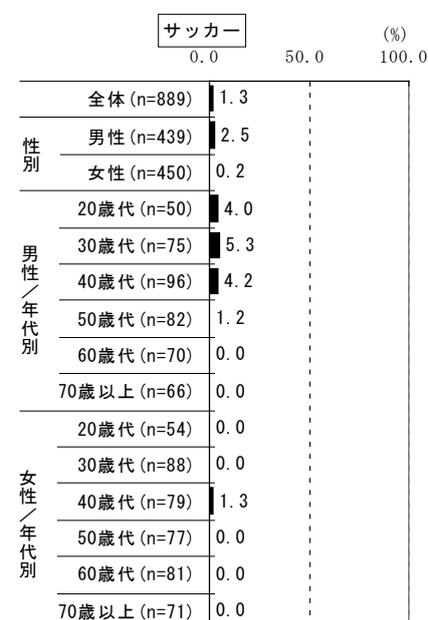
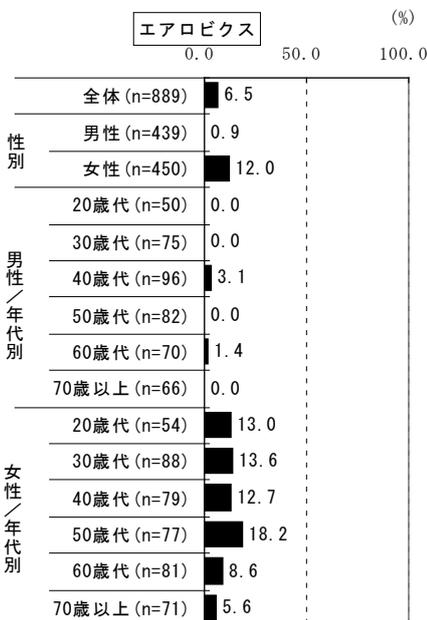
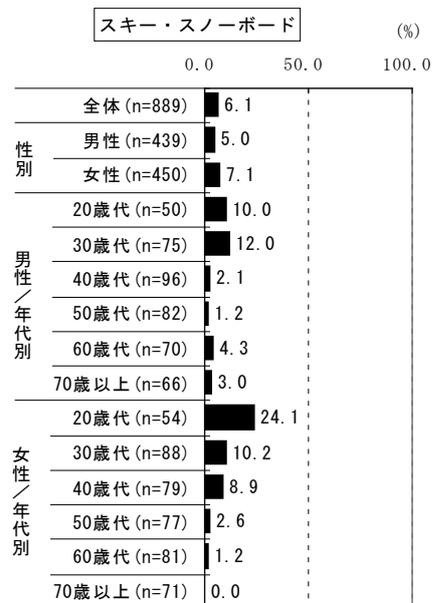
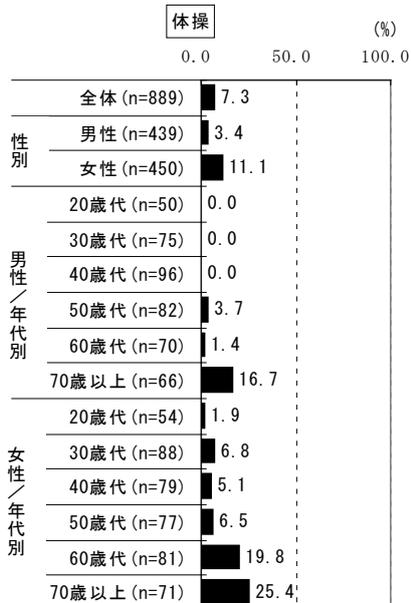
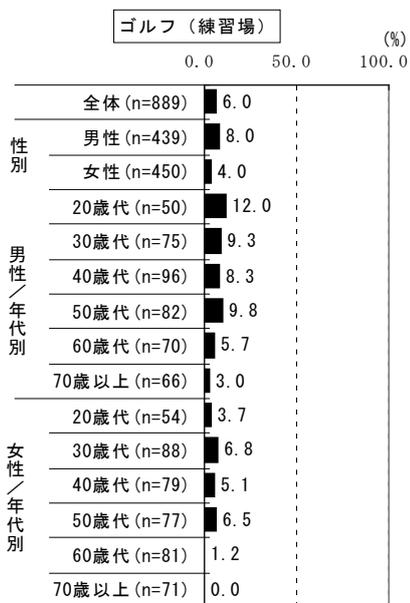
今後やってみたい運動・スポーツは、「散歩・ウォーキング」(30.1%)が最も高く、次いで「水泳」(21.3%)「太極拳・ヨガ」(13.7%)「登山・トレッキング」(13.0%)の順となっている。〔図 6-16〕

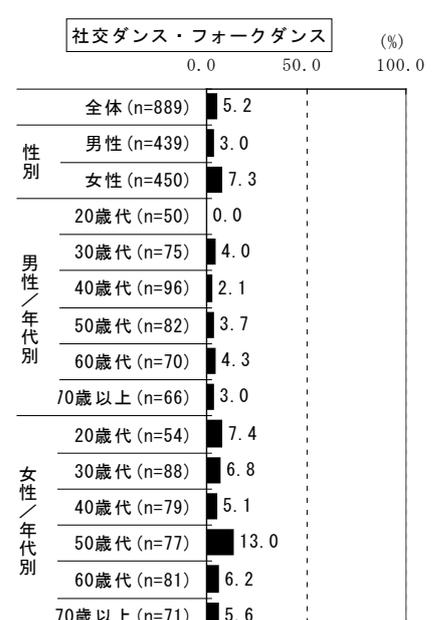
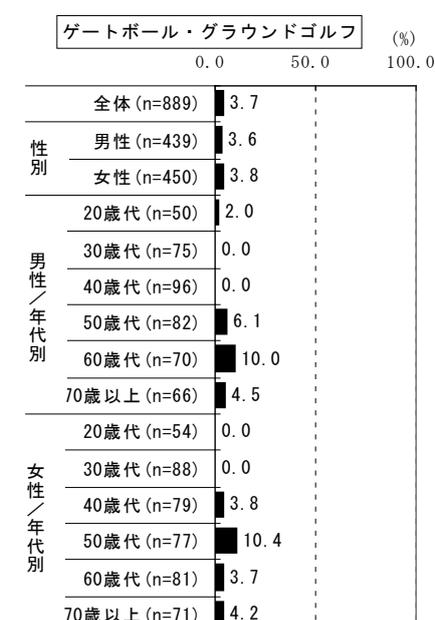
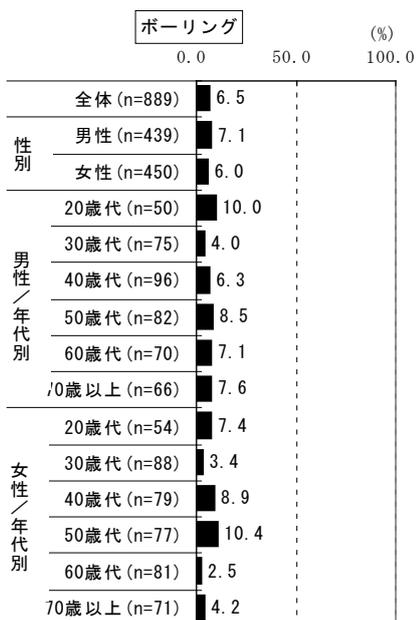
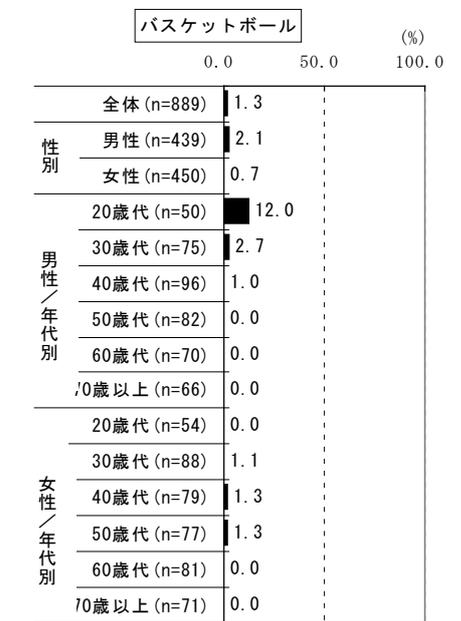
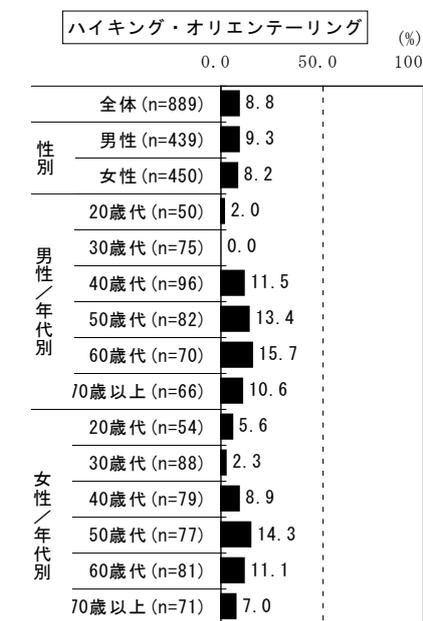
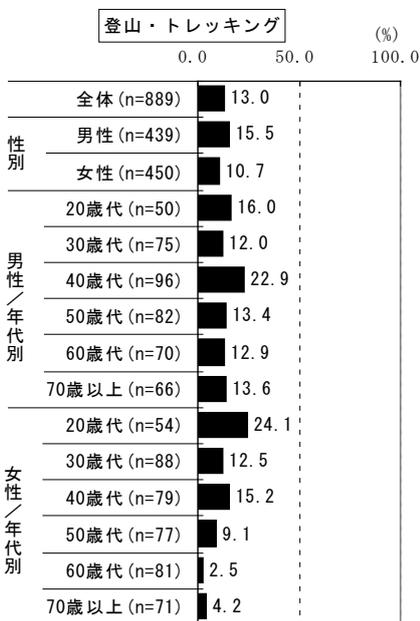
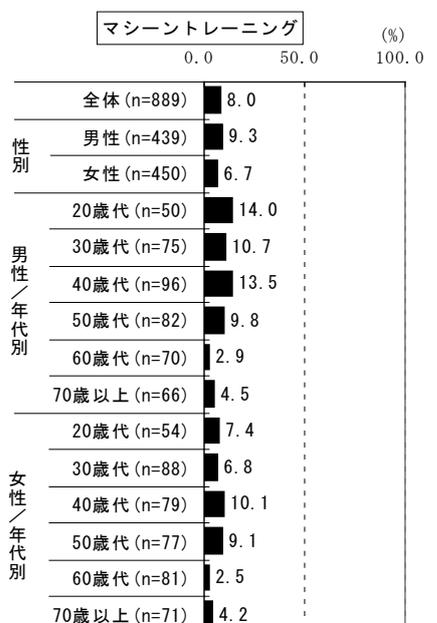
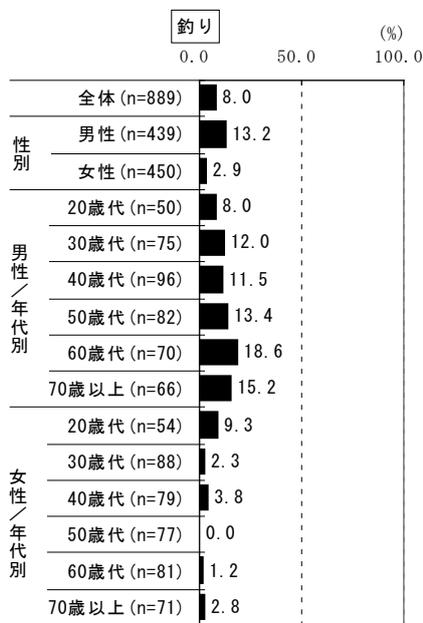
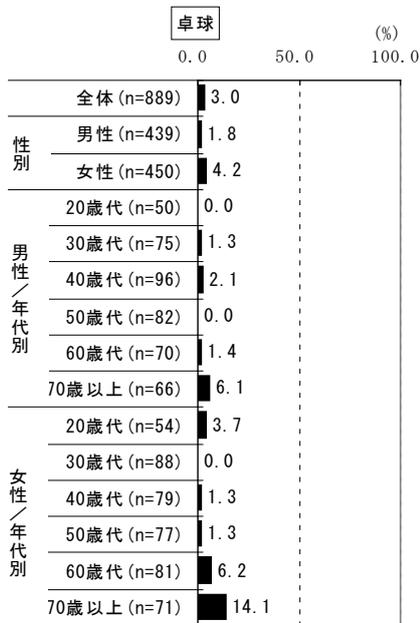
性別で見ると、上位2項目の「散歩・ウォーキング」「水泳」では、「男性」「女性」で大きな差はみられない。「太極拳・ヨガ」は「女性」が「男性」より高く、「登山・トレッキング」は「男性」が「女性」より高くなっている。

年代別で見ると、「散歩・ウォーキング」は「男性」の「70歳以上」で最も高く5割半ばを占めており、年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。「水泳」は「男性」の「50歳代」で最も高く3割以上を占めている。〔図6-17〕

図6-17 今後やってみたい運動・スポーツ／性・年代別



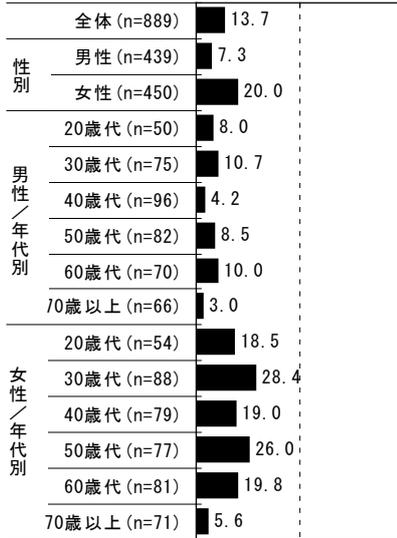




太極拳・ヨガ

(%)

0.0 50.0 100.0



ラグビー

(%)

0.0 50.0 100.0



陸上競技

(%)

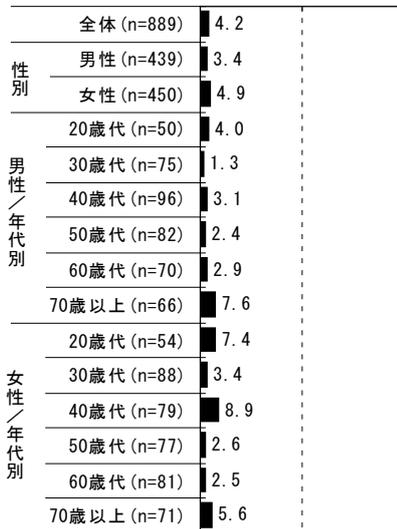
0.0 50.0 100.0



その他

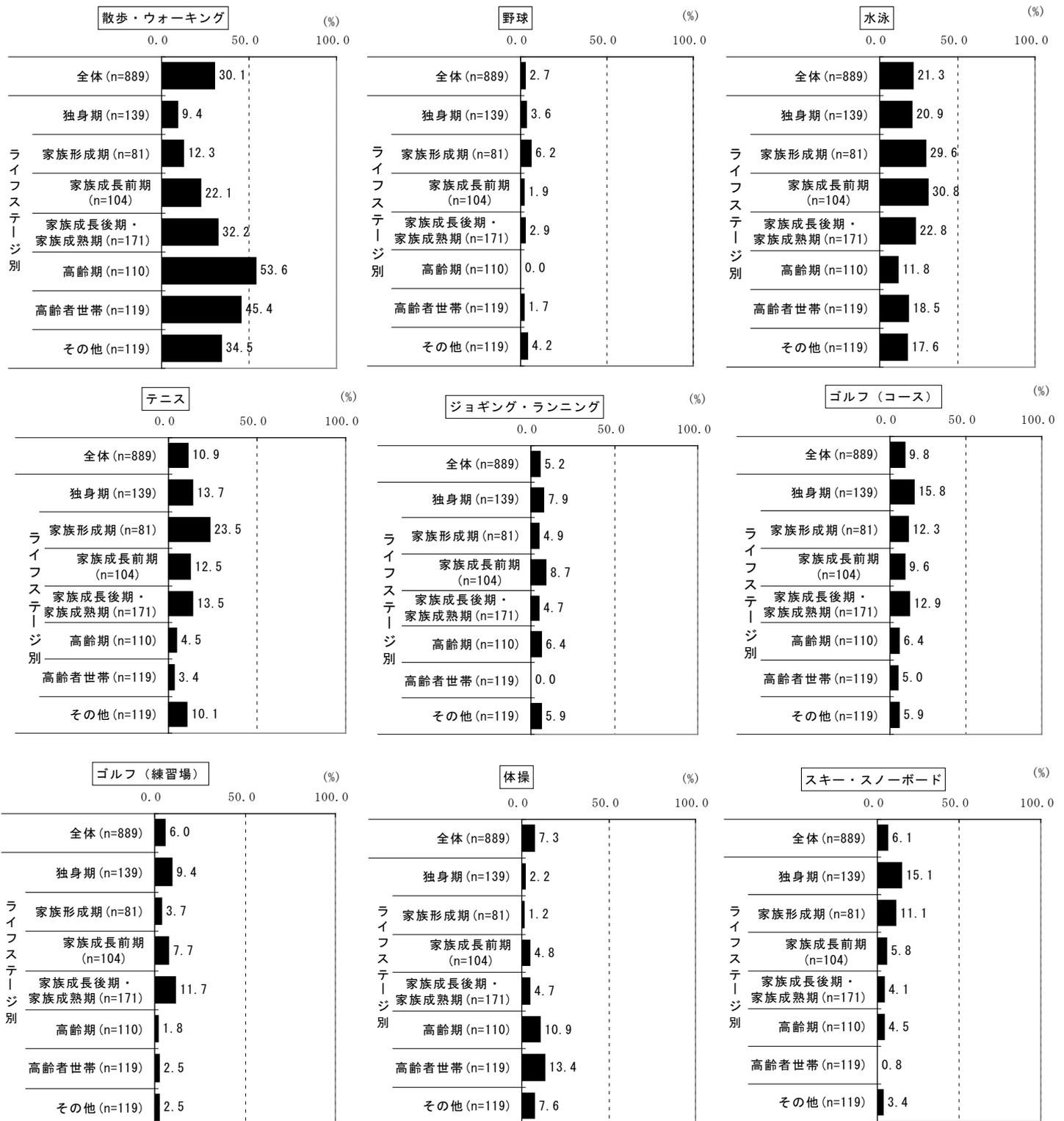
(%)

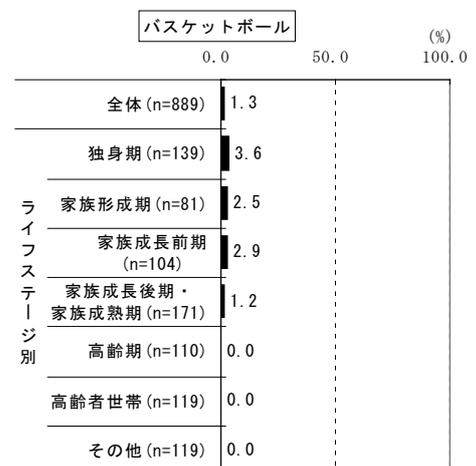
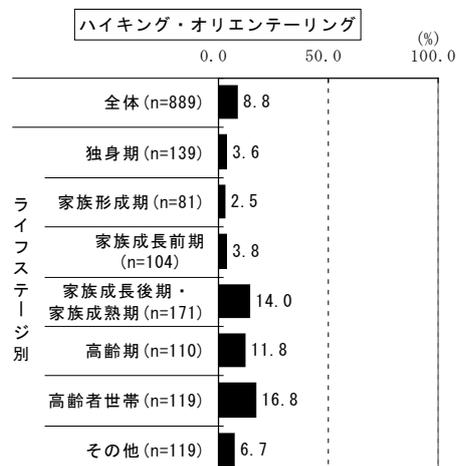
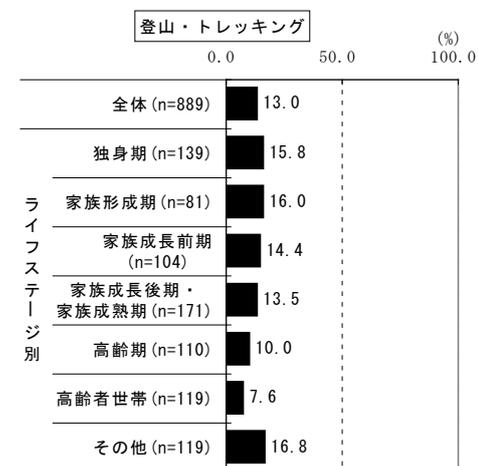
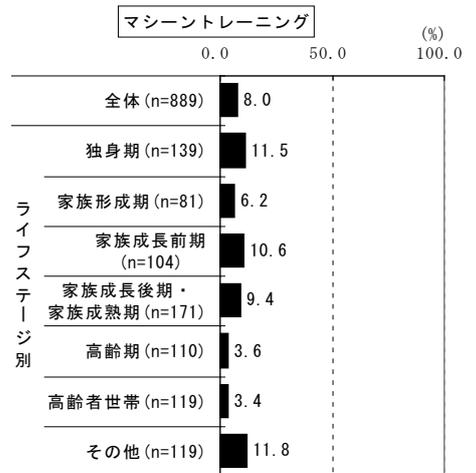
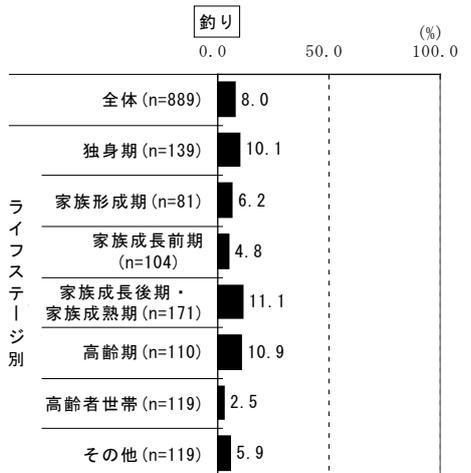
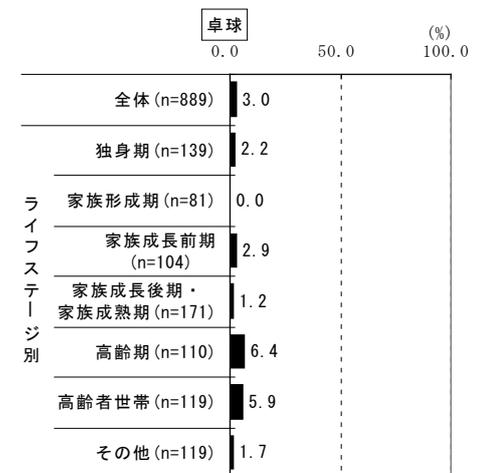
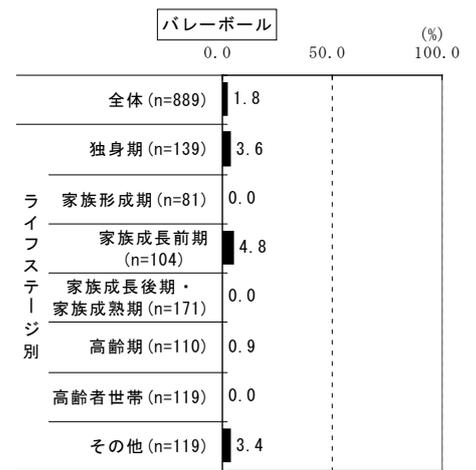
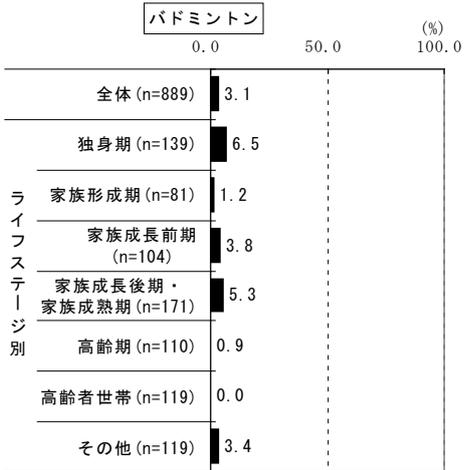
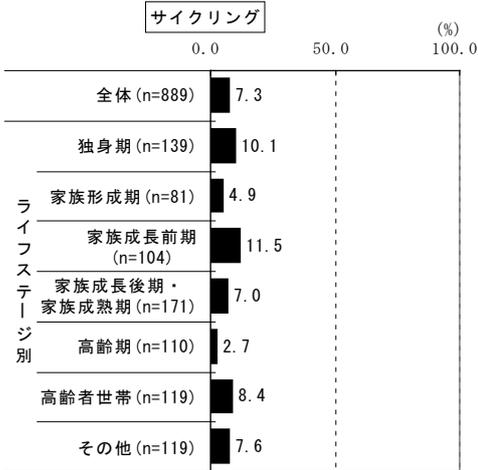
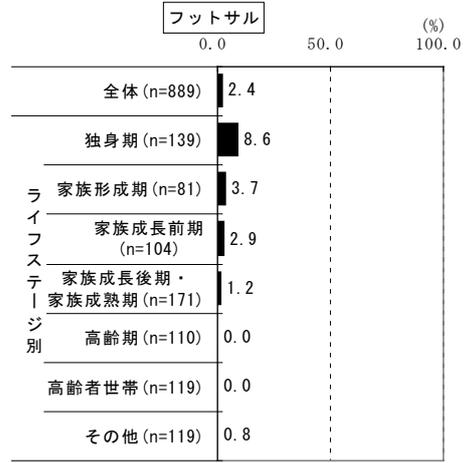
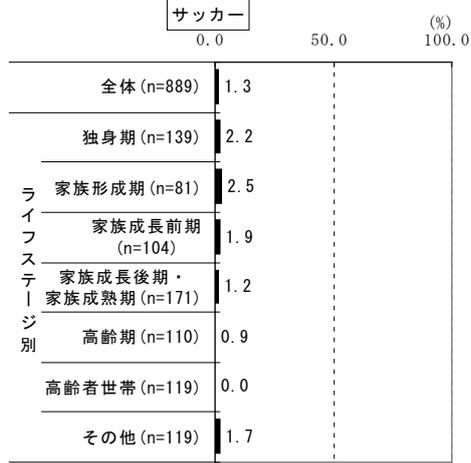
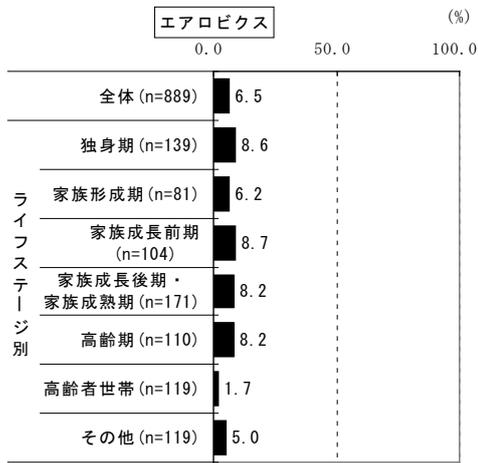
0.0 50.0 100.0

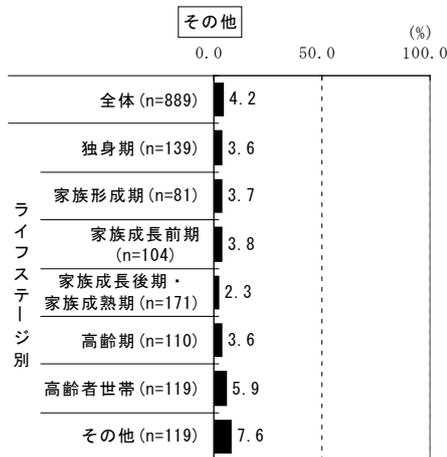
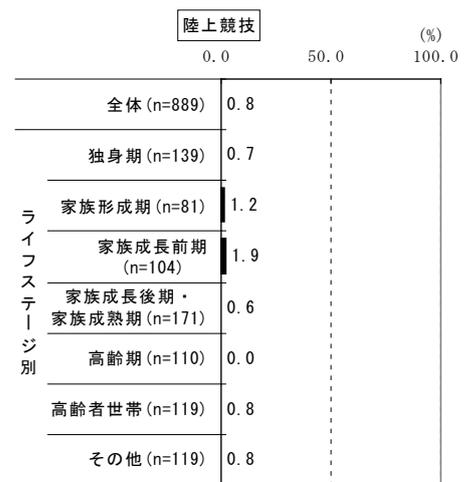
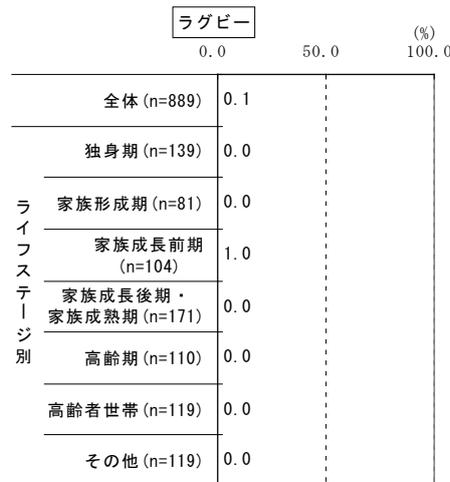
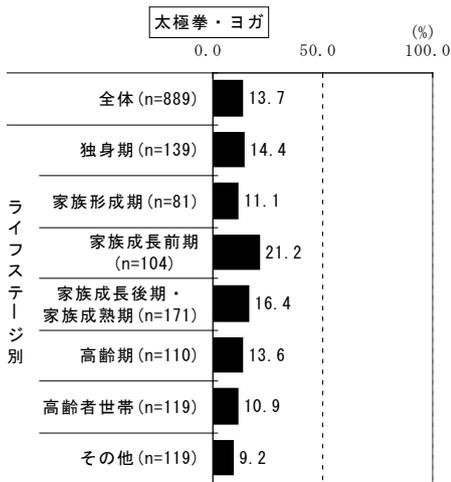
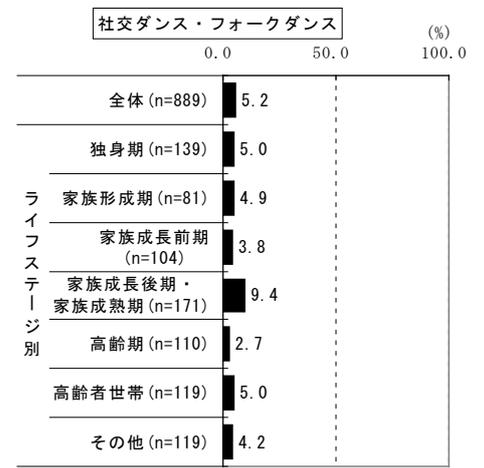
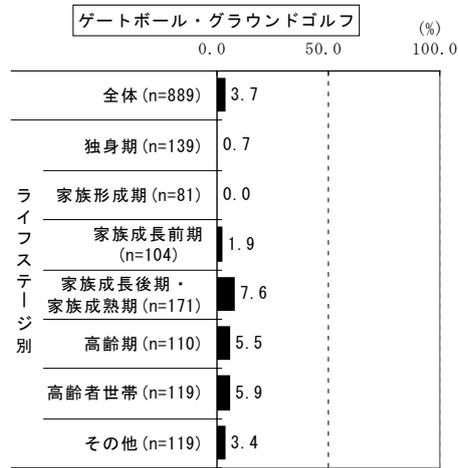
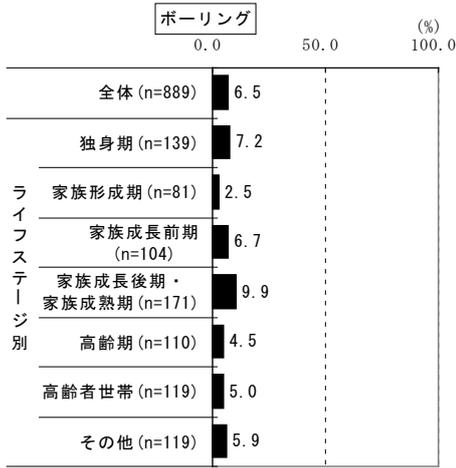


ライフステージ別でみると、「散歩・ウォーキング」は「高齢期」で最も高く5割半ばを占めており、ライフステージが上がるにつれて高くなる傾向がみられる。「水泳」は「家族成長前期」「家族形成期」の順に高く、それぞれ約3割を占めている。「太極拳・ヨガ」は「家族成長前期」で最も高く2割以上を占めている。「登山・トレッキング」は「家族形成期」「独身期」の順に高く、ライフステージが低いほど高くなる傾向がみられる。〔図 6-18〕

図 6-18 今後やってみたい運動・スポーツ／ライフステージ別







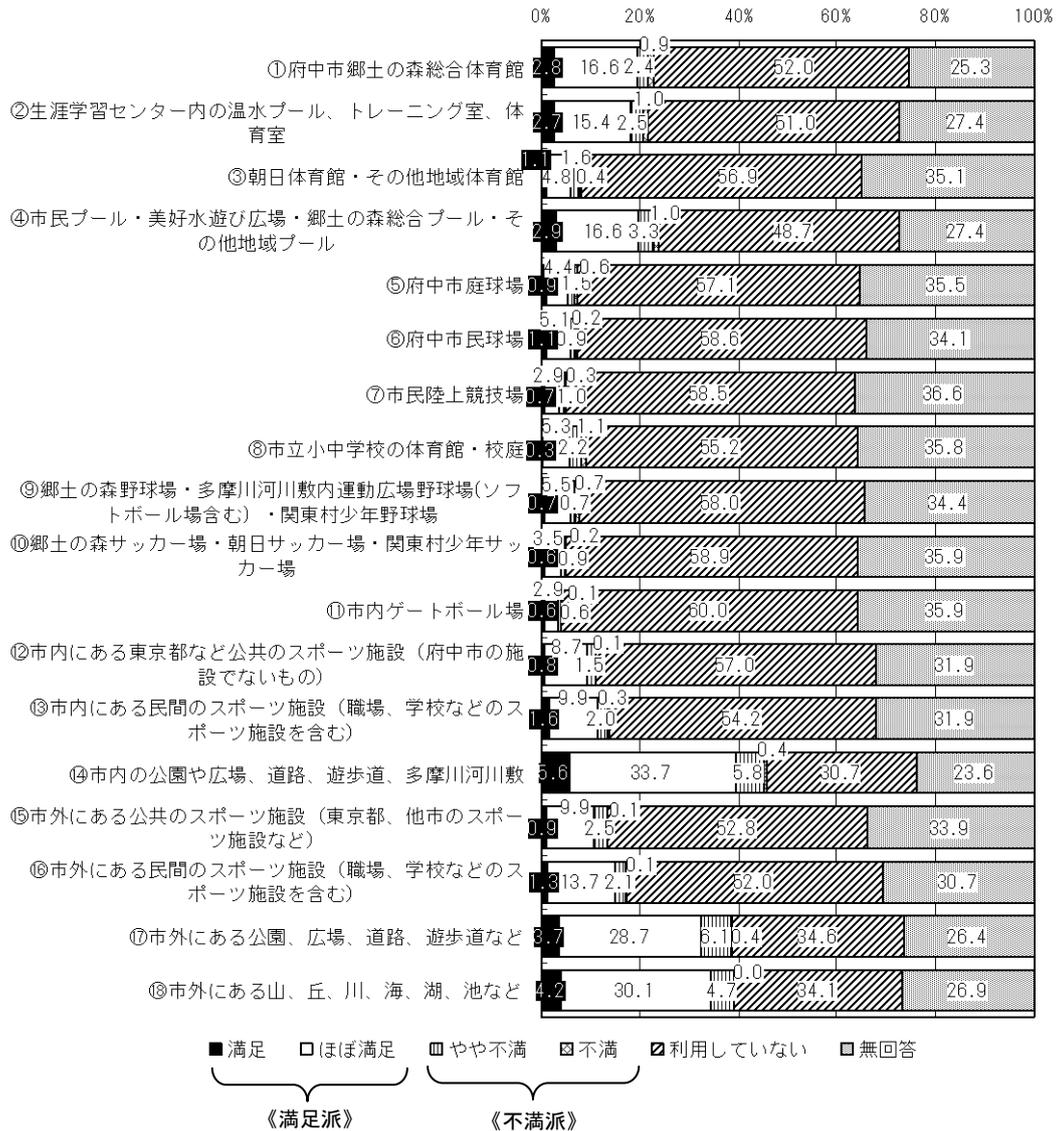
(7) スポーツ施設の満足度

「市内の公園や広場、道路、遊歩道、多摩川河川敷」で《満足派》が約4割を占めている。

問 26. あなたが過去1年間に利用したスポーツ施設（スポーツのできる場所を含む）の満足度をお答えください。それぞれあてはまるものを1つだけ選んでください。

(n=889)

図 6-19 スポーツ施設の満足度

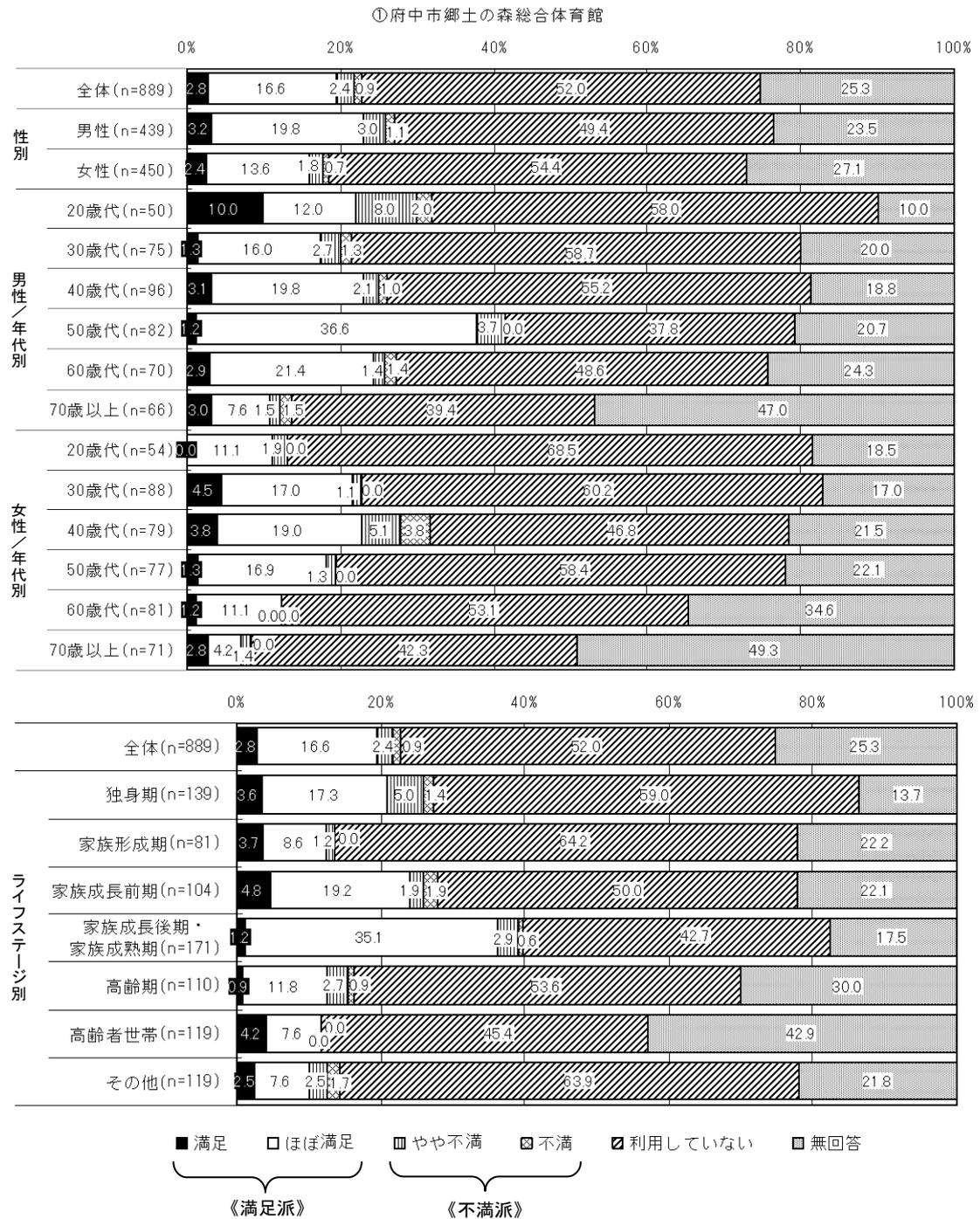


スポーツ施設の満足度については、「満足」と「ほぼ満足」をあわせた《満足派》は「市内の公園や広場、道路、遊歩道、多摩川河川敷」(39.3%)で最も高く、次いで「市外にある山、丘、川、海、湖、池など」(34.3%)「市外にある公園、広場、道路、遊歩道など」(32.4%)の順となっている。〔図 6-19〕

「府中市郷土の森総合体育館」について、性別でみると、《満足派》は「男性」が「女性」より高くなっている。年代別でみると、《満足派》は「男性」の「50歳代」で最も高く、約4割を占めている。

ライフステージ別でみると、《満足派》は「家族成長後期・家族成熟期」で最も高く、3割半ばを占めている。

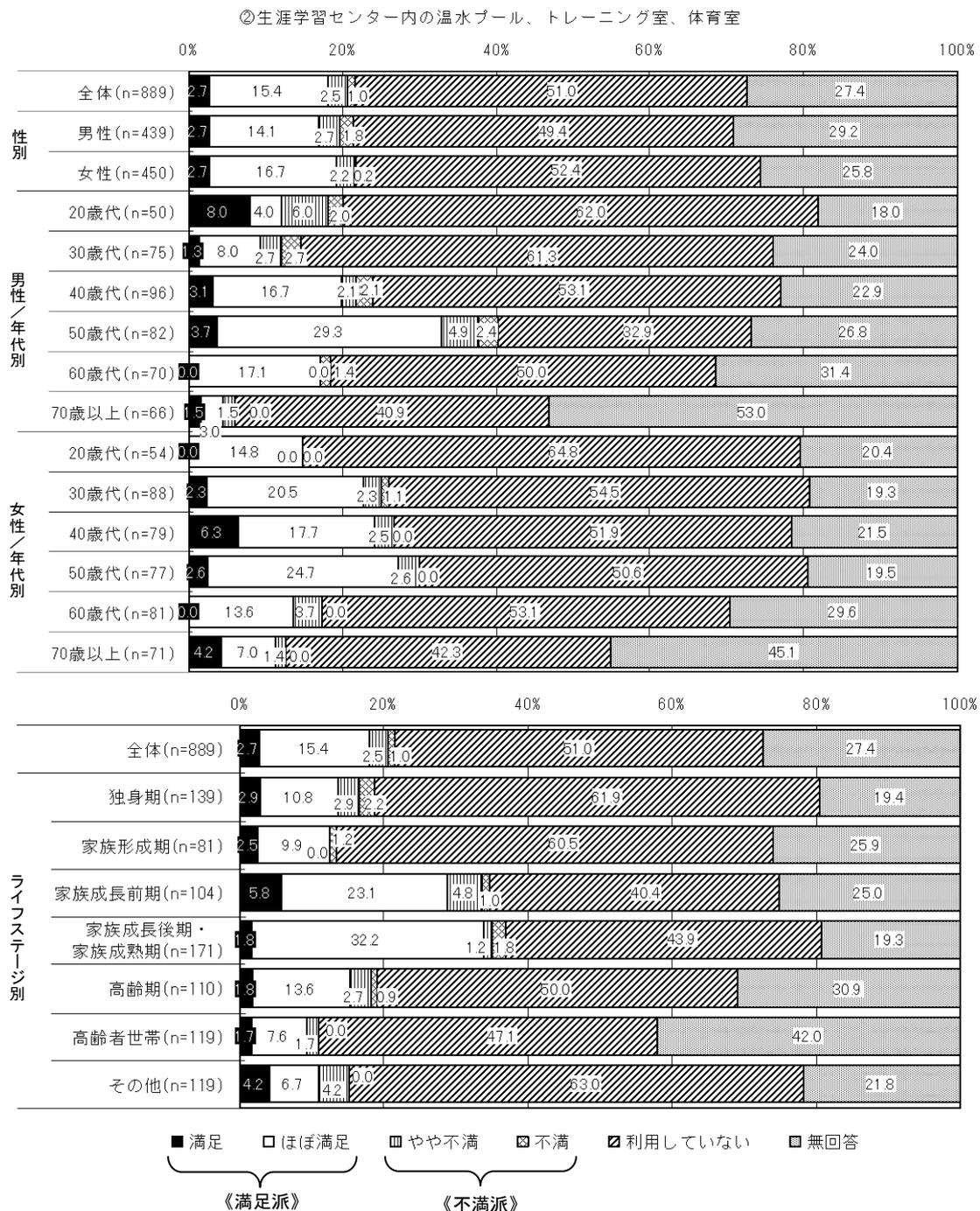
図 6-20① 府中市郷土の森総合体育館／性・年代別・ライフステージ別



「生涯学習センター内の温水プール、トレーニング室、体育室」について、性別でみると「男性」「女性」で大きな差はみられない。年代別でみると、《満足派》は「男性」の「50歳代」で最も高く3割以上を占めており、次いで「女性」の「50歳代」「40歳代」の順となっている。

ライフステージ別でみると、《満足派》は「家族成長後期・家族成熟期」で最も高く、3割半ばを占めている。

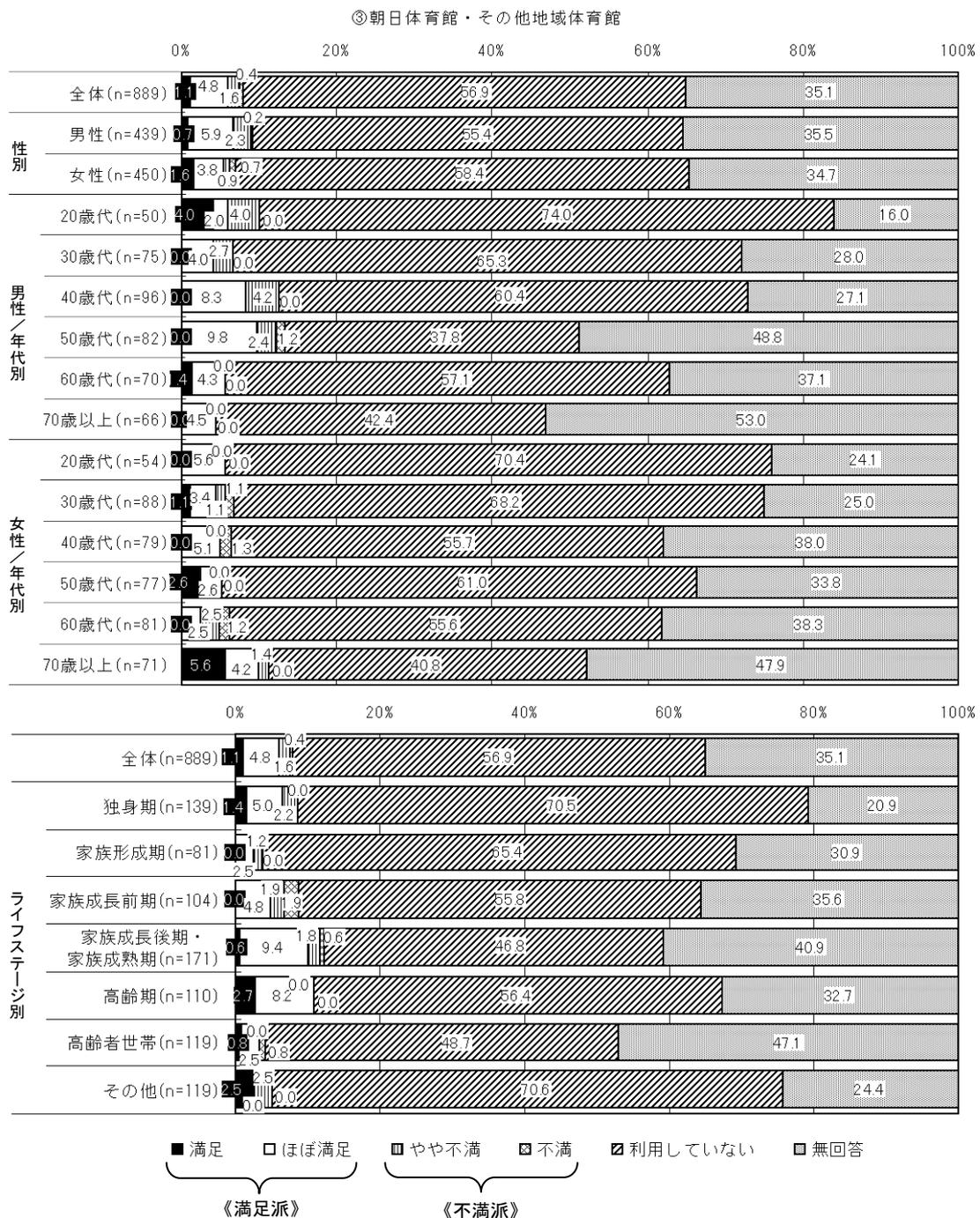
図 6-20② 生涯学習センター内の温水プール、トレーニング室、体育室／性・年代別・ライフステージ別



「朝日体育館・その他地域体育館」について、性別でみると「男性」「女性」で大きな差はみられない。年代別でみると、《満足派》は「男性」の「50歳代」、「女性」の「70歳以上」で最も高く、次いで「男性」の「40歳代」の順となっている。

ライフステージ別でみると、《満足派》は「高齢期」「家族成長後期・家族成熟期」の順に高く、それぞれ1割以上を占めている。

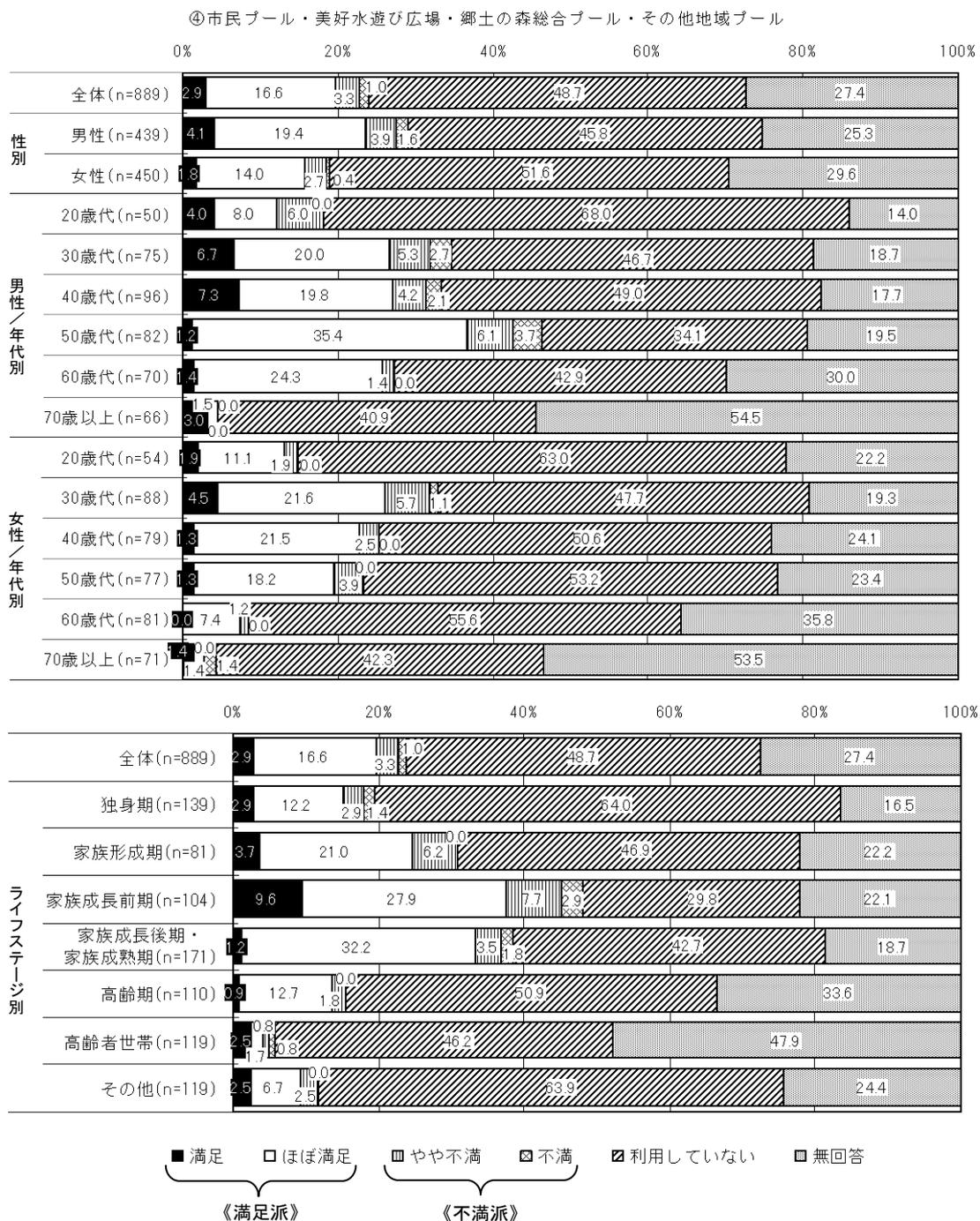
図 6-20③ 朝日体育館・その他地域体育館／性・年代別・ライフステージ別



「市民プール・美好水遊び広場・郷土の森総合プール・その他地域プール」について、性別でみると、《満足派》は「男性」が「女性」より高くなっている。年代別でみると、《満足派》は「男性」の「50歳代」で最も高く、次いで「男性」の「40歳代」「30歳代」となっている。

ライフステージ別でみると、「家族成長前期」が約4割を占めて最も高く、次いで「家族成長後期・家族成熟期」「家族形成期」の順となっている。

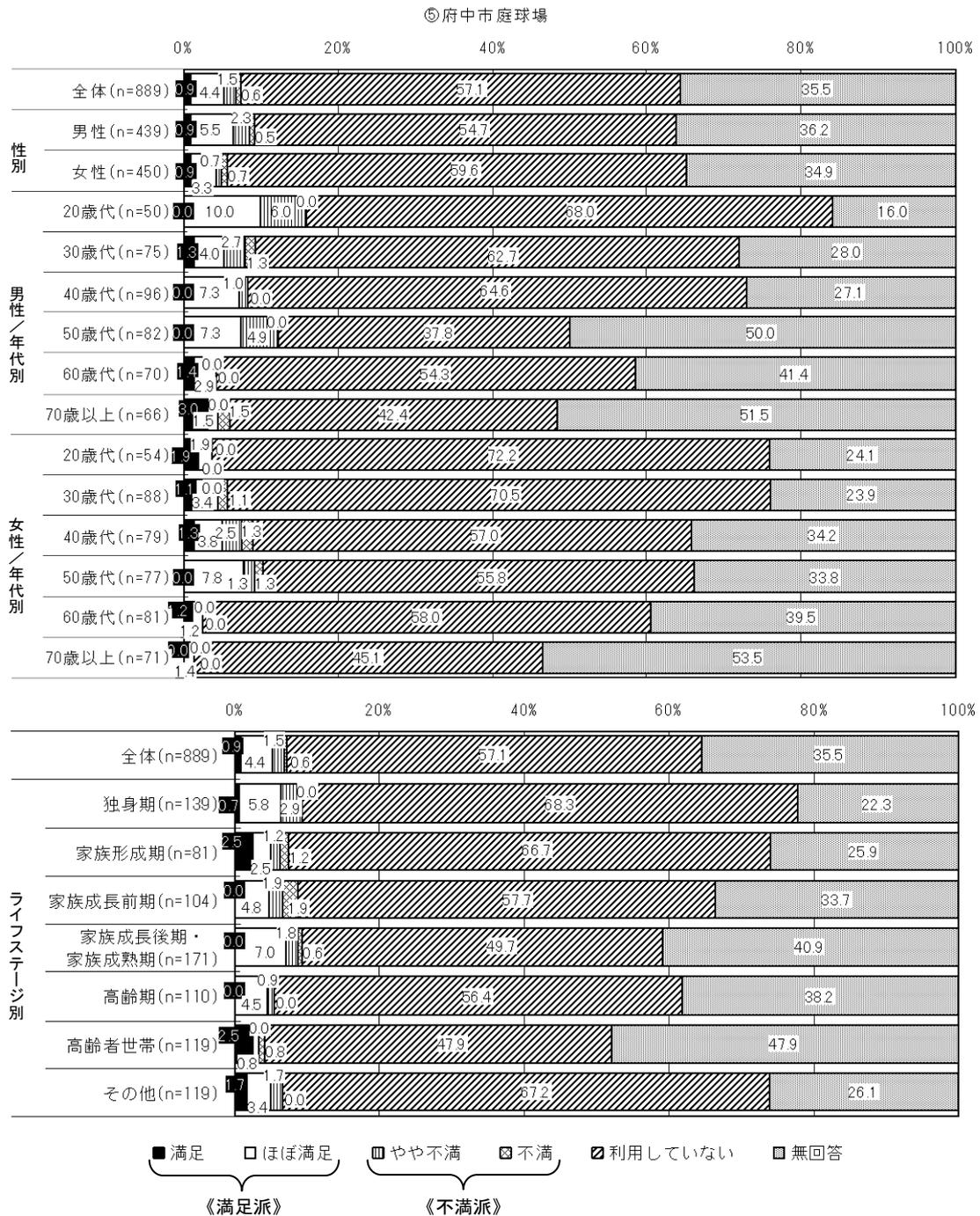
図 6-20④ 市民プール・美好水遊び広場・郷土の森総合プール・その他地域プール／性・年代別・ライフステージ別



「府中市庭球場」について、性別でみると、《満足派》は「男性」「女性」で大きな差はみられない。年代別でみると、《満足派》は「男性」の「20歳代」で最も高く、1割を占めている。

ライフステージ別でみると、《満足派》は「家族成長後期・家族成熟期」「独身期」の順に高くなっている。

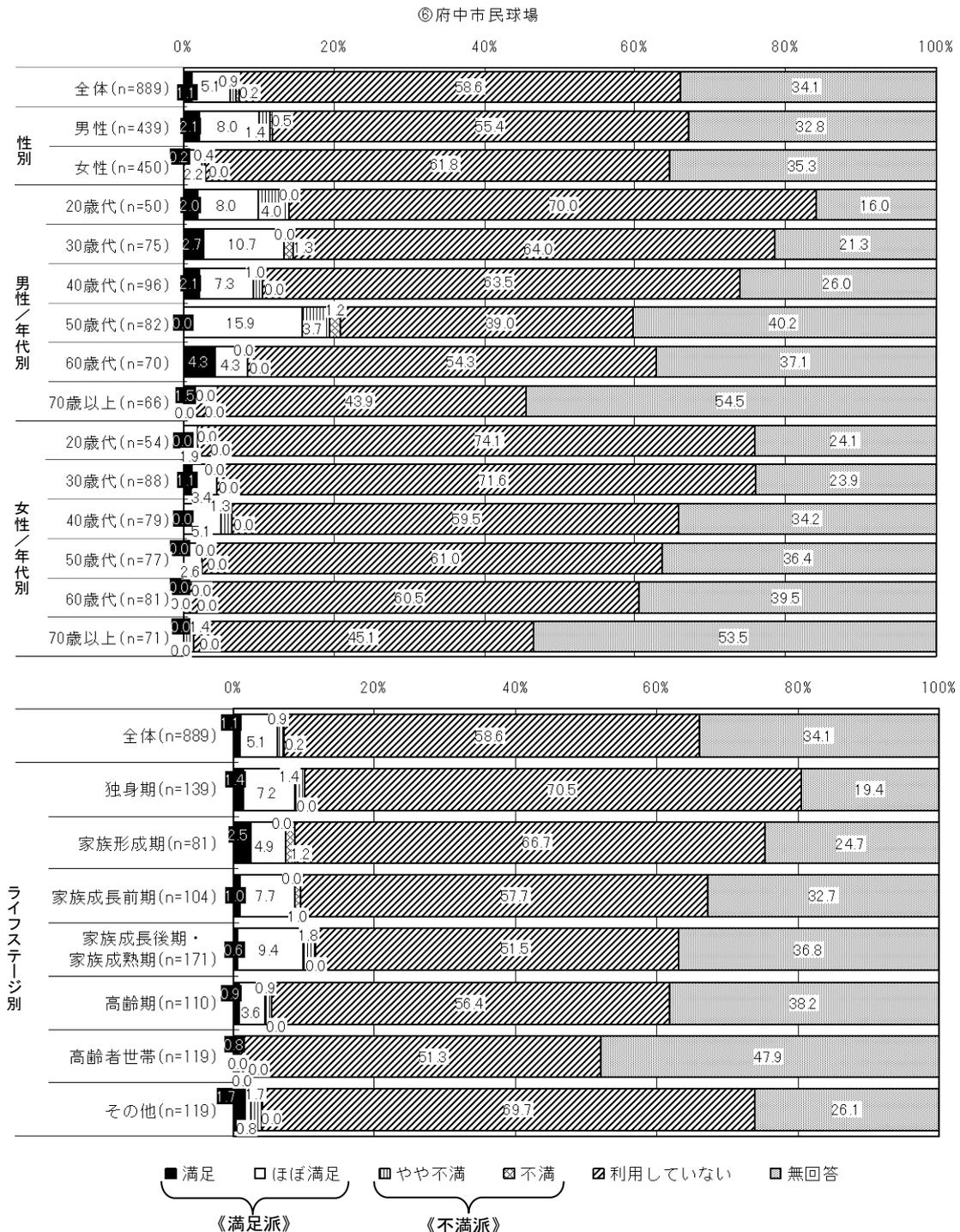
図 6-20⑤ 府中市庭球場／性・年代別・ライフステージ別



「府中市民球場」について、性別で見ると、《満足派》は「男性」が「女性」より高くなっている。年代別で見ると、《満足派》は「男性」の「50歳代」で最も高く、1割半ばを占めており、次いで「男性」の「30歳代」で高くなっている。

ライフステージ別で見ると、《満足派》は「家族成長後期・家族成熟期」で最も高く、次いで「家族成長前期」「独身期」の順に高くなっている。

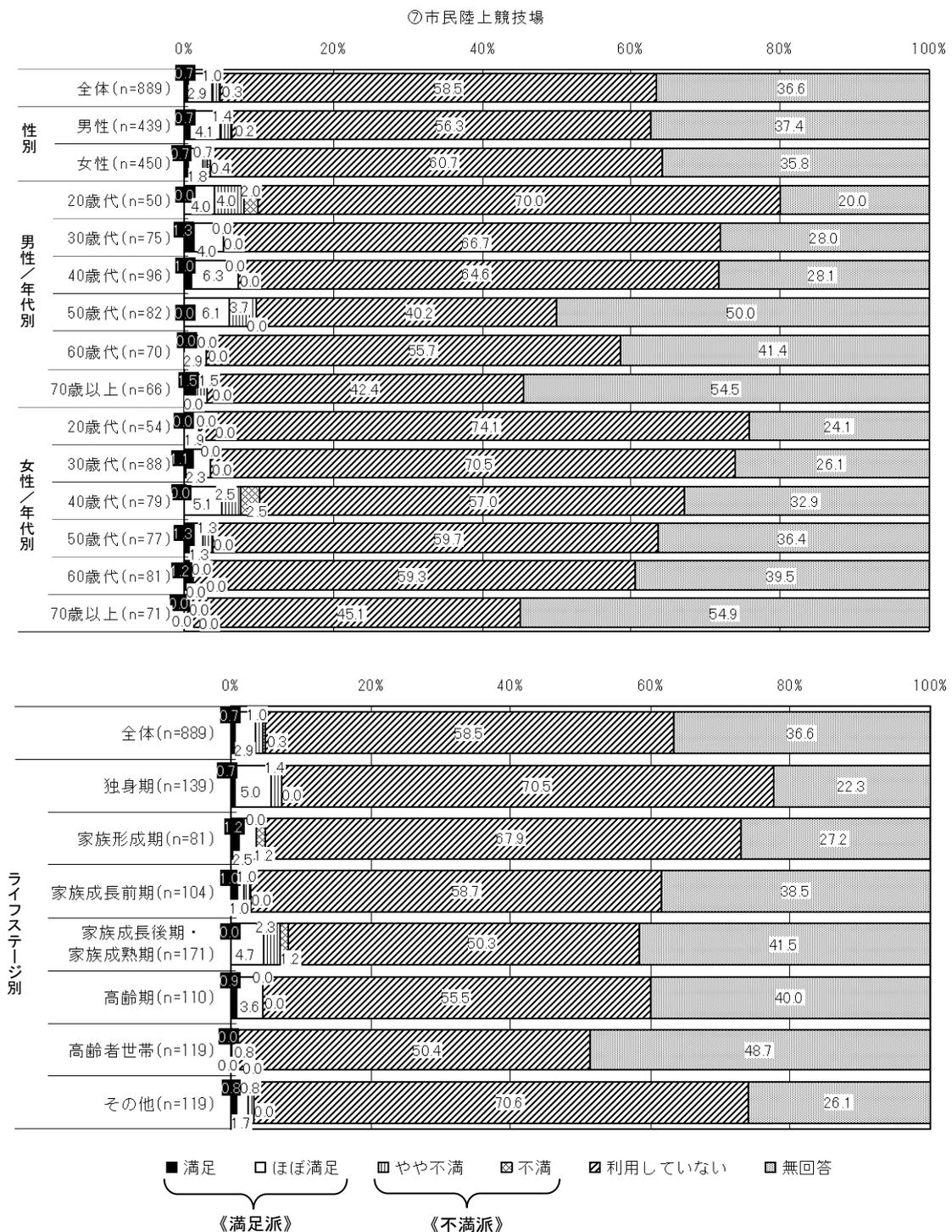
図 6-20⑥ 府中市民球場／性・年代別・ライフステージ別



「市民陸上競技場」について、性別でみると「男性」「女性」で大きな差はみられない。年代別でみると、《満足派》《不満派》ともに、すべての年代で1割未満となっている。

ライフステージ別でみると、《満足派》は「家族成長後期・家族成熟期」で最も高く、次いで「独身期」の順となっている。

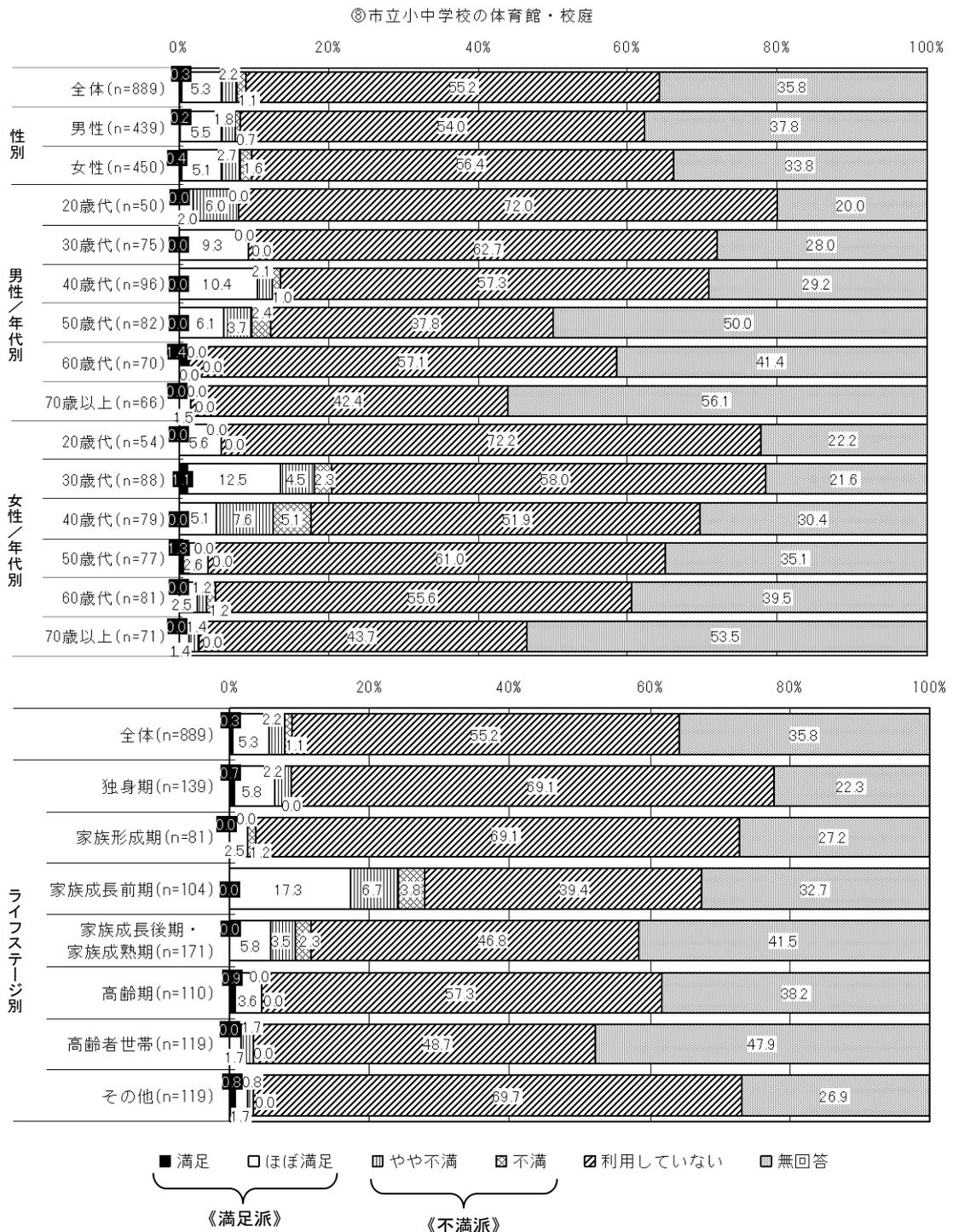
図 6-20⑦ 市民陸上競技場／性・年代別・ライフステージ別



「市立小中学校の体育館・校庭」について、性別で見ると、「男性」「女性」で大きな差はみられない。年代別で見ると、《満足派》は「女性」の「30歳代」で最も高く、次いで「男性」の「40歳代」「30歳代」の順となっている。《不満派》は「女性」の「40歳代」で1割以上を占めている。

ライフステージ別で見ると、《満足派》は「家族成長前期」で最も高くなっている。

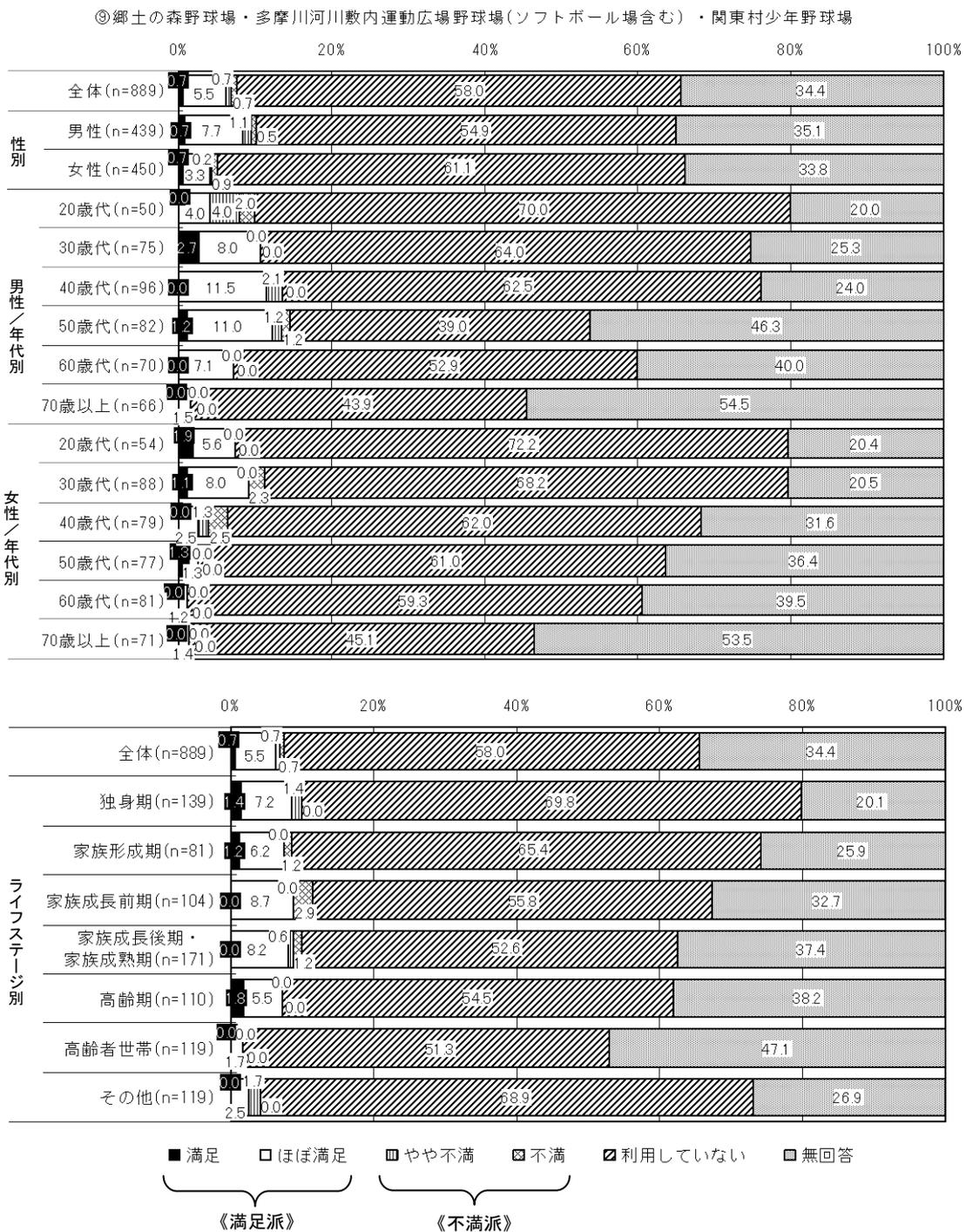
図 6-20⑧ 市立小中学校の体育館・校庭／性・年代別・ライフステージ別



「郷土の森野球場・多摩川河川敷内運動広場野球場(ソフトボール場含む)・関東村少年野球場」について、性別でみると、《満足派》は「男性」が「女性」より高くなっている。年代別でみると、《満足派》は「男性」の「50歳代」「40歳代」の順に高く、それぞれ1割以上を占めている。

ライフステージ別でみると、《満足派》は「家族成長前期」「独身期」の順に高くなっている。

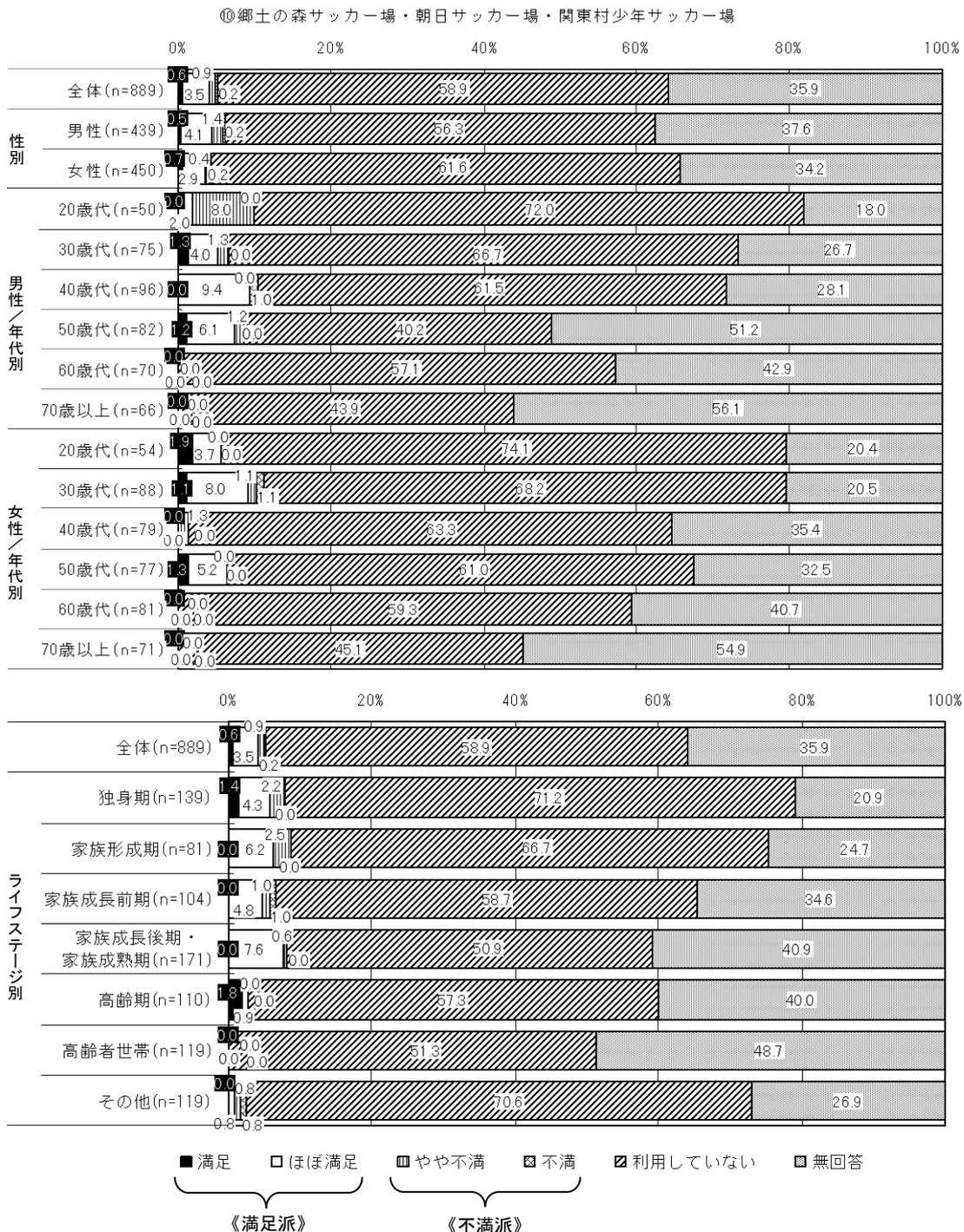
図 6-20⑨ 郷土の森野球場・多摩川河川敷内運動広場野球場(ソフトボール場含む)・関東村少年野球場/性・年代別・ライフステージ別



「郷土の森サッカー場・朝日サッカー場・関東村少年サッカー場」について、性別で見ると、「男性」「女性」で大きな差は見られない。年代別で見ると、《満足派》《不満派》ともに、すべての年代で1割未満となっている。

ライフステージ別で見ると、《満足派》は「家族成長後期・家族成熟期」で最も高くなっている。

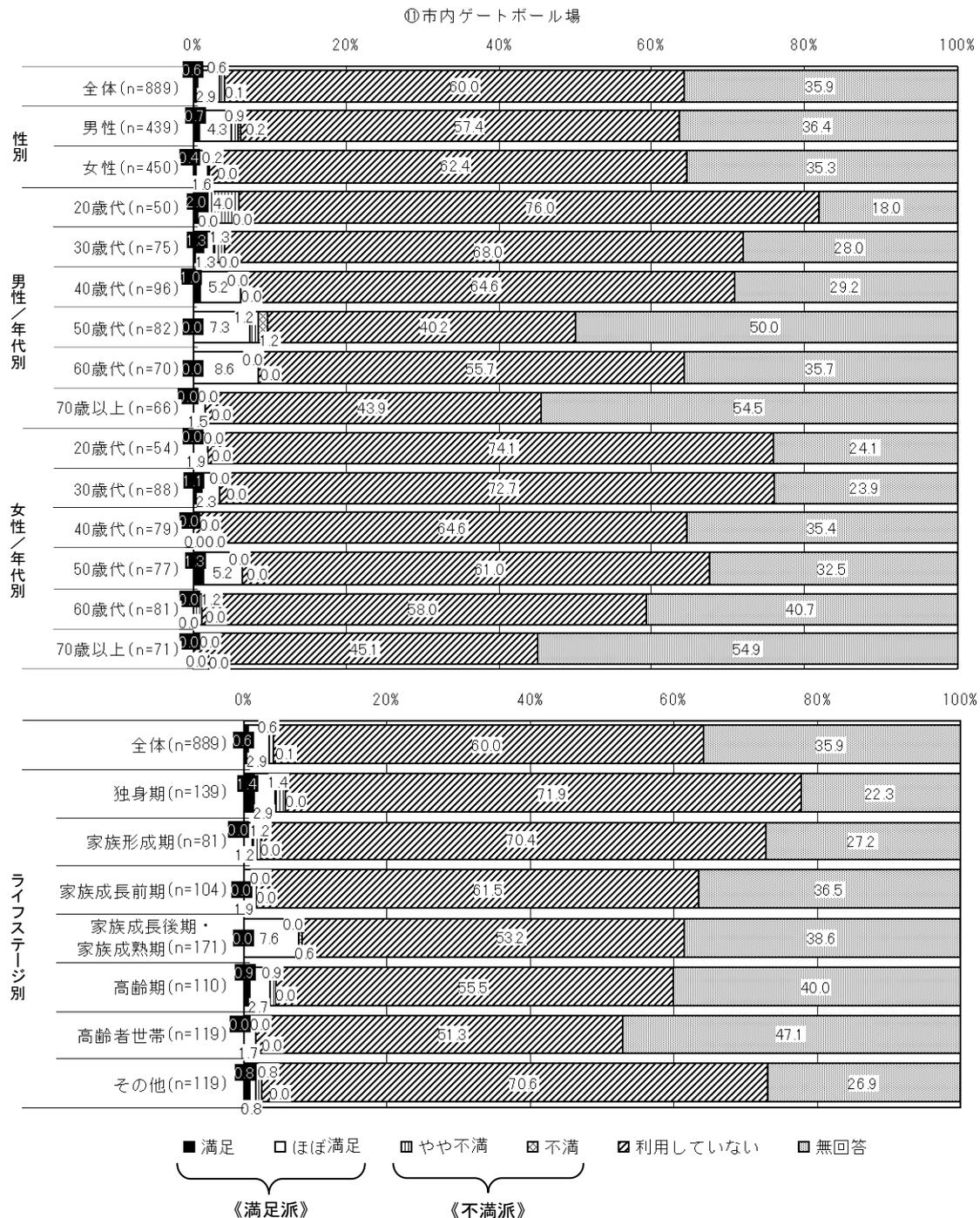
図 6-20⑩ 郷土の森サッカー場・朝日サッカー場・関東村少年サッカー場／性・年代別・ライフステージ別



「市内ゲートボール場」について、性別で見ると、「男性」「女性」で大きな差は見られない。年代別で見ると、《満足派》《不満派》ともに、すべての年代で1割未満となっている。

ライフステージ別で見ると、《満足派》は「家族成長後期・家族成熟期」で最も高くなっている。

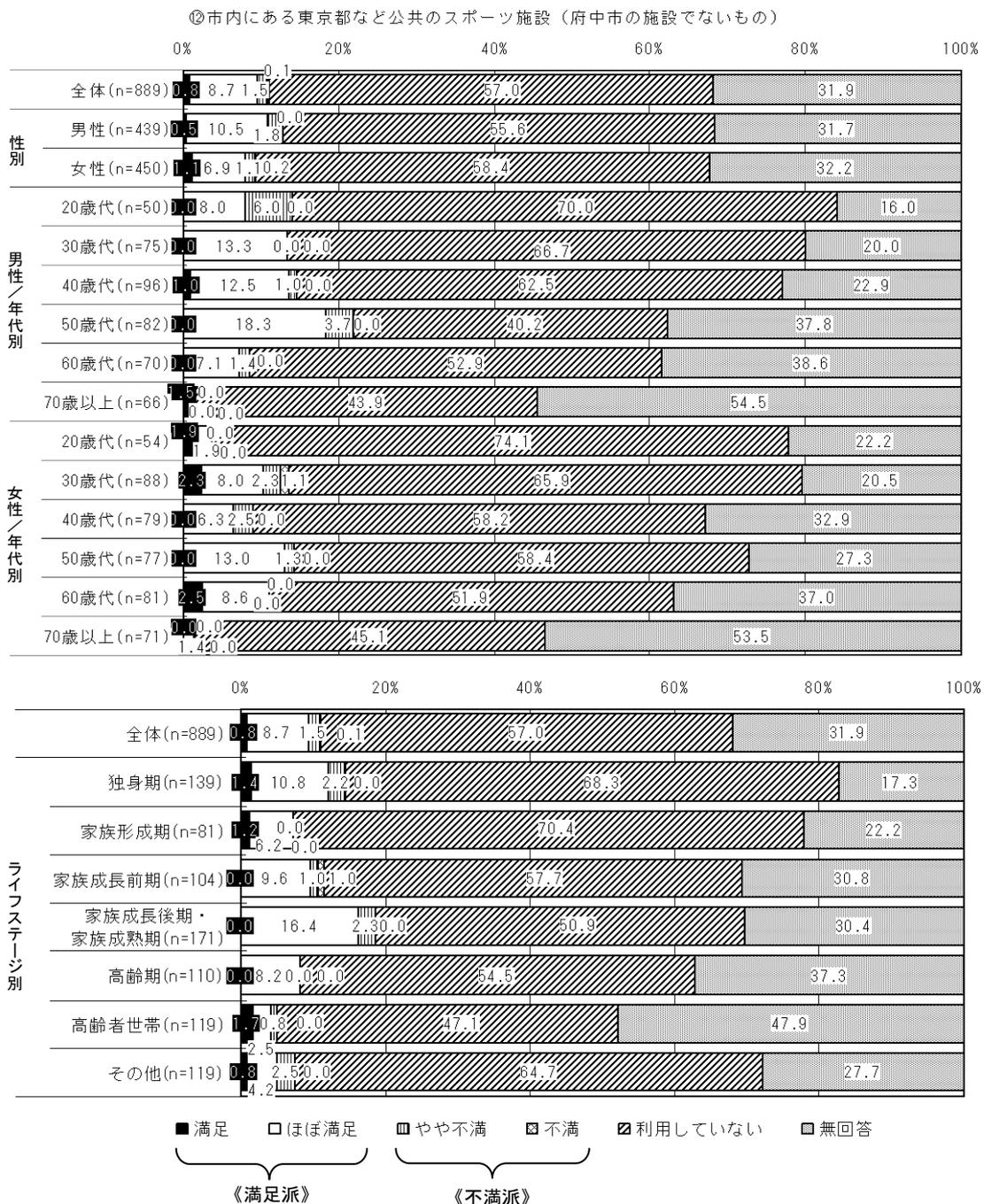
図 6-20① 市内ゲートボール場／性・年代別・ライフステージ別



「市内にある東京都など公共のスポーツ施設（府中市の施設でないもの）」について、性別でみると「男性」「女性」で大きな差はみられない。年代別でみると、《満足派》は「男性」の「50歳代」で最も高く、約2割を占めており、次いで「男性」の「40歳代」「30歳代」の順となっている。

ライフステージ別でみると、《満足派》は「家族成長後期・家族成熟期」で最も高く、次いで「独身期」の順となっている。

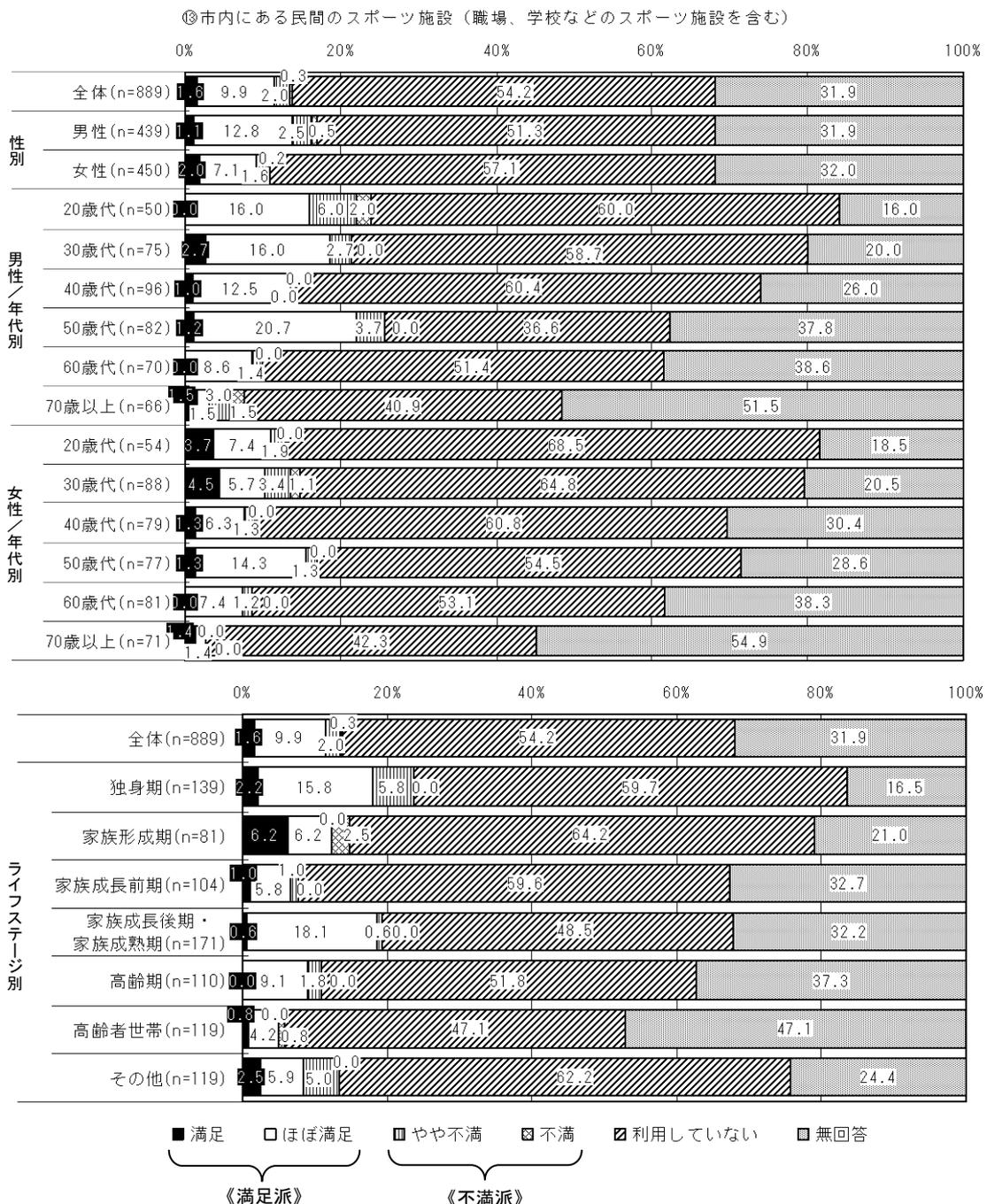
図 6-20⑫ 市内にある東京都など公共のスポーツ施設（府中市の施設でないもの）／性別・年代別・ライフステージ別



「市内にある民間のスポーツ施設（職場、学校などのスポーツ施設を含む）」について、性別でみると、《満足派》は「男性」が「女性」より高くなっている。年代別でみると、《満足派》は「男性」の「50歳代」で最も高く、2割以上を占めており、次いで「男性」の「30歳代」「20歳代」の順となっている。

ライフステージ別でみると、《満足派》は「家族成長後期・家族成熟期」で最も高く、次いで「独身期」の順となっている。

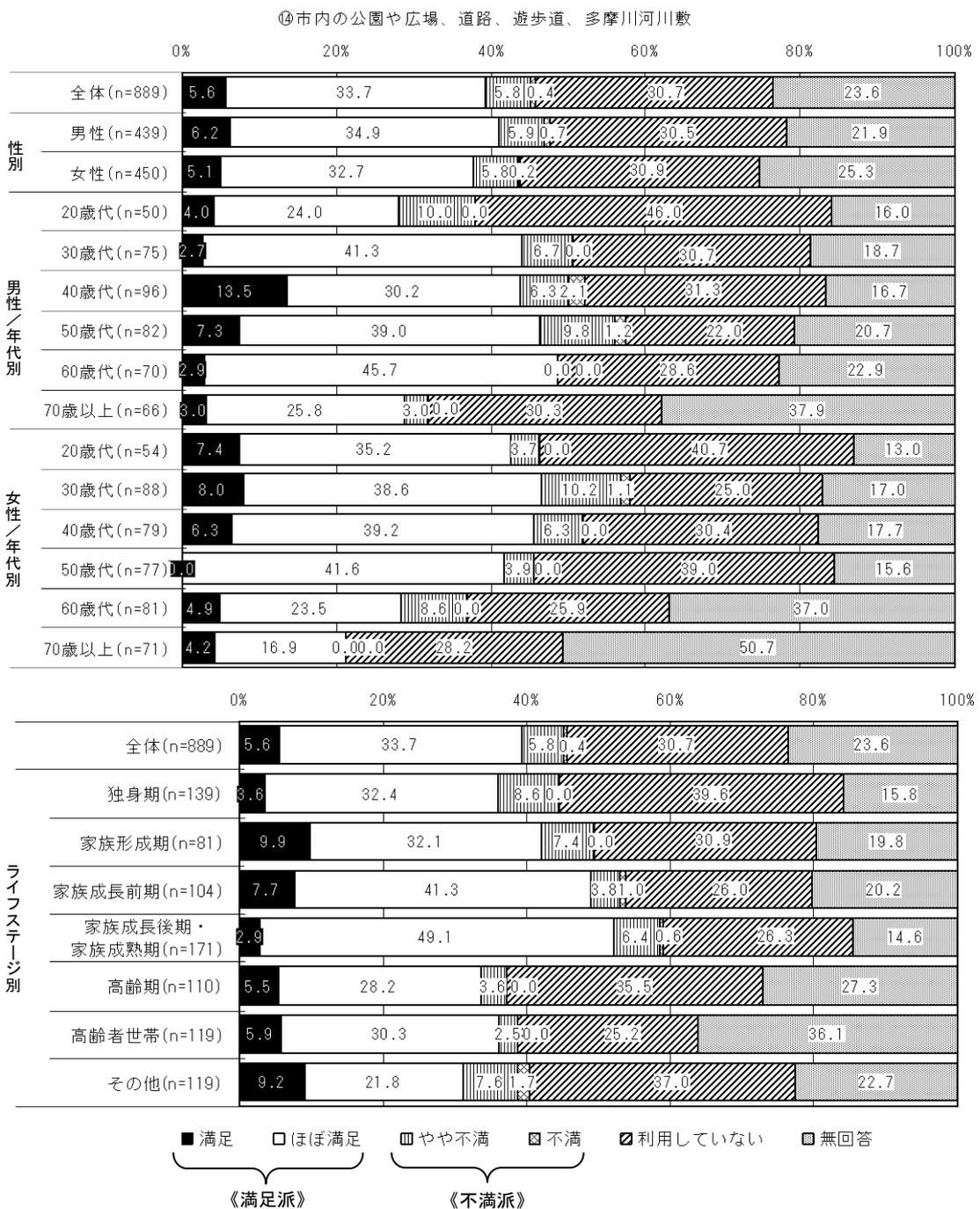
図 6-20⑬ 市内にある民間のスポーツ施設（職場、学校などのスポーツ施設を含む）／性・年代別・ライフステージ別



「市内の公園や広場、道路、遊歩道、多摩川河川敷」について、性別で見ると「男性」「女性」で大きな差はみられない。年代別で見ると、《満足派》は「男性」の「60歳代」で最も高く、約5割を占めており、次いで「女性」の「30歳代」、「男性」の「50歳代」の順となっている。

ライフステージ別で見ると、《満足派》は「家族成長後期・家族成熟期」で最も高く、次いで「家族成長前期」「家族形成期」の順となっている。

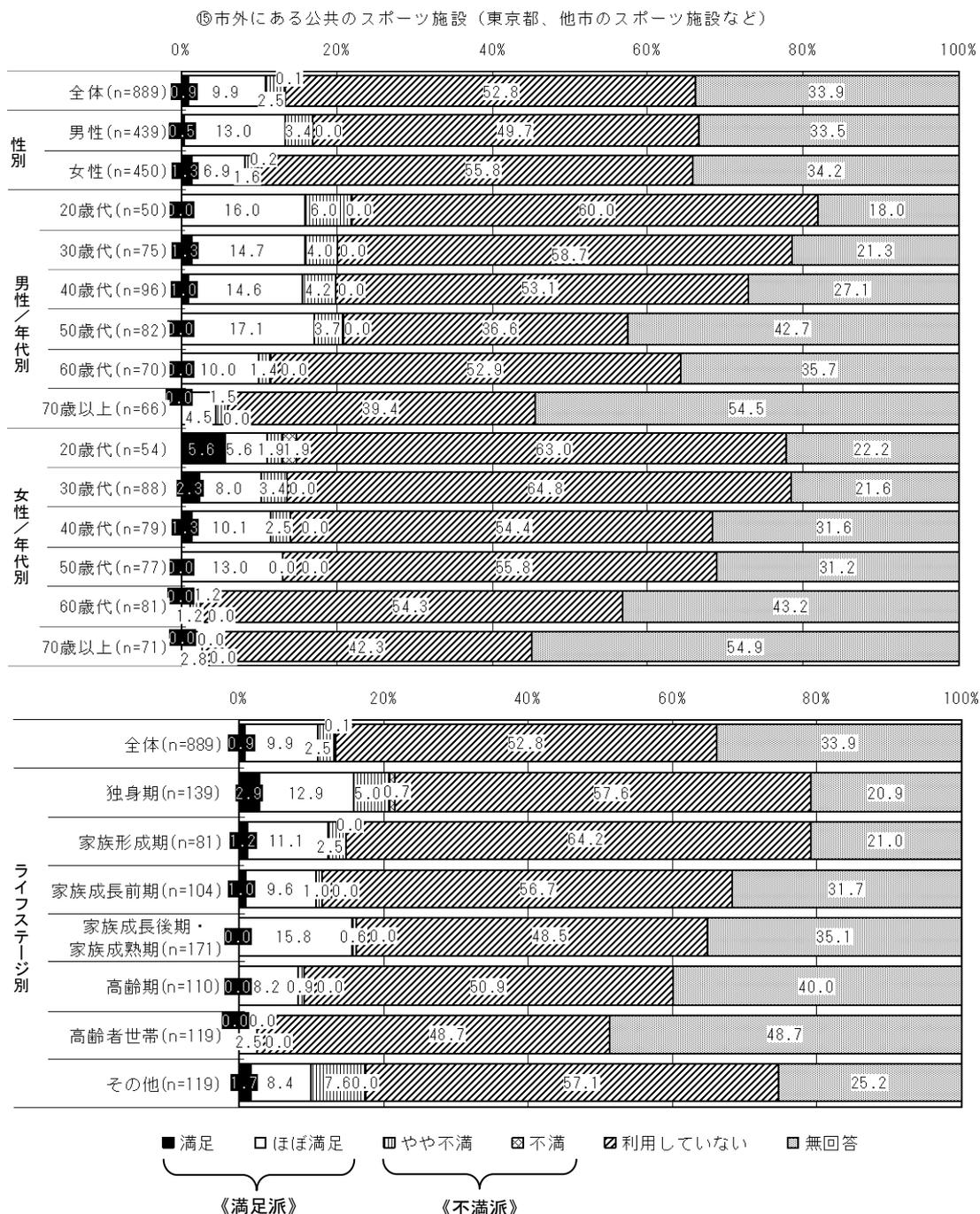
図 6-20⑭ 市内の公園や広場、道路、遊歩道、多摩川河川敷／性・年代別・ライフステージ別



「市外にある公共のスポーツ施設（東京都、他市のスポーツ施設など）」について、性別でみると、《満足派》は「男性」が「女性」より高くなっている。年代別でみると、《満足派》は「男性」の「50歳代」で最も高く、次いで「男性」の「20歳代」「30歳代」「40歳代」となっている。

ライフステージ別でみると、《満足派》は「家族成長後期・家族成熟期」「独身期」で最も高くなっている。

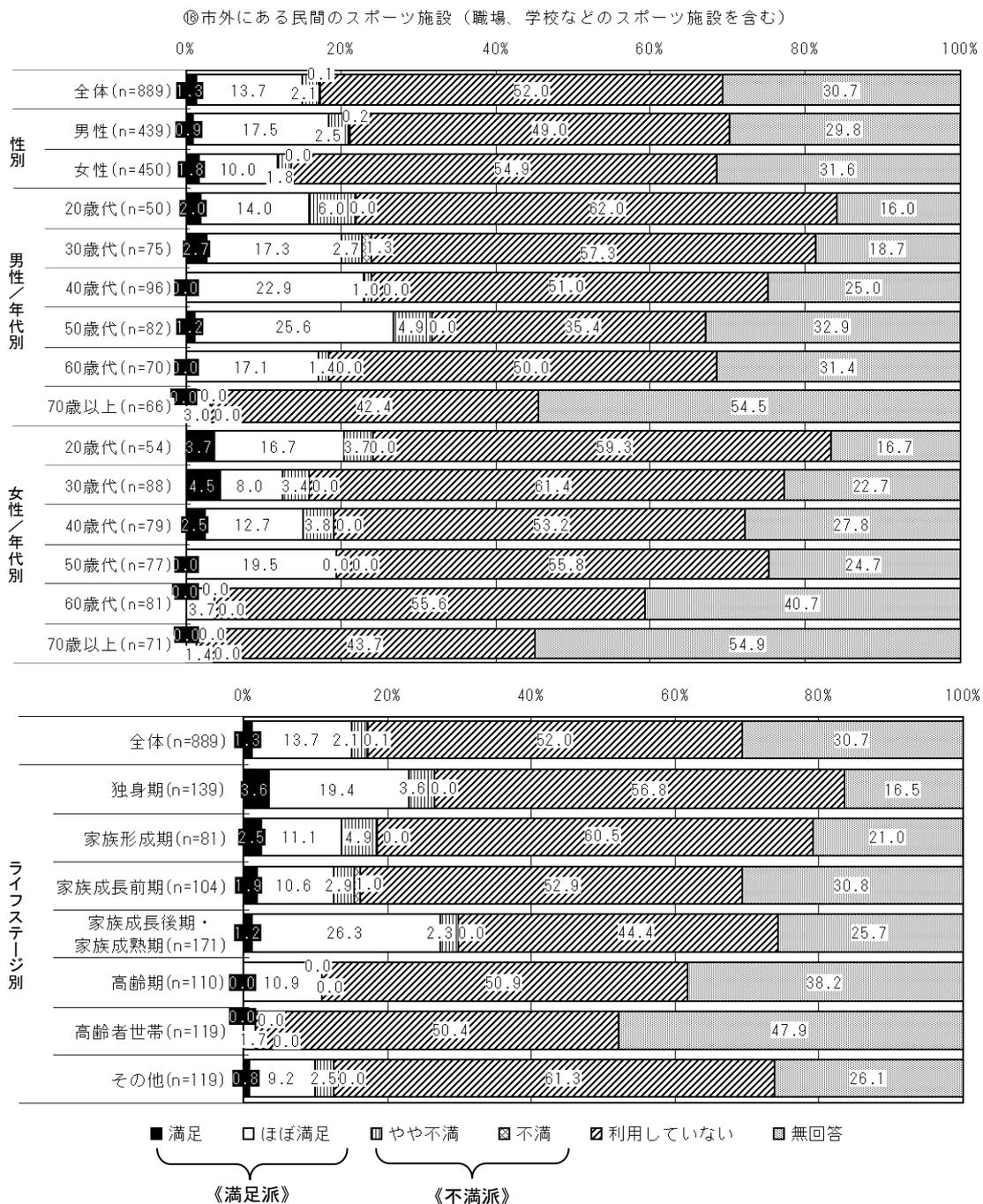
図 6-20⑮ 市外にある公共のスポーツ施設（東京都、他市のスポーツ施設など）／性・年代別・ライフステージ別



「市外にある民間のスポーツ施設（職場、学校などのスポーツ施設を含む）」について、性別でみると、《満足派》は「男性」が「女性」より高くなっている。年代別でみると、《満足派》は「男性」の「50 歳代」で最も高く、次いで「男性」の「40 歳代」「女性」の「20 歳代」の順となっている。

ライフステージ別でみると、《満足派》は「家族成長後期・家族成熟期」で最も高く、約3割を占めており、次いで「独身期」「家族形成期」の順となっている。

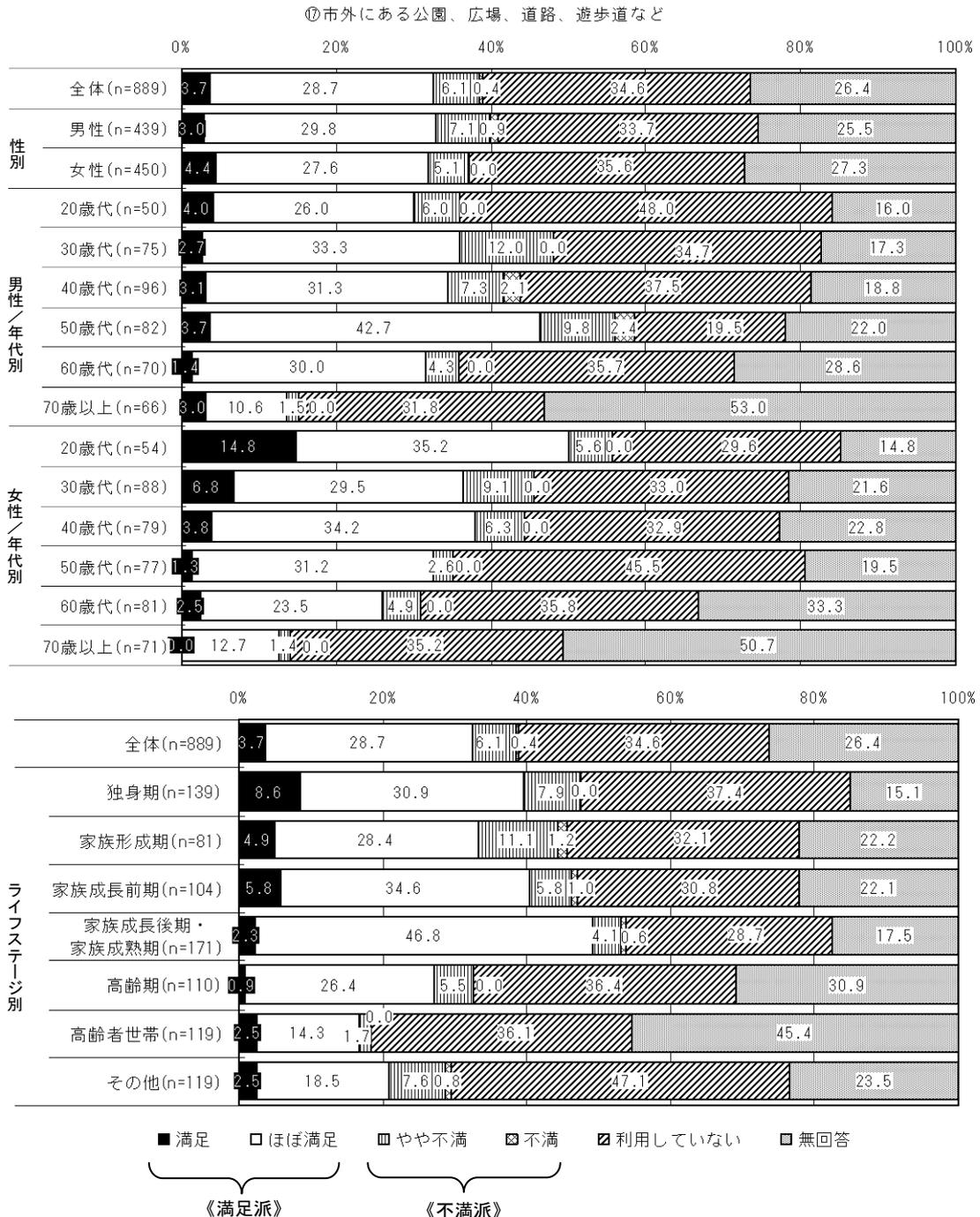
図 6-20⑩ 市外にある民間のスポーツ施設（職場、学校などのスポーツ施設を含む）／性・年代別・ライフステージ別



「市外にある公園、広場、道路、遊歩道など」について、性別で見ると、「男性」「女性」で大きな差はみられない。年代別で見ると、《満足派》は「女性」の「20歳代」で最も高く、5割を占めており、次いで「男性」の「50歳代」「女性」の「40歳代」の順となっている。

ライフステージ別で見ると、《満足派》は「家族成長後期・家族成熟期」で最も高く、約5割を占めており、次いで「家族成長前期」「独身期」の順となっている。

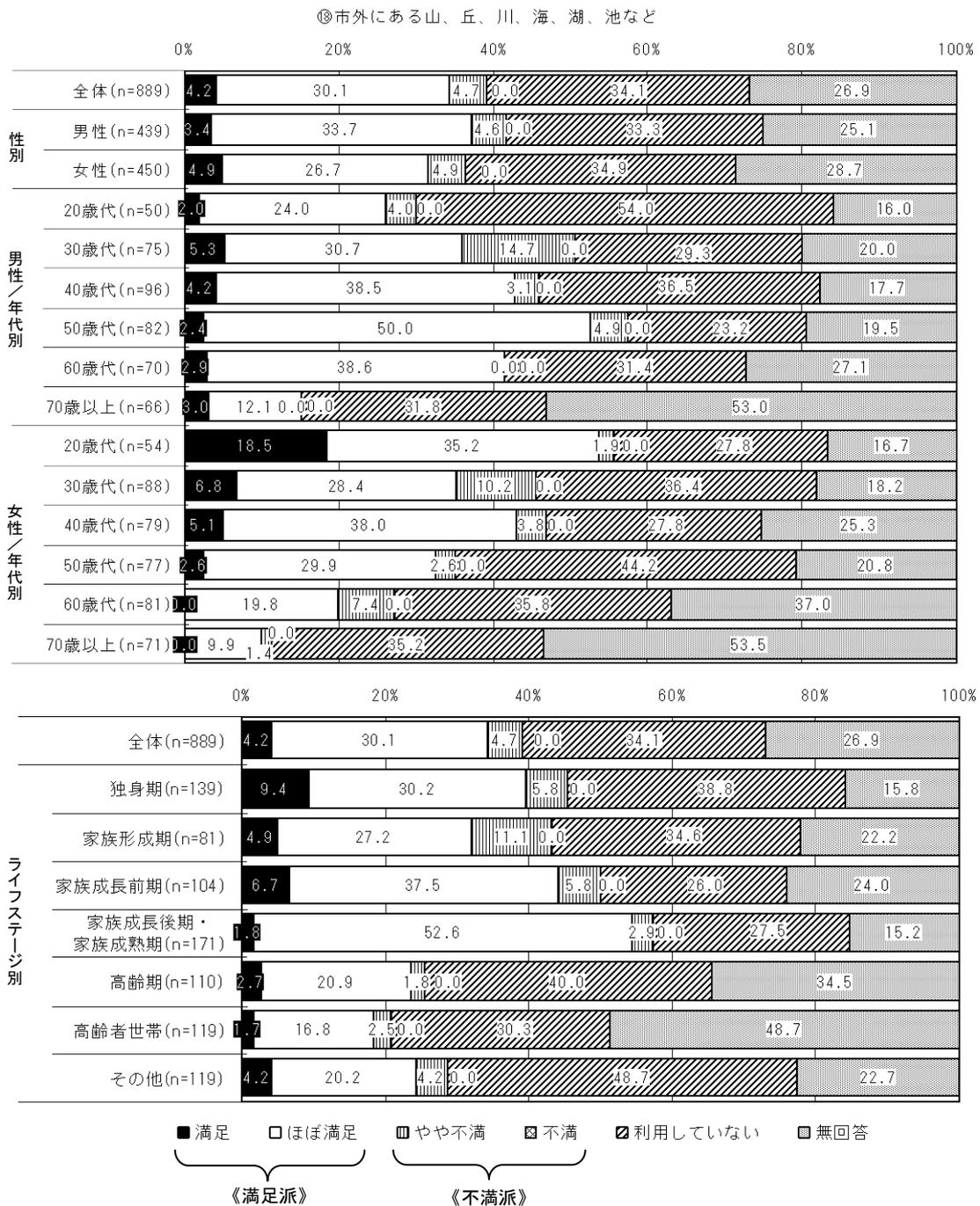
図 6-20⑰ 市外にある公園、広場、道路、遊歩道など／性・年代別・ライフステージ別



「市外にある公園、広場、道路、遊歩道など」について、性別で見ると、《満足派》は「男性」が「女性」より高くなっている。年代別で見ると、《満足派》は「女性」の「20歳代」で最も高く、5割半ばを占めており、次いで「男性」の「50歳代」「女性」の「40歳代」の順となっている。

ライフステージ別で見ると、《満足派》は「家族成長後期・家族成熟期」で最も高く、5割半ばを占めており、次いで「家族成長前期」「独身期」の順となっている。

図 6-20⑬ 市外にある山、丘、川、海、湖、池など／性・年代別・ライフステージ別



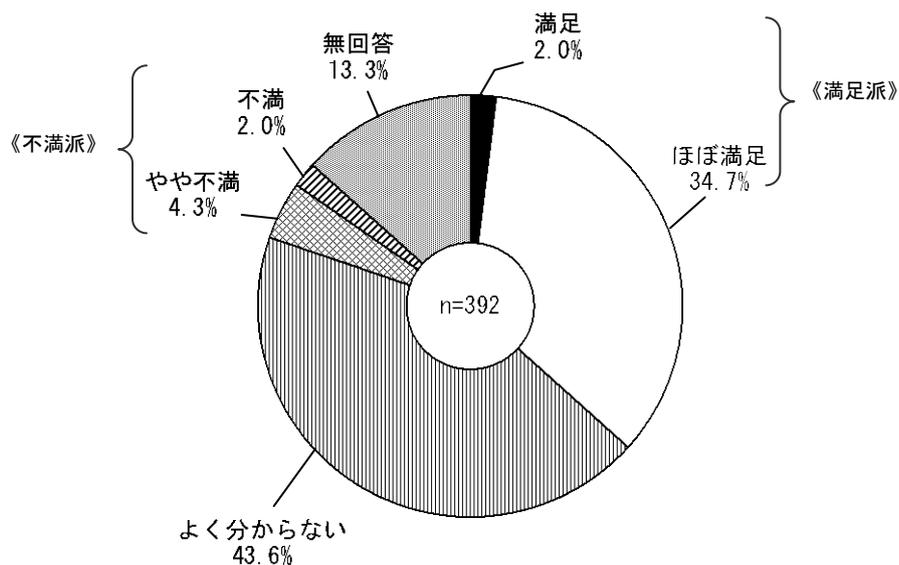
(8) 府中市スポーツ施設予約システムの満足度

《満足派》が3割半ばを占め、《不満派》を上回っている。

〔問 26 の①～⑪で「1」「2」「3」「4」とお答えの方に〕

問 27-1. 府中市スポーツ施設予約システムによる予約を行っています。このシステムについて、満足していますか。次の中から1つだけ選んでください。(n=392)

図 6-21 府中市スポーツ施設予約システムの満足度



府中市スポーツ施設予約システムの満足度については、「満足」と「ほぼ満足」をあわせた《満足派》(36.7%)が、「不満」と「やや不満」を合計した《不満派》(6.3%)を上回っている。〔図 6-21〕

(9) 府中市スポーツ施設予約システムを不満に思う理由

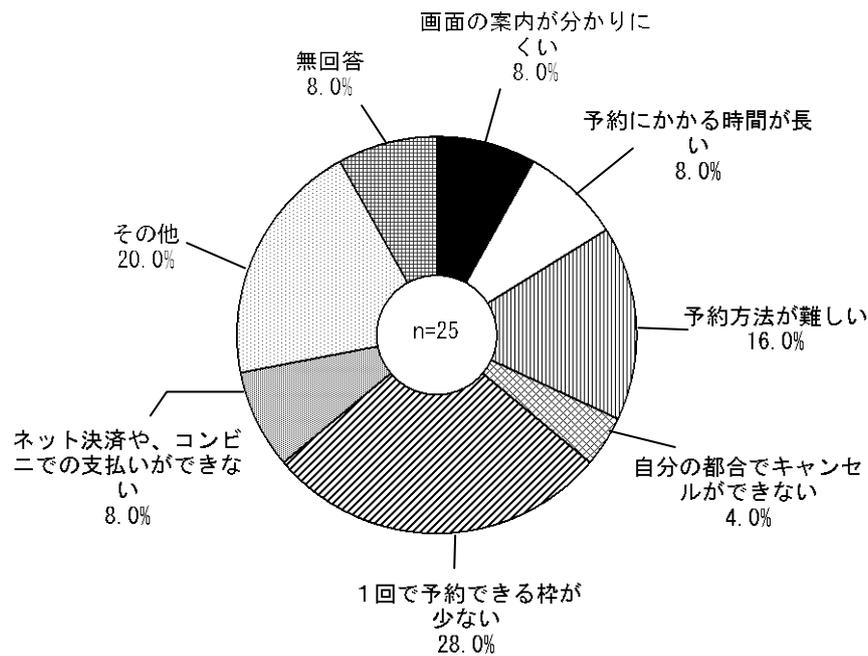
「1回で予約できる枠が少ない」が約3割を占めて最も高くなっている。

〔問 27-1で「4」「5」とお答えの方に〕

問 27-2. あなたが不満に思う理由は何ですか。次の中から1つだけ選んでください。

(n=25)

図 6-24 府中市スポーツ施設予約システムを不満に思う理由

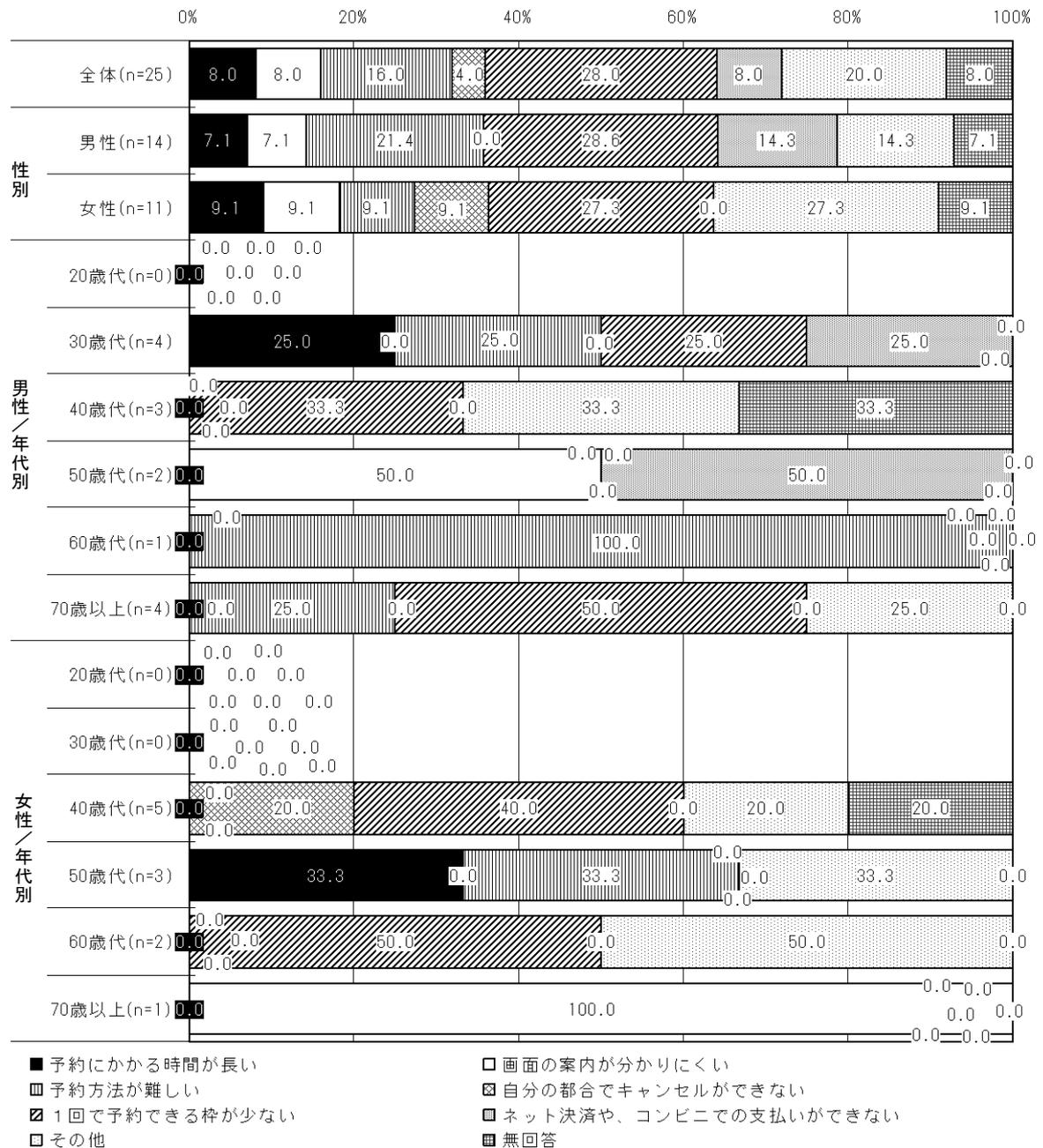


府中市スポーツ施設予約システムを不満に思う理由については、「1回で予約できる枠が少ない」(28.0%)が最も高く、次いで「予約方法が難しい」(16.0%)の順となっている。

〔図 6-24〕

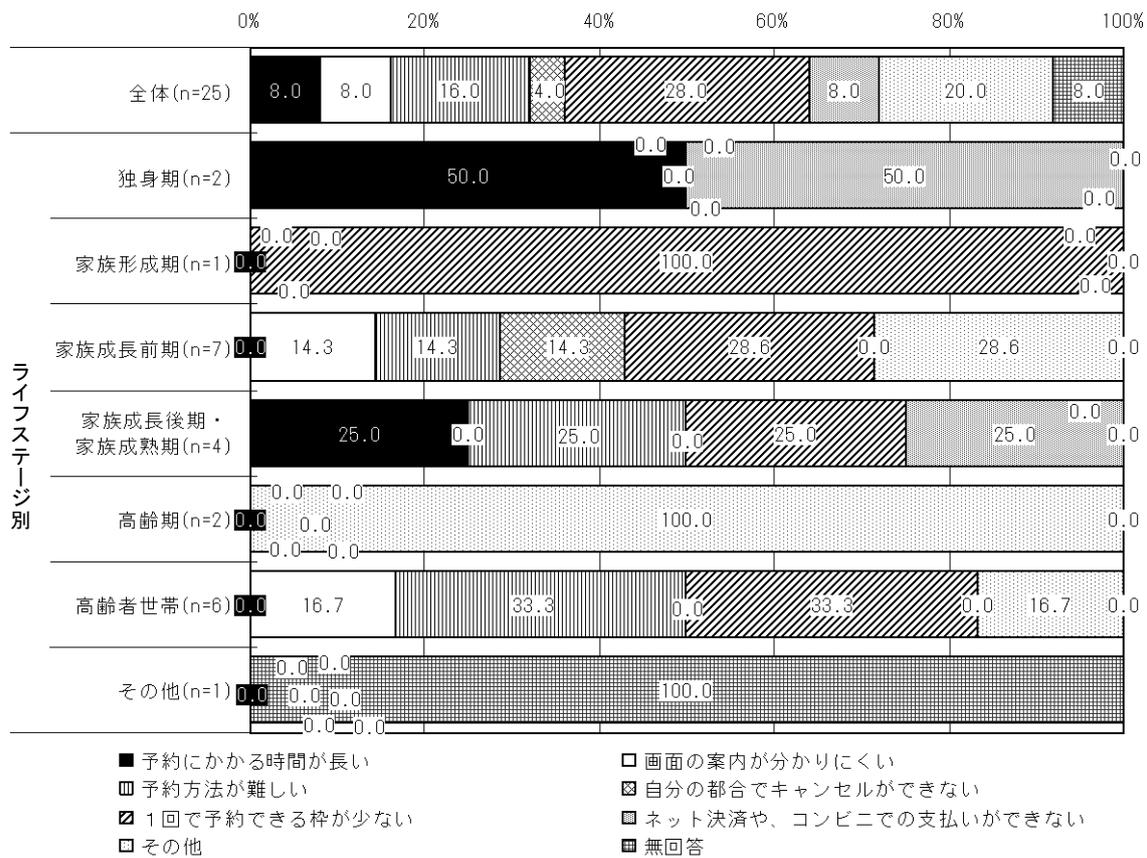
性別でみると、「予約方法が難しい」「ネット決済やコンビニでの支払いができない」は「男性」が「女性」より高く、「自分の都合でキャンセルできない」は「女性」が「男性」より高くなっている。年代別はそれぞれの母数が少ないため、参考値とする。〔図 6-25〕

図 6-25 府中市スポーツ施設予約システムを不満に思う理由／性・年代別



ライフステージ別は、それぞれの母数が少ないため、参考値とする。〔図 6-26〕

図 6-26 府中市スポーツ施設予約システムを不満に思う理由／ライフステージ別



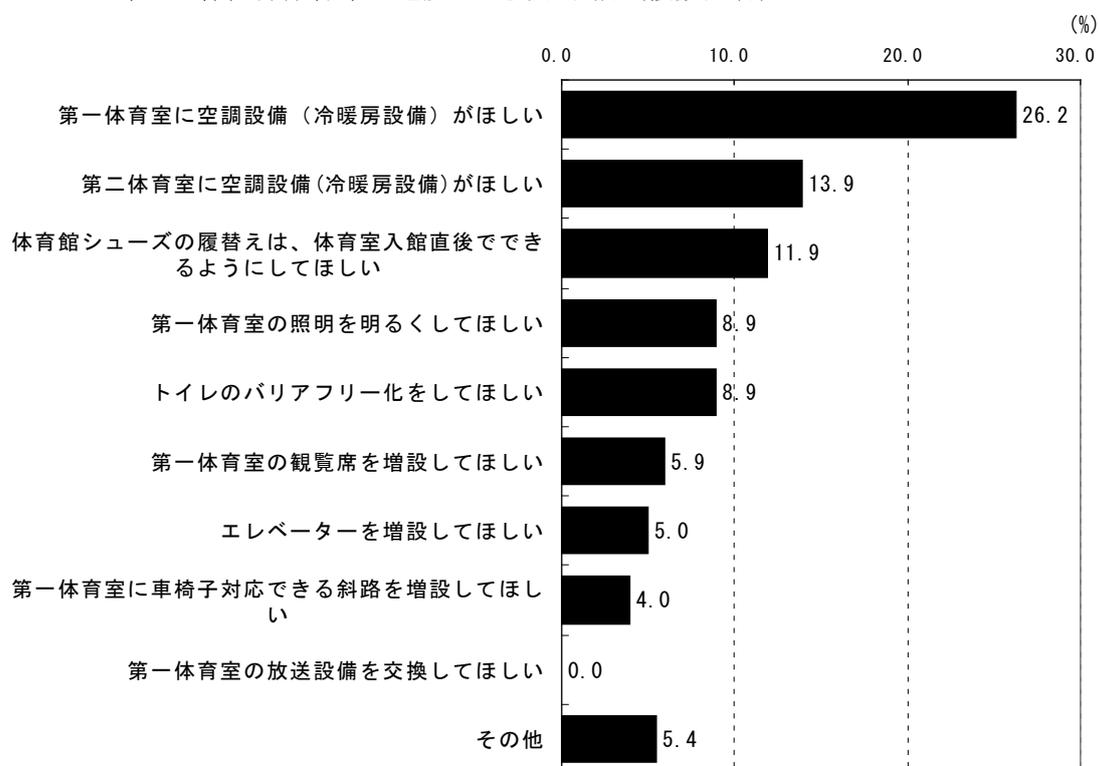
(10) 郷土の森総合体育館の施設に必要な事柄

「第1体育室に空調設備（冷暖房設備）がほしい」が2割半ばを占めて最も高くなっている。

〔問26の①で「1」「2」「3」「4」とお答えの方に〕

問28-1. 郷土の森総合体育館は、平成25年国民体育大会の卓球の正式開催会場になっていますが、著しく老朽化しています。郷土の森総合体育館の施設で必要だと思うことはなんですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。
(n=202)

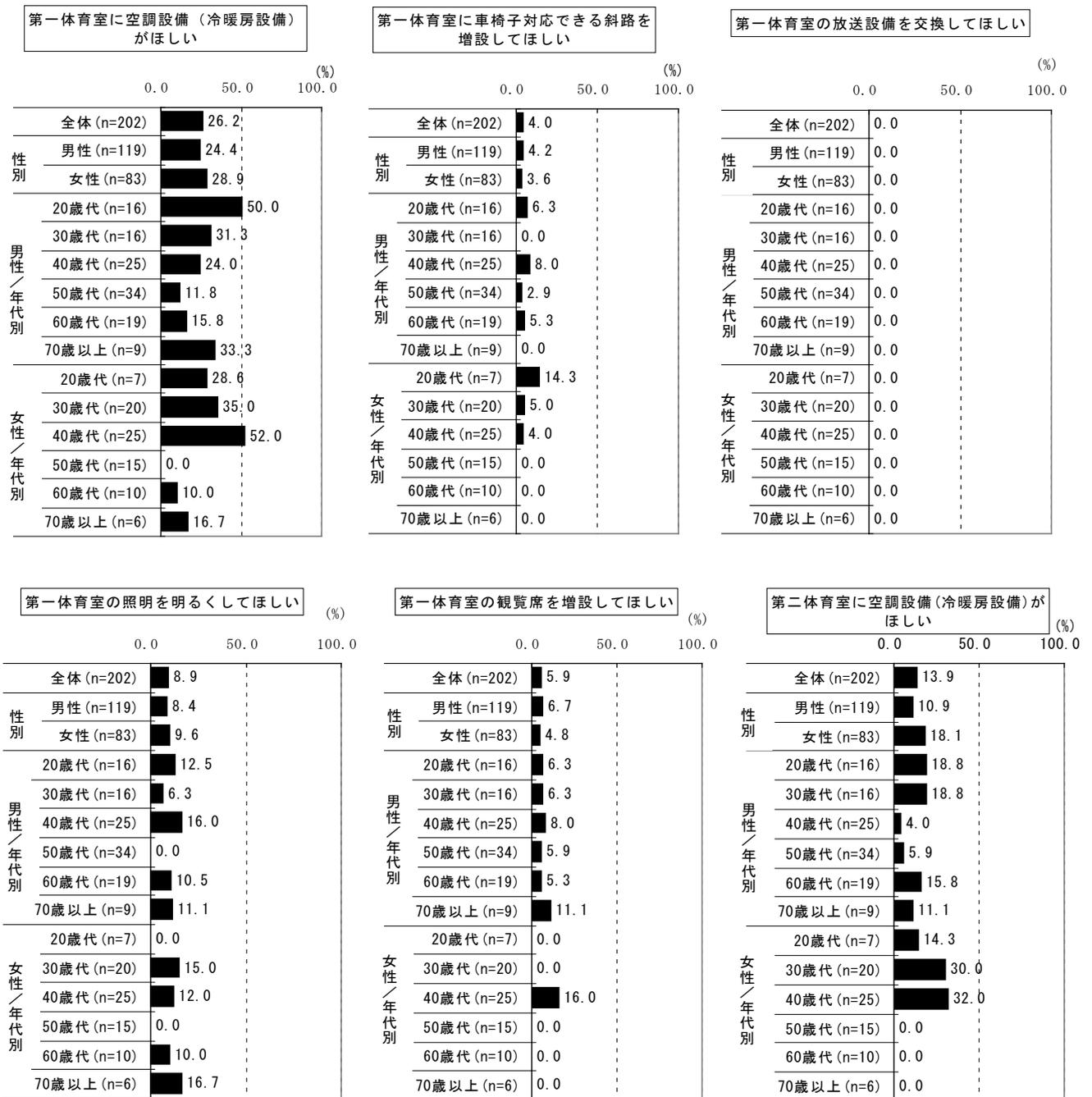
図6-27 郷土の森総合体育館の施設に必要な事柄（複数回答）



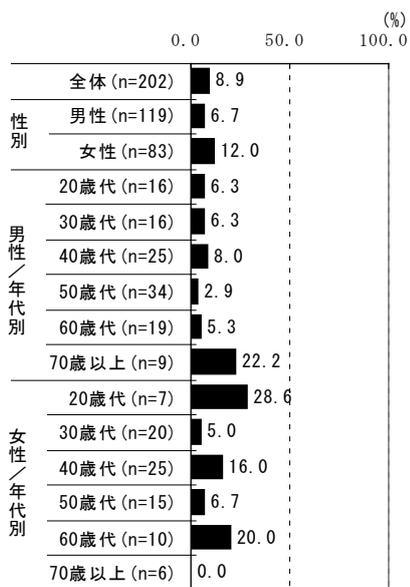
郷土の森総合体育館の施設に必要な事柄については、「第一体育室に空調設備（冷暖房設備）がほしい」（26.2%）が最も高く、次いで「第二体育室に空調設備（冷暖房設備）がほしい」（13.9%）「体育館シューズの履替えは、体育室入館直後できるようにしてほしい」（11.9%）の順となっている。〔図6-27〕

性別でみると、上位3項目の「第一体育室に空調設備（冷暖房設備）がほしい」「第二体育室に空調設備（冷暖房設備）がほしい」「体育館シューズの履替えは、体育室入館直後のできるようにしてほしい」については、「女性」が「男性」より高くなっている。年代別でみると、「第一体育室に空調設備（冷暖房設備）がほしい」は「女性」の「40歳代」、「男性」の「20歳代」の順に高く、それぞれ5割以上を占めている。「第二体育室に空調設備（冷暖房設備）がほしい」は「女性」の「30歳代」「40歳代」で3割以上と高くなっている。〔図6-28〕

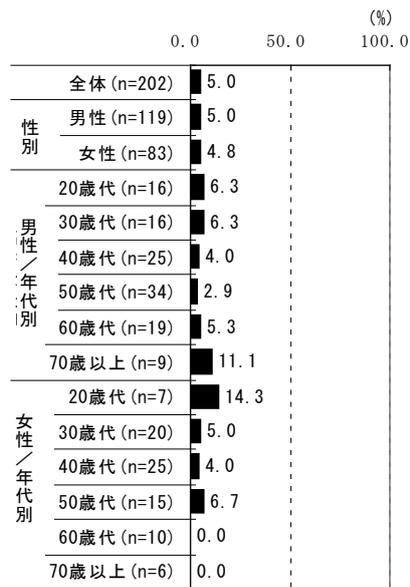
図6-28 郷土の森総合体育館の施設に必要な事柄／性・年代別



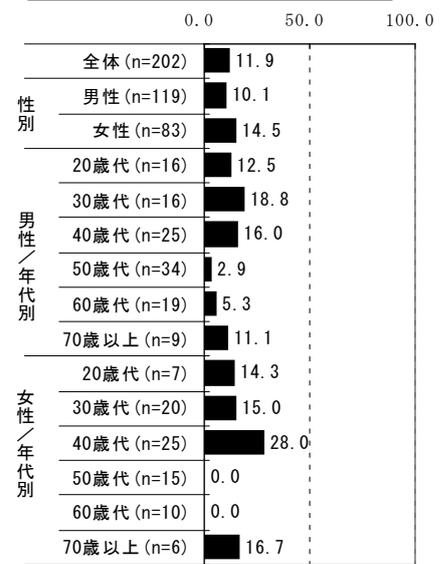
トイレのバリアフリー化をしてほしい



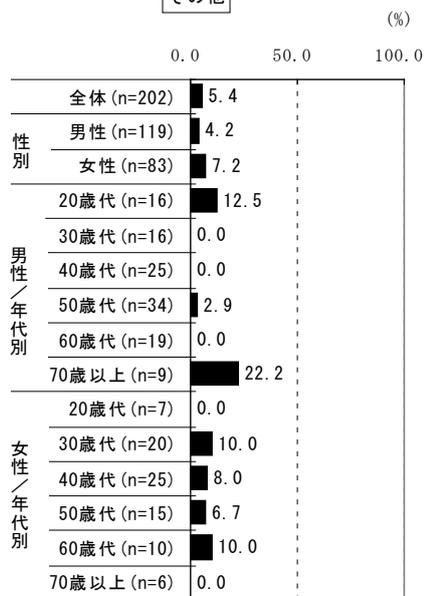
エレベーターを増設してほしい



体育館シューズの履替えは、体育室入館直後できるようにしてほしい

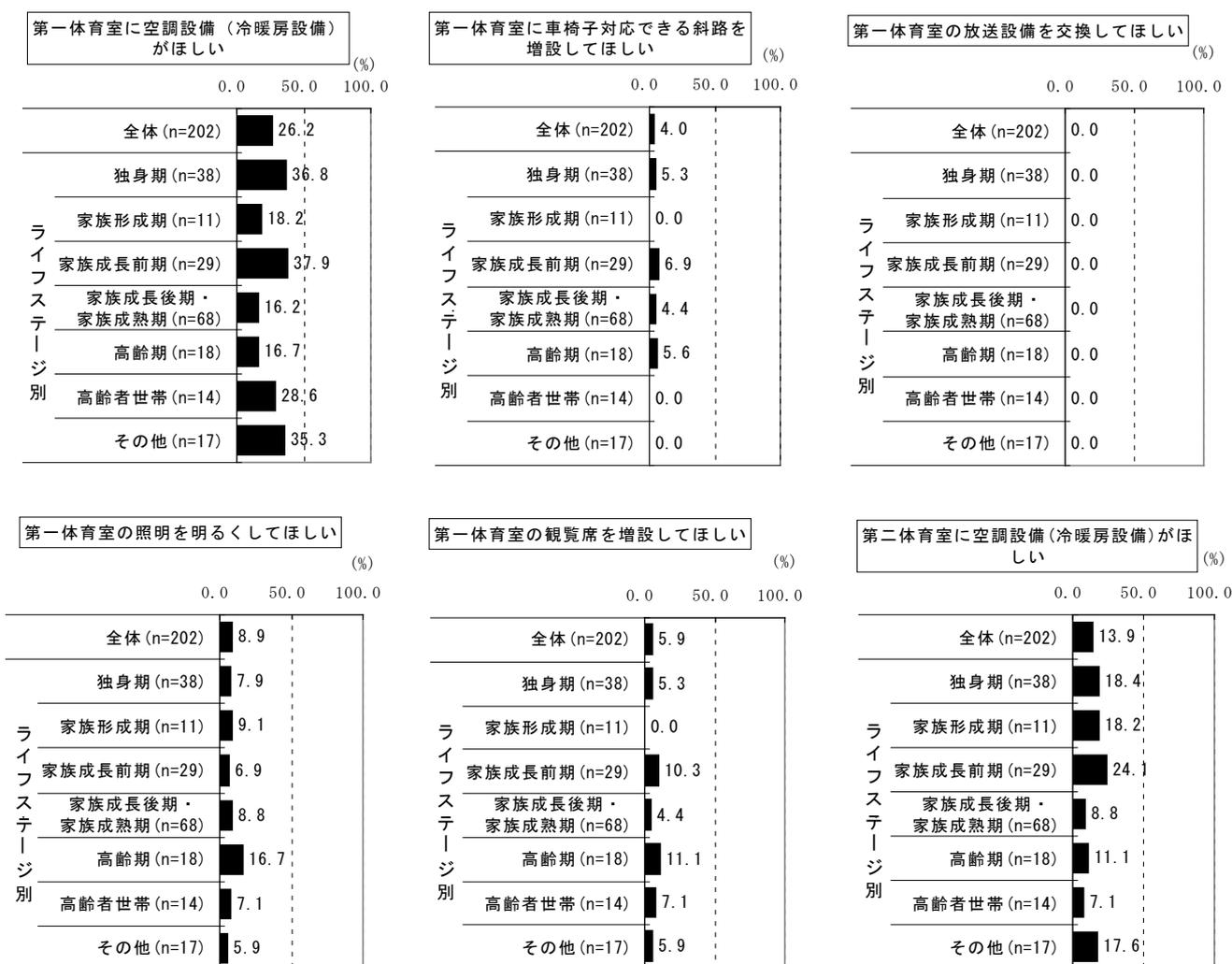


その他

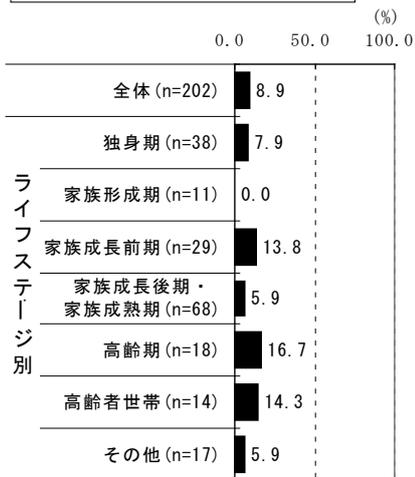


ライフステージ別でみると、「第一体育室に空調設備（冷暖房設備）がほしい」は「家族成長前期」「独身期」の順に高く、それぞれ3割半ばを占めている。「第二体育室に空調設備（冷暖房設備）がほしい」は「家族成長前期」「独身期」の順に高くなっている。「体育館シューズの履替えは、体育室入館直後でできるようにしてほしい」は「独身期」で最も高く、2割近くを占めている。〔図 6-29〕

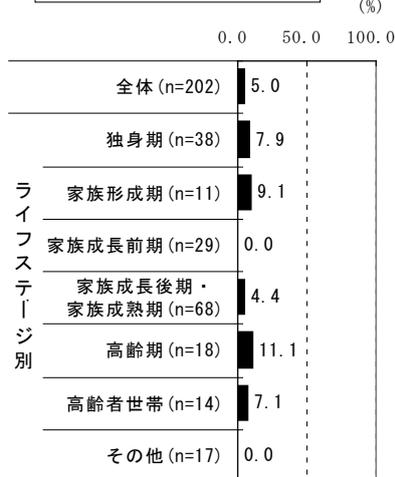
図 6-29 郷土の森総合体育館の施設に必要な事柄／ライフステージ別



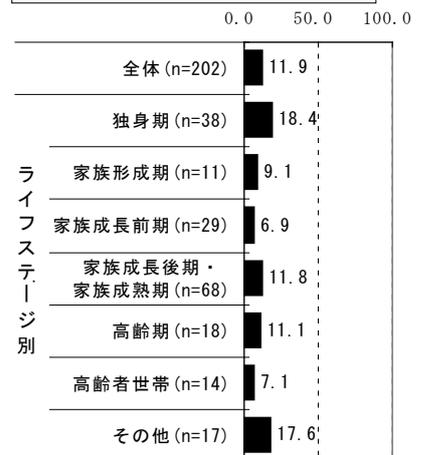
トイレのバリアフリー化をしてほしい



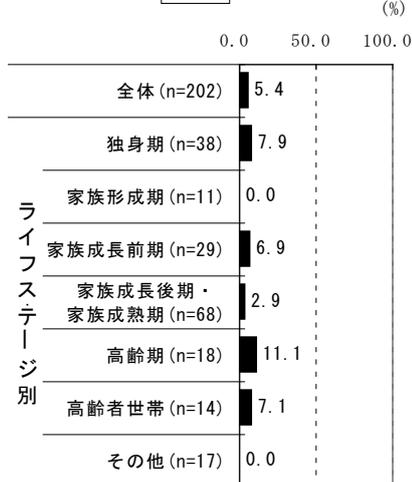
エレベーターを増設してほしい



体育館シューズの履替えは、体育室入館直後できるようにしてほしい



その他



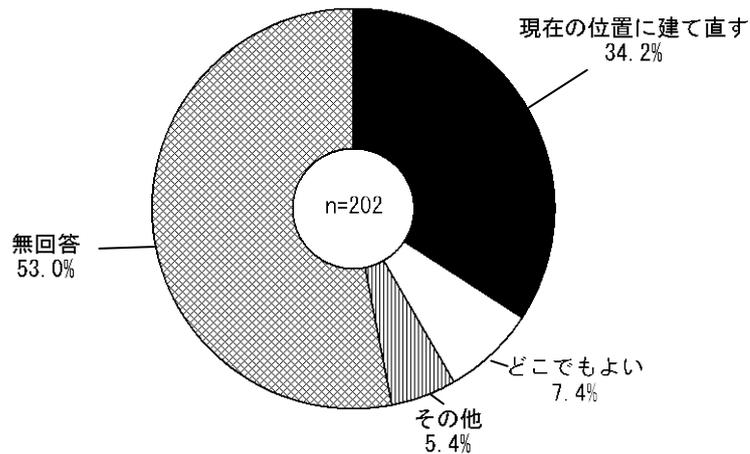
(1 1) 郷土の森総合体育館を建て直す場合の立地

「現在の位置に建て直す」が3割半ばを占めている。

〔問 26 の①で「1」「2」「3」「4」とお答えの方に〕

問 28-2. 郷土の森総合体育館を建て直すとしたら、場所はどこが良いと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。(n=202)

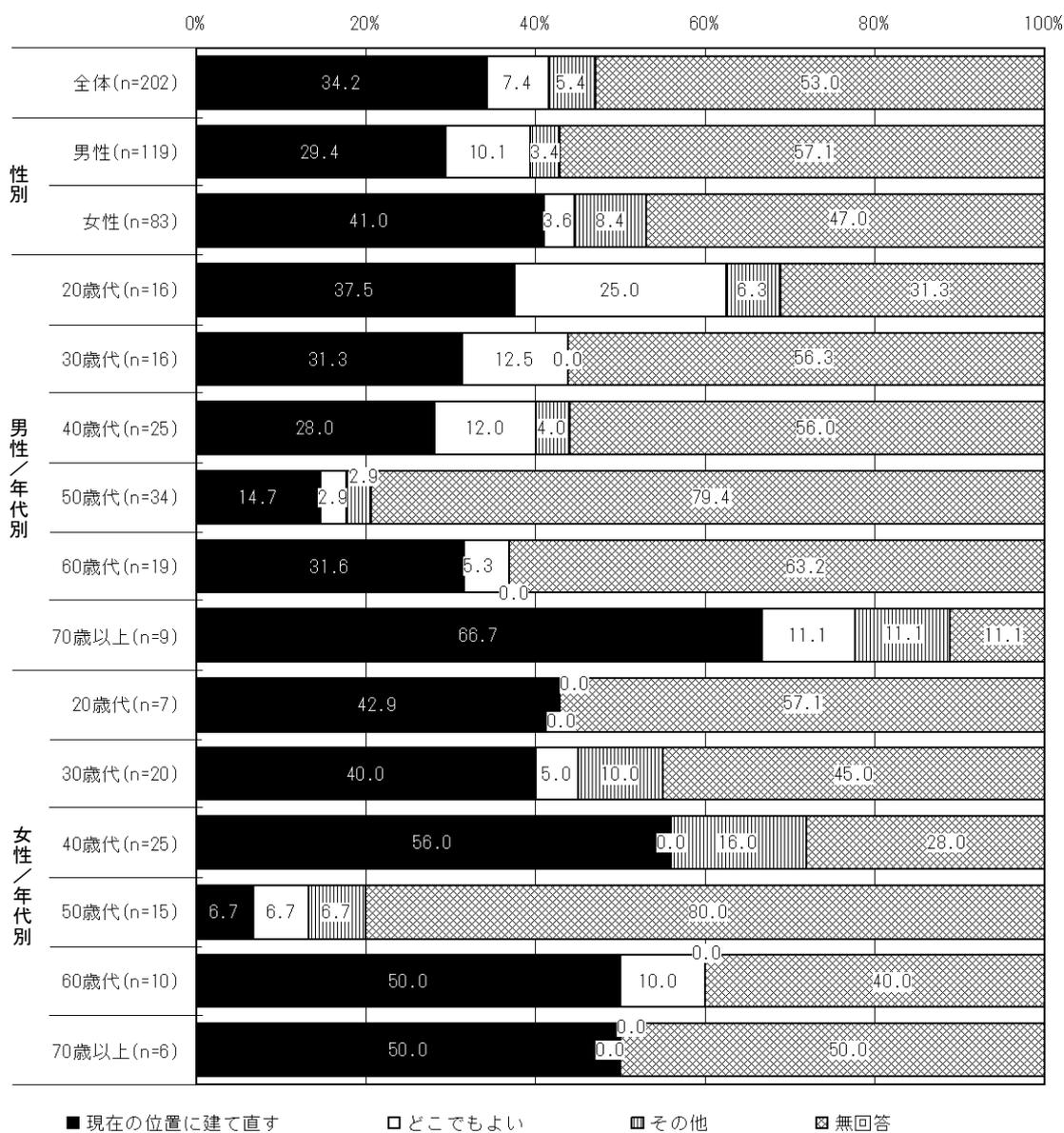
図 6-30 郷土の森総合体育館を建て直す場合の立地



郷土の森総合体育館を建て直す場合の立地については、「現在の位置に建て直す」(34.2%) が最も高く、次いで「どこでもよい」(7.4%) の順となっている。〔図 6-30〕

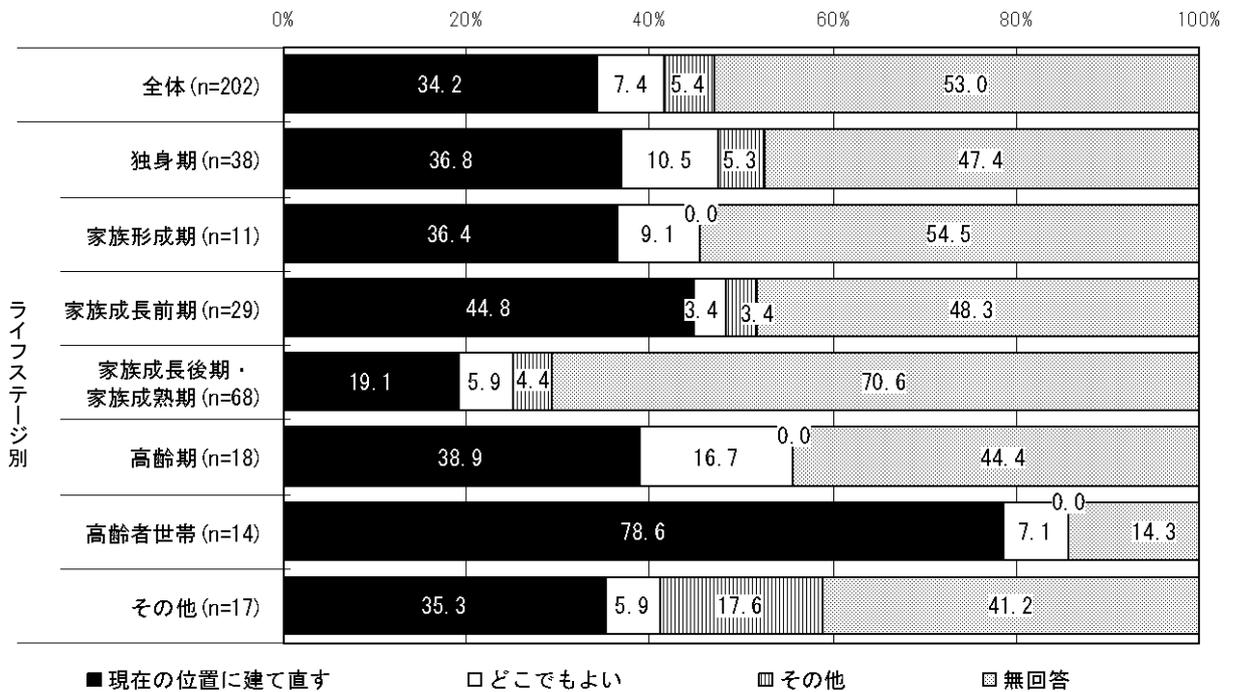
性別で見ると、「男性」「女性」とともに「現在の位置に建て直す」が最も高くなっており、「女性」が「男性」よりも高くなっている。年代別は母数の少ない項目が多いため、参考値とする。〔図 6-31〕

図 6-31 郷土の森総合体育館を建て直す場合の立地／性・年代別



ライフステージ別で見ると、「現在の位置に建て直す」は「高齢者世帯」で最も高く、8割近くを占めている。「どこでもよい」は「高齢期」で最も高く、1割半ばを占めている。
〔図 6-32〕

図 6-32 郷土の森総合体育館を建て直す場合の立地／ライフステージ別

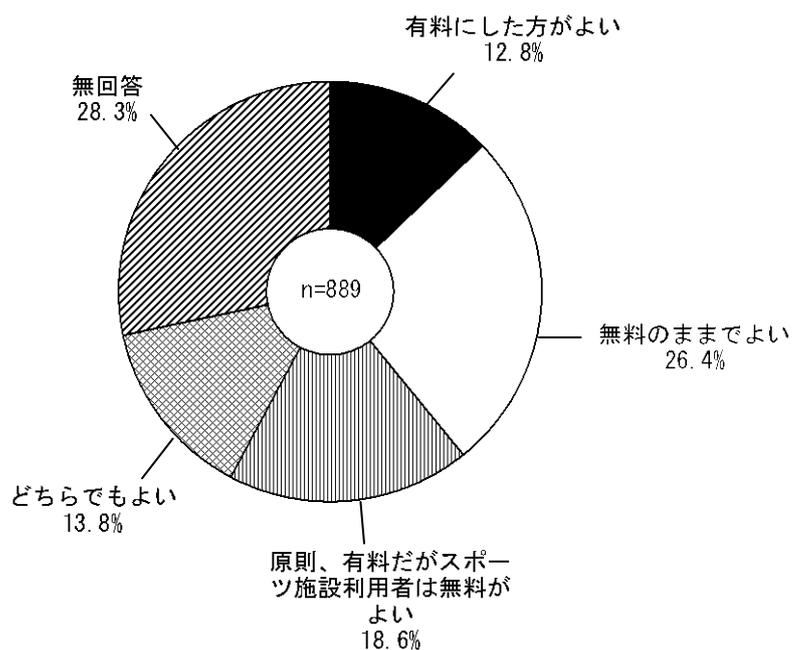


(12) 郷土の森スポーツ施設駐車場の有料化

「無料のままでよい」が2割半ばを占めて最も高くなっている。

問 29. 郷土の森スポーツ施設駐車場については、現在は無料ですが、利用者に負担を求めるべきという意見や違法駐車対策として有効という考え方から有料化を望む声もあります。駐車料金の有料化についてどのように思いますか。次の中から1つだけ選んでください。(n=889)

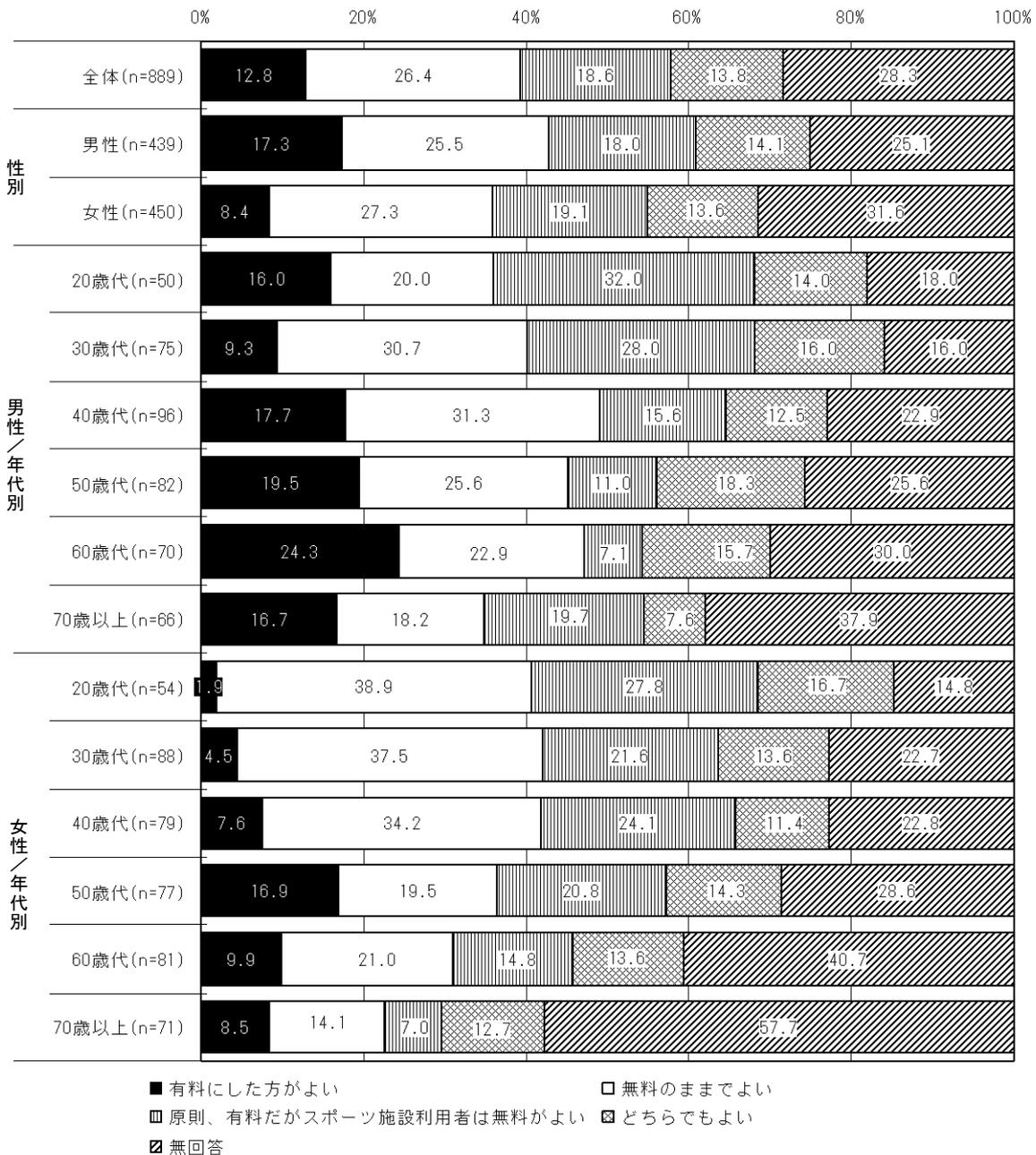
図 6-33 郷土の森スポーツ施設駐車場の有料化



郷土の森スポーツ施設駐車場の有料化については、「無料のままでよい」(26.4%)が最も高く、次いで「原則、有料だがスポーツ施設利用者は無料がよい」(18.6%)「どちらでもよい」(13.8%)の順となっている。〔図 6-33〕

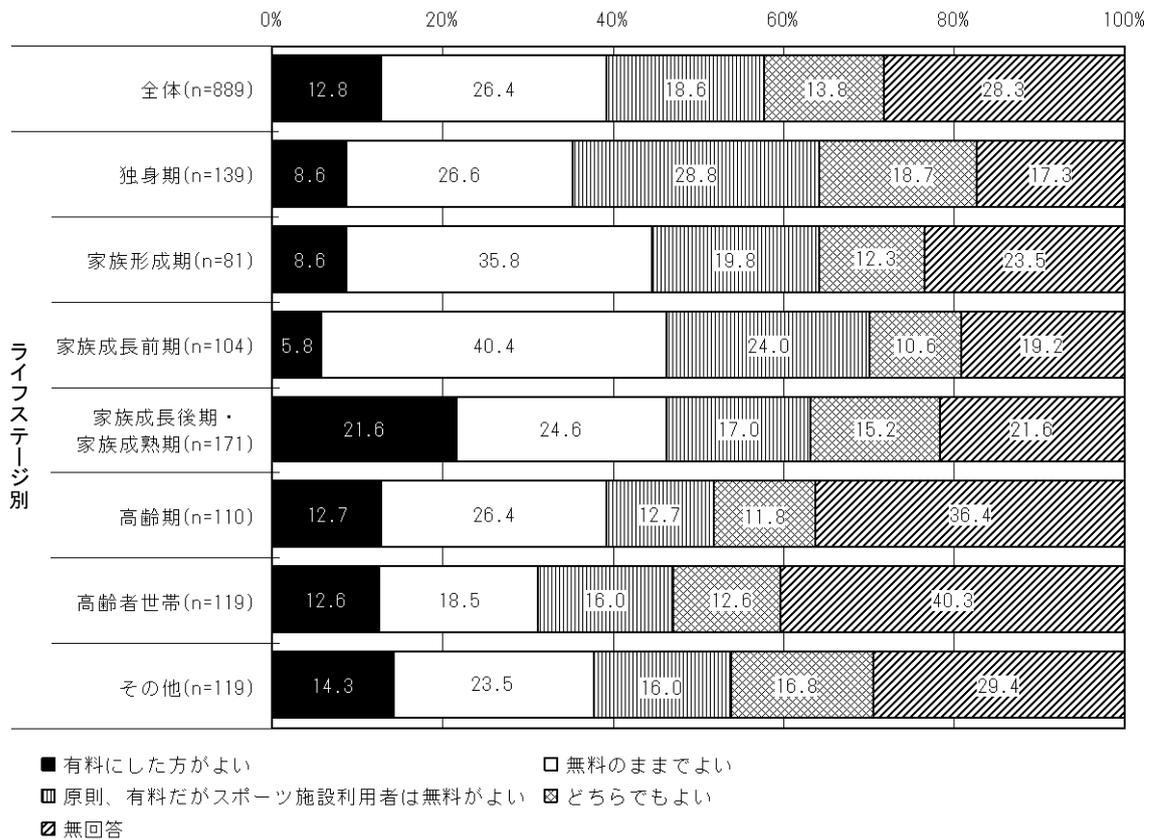
性別でみると、「男性」「女性」とともに上位2項目の順序は変わらない。3番目に高い項目は、「男性」では「有料にしたほうがよい」、「女性」では「どちらでもよい」となっている。年代別でみると、「無料のままでもよい」は「女性」の「20歳代」「30歳代」の順に高く、年代が低いほど高い傾向がみられる。「原則、有料だがスポーツ施設利用者は無料がよい」は「男性」の「20歳代」で最も高く、年代が下がるにつれて高い傾向がみられる。〔図6-34〕

図6-34 郷土の森スポーツ施設駐車場の有料化／性・年代別



ライフステージ別でみると、「無料のままでよい」は「家族成長前期」で最も高く、4割以上を占めており、次いで「家族形成期」「独身期」「高齢期」の順に高くなっている。「原則、有料だがスポーツ施設利用者は無料がよい」は「独身期」で最も高く3割近くを占めている。〔図6-35〕

図6-35 郷土の森スポーツ施設駐車場の有料化／ライフステージ別



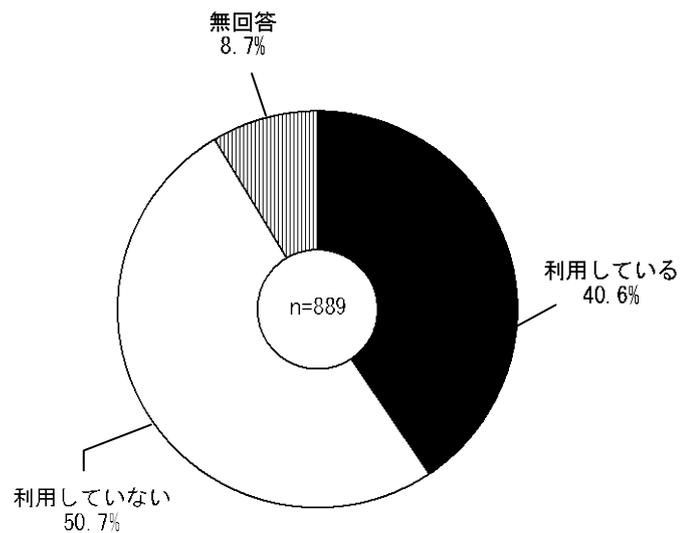
7 図書館の利用

(1) 府中市立図書館の利用状況

「利用していない」が半数以上を占め、「利用している」を上回っている。

問 30. あなたは府中市立図書館を利用していますか。次の中から 1つだけ 選んでください。
(n=889)

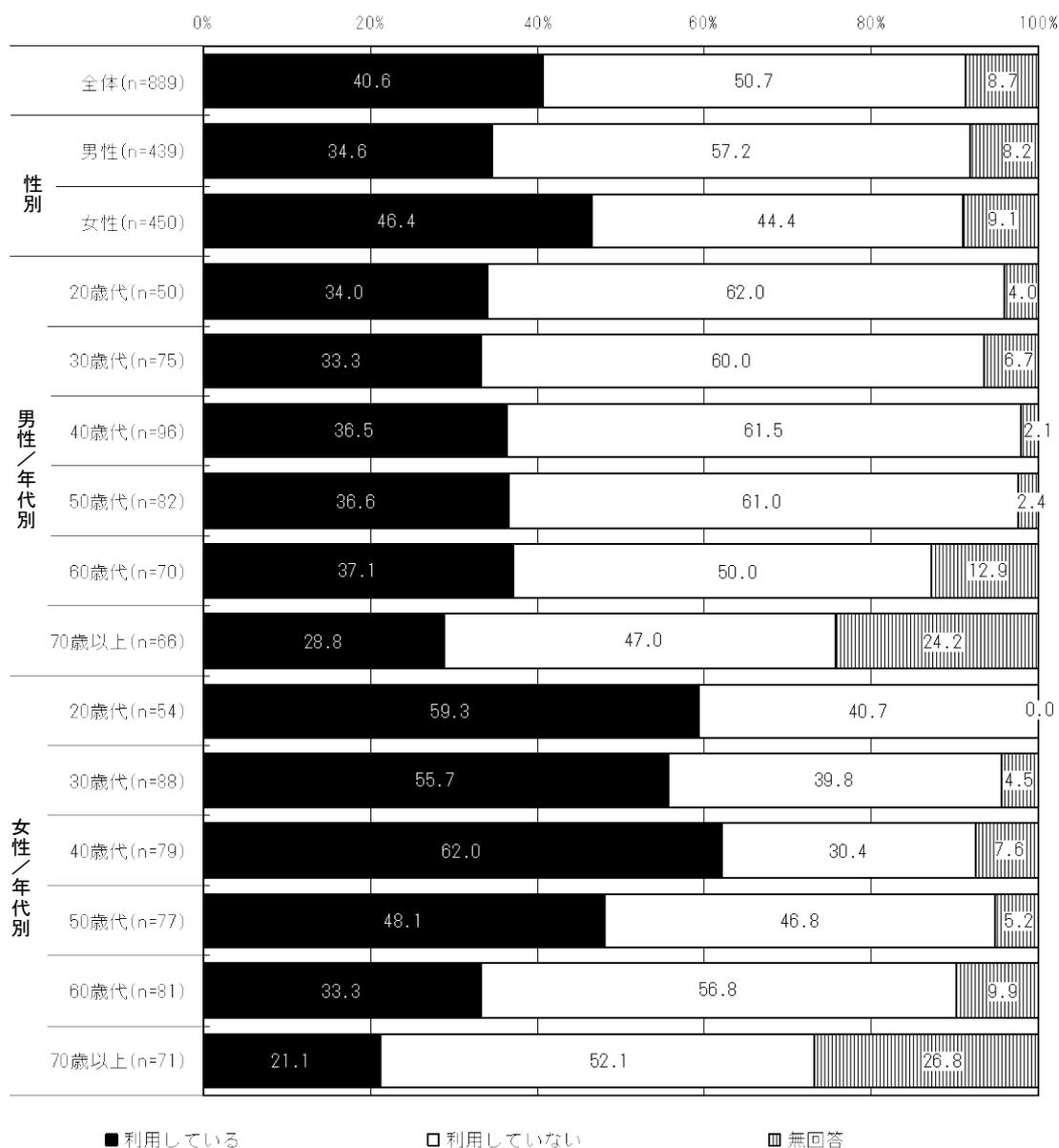
図 7-1 府中市立図書館の利用状況



府中市立図書館の利用状況は「利用していない」(50.7%)が「利用している」(40.6%)を上回っている。〔図 7-1〕

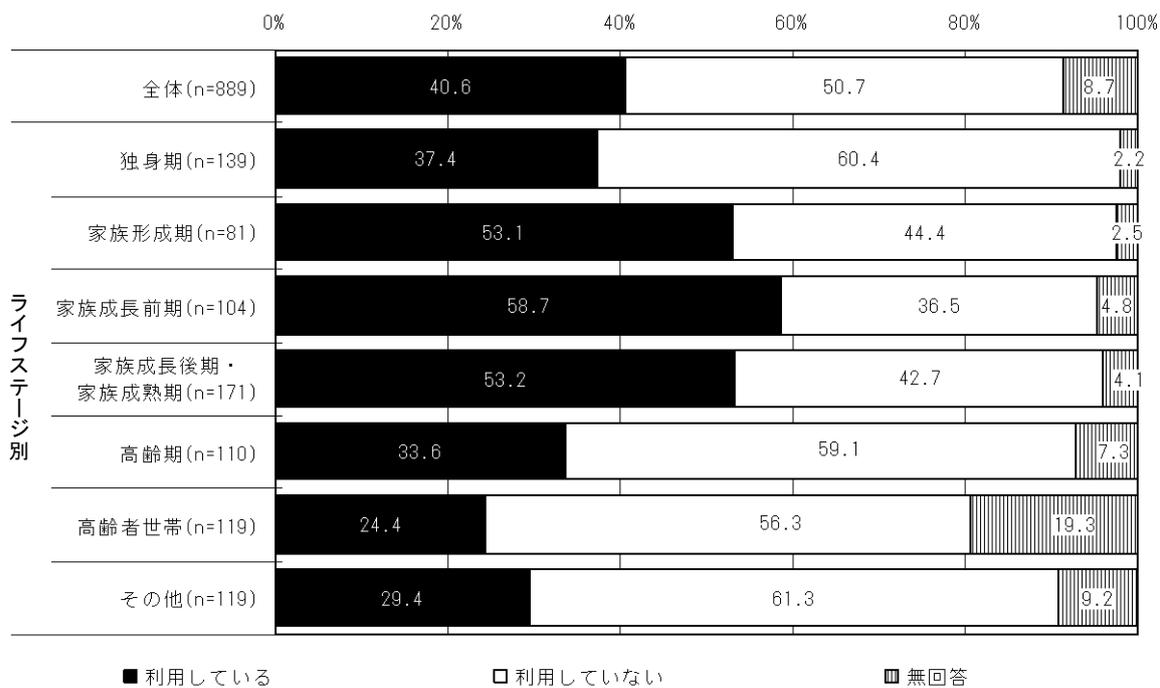
性別でみると、「男性」は「利用していない」が5割半ばを占めて高くなっているが、「女性」では「利用している」が「利用していない」を上回っている。年代別でみると、「利用している」は「女性」の「40歳代」で最も高く6割以上を占めており、「女性」の「20歳代」から「50歳代」で「利用していない」を上回っている。「男性」では、すべての年代で「利用していない」が「利用している」を上回っている。〔図7-2〕

図7-2 府中市立図書館の利用状況／性・年代別



ライフステージ別で見ると、「利用している」は「家族成長前期」で最も高く6割近くを占めており、「家族形成期」から「家族成長後期・家族成熟期」で「利用していない」を上回っている。「利用していない」は「独身期」で6割以上を占めており、最も高くなっている。〔図7-3〕

図7-3 府中市立図書館の利用状況／ライフステージ別



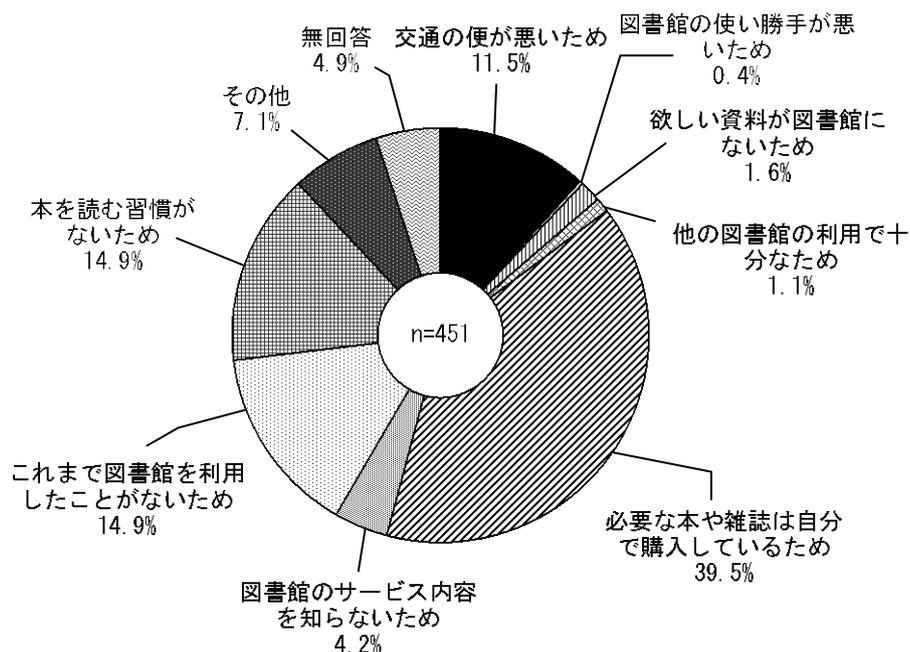
(2) 府中市立図書館を利用しない理由

「必要な本や雑誌は自分で購入しているため」が最も高く、4割近くを占めている。

〔問 30 で「2」とお答えの方に〕

問 30-1. 府中市立図書館を利用しない理由を、次の中から1つだけ選んでください。
(n=451)

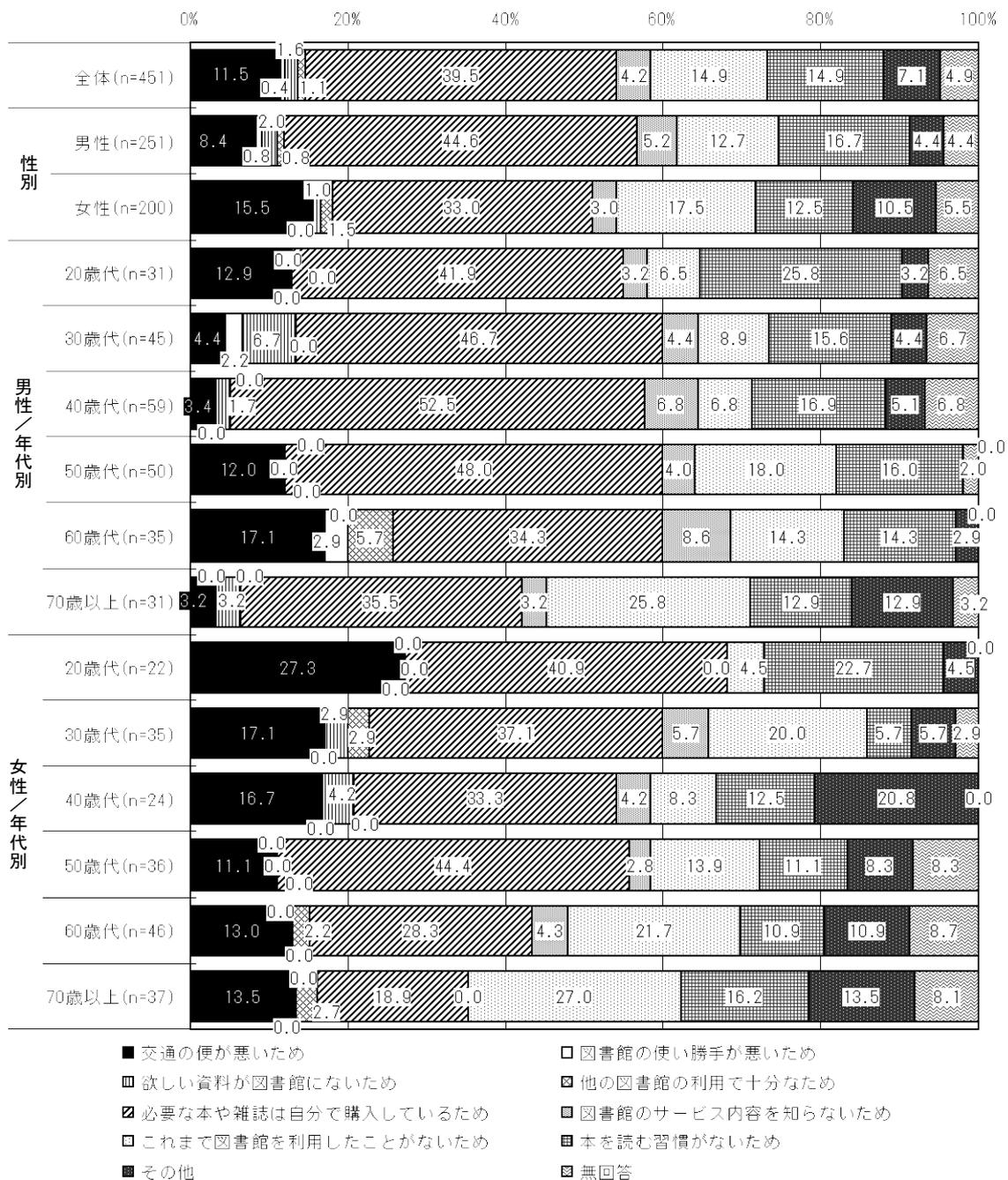
図 7-4 府中市立図書館を利用しない理由



府中市立図書館を利用しない理由は、「必要な本や雑誌は自分で購入しているため」(39.5%)が最も高く、次いで「これまで図書館を利用したことがないため」(14.9%)「本を読む習慣がないため」(14.9%)の順となっている。〔図 7-4〕

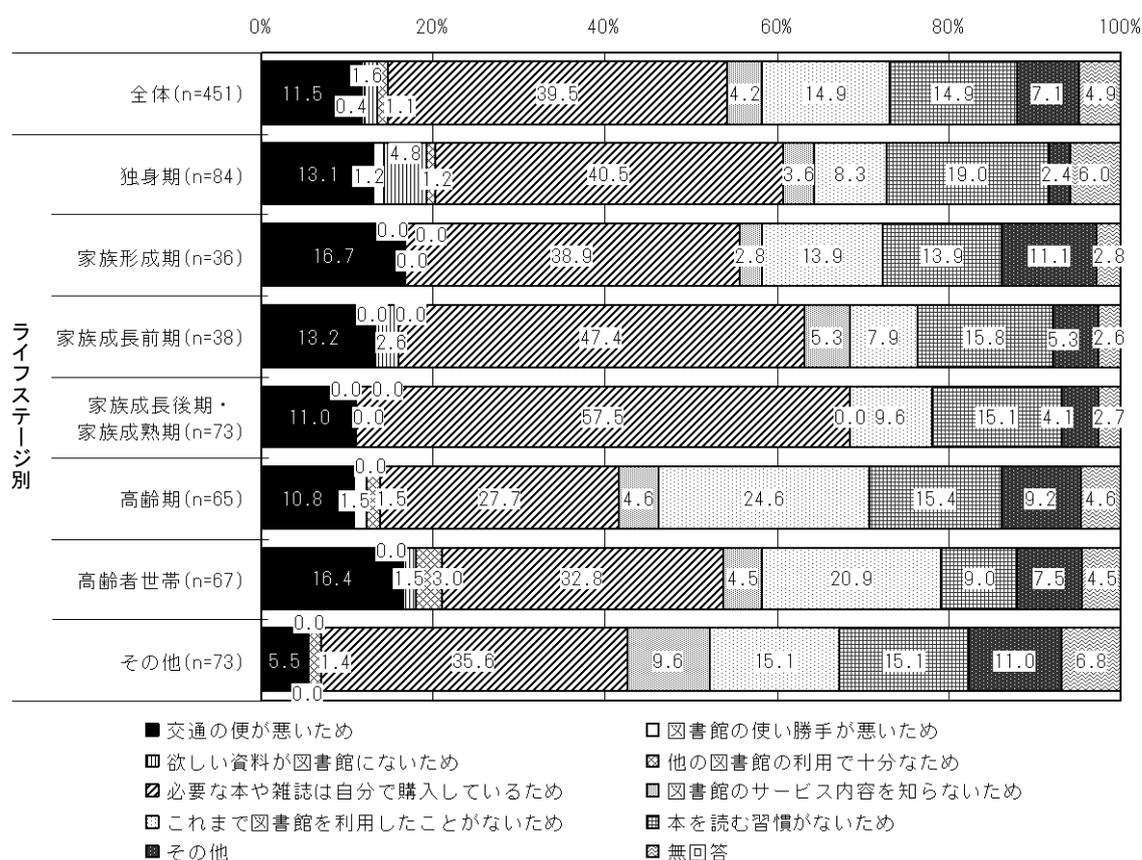
性別でみると、上位3項目のうち「必要な本や雑誌は自分で購入しているため」「本を読む習慣がないため」は「男性」が「女性」より高く、「これまで図書館を利用したことがないため」は「女性」が「男性」より高くなっている。年代別でみると、「必要な本や雑誌は自分で購入しているため」は「男性」の「40歳代」で最も高く5割半ばを占めており、次いで「男性」の「50歳代」「30歳代」の順となっている。「本を読む習慣がないため」は「男性」「女性」とともに「20歳代」で最も高く、「これまで図書館を利用したことがないため」は、「男性」「女性」とともに「70歳以上」で最も高くなっている。〔図7-5〕

図 7-5 府中市立図書館を利用しない理由／性・年代別



ライフステージ別でみると、「必要な本や雑誌は自分で購入しているため」は「家族成長後期・家族成熟期」で最も高く6割近くを占めている。「本を読む習慣がないため」は「独身期」で最も高く2割近くを占めている。「これまで図書館を利用したことがないため」は「高齢期」「高齢者世帯」の順に高く、それぞれ2割以上を占めている。〔図7-6〕

図7-6 府中市立図書館を利用しない理由／ライフステージ別

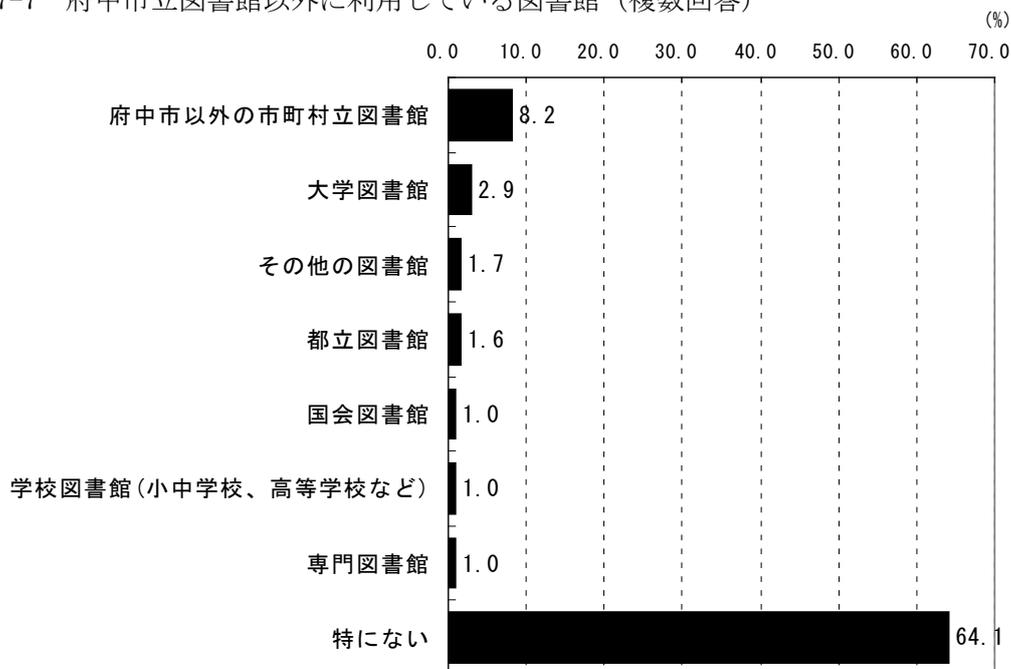


(3) 府中市立図書館以外に利用している図書館

「特にない」が6割半ばを占めている。

問 31. 府中市立図書館以外に、利用している図書館はありますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(n=889)

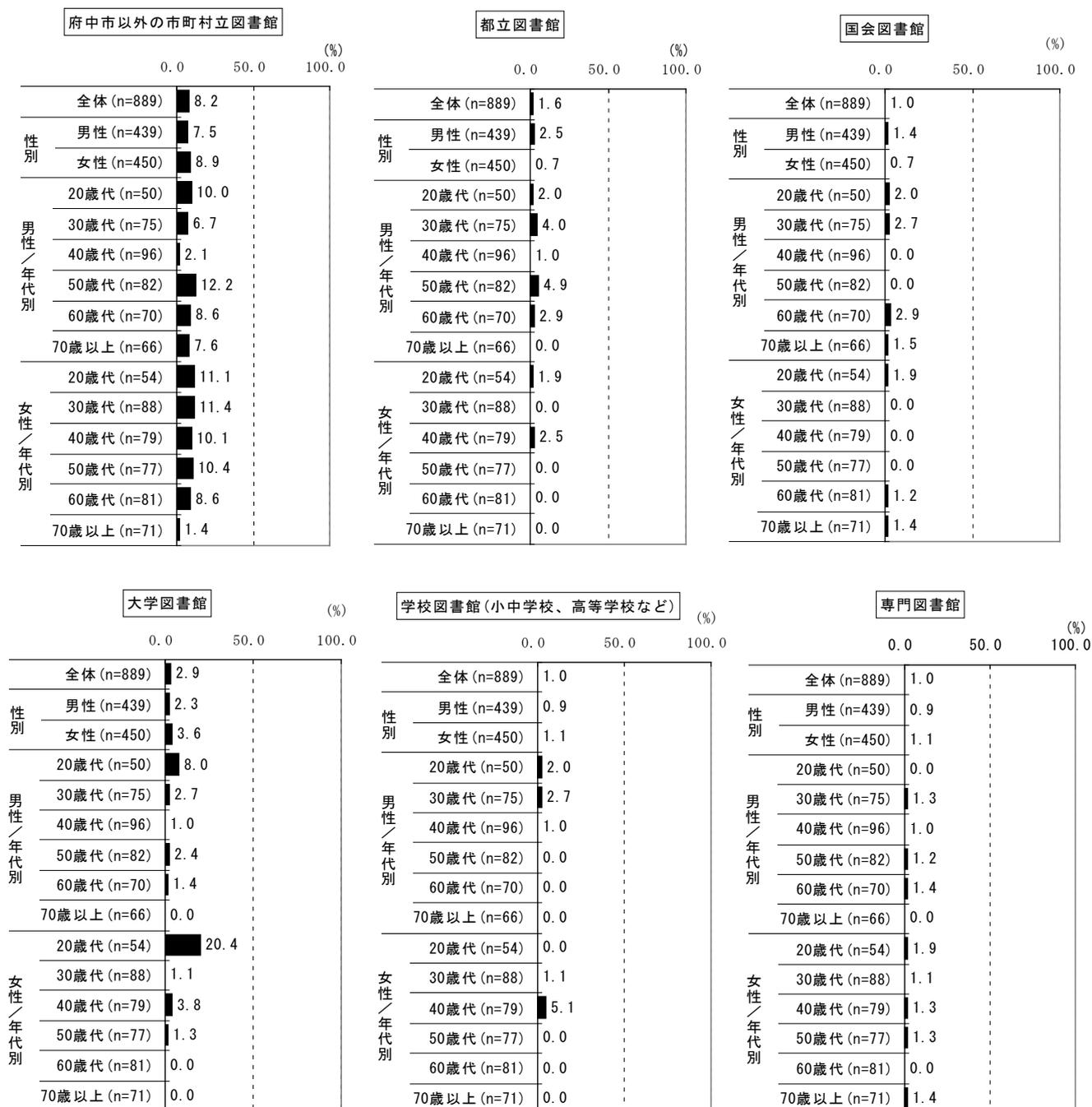
図 7-7 府中市立図書館以外に利用している図書館（複数回答）

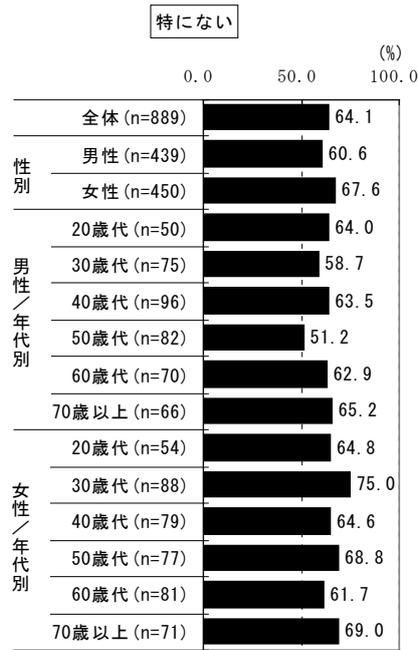
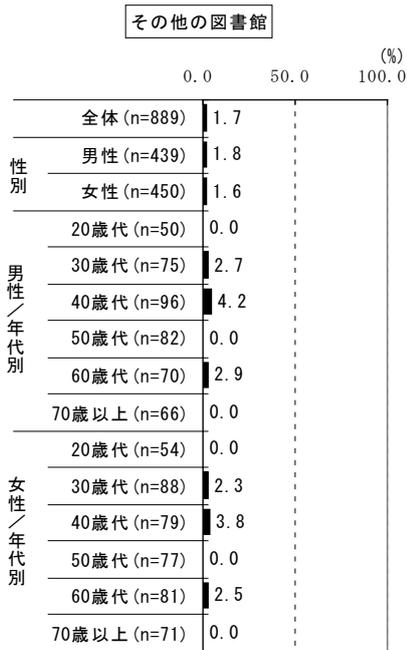


府中市立図書館以外に利用している図書館については、「特にない」(64.1%)が最も高く、次いで「府中市以外の市町村立図書館」(8.2%)「大学図書館」(2.9%)となっている。
〔図 7-7〕

性別でみると、「男性」「女性」とともに「特にない」を除くすべての項目で1割未満となっている。年代別でみると、「府中市以外の市町村立図書館」は「男性」の「50歳代」で最も高く、次いで「女性」の「30歳代」「20歳代」の順となっている。「大学図書館」は「女性」の「20歳代」で高く2割以上を占めている。〔図7-8〕

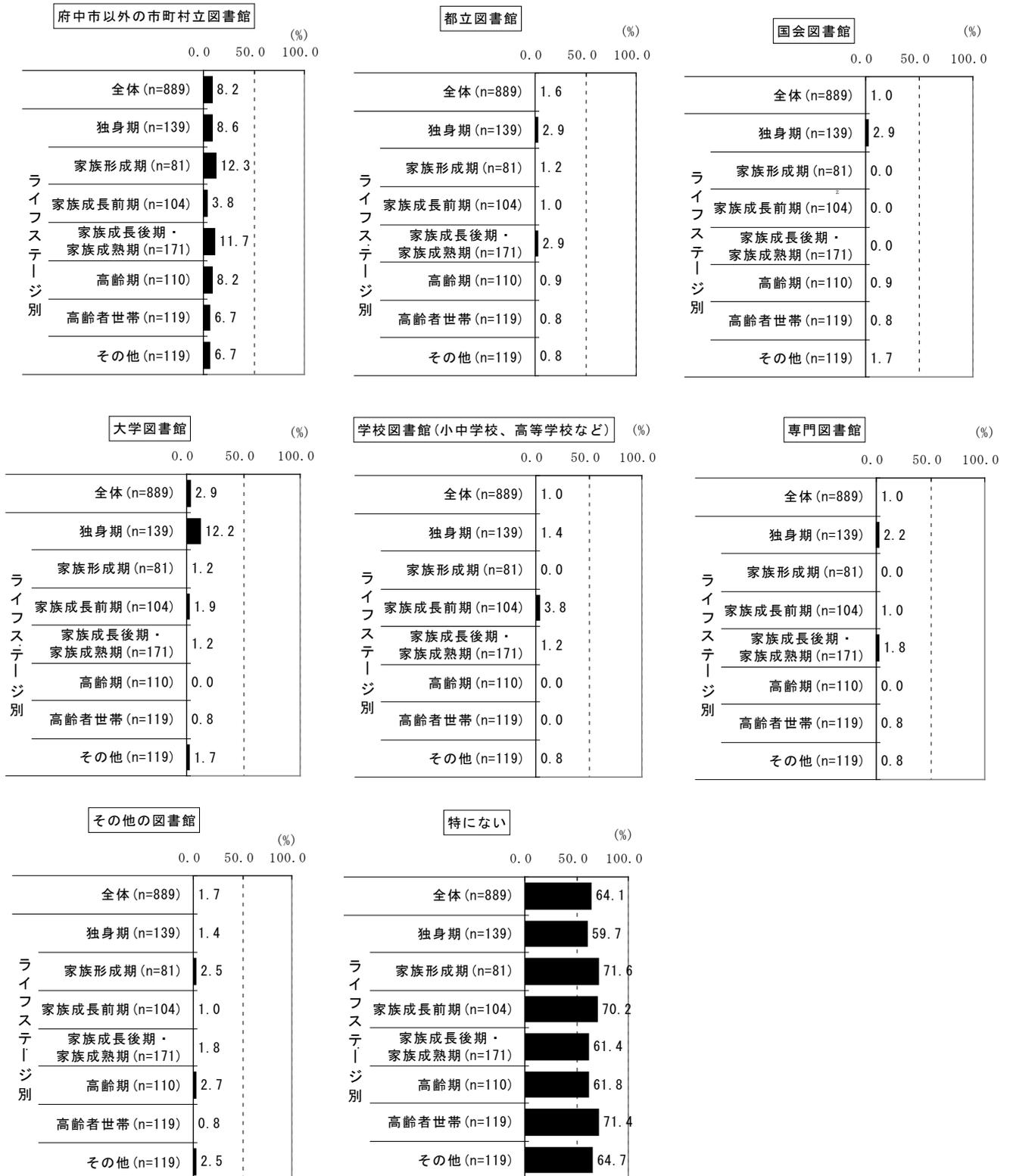
図7-8 府中市立図書館以外に利用している図書館／性・年代別





ライフステージ別でみると、「府中市以外の市町村立図書館」は「家族形成期」「家族成長後期・家族成熟期」の順に高く、それぞれ1割以上を占めている。「大学図書館」は「独身期」で最も高くなっている。〔図7-9〕

図7-9 府中市立図書館以外に利用している図書館／ライフステージ別

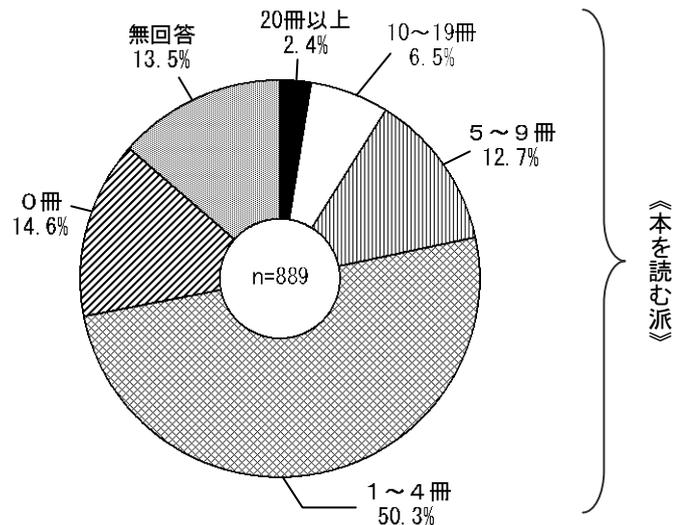


(4) 1か月間の読書量

「1～4冊」が5割以上を占めて最も高くなっている。

問 32. 平均して1か月間にどのくらい図書(本や雑誌)をお読みになりますか。次の中から1つだけ選んでください。なお、調べ物などで一冊全部を通読しないものも1冊と数えてください。(n=889)

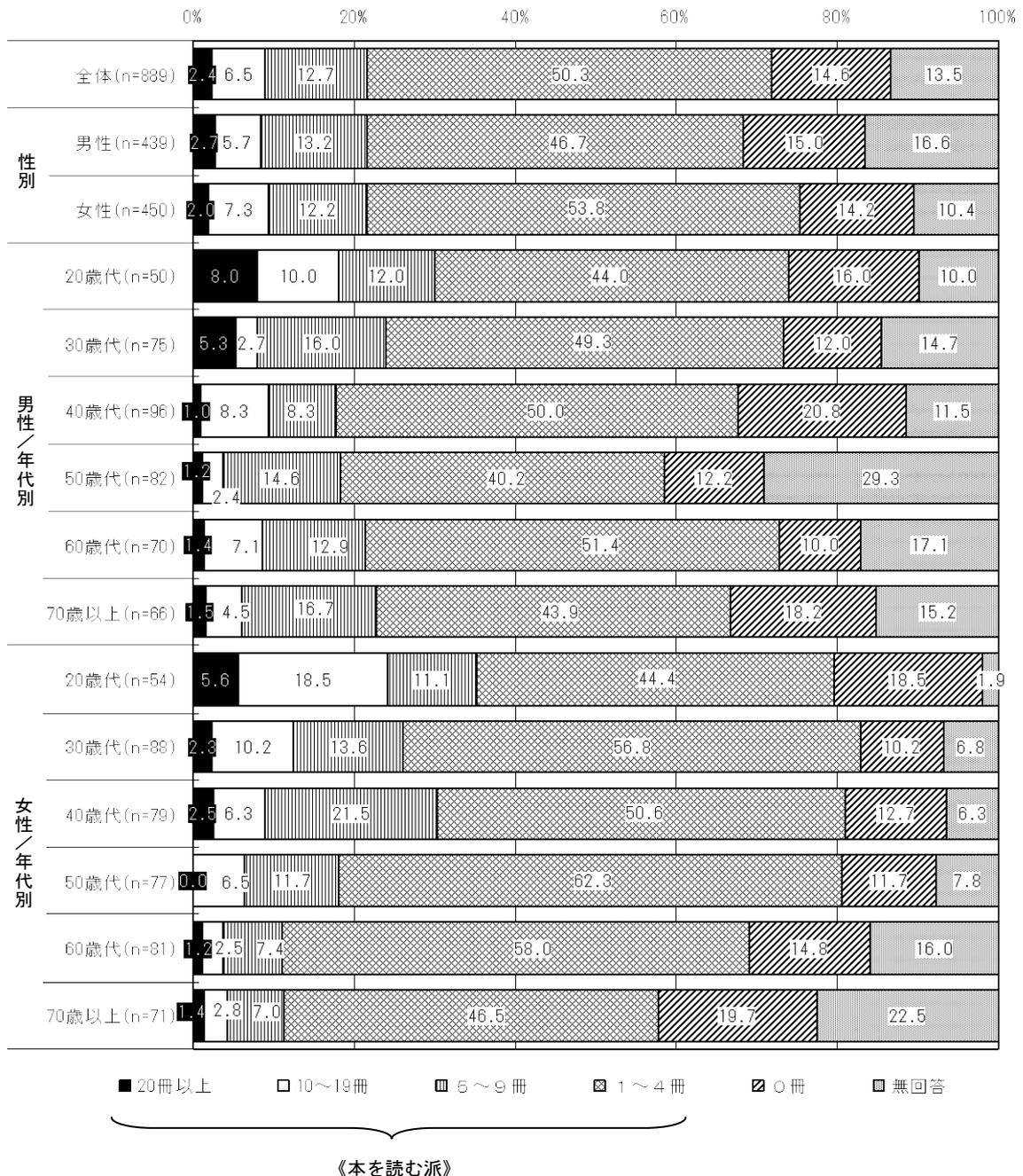
図 7-10 1か月間の読書量



1か月間の読書量については、「1～4冊」(50.3%)が最も高く、次いで「0冊」(14.6%)「5～9冊」(12.7%)の順となっている。「20冊以上」「10～19冊」「5～9冊」「1～4冊」の合計の《本を読む派》は71.9%を占めている。〔図 7-10〕

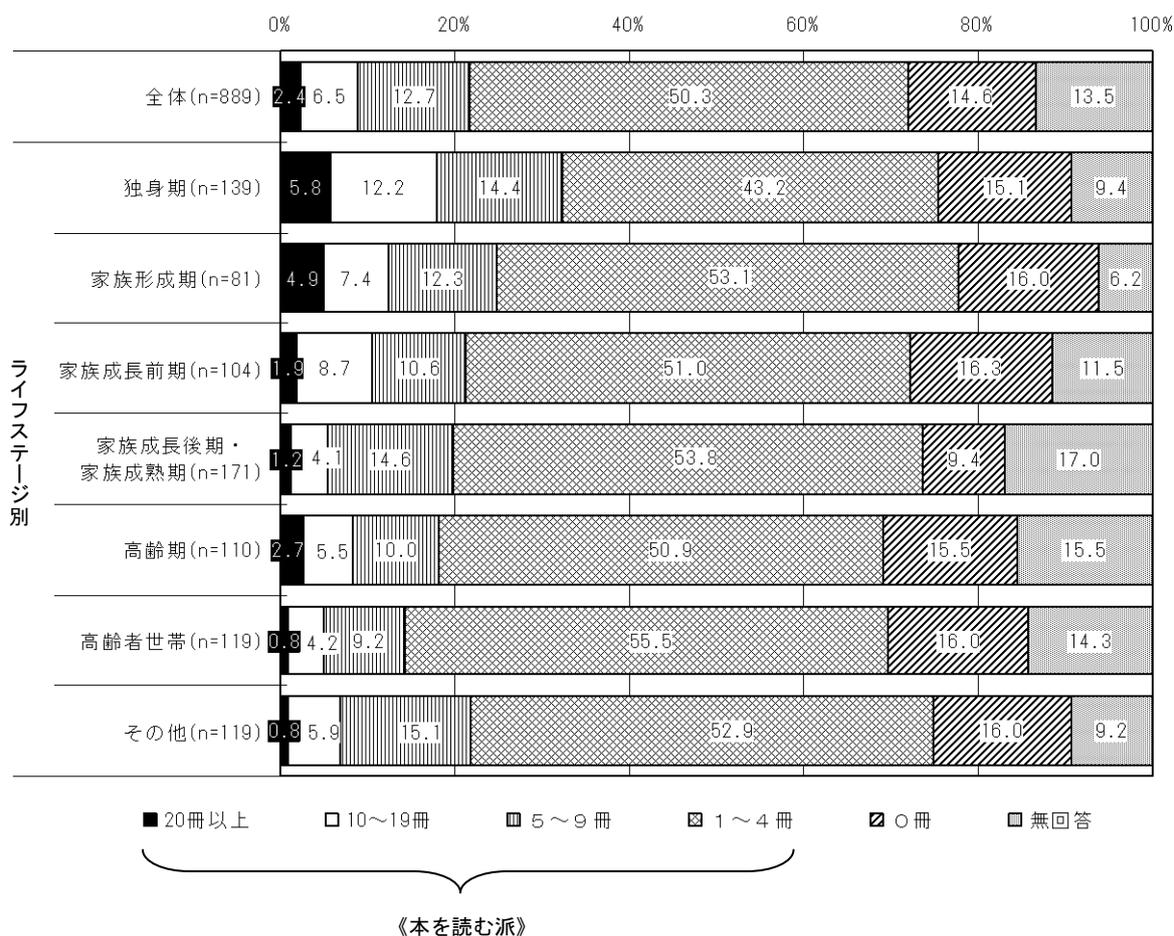
性別で見ると、《本を読む派》は「女性」が「男性」より高くなっており、「0冊」は「男性」が「女性」より高くなっている。年代別で見ると、「1～4冊」は「女性」の「50歳代」で最も高く、6割以上を占めており、次いで「女性」の「60歳代」「30歳代」の順に高くなっている。「0冊」は「男性」の「40歳代」、「女性」の「70歳以上」の順に高くなっている。《本を読む派》は「女性」の「20歳代」から「50歳代」で高く、8割前後を占めている。〔図7-11〕

図7-11 1か月間の読書量／性・年代別



ライフステージ別でみると、「20冊以上」「10～19冊」「5～9冊」の項目については「独身期」で最も高くなっており、ライフステージが低いほど高くなる傾向がみられる。「0冊」は「家族成長前期」で最も高く、次いで「家族形成期」「高齢者世帯」で高くなっている。《本を読む派》は「家族形成期」「独身期」「家族成長後期・家族成熟期」の順に高くなっている。〔図 7-12〕

図 7-12 1 か月間の読書量／ライフステージ別



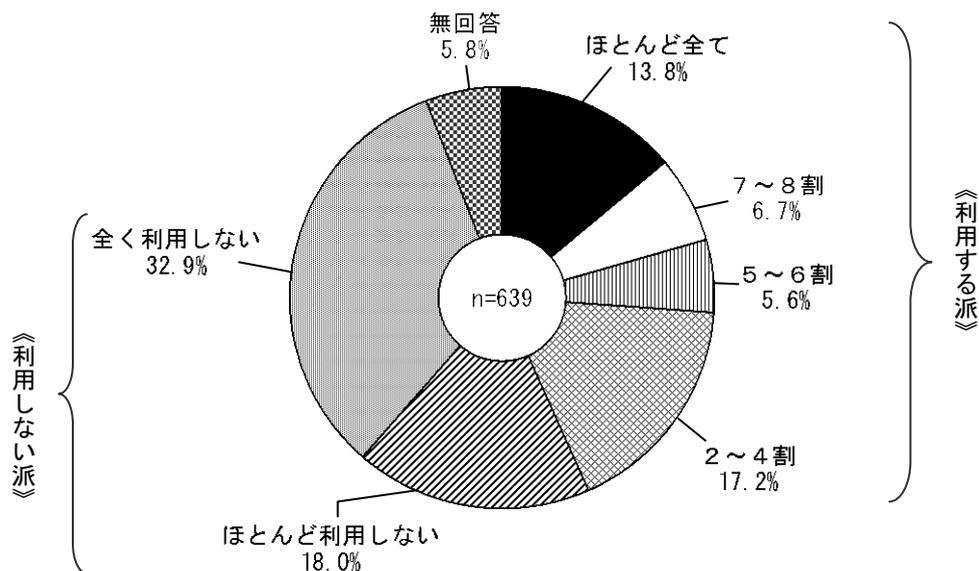
(5) 図書館の本の利用の割合

「全く利用しない」が3割以上を占めて最も高くなっている。

〔問 32 で「1」「2」「3」「4」とお答えの方に〕

問 32-1. そのうち図書館の本の割合はどのくらいですか。次の中から1つだけ選んでください。(n=639)

図 7-13 図書館の本の利用の割合

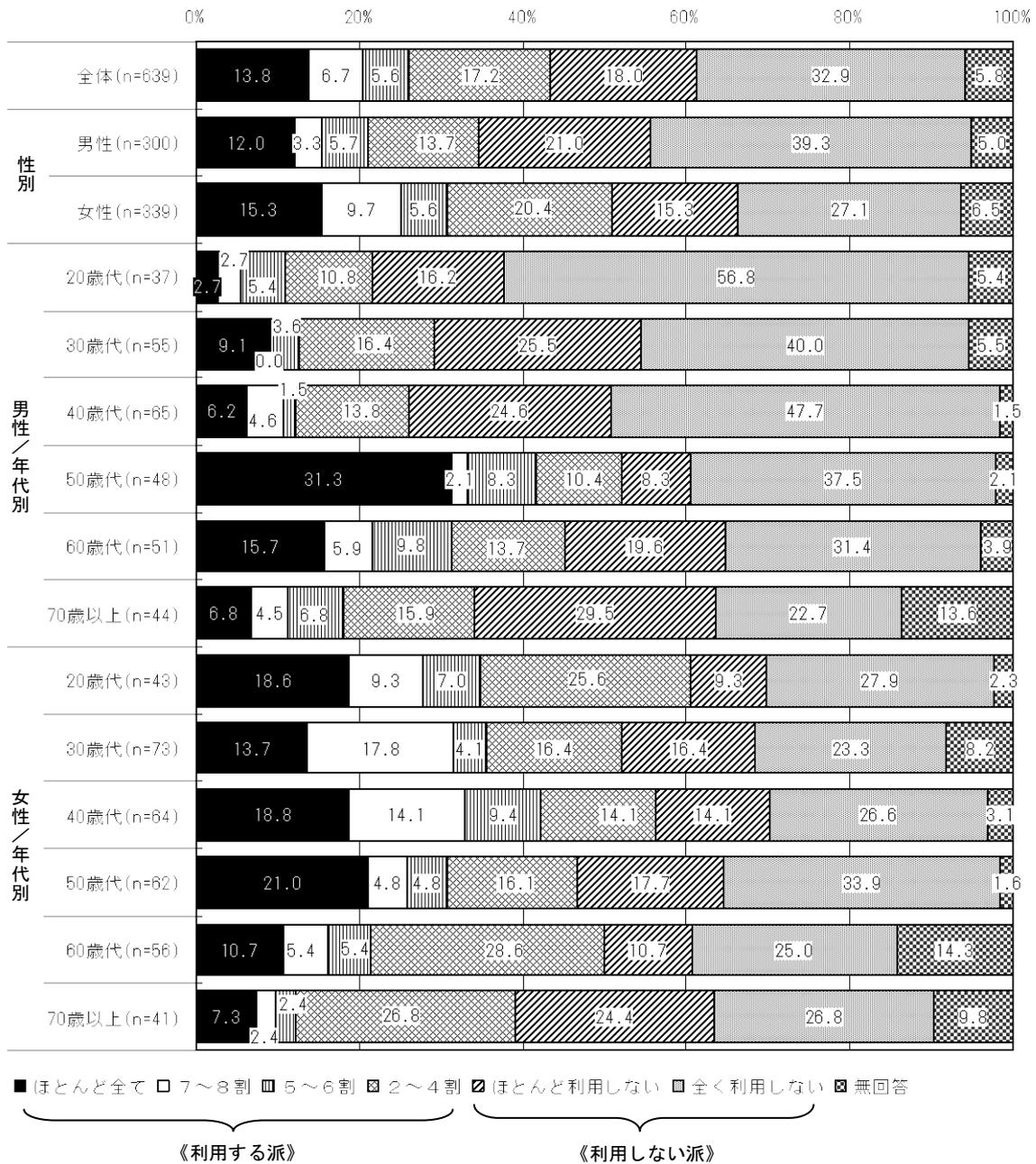


図書館の本の利用の割合については、「全く利用しない」(32.9%)が最も高く、次いで「ほとんど利用しない」(18.0%)「2~4割」(17.2%)の順となっている。「ほとんど全て」「7~8割」「5~6割」「2~4割」をあわせた《利用する派》(43.3%)は「ほとんど利用しない」「全く利用しない」をあわせた《利用しない派》(50.9%)を下回っている。

〔図 7-13〕

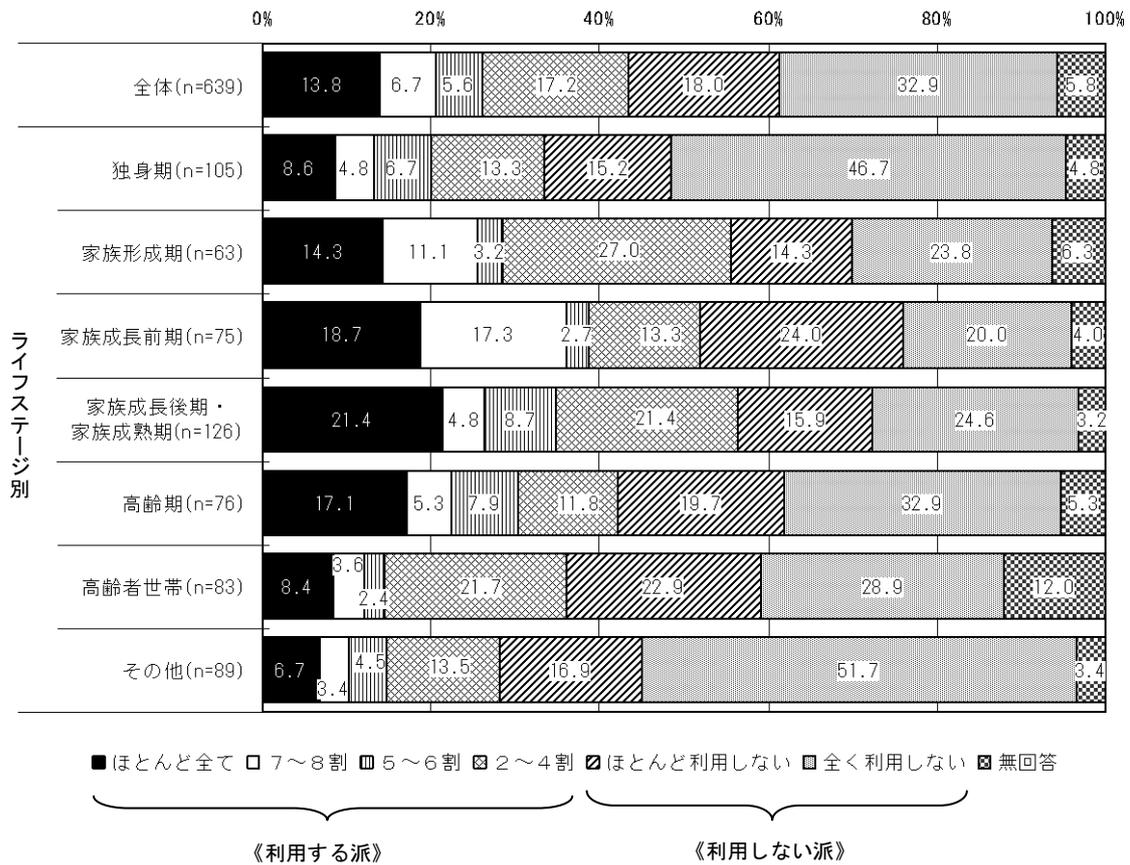
性別でみると、《利用しない派》は「男性」が「女性」より高く、《利用する派》は「女性」が「男性」より高くなっている。年代別でみると、「全く利用しない」は「男性」の「20歳代」で5割半ばと最も高くなっている。「ほとんど全て」は「男性」の「50歳代」で高く、3割以上を占めている。《利用する派》は「女性」の「20歳代」で最も高く、6割以上を占めており、次いで「女性」の「40歳代」「30歳代」の順となっている。《利用しない派》は「男性」の「20歳代」「40歳代」の順に高く、それぞれ7割以上を占めている。〔図7-14〕

図7-14 図書館の本の利用の割合／性・年代別



ライフステージ別でみると、《利用する派》は「家族成長後期・家族成熟期」「家族形成期」の順に高く、それぞれ5割半ばを占めている。《利用しない派》は「独身期」で最も高く6割以上を占めており、次いで「高齢期」「高齢者世帯」の順となっている。〔図 7-15〕

図 7-15 図書館の本の利用の割合／ライフステージ別

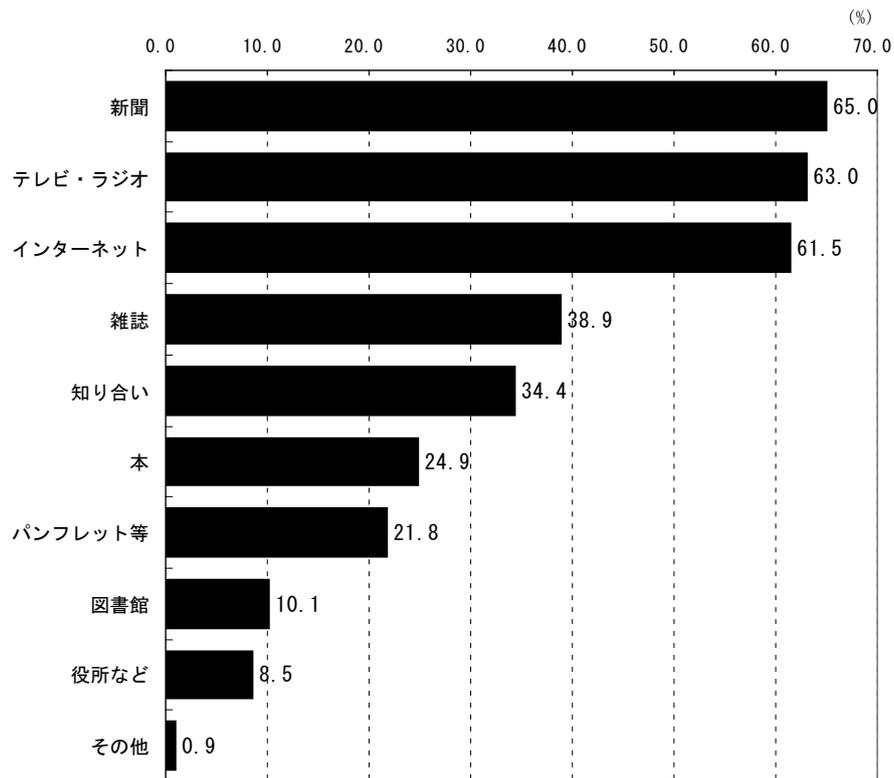


(6) 生活や仕事で必要な情報の入手先

「新聞」「テレビ・ラジオ」「インターネット」がそれぞれ6割以上を占めている。

問 33. 生活や仕事で必要な情報は、どこから入手していますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(n=889)

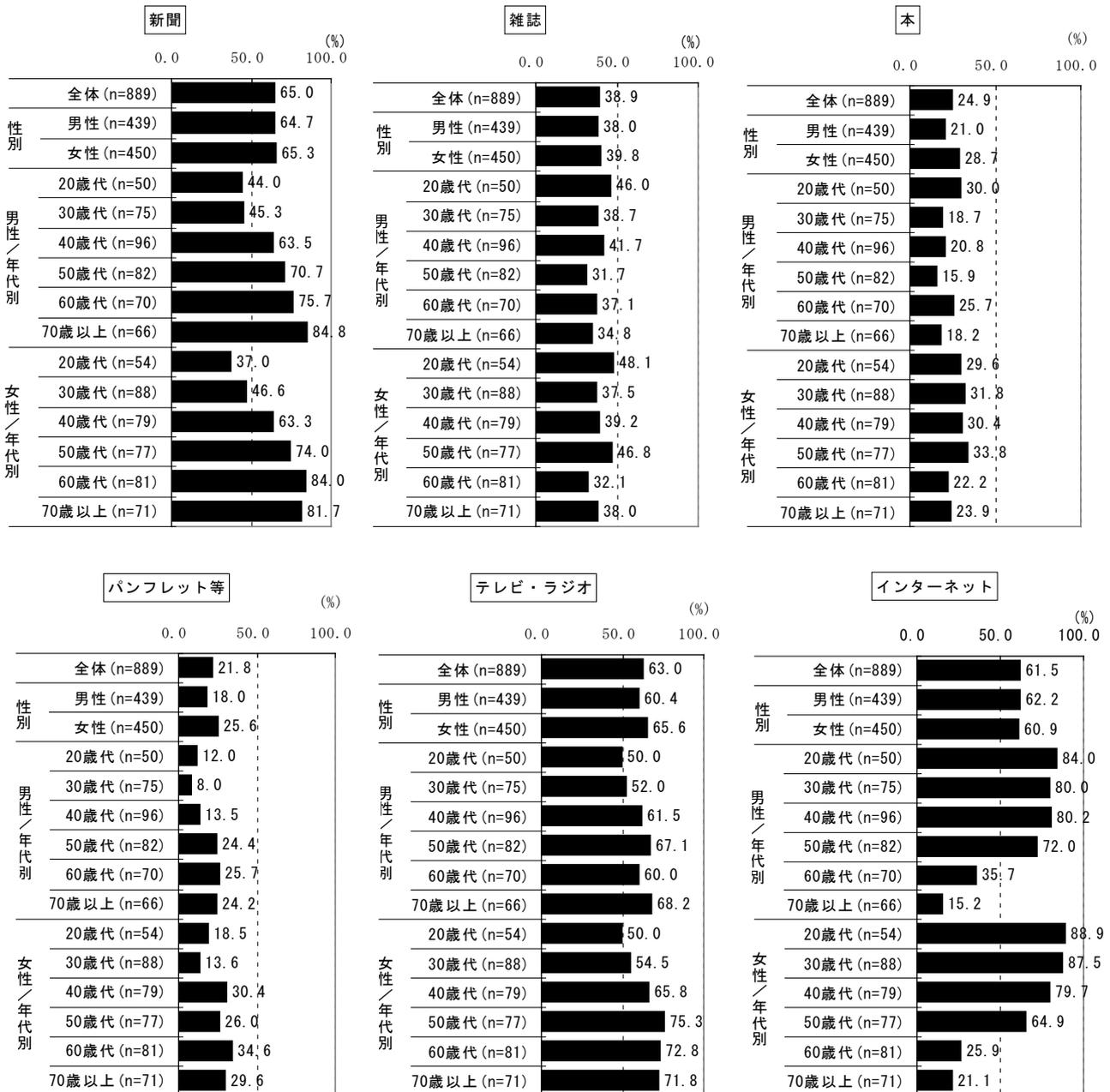
図 7-16 生活や仕事で必要な情報の入手先 (複数回答)

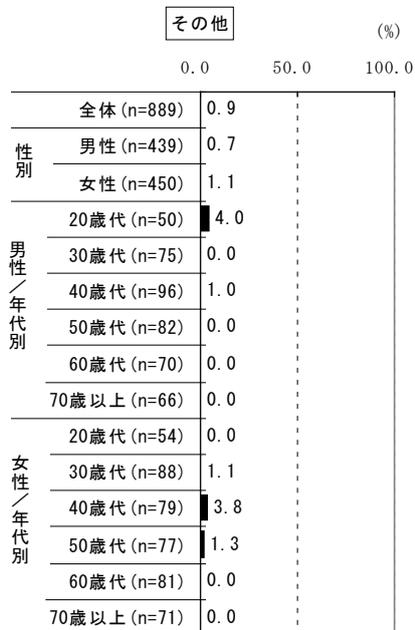
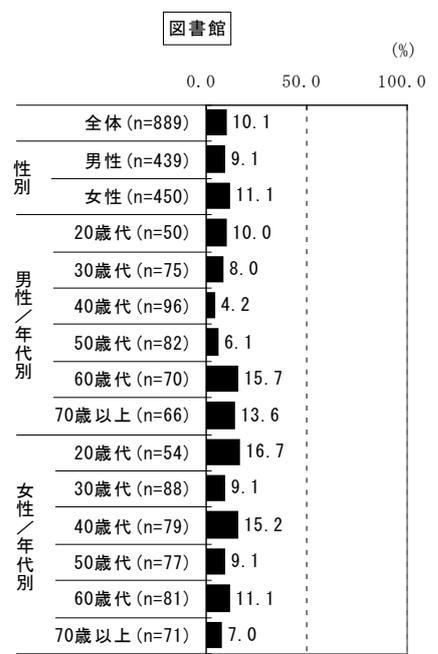
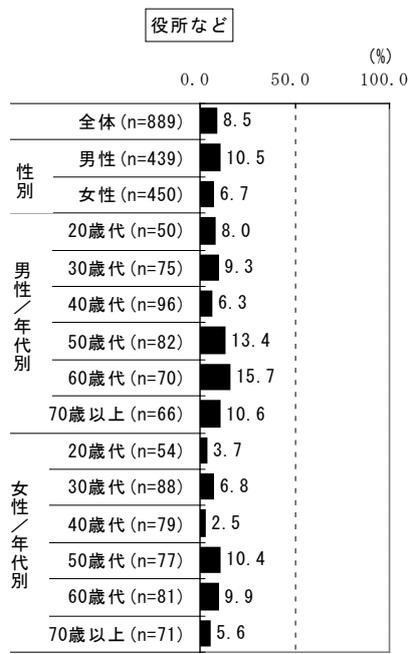
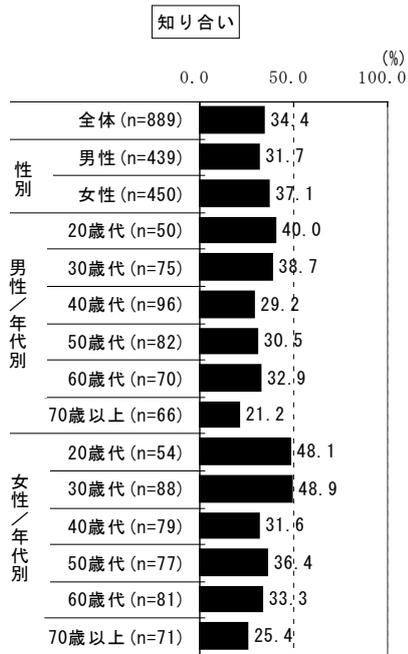


生活や仕事で必要な情報の入手先については、「新聞」(65.0%)が最も高く、次いで「テレビ・ラジオ」(63.0%)「インターネット」(61.5%)の順となっている。〔図 7-16〕

性別で見ると、上位3項目のうち「テレビ・ラジオ」は「女性」が「男性」より高くなっている。年代別で見ると、「新聞」は「男性」の「70歳以上」、「女性」の「60歳代」の順に高く、年代が上がるにつれて高い傾向がみられる。「テレビ・ラジオ」は「女性」の「50歳代」から「70歳以上」で7割以上と高くなっている。「インターネット」は「女性」の「20歳代」で9割近くと最も高く、年代が下がるにつれて高い傾向がみられる。〔図 7-17〕

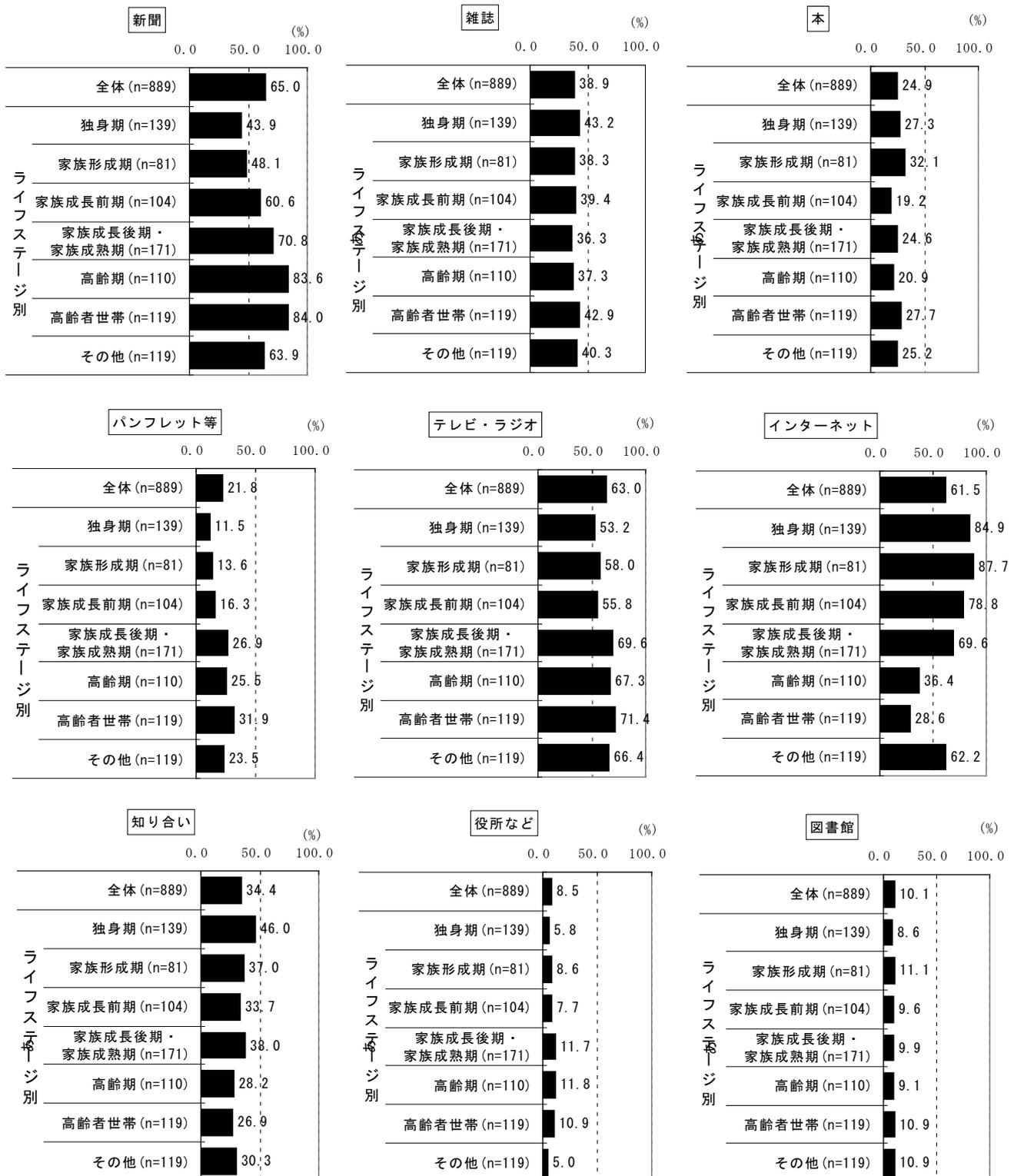
図 7-17 生活や仕事に必要な情報の入手先／性・年代別





ライフステージ別でみると、「新聞」は「高齢者世帯」「高齢期」の順に高く、それぞれ8割半ばを占めており、ライフステージが上がるにつれて高くなっている。「テレビ・ラジオ」は「高齢者世帯」で最も高く7割以上を占めており、すべてのライフステージで5割半ばより高くなっている。「インターネット」は「家族形成期」「独身期」の順に高く、ライフステージが下がるにつれて高い傾向がみられる。〔図 7-18〕

図 7-18 生活や仕事で必要な情報の入手先／ライフステージ別



その他

(%)

0.0 50.0 100.0

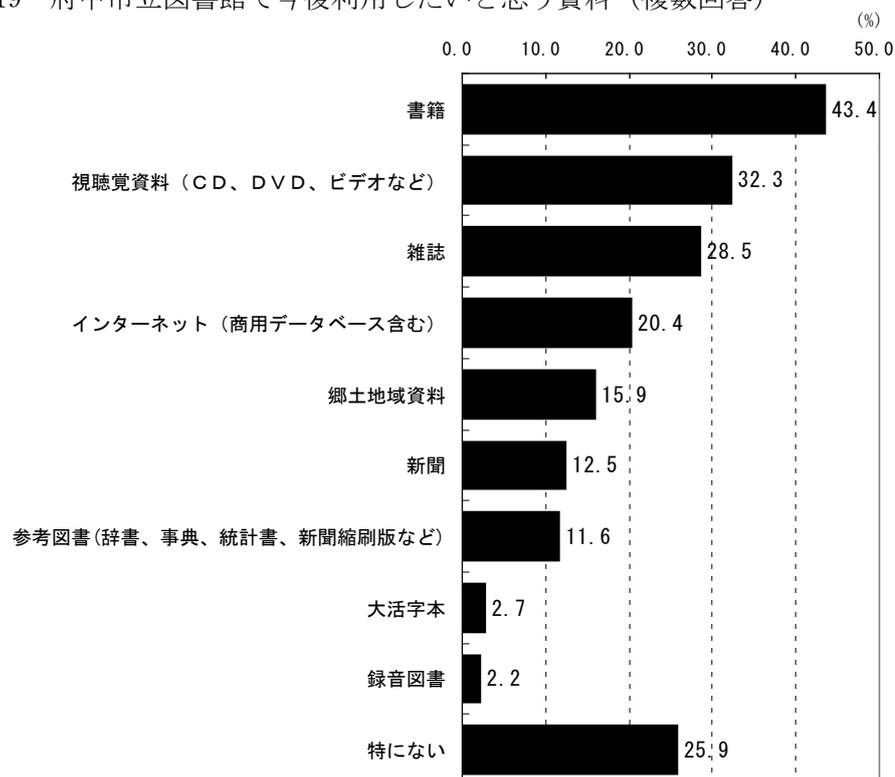
	全体 (n=889)	0.9
	独身期 (n=139)	1.4
ライフ ステージ 別	家族形成期 (n=81)	2.5
	家族成長前期 (n=104)	0.0
	家族成長後期・ 家族成熟期 (n=171)	0.6
	高齢期 (n=110)	0.0
	高齢者世帯 (n=119)	0.0
	その他 (n=119)	2.5

(7) 府中市立図書館で今後利用したいと思う資料

「書籍」が4割半ばを占めて最も高くなっている。

問 34. 府中市立図書館では次のような資料をご提供しています。今後、利用したいと思う資料はありますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(n=889)

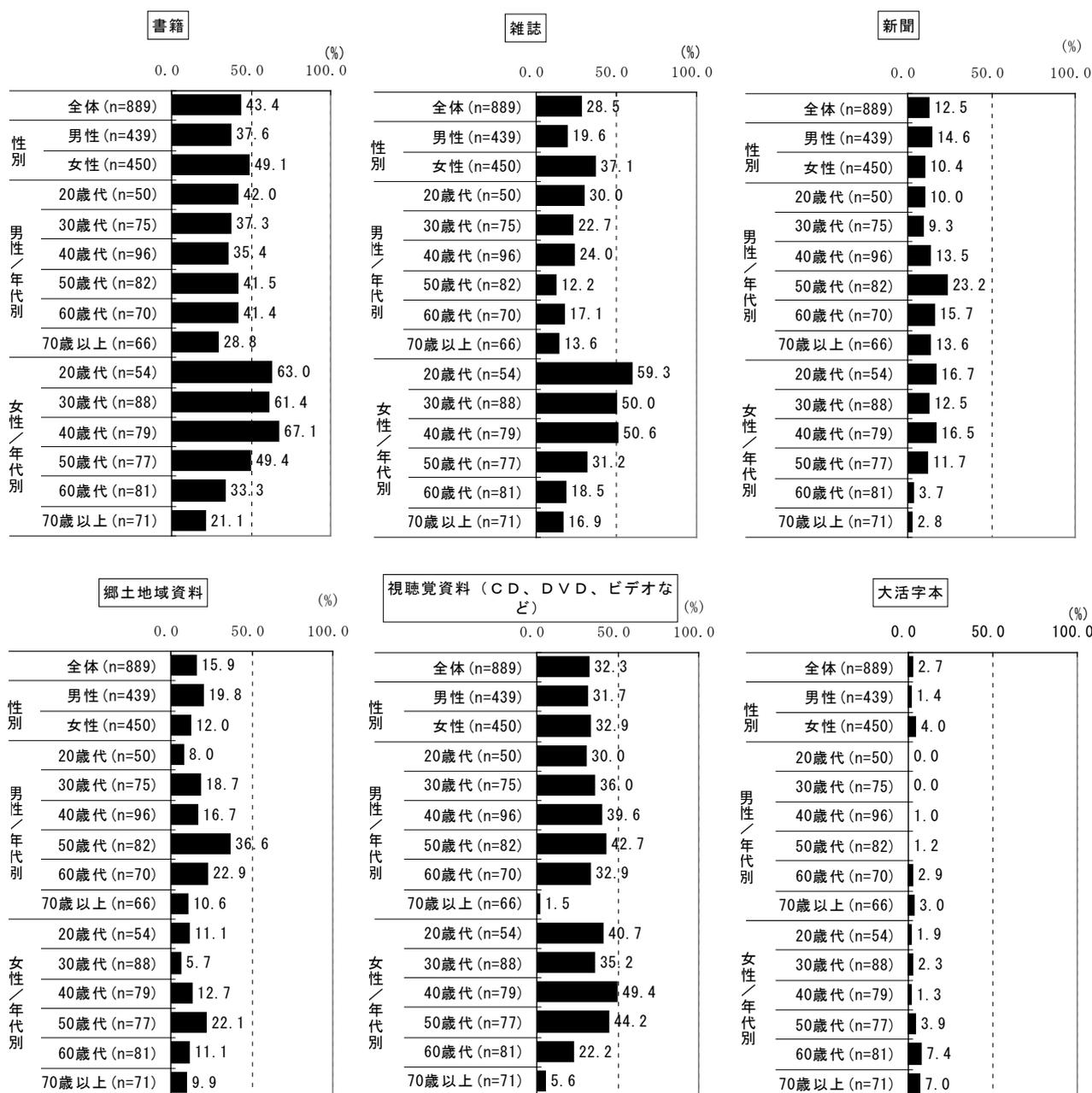
図 7-19 府中市立図書館で今後利用したいと思う資料（複数回答）

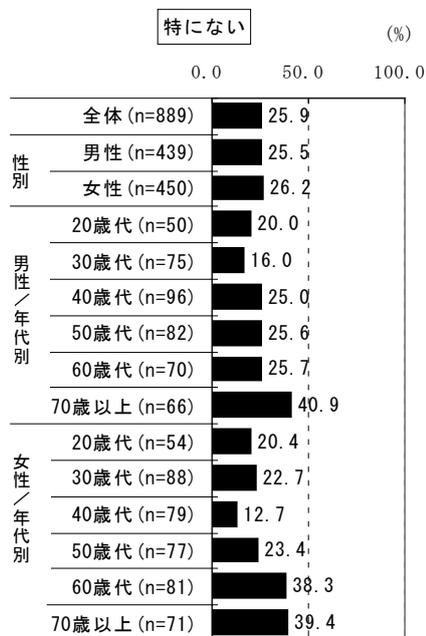
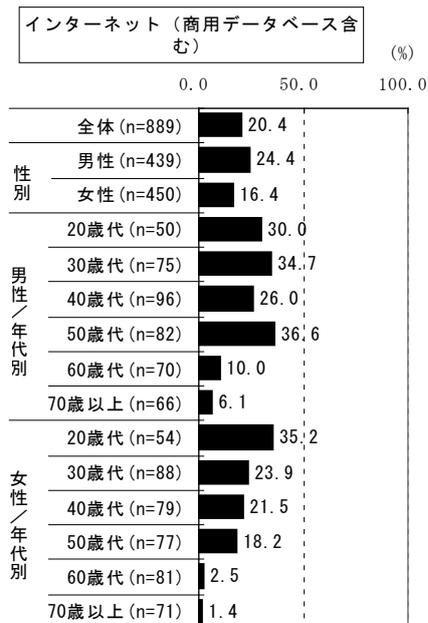
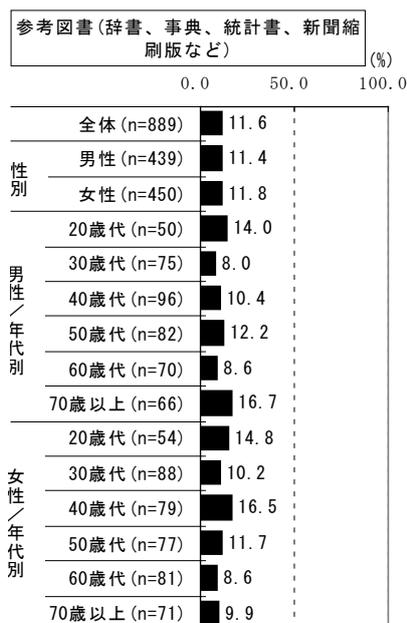
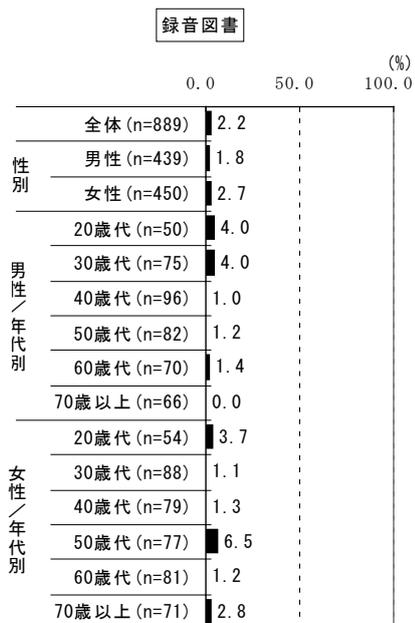


府中市立図書館で今後利用したいと思う資料については、「書籍」(43.4%)が最も高く、次いで「視聴覚資料 (CD、DVD、ビデオなど)」(32.3%)「雑誌」(28.5%)の順となっている。〔図 7-19〕

性別で見ると、上位2項目のうち「書籍」「雑誌」は「女性」が「男性」より高くなっている。年代別で見ると、「書籍」は「女性」の「40歳代」「20歳代」「30歳代」の順に高く、それぞれ6割以上を占めている。「視聴覚資料（CD、DVD、ビデオなど）」は「女性」の「40歳代」「50歳代」の順に高くなっている。「雑誌」は「女性」の「20歳代」で6割近くを占めて最も高く、年代が低いほど高い傾向がみられる。〔図7-20〕

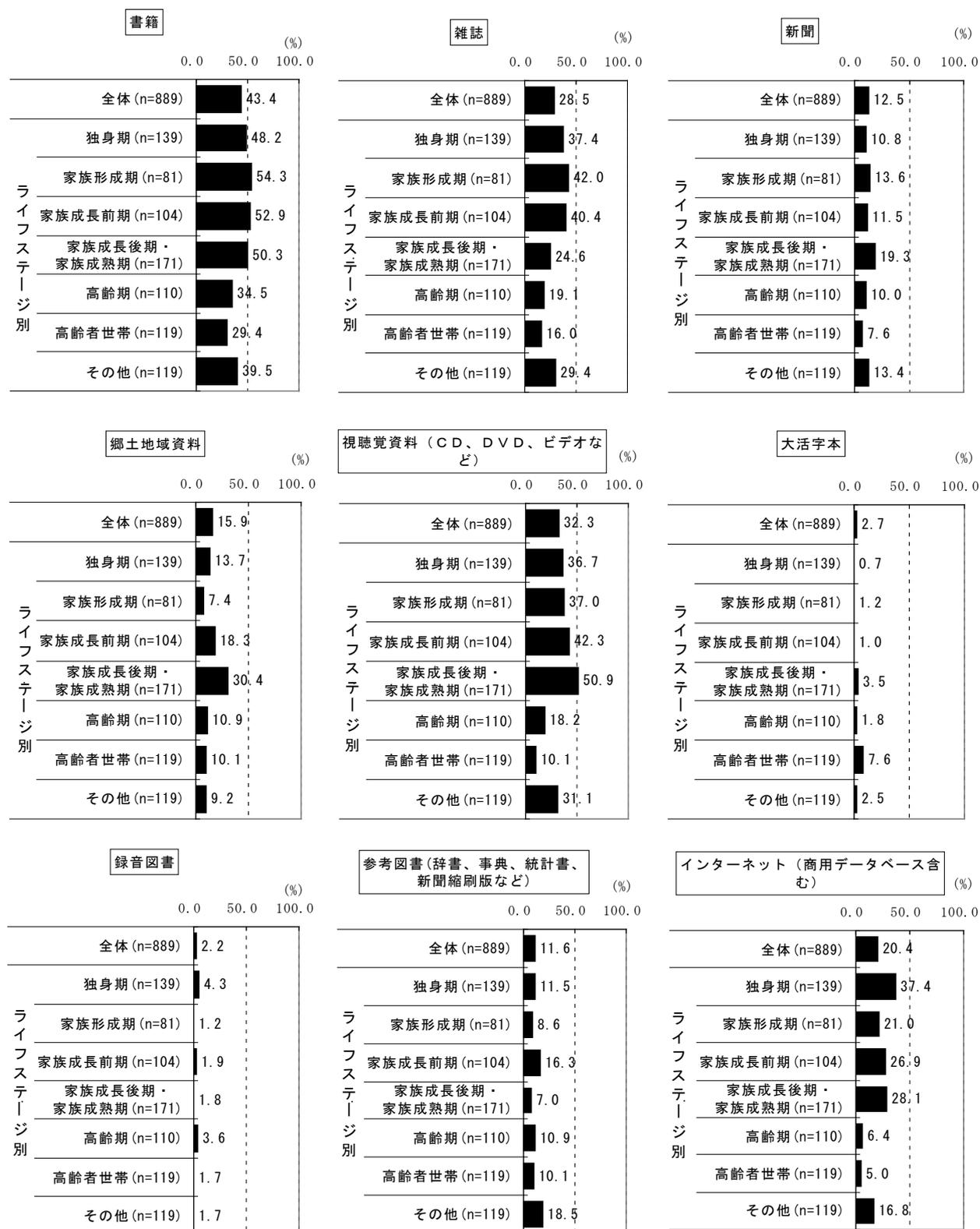
図7-20 府中市立図書館で今後利用したいと思う資料／性・年代別

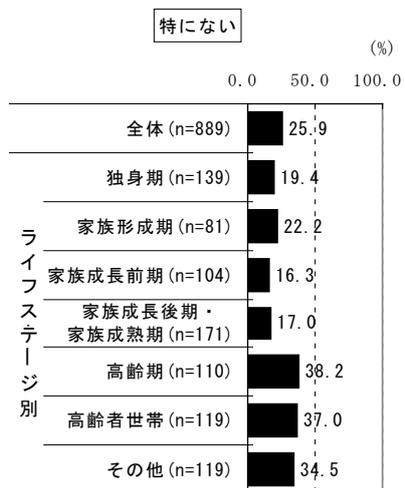




ライフステージ別でみると、「書籍」は「家族形成期」で最も高く、5割半ばを占めており、次いで「家族成長前期」「家族成長後期・家族成熟期」の順となっている。「視聴覚資料（CD、DVD、ビデオなど）」は「家族成長後期・家族成熟期」で最も高く5割以上を占めている。「雑誌」は「家族形成期」「家族成長前期」の順に高く、それぞれ4割以上を占めている。〔図7-21〕

図7-21 府中市立図書館で今後利用したいと思う資料／ライフステージ別



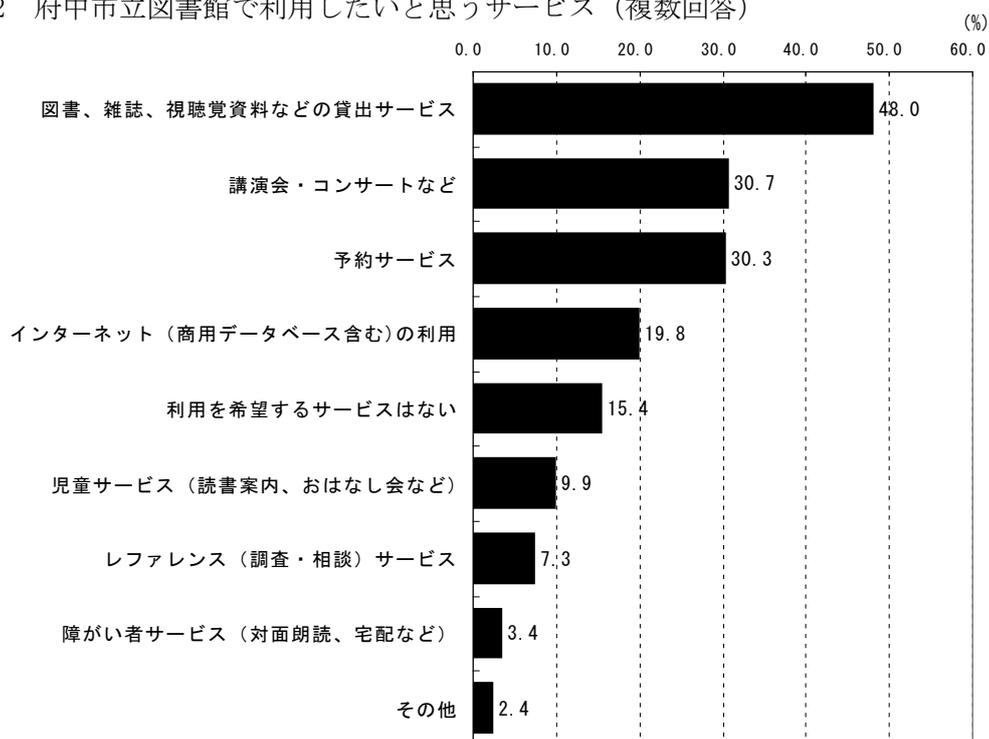


(8) 府中市立図書館で今後利用したいと思うサービス

「図書、雑誌、視聴覚資料などの貸出サービス」が5割近くを占めて最も高くなっている。

問 35. 府中市立図書館では、次のようなサービスをご提供しています。今後利用したいと思うサービスはありますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。
(n=889)

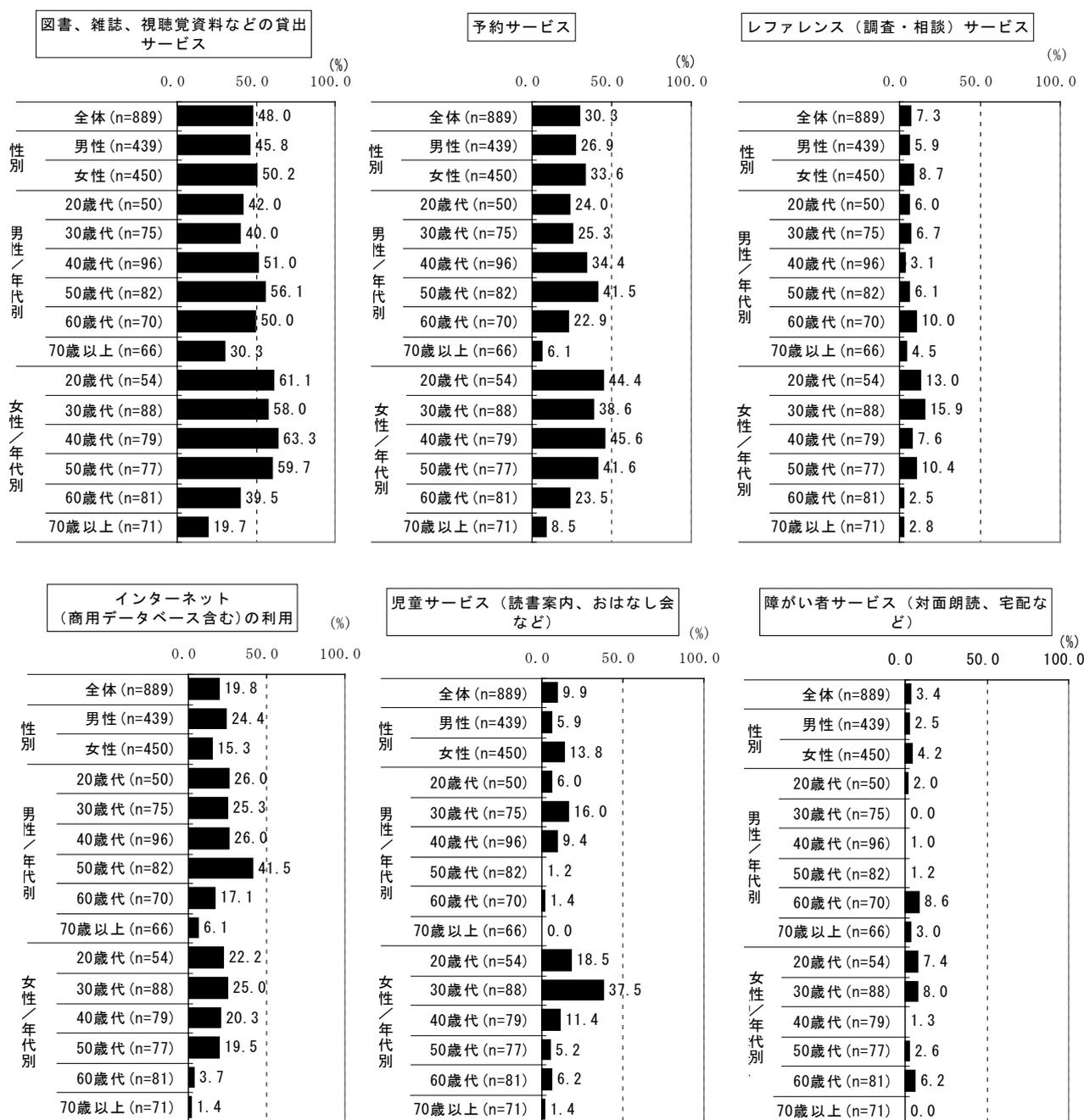
図 7-22 府中市立図書館で利用したいと思うサービス（複数回答）

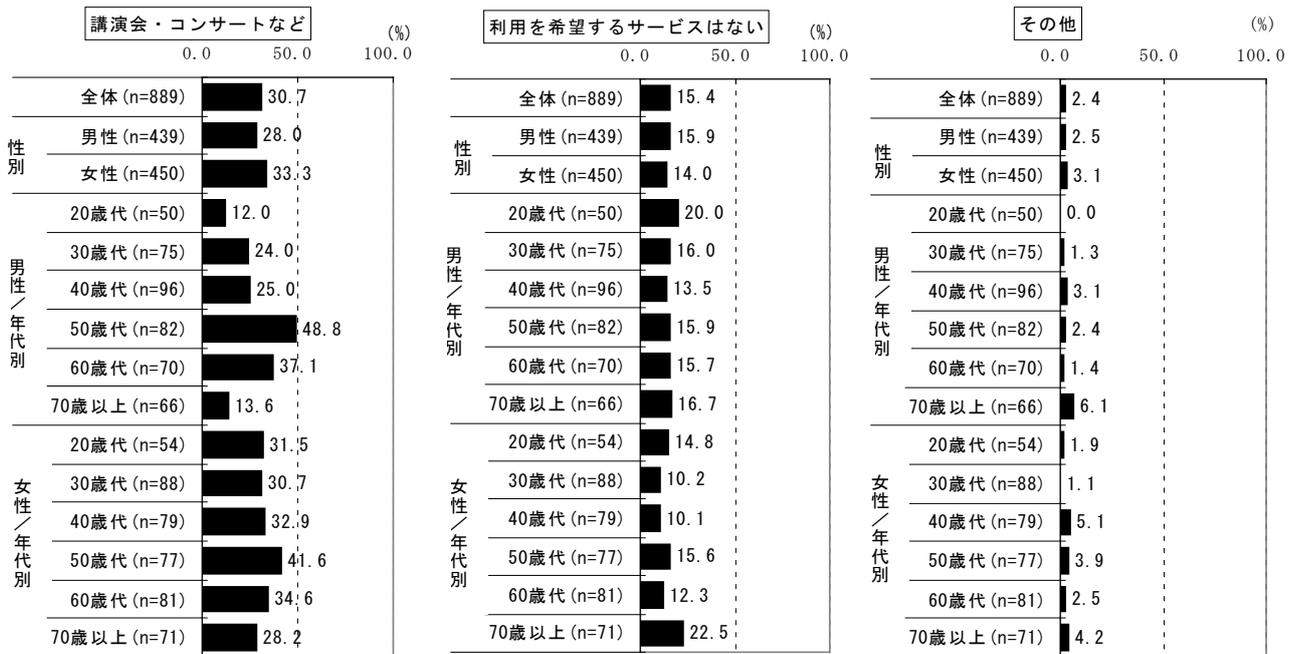


府中市立図書館で利用したいと思うサービスについては、「図書、雑誌、視聴覚資料などの貸出サービス」（48.0%）が最も高く、次いで「演奏会・コンサートなど」（30.7%）「予約サービス」（30.3%）の順となっている。〔図 7-22〕

性別で見ると、「男性」は、「図書、雑誌、視聴覚資料などの貸出サービス」「演奏会・コンサートなど」の順に高く、「女性」は「図書、雑誌、視聴覚資料などの貸出サービス」「予約サービス」の順に高くなっている。年代別で見ると、「図書、雑誌、視聴覚資料などの貸出サービス」は「女性」の「40歳代」「20歳代」の順に高く、それぞれ6割以上を占めている。「演奏会・コンサートなど」は「男性」の「50歳代」で最も高く5割近くを占めている。「予約サービス」は「女性」の「40歳代」「20歳代」の順に高く、それぞれ4割半ばを占めている。〔図7-23〕

図7-23 府中市立図書館で今後利用したいと思うサービス／性・年代別





ライフステージ別でみると、「図書、雑誌、視聴覚資料などの貸出サービス」は「家族成長後期・家族成熟期」で最も高く6割半ばを占めており、次いで「家族成長前期」「家族形成期」の順となっている。「演奏会・コンサートなど」は「家族成長後期・家族成熟期」で最も高く、5割以上を占めている。〔図7-24〕

図7-24 府中市立図書館で今後利用したいと思うサービス／ライフステージ別

